長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

MIYAKUBO-SITE

宮久保遺跡

団体営圃場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999

長坂町教育委員会

山梨県長坂町

宮久保遺跡

団体営圃場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査

1999．3

長坂町教育委員会

序

八ヶ岳南麓の中央に位置する長坂町は、約３万年前から人間の生活していた痕跡が発見されている、山梨県内でも最も古い遺跡が存在する町です。この長坂町では、水田農業の近代化をめざし、町内全域にわたり圃場整備事業を推進してきました。

その圃場整備事業に先立ち、町内では小屋敷遺跡や別当西遺跡をはじめ数多くの遺跡が発掘調査され、記録として保存されてきました。

本報告書も1997年度の塚川団体営圃場整備事業に伴い発掘調査された宮久保遺跡の概要を記したものです。宮久保遺跡からは縄文時代中期末から後期の住居跡・配石遺構や平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、中世の遺構等が見つかっております。発掘調査例の少ない塚川地区において、この地域の歴史を解明する上での貴重な発見となり、また、縄文時代後期や平安時代の集落の様相を究明する一資料として、教育や研究の場において多くの方々に広くご活用いただければ幸いです。

末筆ながら、地域住民の皆様の多大なご理解のもとに発掘調査を無事完了できましたことを深く感謝するとともに、種々のご協力を賜った関係機関各位ならびに直接調査と整理に従事していただいた多くの方々に厚く御礼申し上げます。

１９９９年３月

長坂町教育委員会

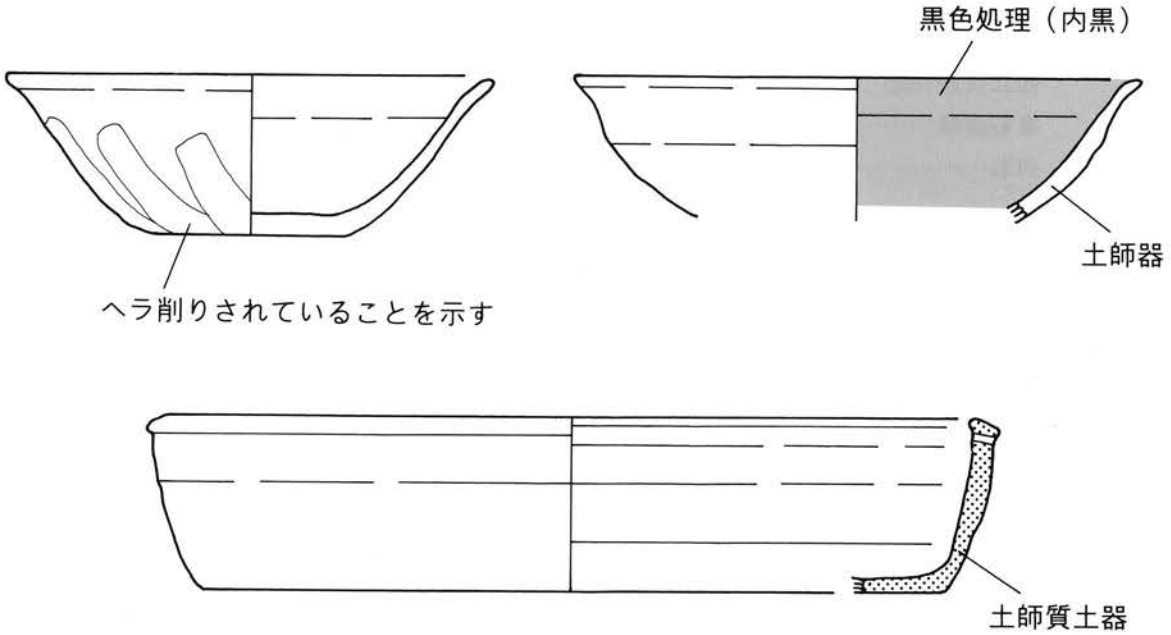
教育長　**小松清寿**

例　言

1　本書は山梨県北巨摩郡長坂町塚川字前村に所在する宮久保遺跡の発掘調査報告書である。
2　発掘調査は塚川団体営圃場整備事業にともない、長坂町役場産業課の委託を受け、長坂町教育委員会が実施した。
3　本書は、第１章１を小宮山隆（長坂町教育委員会学芸員）が執筆し、それ以外は村松佳幸（長坂町教育委員会学芸員）が執筆・編集を行った。
4　現場の基準点測量については、（株）新生測量に委託した。
5　出土品および図面・写真は長坂町教育委員会が保管している。
6　発掘調査および報告書作成にあたっては、関係諸機関・地元・多くの研究者の方々からのご指導・ご協力を賜った。厚く感謝申し上げる。

凡　例

1　出土土器・土製円盤の縮尺は原則として１／３である。遺構・石器については各図のスケールを参照されたい。
2　石器の内、磨石・磨凹石・石皿の磨面はスクリーントーンで示している。
3　拓本で両面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。
4　挿図中の土器は以下のとおりである。



宮久保遺跡

もくじ

本文

序
例言・凡例
本文目次
挿図・表目次
写真図版目次
第１章　調査の経過と概要…… 9
　１．発掘調査に至る経過…… 9
　２．発掘調査の概要…… 9
　３．発掘調査組織…… 9
第２章　遺跡をとりまく環境……13
　１．遺跡の立地……13
　２．周辺の遺跡……13
第３章　発見された遺構と遺物……15
　１．遺構……15
　　住居址……15
　　竪穴遺構……20
　　土坑・ピット……21
　　遺物集中地点……26
　　掘立柱建物跡……27
　　集石遺構……27
　　列石……27
　２．遺物……28
　　遺構外出土土器……28
　　土製品……28
　　石器……28
第４章　まとめ…… 117

付図　宮久保遺跡全体図

挿図・表

図１　長坂町の遺跡分布図……10
図２　宮久保遺跡の位置と周辺遺跡分布図……12
図３　宮久保遺跡調査区位置図……14
図４　１号住居址・カマド実測図……31
図５　２号住居址・カマド実測図……32
図６　３号住居址実測図……33
図７　４・５号住居址実測図……34
図８　４・５号住居址カマド実測図……35
図９　６号住居址実測図……36
図10　６号住居址土器分布図……37
図11　７号住居址実測図……38
図12　７号住居址土器分布図……39
図13　８号住居址実測図……40
図14　１・２号竪穴遺構・土坑実測図……41
図15　３号竪穴遺構・土坑実測図……42
図16　土坑実測図……43
図17　土坑実測図……44
図18　土坑・ピット実測図……45
図19　１号掘立柱実測図・ピット土層図……46
図20　１号集石遺構……47
図21　２号集石遺構……48
図22　１号列石実測図……49
図23　１号住居址出土遺物……50
図24　２号住居址出土遺物(1)……50
図25　２号住居址出土遺物(2)……51
図26　３号住居址出土遺物(1)……51
図27　３号住居址出土遺物(2)……52
図28　４号住居址出土遺物(1)……52
図29　４号住居址出土遺物(2)……53
図30　４号住居址出土遺物(3)……54
図31　５号住居址出土遺物……55
図32　６号住居址出土遺物(1)……56
図33　６号住居址出土遺物(2)……57

表紙写真　八ヶ岳の手前が宮久保遺跡

挿図・表

図34　6号住居址出土遺物(3)……58
図35　6号住居址出土遺物(4)……59
図36　6号住居址出土遺物(5)……60
図37　6号住居址出土遺物(6)……61
図38　6号住居址出土遺物(7)……62
図39　6号住居址出土遺物(8)……63
図40　6号住居址出土遺物(9)……64
図41　6号住居址出土遺物(10)……65
図42　7号住居址出土遺物(1)……65
図43　7号住居址出土遺物(2)……66
図44　7号住居址出土遺物(3)……67
図45　7号住居址出土遺物(4)……68
図46　7号住居址出土遺物(5)……69
図47　7号住居址出土遺物(6)……70
図48　7号住居址出土遺物(7)……71
図49　7号住居址出土遺物(8)……72
図50　7号住居址出土遺物(9)……73
図51　7号住居址出土遺物(10)……74
図52　8号住居址出土遺物(1)……74
図53　8号住居址出土遺物(2)……75
図54　出土遺物(1)……76
図55　出土遺物(2)……77
図56　出土遺物(3)……78
図57　出土遺物(4)……79
図58　出土遺物(5)……80
図59　出土遺物(6)……81
図60　出土遺物(7)……82
図61　出土遺物(8)……83
図62　出土遺物(9)……84
図63　出土遺物(10)……85
図64　出土遺物(11)……86
図65　出土遺物(12)……87
図66　出土遺物(13)……88
図67　出土遺物(14)……89
図68　出土遺物(15)……90
図69　出土遺物(16)……91
図70　出土遺物(17)……92
図71　出土遺物(18)……93
図72　出土遺物(19)……94
図73　出土遺物(20)……95
図74　出土遺物(21)……96
図75　出土遺物(22)……97
図76　出土遺物(23)……98
図77　出土石器(1)……99
図78　出土石器(2)……100
図79　出土石器(3)……101
図80　出土石器(4)……102
図81　出土石器(5)……103
図82　出土石器(6)……104
図83　出土石器(7)……105
図84　出土石器(8)……106
図85　出土石器(9)……107
図86　出土石器(10)……108
図87　出土石器(11)……109
図88　出土石器(12)……110
図89　出土石器(13)……111
図90　出土石器(14)……112
図91　出土石器(15)……113
図92　出土石器(16)……114
図93　出土石器(17)……115
図94　出土石器(18)……116
図95　小礫を敷き詰めた遺構……121
図96　遺物分布図(1)……122
図97　遺物分布図(2)……123

表1　長坂町の遺跡分布一覧……11

写真図版

図版１　宮久保遺跡全景…… 126
図版２　１号住居址…… 126
図版３　２号住居址…… 126
図版４　２号住居址遺物出土状況…… 126
図版５　作業風景…… 126
図版６　３号住居址…… 127
図版７　３号住居址遺物出土状況…… 127
図版８　４・５号住居址…… 128
図版９　４号住居址カマド…… 128
図版10　５号住居址カマド…… 128
図版11　４号住居址遺物出土状況…… 128
図版12　６号住居址…… 129
図版13　６号住居址上層…… 129
図版14　６号住居址　炉…… 129
図版15　７号住居址(1)…… 130
図版16　７号住居址(2)…… 130
図版17　７号住居址埋設土器…… 130
図版18　８号住居址…… 131
図版19　１号掘立柱建物跡…… 131
図版20　１号列石…… 132
図版21　１号竪穴遺構…… 132
図版22　１号溝…… 133
図版23　２号溝…… 133
図版24　２号竪穴遺構…… 133
図版25　１号集石…… 133
図版26　２号集石…… 133
図版27　１号土坑…… 133
図版28　９号土坑…… 134
図版29　１９号土坑…… 134
図版30　２０号土坑…… 134
図版31　２１号土坑…… 134
図版32　２７号土坑・ピット１４…… 134
図版33　６１・６２・６３・６４号土坑…… 134
図版34　６８号土坑…… 134
図版35　９５号土坑(集石土坑)…… 134
図版36　１００号土坑…… 135
図版37　ピット１…… 135
図版38　ピット４…… 135
図版39　Ｆ－５Ｇａ遺物出土状況…… 135
図版40　垂飾(玉)出土状況(７号住居址)…… 135
図版41　水晶出土状況(３号住居址)…… 135
図版42　１号暗渠…… 135
図版43　３号住居址出土土器…… 136
図版44　６号住居址出土土器…… 136
図版45　６号住居址炉体土器…… 136
図版46　６号住居址出土土器…… 136
図版47　７号住居址埋設土器…… 136
図版48　７号住居址出土土器…… 137
図版49　８号住居址出土土器…… 137
図版50　１００号土坑出土土器…… 137
図版51　Ｂ－２出土土器…… 137
図版52　Ｂ－２出土土器…… 137
図版53　Ｂ－２出土土器…… 137
図版54　Ｂ－２出土土器…… 138
図版55　Ｂ－２出土土器…… 138
図版56　Ｂ－２出土土器…… 138
図版57　２号住居址出土土器…… 138
図版58　５号住居址出土土器…… 138
図版59　４号住居址出土土器…… 138
図版60　５号住居址出土土器…… 138
図版61　４号住居址出土土器…… 138
図版62　出土石器(1)…… 139
図版63　出土石器(2)…… 140
図版64　出土石器(3)…… 141
図版65　出土石器(4)…… 142
図版66　出土石器(5)…… 143

第１章　調査の経過と概要

１　発掘調査に至る経過

1979（昭和54）年度から始まった長坂町の圃場整備事業は、水田利用再編対策の推進、作物体系の確立、農地の集積による機械化と省力化等、農業基盤整備の確立を目的としている。町内の県営圃場整備事業は1994（平成６）年度にほぼ完了したが、団体営による圃場整備事業は現在も町内の各所で行われている。

1996（平成８）年度に町産業課から、塚川地区で実施する団体営圃場整備事業について、埋蔵文化財の取り扱いに関する照会があり、町教育委員会では周知の埋蔵文化財包蔵地である宮久保遺跡が存在する旨を回答した。同時に、町教育委員会で現地踏査と確認調査を実施した。翌1997（平成９）年度には長坂町長から文化庁長官あてに埋蔵文化財発掘の通知（平成９年５月１日）が提出され、工法的に埋蔵文化財の現状保存が困難な部分について長坂町教育委員会の直営により発掘調査を実施することになった。同年５月13日に重機による表土剥ぎを開始し、埋蔵文化財発掘調査の報告（平成９年６月19日）を行った。発掘調査には約４ヶ月を要し、同年９月27日に現場調査を完了し、同年10月２日に長坂警察署に遺物発見届を提出した。その後、整理作業を1998（平成10）年３月まで実施した。

２　発掘調査の概要

今回の調査区は圃場整備対象区域の、北東から南西に伸びる細長い範囲であり、調査面積は1,403㎡である。そこに発掘調査・遺構測量の基準として10m間隔のグリッドを設定し、南から北方向に１～８、西から東方向にＡ～Ｈとグリッド番号を付けた。

調査はまず始めに重機によって遺構面を覆っている表土（水田の耕作土）を剥ぎ取り、次に人力で丁寧に確認面の精査を行い、遺構確認を行った。遺物については必要なものを出土原位置の記録をし、取り上げ作業を行った。その後、土層断面図・遺構図・遺物出土状況写真・遺構写真等を図化・撮影し、調査を完了した。

発掘調査の結果は、巻末の発掘調査抄録を参照されたい。

３　発掘調査組織

事業主体	長坂町教育委員会				
事務局	教育長	小松　清寿			
	教育課長	植松　　忠			
	教育係長	輿石　君夫			
調査担当	小宮山　隆（当時教育委員会埋蔵文化財担当）				
	村松　佳幸（当時教育委員会臨時職員）				
調査補助員	吉田　光雄				
発掘・整理作業員	横山　幸男	國府田孝吉	植松　重雄	塚原袈裟重	小林　松男
	輿石　保孝	相吉いわと	小林はる代	秋山かつゑ	八巻　重子
	小林　　裕	小林　敏江	小林　立枝	渡辺　早月	大柴　富子
	畑　　梅子	井出　仁美	名取　初子	小尾トヨ子	長田加代子
	清水　純代	日向登茂子	橋本はるみ	石川　昭江	奈良　裕子
	小林　広美	山本　理奈	深沢　憲子	吉田　浩之	

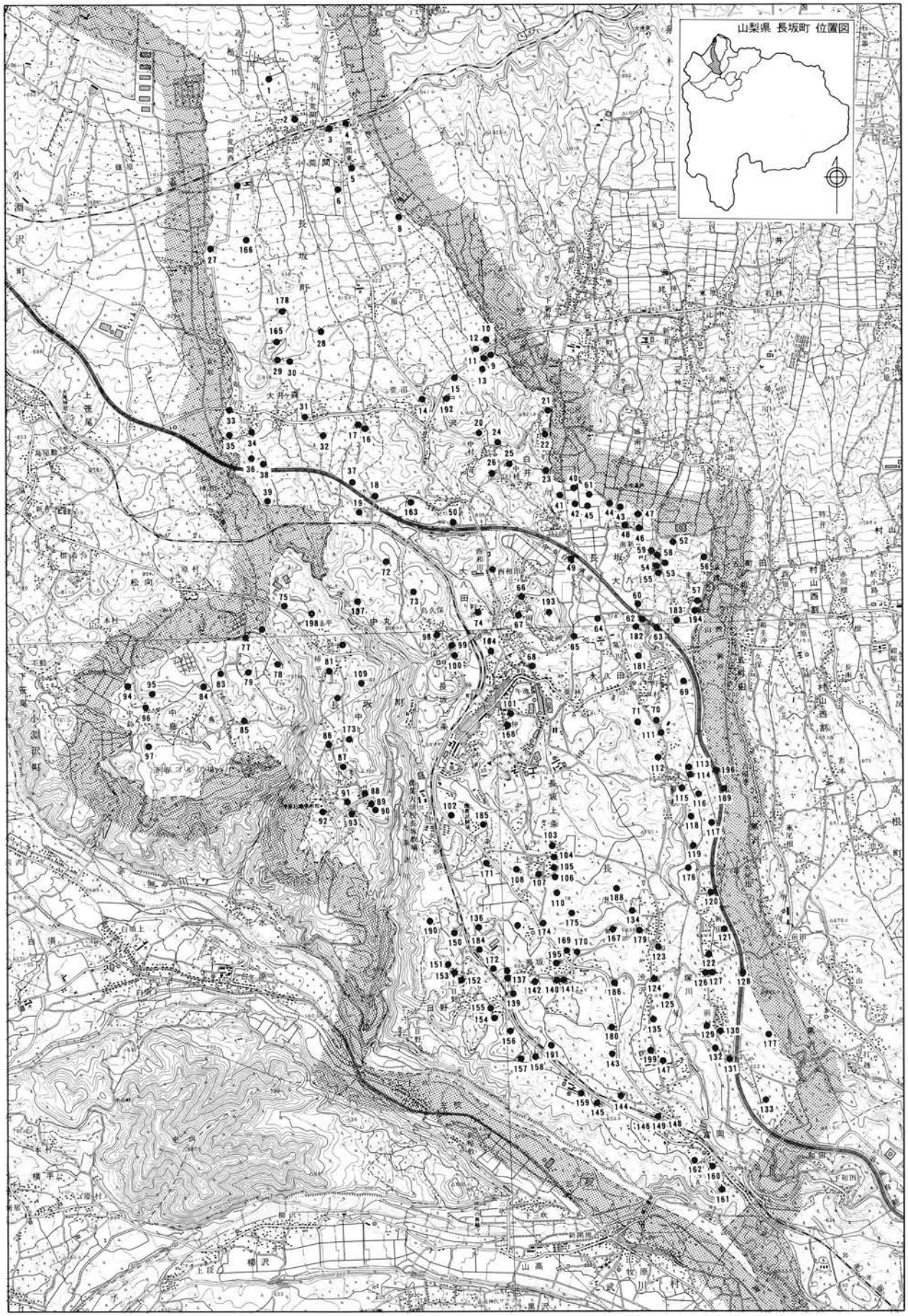


図１　長坂町の遺跡分布図

表１　長坂町の遺跡分布一覧

（縄＝縄文時代　弥＝弥生時代　古＝古墳時代　平＝平安時代　中＝中世）

001　耳塚　中
002　法性寺前遺跡　縄　中
003　信玄原遺跡　縄
004　小荒間古戦場跡
005　桜畑遺跡　近
006　小泉遺跡　近
007　菅間遺跡　縄
008　桜畑南遺跡　縄
009　糀屋敷東遺跡　縄
010　糀屋敷北遺跡　縄
011　糀屋敷遺跡　縄
012　牛久保遺跡　縄　弥
013　牛久保南遺跡　縄
014　沢入遺跡　縄　中
015　宇干平遺跡　縄　中
016　東下屋敷遺跡　縄
017　西下屋敷遺跡　縄
018　新田森遺跡　縄
019　西下屋敷南遺跡　縄
020　横手遺跡　縄　中
021　神之原遺跡　縄
022　屋敷附遺跡　縄　中
023　内城遺跡　中
024　十郎林遺跡　縄
025　阿原遺跡　平
026　中尾根遺跡　縄
027　手白尾遺跡　縄
028　夫婦石遺跡　縄
029　横山１遺跡　縄
030　横山２遺跡　縄
031　横山平南遺跡　縄　平
032　葛原北遺跡　縄　平
033　上フノリ平北遺跡　縄
034　上フノリ平遺跡　縄
035　上フノリ平西遺跡　縄
036　下フノリ平北遺跡　縄
037　葛原遺跡　縄　弥
038　下フノリ平遺跡　縄　中
039　下フノリ平南遺跡　平
040　別当遺跡　縄
041　別当西遺跡　縄
042　別当十三塚
043　南新居北遺跡　中
044　深草城址
045　小和田遺跡　縄　平
046　南新居屋敷跡
047　南新居遺跡　平
048　南新居西遺跡　平
049　小和田館跡
050　米山遺跡　旧石　縄
051　米山東遺跡　平
052　塚田遺跡　平
053　窪田遺跡　縄　古　平
054　弥右衛門塚１
055　弥右衛門塚２
056　渋田北遺跡　平
057　渋田遺跡　平
058　東原の土墨
059　東原遺跡　中
060　柳新居遺跡　縄　古　平
061　原田遺跡　縄　平
062　柳坪Ａ遺跡　縄　古　平
063　柳坪Ｂ遺跡　縄　古　平
064　小屋敷遺跡　縄　平
065　久保地遺跡　縄
066　成岡遺跡　縄　弥　平
067　成岡新田遺跡　弥　平
068　曲田遺跡　平
069　石原田北遺跡　縄　平
070　石原田南遺跡　縄　平　中
071　塚原遺跡　縄　平
072　越中久保遺跡　縄　平
073　久保遺跡　縄
074　房屋敷遺跡　縄
075　池の平遺跡　縄
076　東蕪遺跡３　平
077　東蕪遺跡２　平
078　東蕪遺跡４　縄　平
079　東蕪遺跡１　縄　平
080　和手山東遺跡　中
081　小尾平遺跡　旧石　縄
082　間の原遺跡　縄
083　西蕪東遺跡　平
084　西蕪遺跡　縄
085　西蕪南遺跡　縄　平
086　和手遺跡　縄　平
087　腰巻遺跡　縄
088　城山上北遺跡　縄　平
089　城山上遺跡　縄
090　中丸城跡　中
091　居久保遺跡　縄　平
092　清春白樺美術館南遺跡　縄
093　細久保遺跡　縄
094　後平遺跡　縄　平
095　狐平北遺跡　縄　平
096　狐平遺跡　縄　平
097　大平遺跡　縄　平
098　下鳥久保遺跡　縄
099　鳥久保遺跡　縄
100　高松遺跡　縄
101　上町遺跡　縄　平
102　酒呑場遺跡　縄　古　平
103　東村Ａ遺跡　縄　平
104　東村Ｂ遺跡　古　平
105　中村遺跡　古　平
106　錨田遺跡　平
107　西村遺跡　古　平
108　中反遺跡　縄　平
109　中丸・藤塚
110　長坂氏屋敷跡　中
111　白山神社前遺跡　平
112　上ノ屋敷遺跡　縄　平
113　大々神十三塚　中
114　大々神Ａ遺跡　平
115　大々神Ｂ遺跡　古　平
116　治郎田遺跡　古　平
117　頭無Ａ遺跡　平
118　樫木遺跡　弥　古
119　塚川・柳坪遺跡　縄
120　頭無遺跡（二本木遺跡）　縄　古
121　新田遺跡　縄
122　塚之越遺跡　中
123　原町北遺跡　平　中
124　原町遺跡　平
125　上久通北遺跡　縄　平
126　塚川の土墨　中
127　下村遺跡
128　塚川十三塚群
129●宮久保遺跡　縄　平　中
130　下村南遺跡　縄
131　泥里西遺跡　縄　平
132　勝見遺跡　縄　平
133　競馬場遺跡　縄　平
134　寺前遺跡　縄　平　中
135　上久通遺跡　縄
136　反田遺跡　縄　平　中
137　三井氏屋敷跡　中
138　北村遺跡　弥　古
139　新居遺跡　縄
140　相吉氏屋敷跡　中
141　相吉遺跡　中
142　上松氏屋敷跡　平
143　下屋敷遺跡　縄
144　清水頭遺跡　縄　古　平
145　向原遺跡　平
146　三つ墓古墳２　消滅
147　原町農業高校前遺跡　縄
148　三つ墓古墳３　消滅
149　三つ墓古墳１　古
150　池之平昭和堤北遺跡　縄
151　池之平Ａ遺跡　縄　平
152　向井丹下屋敷跡　中
153　池之平Ｂ遺跡　縄
154　上日野遺跡　縄　平
155　田中氏屋敷跡　中
156　上日野Ａ遺跡　縄　平
157　上日野Ｂ遺跡　縄　平
158　上日野Ｃ遺跡　縄　平
159　姥久保遺跡　平　中
160　日野原遺跡　平
161　上日野原遺跡　縄　平
162　富岡遺跡　近
163　横針遺跡　弥　古
164　大林遺跡　縄
165　中込遺跡　縄
166　手白尾東遺跡　縄
167　西屋敷遺跡　古
168　上町南遺跡　縄
169　龍角西遺跡　縄　古　平
170　龍角遺跡　古　平
171　長坂上条遺跡　縄　平
172　西久保遺跡　縄
173　新宿区健康村遺跡　縄　平
174　長坂下条・藤塚
175　和田遺跡　弥　平
176　古屋敷遺跡　縄
177　泥里遺跡　縄
178　中込北遺跡　縄
179　渋沢　上町遺跡　縄
180　下屋敷北遺跡　縄　平
181　柳坪南遺跡　平
182　柳坪北遺跡　縄　弥　平
183　境原遺跡　弥　平
184　北村北遺跡　縄　弥　平
185　酒呑場東遺跡　縄　弥　平
186　山本遺跡　縄
187　北村東遺跡　縄　古
188　大久保北遺跡　縄　中
189　天王塚古墳　古
190　池之平北遺跡　縄　平
191　清水頭北遺跡　縄　平
192　宇干平の土墨
193　成岡・藤塚
194　馬越場遺跡
195　紺屋遺跡　縄　平
196　治郎田北遺跡　縄
197　竹原遺跡　縄
198　天白城址　中
199　下原遺跡　縄

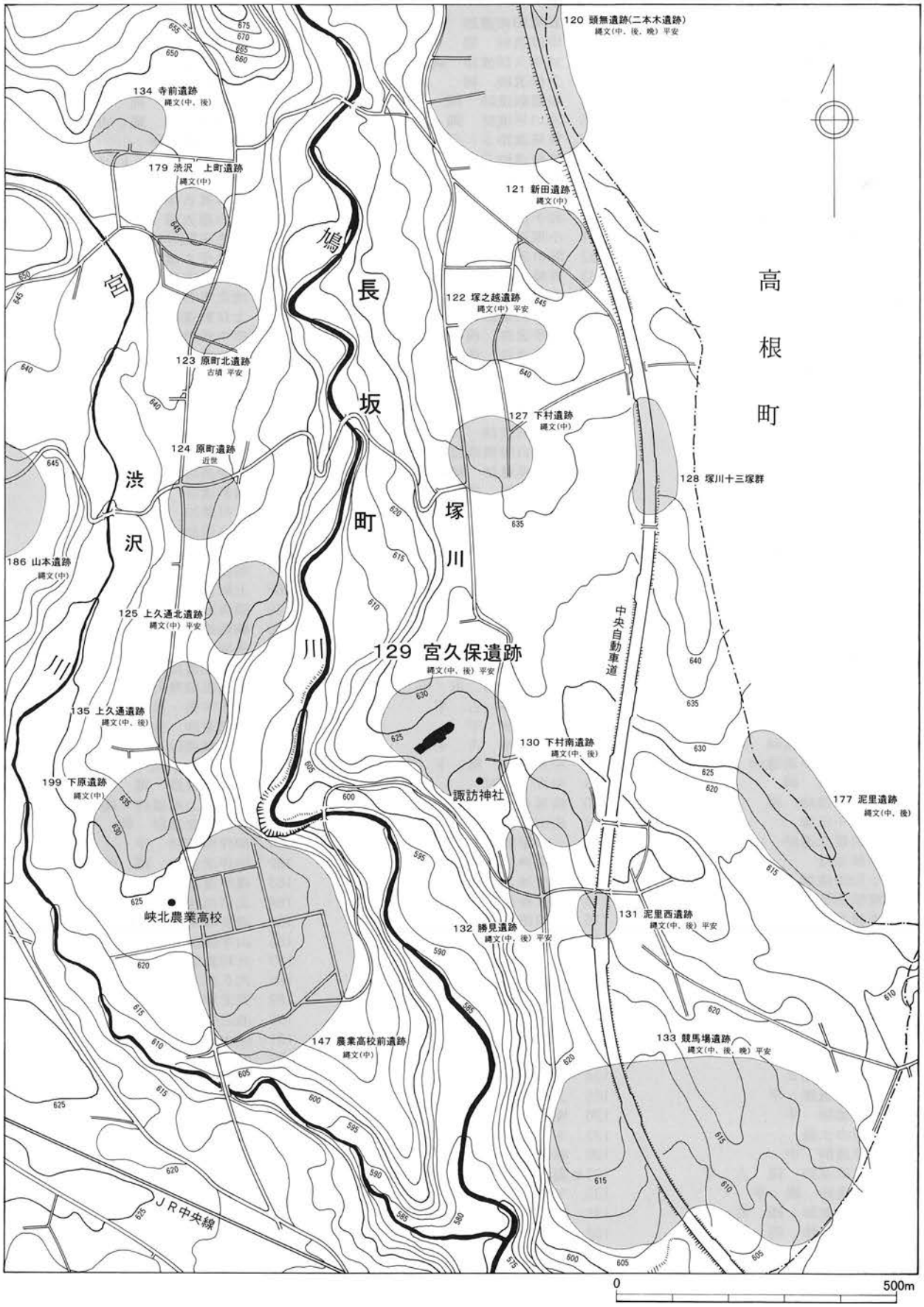


図2　宮久保遺跡の位置と周辺遺跡分布図

第2章　遺跡をとりまく環境

1　遺跡の立地

本遺跡は山梨県北巨摩郡長坂町塚川字前村に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町であり、本遺跡のある塚川地区は町の南端部に位置する。韮崎岩屑流で出来た八ヶ岳南麓緩斜面は鳩川や泉川のような中小河川により浸食されているが、町南部ではその浸食力が増大し段丘崖を形成するに至っている。塚川地区はＪＲ中央本線の通る段丘面の対岸にあたる鳩川の左岸段丘面上に位置する。段丘面上は縁辺部に行くにつれ、いくつかの尾根あるいは微高地が形成されている。本遺跡は諏訪神社のある微高地からその西側にある尾根状の台地にかけて立地する。今回の調査区はその微高地と台地に挟まれた低地部にあり、標高は約620mである。遺跡は段丘面の縁辺部に位置し、約50m南は鳩川との比高差が約20mある段丘崖になる。また、調査区は低地部であるため、表土から２m以上掘り下げると水が湧き出してくる。

低地部の地層は、調査区北側の台地の裾部にあたる所からは黄褐色土層が確認できる。しかし、それはしっかりしたローム層とは違い、小礫が混じる砂粒質のような土層であった。それ以外の所は黄褐色土を含む暗褐色土の２次堆積層で、その中には拳大前後の小礫が数多く含まれている。縄文時代中期後半において近隣の頭無遺跡が磨石類を多数出土することで知られているが、この地域の地山に礫が多く含むことと関係しているのかもしれない。遺構はその層に構築されているのであるが、遺構覆土の暗褐色土は黒いので、遺構の中心は何となく分かるのだが、外側に行くに従い色がぼやけてしまい、輪郭をつかむのに苦労した。

2　周辺の遺跡

長坂町南部にあたる塚川地区には現在のところ19遺跡が確認されており、縄文時代・平安時代の遺跡が多い。本遺跡から北へ約1.5km離れた頭無遺跡は、1973（昭和48）年に中央自動車道本線の建設に先立ち、山梨県教育委員会により発掘調査が行われている。その時に、縄文時代中期の住居跡が15軒、古墳時代前期の住居跡が２軒発見された。縄文時代中期後半の住居跡から出土した土器群は、山梨県に広く分布する曽利式土器の編年研究の基礎資料として欠くことのできないものである。また、本遺跡から南東へ約１kmのところにある競馬場遺跡は、1932（昭和27）年から知られている縄文中期から晩期の遺跡であり、1994（平成６）年に焼却灰処理施設建設に先立つ試掘調査において、縄文中期末の敷石住居跡や中期から晩期の土器が多量に出土した。塚川地区には縄文中期から晩期までの遺跡が分布している。

1969（昭和44）年には中央自動車道本線建設にともない塚川十三塚の測量・発掘が行われている。30基確認された塚と思われる小丘の内14基を地形測量し、６基を発掘調査している。出土遺物がほとんどないので小丘群の性格は不明であるが、「十三塚」と呼ばれる中世の信仰遺跡ではないかとの指摘がなされている。また、本遺跡から北へ約400mのところに塚川の墨跡がある。中世のものであるとは断定できないが、東西方向に約70m残存している。

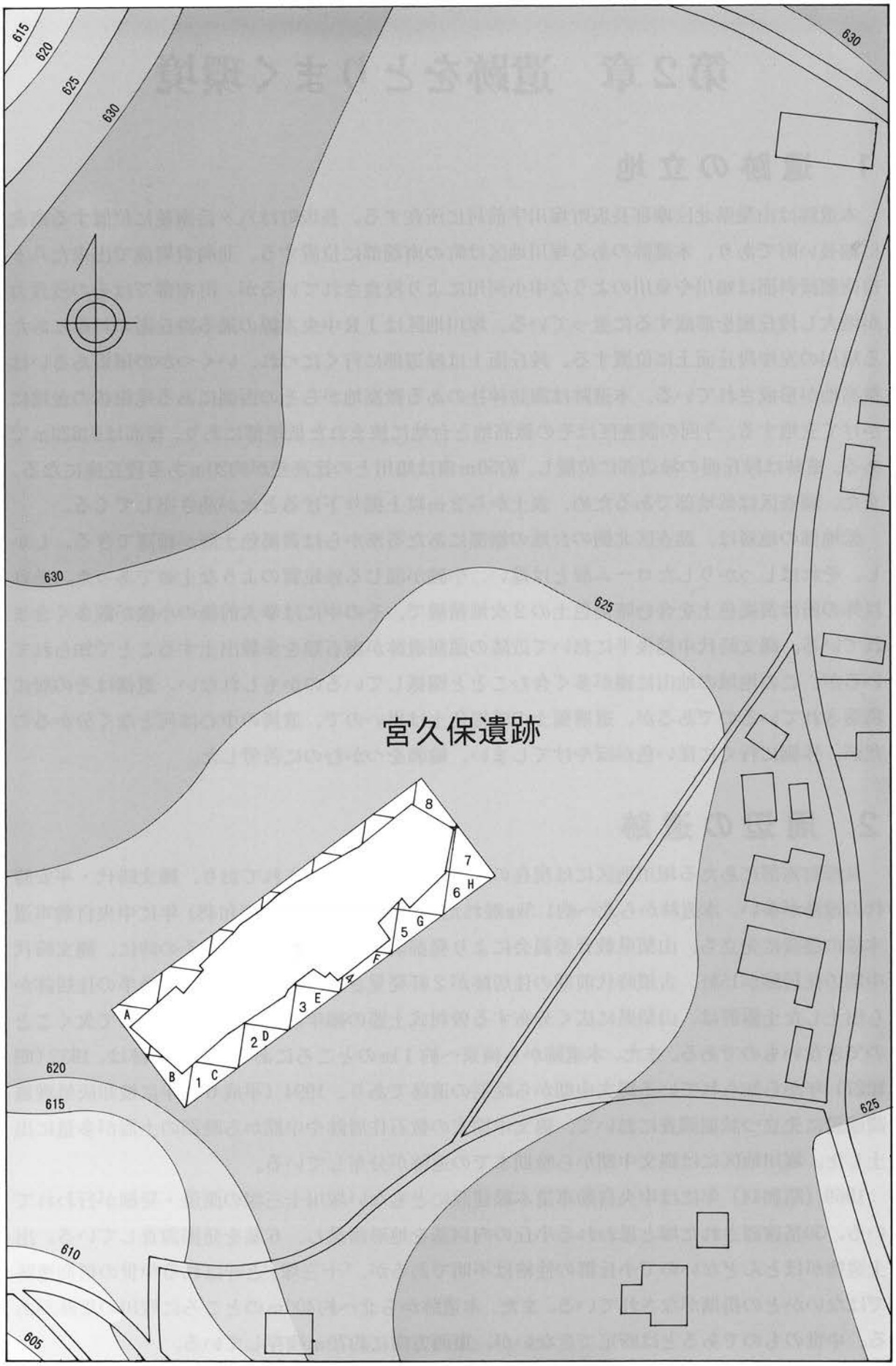


図３　宮久保遺跡調査区位置図

0　50m

第３章　発見された遺構と遺物

１．遺構

１号住居址（図４）

（位置）調査区中央部やや北東寄りのＥ－６・Ｆ－６グリッドにまたがって位置する。

（重複）住居址とは重複していないが、カマドの西隣で浅い土坑と重複している。また、西隅で倒木痕と重複している。倒木痕は3.5m×2.2m深さ83cmの大きさで、褐色土の下に黒褐色土が入り込んでいるのでそれと判断し、そこから出土するのは自然礫のみで遺物はなかった。

（形状）平面形は長方形をしている。

（規模）長軸3.4m×短軸2.7mを測る。壁高は10cmと、掘り込みはそれほど残っていなかった。

（床面）貼床・硬化面は確認されていない。

（施設）カマドは南東壁の東寄りに設置されている。カマドには袖石になるような大きい石はなく、拳大より小さな礫が多数出土している。カマド周辺に粘土は確認されなかったが、燃焼部に焼土が確認された。煙道が約60cmある。周溝はない。

（遺物）図23　土師器は図示できるようなものは出土しなかった。この住居址の覆土からは縄文土器がやや多く出土している。縄文後期堀之内式が多いが、数点中期前半の土器が出土している。

（時期）時期決定できる遺物が出土していないので断定はできないが、カマドの位置が同じ２号住居址と同時期と思われ、後述する２号住居址が甲斐型土器編年Ⅻ期と考えられるので、その時期であろう。

２号住居址（図５）

（位置）調査区中央部の北西の調査区壁際Ｄ－５・Ｄ－６グリッドに位置する。

（重複）重複はないが、住居址の約半分が調査区外である。

（形状）平面形は長方形をしていると思われる。

（規模）調査区内では長軸（北東・南西方向）３ｍ×短軸（北西・南東方向）1.5mを測る。壁高は18cmである。１号住居址と同じく掘り込みが浅い。

（床面）貼床は確認されていないが、床面全体が硬化している。住居の南側で一段高くなっているところがあり、そこも硬化していた。

（施設）カマドは、１号住居址と同様に南東壁の東隅に設置されている。袖石に使われたと思われる礫が数点出土している。また、カマドの北側に焼土や小礫がまとまって出土している。粘土は確認されていない。住居南隅に貯蔵穴と思われるピットがある。周溝はない。

（遺物）図24・25　１は甲斐型坏である。器高4.3cm×口径12.7cm×底径５cm、体部内面の暗文はなく、底部は回転糸切り後一部をヘラ削りしている。口縁部の玉縁化が進んでいる。２～４は黒色土器の坏で、４には高台が付いている。２は器高4.8cm×口径16cm×底径９cm、３は器高不明×口径15cm×底径不明、４は器高不明×口径18.4cm×底径不明である。５～13は甲斐型甕、14は須恵器大甕の破片である。

（時期）１の甲斐型坏から甲斐型土器編年XI～XII期と考えられる。

３号住居址（図６）

（位置）調査区中央部のＥ－５グリッドに位置する。

（重複）住居址とは重複しない。

（形状）平面形は楕円形をしている。住居の壁の立ち上がりは緩やかで、皿状を呈している。

（規模）長軸5.3m×短軸3.4mを測る。深さは25cmである。住居北側には段がある。

（床面）拳大より小さな礫が住居中央部を中心に敷き詰められている。地山に含まれる礫とも考えたが、住居外にも、３号住居址を立ち割った土層断面にも小礫が密集している様子はなく、また、小礫の間には粘質のある黒褐色土と明褐色土が詰まっていたため、３号住居址の床面に敷き詰めてあるものと判断した。硬化面は確認されていない。通常の敷石住居の場合、小さい礫は大きい礫の間を埋めるように使われるが、小さい礫だけで敷石されているのはあまり例がない。なお、図の中央の大きな礫は覆土中出土のものである。

（施設）炉は発見されなかった。北西の壁際のピットに中期末から後期初頭と思われる大型深鉢の口縁部（図26－１）が置かれていた。住居内に柱穴と思われるピットが数基発見されているが、規則的に配置されていない。住居址上端周辺にピットが巡っているので、むしろそれらを柱穴と考えた方がいいであろう。

（遺物）図26・27　１は口縁部下約５cmの所に横位の微隆起線を施し、縦位の微隆起線で６単位に区画し、対になる２区画が無文で他の４区画は縄文を充填している。覆土中からは堀之内式を中心に出土している。

　出土した石器は横刃形石器２点、磨石２点、凹石１点、磨・凹石３点、石錘１点、石皿２点の合計11点である。それ以外に水晶が住居の北側から１点出土している。

（時期）１の土器から中期末～後期初頭と考えられる。

（備考）３号住居址のような遺構は山梨県内には発見されていないようである。管見の限りでは、長野県諏訪郡富士見町唐渡宮遺跡33号住居址のみである。唐渡宮遺跡33号住居址は径が3.6mと小さいが、中央に大きめの炉がある。掘り込みが深く、手のひら大の平石も敷かれているが、拳大の小礫を住居の一部に敷き詰めている。他に長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡Ｄ－８号土坑も、土坑内部に偏平な小礫が貼り付けられている。これは墓坑と考えられており、３号住居址と比べ、大きさ・底部の礫の様子・土器の出土状況に違いがあるので、同じ性格のものではないが、ほぼ同時期の遺構であり、

小礫の在り方について考える上で貴重な事例となるであろう。

４号住居址（図７・８）

（位置）調査区中央部やや西寄りのＣ－４・Ｃ－５・Ｄ－４・Ｄ－５グリッドにまたがって位置する。

（重複）５号住居址と重複している。４号住居址が５号住居址を切っている。

（形状）平面形は長方形をしていたと思われる。

（規模）土層断面の観察から長軸3.5m×短軸3.0mと推定される。壁高は37cmである。

（床面）カマドの前面に一部硬化面が確認された。

（施設）カマドが東壁の中央に作られている。袖石の列が１つ確認でき、天井石として使用されたと思われる扁平礫も出土している。焼土粒は覆土中からやや多量に出土しているが、カマド内の燃焼部に焼土は確認できなかった。周溝はない。

（遺物）図28・29・30　１～６・８・９・49・53は甲斐型坏であり、どれも体部内面に暗文は施されていない。１は器高4cm×口径11.4cm×底径4.4cm、２は器高4.4cm×口径11.8cm×底径4.1cm、３は器高3.7cm×口径11.4cm×底径4.6cm、４は器高3.6cm×口径11.2cm×底径4.8cm、５は器高4.2cm×口径13.2cm×底径5.3cm、６は器高３cm×口径12.1cm×底径3.7cmである。49は器高4cm×口径11.5cm×底径4cm、53は器高4.8cm×口径15cm×底径不明である。７は黒色土器で、50・51・54～56は皿で、50は器高2.6cm×口径12cm×底径5cm、54は器高2.5cm×口径12cm×底径5.4cmである。11・13・14～32・37～40・57・59～68・70は甲斐型甕である。12・69は須恵器甕の破片である。他に縄文土器が少数出土している。

（時期）カマド周辺から出土した２・３・４・49の甲斐型坏から甲斐型土器編年XI～XII期と考えられる。

５号住居址（図７・８）

（位置）調査区中央部やや西寄りのＣ－４・Ｃ－５・Ｄ－４・Ｄ－５グリッドにまたがって位置する。

（重複）４号住居址と重複している。５号住居址は４号住居址に切られている。

（形状）平面形は長方形をしている。

（規模）長軸4.4m×短軸3.8mを測る。壁高は40cmである。

（床面）貼床・硬化面は確認されていない。

（施設）東壁のやや南寄りにカマドが作られている。左右の袖石が残っており、その外側に部分的に粘土が確認されたので、礫と粘土でカマドが構築されていたと思われる。燃焼部に焼土がわずかに確認されている。煙道はほとんどない。

（遺物）図29・31　図29－47・48・52は５号住居址から出土している。47は住居址の南コーナー、48は北コーナーからそれぞれ出土しており、両者とも体部外面に底部から口縁部

に向かって引かれた直線の刻線が施されている。47は３本－３本－１本、48は３本－３本－２本の組み合わせになっている。それらが奇しくも対になるように南北のコーナー付近から出土していることは、住居廃棄時のまじないであるかのように感じる。52は皿で器高2.8cm×口径14cm×底径6cmである。

図31－１～18・21・23～26は甲斐型甕である。27は鉢であるが、他の遺跡でよくみられる甲斐型甕と同じ技法・胎土の鉢ではなく、厚手でハケメも甲斐型甕よりも細かく幅狭く、口縁部の下に少し段が付けられている。口縁部の屈曲は緩やかであり、口径は36cmである。一見中世の土師質土器のようでもあるが、カマド周辺の甲斐型甕口縁部片の下から出土しているので、平安時代の土器であることは間違いないであろう。

（時期）47・48の甲斐型坏から甲斐型土器編年Ｘ期と考えられる。

６号住居址（図９）

（位置）調査区南端のＢ－２・Ｂ－３グリッドにまたがって位置する。

（重複）南側で８号住居址とわずかに重複する。新旧関係は８号住居址の上に６号住居址が乗っているので、８号住居址が古く６号住居址が新しい。

（形状）住居の壁が確認できなかったので不明であるが、西側の一部に壁際にめぐっていたと考えられる礫の列が発見されている。７号住居址が柄鏡形の敷石住居であるので、６号住居址も柄鏡形になる可能性もある。

（規模）住居の形が不明であるが、敷石および土器が集中的に出土する範囲は約６ｍ×６ｍである。

（床面）北側と南側の一部に板状に割れる安山岩を使用した敷石部が発見された。住居内の全面に敷かれていたと思われるが、一部しか確認されなかった。ピットは40基見つかっている。

（施設）石囲埋甕炉が住居の中央に設置されている。炉の東側と西側の礫はなかったが、北側に長細い礫が、南側に20～30cm大の礫が置かれている。内部から無文鉢形土器（図32－１）と深鉢形土器（図32－３）が出土している。

（遺物）図32～41　１は鉢形の無文土器である。底部には網代痕が確認できる。３は深鉢形土器で、口縁部と底部が欠損している。「∞」字状文が張り付けられ、その上下に「U」字状の懸垂文が施される。４は堀之内式の朝顔形土器であり、大きい三角形モチーフが用いられている。他は堀之内式がほとんどで、少し中期後半の曽利式土器が出土している。

出土した石器は総計で80点である。その内訳は打製石斧６点、磨石33点、凹石24点、磨・凹石14点、多孔石１点、たたき石１点、石皿１点である。

（時期）図32－１・３の炉体土器と覆土出土土器から判断すると、堀之内式期であろう。

（備考）６号住居址の東隣から図60－48の深鉢形土器がつぶれた状態で出土している。

7号住居址（図11）

（位置）調査区南端のＢ－２・Ｃ－２グリッドにまたがって位置している。

（重複）重複はしていない。

（形状）柄鏡形をした敷石住居である。柄の部分は南側に張り出している。

（規模）円形の部分は長軸4.3m×短軸3.8mである。柄の部分は長さ1.75m×幅90cmである。柄の部分より住居内の方が一段低くなっていて、その深さは34cmである。柄の部分の壁は確認できなかった。

（床面）硬化面は確認できなかった。柄の部分には敷石がされているが、６号住居址に使われていたような板状に割れる礫ではなく、扁平な礫の平坦面を利用して作られている。

（施設）炉は確認できなかった。しかし、後述するが、住居内から埋設土器が出土しており、その出土位置が炉と考えてもいいような位置であるので、もしかするとこれが炉になる可能性がある。

（遺物）図42～51　１は堀之内式の無文の朝顔形土器である。９は堀之内式の口縁部と思われ、波状口縁で、口縁部の下に２～３本の沈線を山形状につけ、その下に磨り消し縄文を施している。内面は波頂部に「の」字状文、その横に細長い楕円区画文と１条の沈線文を口縁部に沿って施している。

覆土中からは堀之内式がほとんどだが、それに混じって曽利式が少数出土している。

出土石器は打製石斧６点、横刃形石器１点、磨石５点、凹石11点、磨・凹石７点、多孔石１点、たたき石１点、石錘２点、石皿１点、石製円盤１点の合計36点である。

（時期）埋設土器の堀之内式期と同じかそれより古いと思われる。

（備考）住居内の覆土中に埋設土器が出土している。柄の部分の内側端から約90cm離れたところに、口縁部の一部と底部が打ち割られ、正位の状態で置かれていた。土器は堀之内式で、頸部にくびれを持つ深鉢形土器である。口縁部に１条の沈線が巡らされ、胴部には縦位に２本の沈線で４単位に区画され、その中に三角形モチーフ等を沈線で描いている。

8号住居址（図13）

（位置）調査区南端のＡ－２・Ｂ－２グリッドにまたがって位置している。

（重複）北側で６号住居址とわずかに重複している。また、100号土坑と接している。

（形状）不整な楕円形を呈している。

（規模）長軸5.0m×短軸4.45mである。壁高は34cmである。

（床面）硬化面は確認できなかった。住居の東側に人頭大より小さな礫が多量に出土している。しかし、特に敷き詰められている様子はなく、流れ込んできているようである。

（施設）炉と考えられるような施設はない。埋甕も確認できなかった。

（遺物）図52・53　中期末から後期前半の土器が出土している。39は中期末の深鉢で口縁部の

３㎝下に１条の横位隆帯を付けている。胴部の一部に縄文が確認された。
石器は打製石斧１点のみ出土した。

（時期）図53－39の土器から中期末～後期初頭と考えられる。

１号竪穴遺構（図14）

（位置）調査区中央やや北寄りのＤ－６・Ｅ－６グリッドに位置する。

（重複）３号土坑を切っている。

（形状）平面形は円形である。落ち込みは、始めはなだらかであるが、途中で急に落ち込んでいく。

（規模）長軸2.7ｍ×短軸2.3ｍである。深さは1.3ｍである。

（遺物）覆土上層から縄文土器が出土しているが、覆土中層からは50㎝大の礫を始め大きな礫が放り込まれたように発見された。

（時期）不明。

（備考）約1.3ｍほど掘り下げたら水が湧いてきて、それ以上掘り進めなかった。遺構の形態・水の湧き出しを考えると井戸であった可能性が高い。

２号竪穴遺構（図14）

（位置）調査区中央やや北寄りのＤ－５・Ｄ－６グリッドに位置する。

（重複）４号・６号土坑を切っている。

（形状）平面形は楕円形を呈する。東壁は急に立ち上がるが、西壁はなだらかに立ち上がる。

（規模）長軸3.4ｍ×短軸2.8ｍである。深さは18㎝である。

（遺物）縄文土器数点と中世の土器が出土している。

（時期）中世の遺構と思われる。

（備考）東壁の中央に10～30㎝大の礫で作られた石組が付設されている。一見するとカマドのようにも見えるが、礫が焼けている様子はなく床面に焼土も確認できないので、カマドと断定できない。手前には70㎝大の扁平な礫が出土している。

３号竪穴遺構（図15）

（位置）調査区中央やや南寄りのＣ－４グリッドに位置する。

（重複）なし。

（形状）北半分を調査区に切られているため不明である。

（規模）調査区内では長さ1.56ｍ×幅66㎝である。深さは40㎝である。

（遺物）磨・凹石２点が出土している。

（時期）不明。

（備考）３号竪穴遺構の底面付近に砂が堆積していた。調査区のすぐ西側に水路が通っているので、３号竪穴遺構は旧水路の跡と考えられ、現在の水路が以前は調査区内にまで入

り込んでいたと思われる。

土坑・ピット　土坑101基、ピット921基発見されたが、紙面の都合上主なものだけ報告する。

１号土坑（図15）

（位置）調査区北寄りのＦ－７グリッドに位置する。（形状）隅丸の長方形である。（規模）長軸2.4m×短軸1.35m、深さは10cmである。（遺物）図54　縄文土器片が少数出土しているが覆土中からであり、流れ込みと考えられる。（時期）不明。（備考）底部に径が10cm前後の小ピットが30個ほどあった。また、中央に炭化物が少しだけ出土している。

３号土坑（図14）

（位置）Ｄ－６グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形を呈する。（規模）長軸1.66m×短軸1.26mである。深さは20cmである。（遺物）図54　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期の可能性がある。（備考）１号竪穴・４号土坑に切られている。

４号土坑（図14）

（位置）Ｄ－６グリッドに位置する。（形状）不整な円形をしている。（規模）長軸1.34m×短軸1.3mである。深さは54cmである。（遺物）図54　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期の可能性あり。（備考）３・６号土坑を切っている。

６号土坑（図14）

（位置）Ｄ－６グリッドに位置する。（形状）円形であったと思われる。（規模）長軸93cm×短軸63cmである。深さは42cmである。（遺物）特になし。（時期）不明。（備考）２号竪穴・４号土坑に切られている。

７号土坑（図15）

（位置）Ｄ－５グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形をしている。（規模）長軸1.48m×短軸1.00mである。深さは20cmである。（遺物）土器は出土していないが、５～20cm大の礫が土坑中央に密集して出土している。（時期）不明。（備考）東側でピットと接している。

８号土坑（図15）

（位置）Ｃ－５・Ｄ－５グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形を呈する。（規模）長軸1.98m×短軸1.4mである。深さは22cmである。（遺物）図54　縄文土器が少数出土している。（時期）縄文時代の可能性あり。（備考）西側でピットと接している。

９号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）不定形である。（規模）長軸2.35m×短軸1.82mである。深さは31cmである。（遺物）土器は出土していないが、人頭大から拳大の礫が多数出土している。（時期）不明。（備考）12・14・16・18号土坑に切られている。

10号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）楕円形である。（規模）長軸1.18m×短軸0.76mである。深さは15cmである。（遺物）土器は出ていないが、拳大の礫が多数出土している。（時期）不明。（備考）11号土坑に切られていて、12号土坑と接している。

11号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）楕円形。（規模）長軸0.8m×短軸0.53m×深さ19cmである。（遺物）図54。縄文土器数点。（時期）不明。（備考）10号土坑を切っている。

12号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形を呈する。（規模）長軸1.02m×短軸0.66mである。深さは22cmである。（遺物）礫数点。（時期）不明。（備考）９・14号土坑を切り、10号土坑と接している。

14号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）不整な円形をしている。（規模）長軸0.38m×短軸0.24mである。深さは12cmである。（遺物）礫１点出土。（時期）不明。（備考）９号土坑を切り、12号土坑に切られている。

15号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）円形である。（規模）長軸0.55m×短軸0.52mである。深さは８cmである。（遺物）礫２点。（時期）不明。

16号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）円形をしている。（規模）長軸0.56m×短軸0.46mである。深さは30cmである。（遺物）礫数点。（時期）不明。（備考）９号土坑を切っている。

17号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）円形である。（規模）長軸0.5m×短軸0.49mである。深さは11cmである。（遺物）特になし。（時期）不明。

18号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）楕円形である。（規模）長軸0.43m×短軸0.3 m×深さ17cmである。（遺物）特になし。（時期）不明。（備考）９号土坑を切っている。

19号土坑（図15）

（位置）C－４グリッドに位置する。（形状）楕円形をしている。（規模）長軸1.08m×短軸0.72mである。深さは14cmである。（遺物）礫３点。（時期）不明。

20号土坑（図16）

（位置）C－４グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形である。（規模）長軸1.08m×短軸0.84mである。深さは26cmである。（遺物）礫数点。（時期）不明。

21号土坑（図16）

（位置）C－４グリッドに位置する。（形状）円形である。（規模）長軸0.61m×短軸0.54mである。深さは24cmである。（遺物）礫３点。（時期）不明。

22号土坑（図16）

（位置）C－４グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形を呈している。（規模）長軸2.31m×短軸1.28mである。深さは23cmである。（遺物）礫が数点出土している。（時期）不明。

23号土坑（図15）

（位置）D－４・D－５グリッドに位置する。（形状）円形を呈している。（規模）長軸0.44m×短軸0.41mである。深さは８cmである。（遺物）礫１点。（時期）不明。

24号土坑（図15）

（位置）D－４・D－５グリッドに位置する。（形状）楕円形である。（規模）長軸0.69m×短軸0.47mである。深さは17cmである。（遺物）礫１点。（時期）不明。

25号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）不整な円形と思われる。（規模）長軸0.61m×短軸0.42m×深さ20cm。（遺物）礫１点。（時期）不明。（備考）他の土坑に切られている。

26号土坑（図15）

（位置）D－５グリッドに位置する。（形状）円形である。（規模）長軸0.6m×短軸0.56mである。深さは55cmである。（遺物）礫数点。（時期）不明。（備考）他の土坑を切っている。

27号土坑（図16）

（位置）Ｅ－５グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形を呈している。（規模）長軸0.77ｍ×短軸0.58ｍである。深さは14㎝である。（遺物）礫が数点出土している。（時期）不明。

37号土坑（図16）

（位置）Ｅ－６グリッドに位置する。（形状）不定形である。（規模）長軸1.02ｍ×短軸0.74ｍである。深さは55㎝である。（遺物）図54。縄文土器数点出土している。（時期）縄文時代後期堀之内式期と思われる。

38号土坑（図16）

（位置）Ｅ－６グリッドに位置する。（形状）不定形である。（規模）長軸1.4ｍ×短軸0.91ｍである。深さは68㎝である。（遺物）図55。縄文土器が少数と図77－７の磨製石斧が出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

61号土坑（図16）

（位置）Ｅ－５グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形を呈している。（規模）長軸1.05ｍ×短軸0.7ｍである。深さは30㎝である。（遺物）図55。縄文土器が少数出土している。大礫と小礫が少数出土している。（時期）不明。

62号土坑（図16）

（位置）Ｅ－５グリッドに位置する。（形状）円形を呈している。（規模）長軸0.56ｍ×短軸0.52ｍ×深さ20㎝である。（遺物）礫２点。（時期）不明。（備考）ピットを切っている。

63号土坑（図16）

（位置）Ｅ－５グリッドに位置する。（形状）円形である。（規模）長軸0.76ｍ×短軸0.72ｍである。深さは13㎝である。（遺物）拳大の礫が少数出土している。（時期）不明。

64号土坑（図16）

（位置）Ｅ－５グリッドに位置する。（形状）不整な円形をしている。（規模）長軸0.61ｍ×短軸0.55ｍである。深さは12㎝である。（遺物）礫１点。（時期）不明。

66号土坑（図16）

（位置）Ｄ－５グリッドに位置する。（形状）楕円形をしている。（規模）長軸0.95ｍ×短軸0.6ｍである。深さは16㎝である。（遺物）礫数点。（時期）不明。

68号土坑（図16）

（位置）Ｅ－５グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形である。（規模）長軸1.45ｍ×短軸

0.84mである。深さは57cmである。（遺物）大礫と小礫が多数出土している。（時期）不明。

86号土坑（図17）

（位置）E－4・E－5グリッドに位置する。（形状）不定形である。（規模）長軸3.32m×短軸1.72mである。深さは30cmである。（遺物）礫が少数出土している。（時期）不明。

87号土坑（図17）

（位置）D－3・D－4グリッドに位置する。（形状）不整な円形を呈している。ピットが3基ある。（規模）長軸1.22m×短軸1.21mである。深さは29cmである。（遺物）大礫と小礫が数点出土している。（時期）不明。（備考）他の土坑と接している。

88号土坑（図17）

（位置）D－4グリッドに位置する。（形状）不定形である。（規模）長軸2.35m×短軸1.55mである。深さは44cmである。（遺物）礫が2点出土している。（時期）不明。

89号土坑（図17）

（位置）D－5グリッドに位置する。（形状）不整な楕円形である。（規模）長軸1.54m×短軸0.88mである。深さは16cmである。（遺物）拳大の礫が数点出土している。（時期）不明。

95号土坑（図17）

（位置）D－5グリッドに位置する。（形状）円形の土坑と不定形な土坑が重なっている。（規模）全体の規模は長軸2.14m×短軸1.09m、深さは44cmである。円形の土坑の規模は長軸1.07m×短軸0.98m、深さは44cmである。（遺物）円形の土坑の上層で拳大の礫が密集しており、下部でも土坑中央に扁平な礫を置きその周りを礫で固めてあった。覆土中に炭化物の粒が多量に含まれていた。土器は出土していない。（時期）不明。

100号土坑（図13）

（位置）B－2グリッドに位置する。（形状）不整な円形を呈している。（規模）長軸0.8m×短軸0.72mである。深さは42cmである。（遺物）図52－1が出土している。口縁部の下に1条の横位隆帯を付け、他は無文である。（時期）縄文中期末～後期初頭と考えられる。

101号土坑（図18）

（位置）B－1グリッドに位置する。（形状）円形である。（規模）長軸0.71m×短軸0.62mである。深さは35cmである。（遺物）土坑内ではないが、土坑の上部および周辺から縄文後期堀之内式の無文深鉢（図61－101）が出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

ピット８（図18）

（位置）Ｆ－６グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸43cm×短軸35cm×深さ20cm（遺物）図56　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

ピット９（図18）

（位置）Ｆ－６グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸37cm×短軸33cm×深さ26cm（遺物）図56　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

ピット10（図18）

（位置）Ｆ－６グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸37cm×短軸34cm×深さ23cm（遺物）図56　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

ピット11（図18）

（位置）Ｆ－６グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸33cm×短軸32cm×深さ21cm（遺物）図56　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

ピット13（図18）

（位置）Ｆ－６グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸22cm×短軸21cm×深さ18cm（遺物）特になし。（時期）不明。

ピット198（図18）

（位置）Ｆ－５・Ｆ－６グリッド。（形状）円形である。（規模）長軸53cm×短軸39cm×深さ15cm（遺物）縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）縄文後期堀之内式期と思われる。

Ｆ－５Ｇａ〈遺物集中地点〉（図18）

（位置）Ｄ－５グリッドに位置する。（規模）約50cm×50cmの範囲で遺物が数点まとまって出土し、その下からピットが８基確認できた。（遺物）堀之内式の土器口縁部片（図72－３）や蛇紋岩製の玉未製品（図77－８）、石錘（図78－11）、磨・凹石（図89－６）、凹石（図89－８）がまとまって出土した。その下にピットが８基ほど確認されたが、これらの遺物と関係があるか不明である。遺物の出土状況を見ると、堀之内式土器の口縁部片は磨・凹石に立てかけられており、あたかも土坑に副葬されていたかのようであった。確認ができなかったが、土坑があった可能性もある。（時期）縄文後期堀之内式期である。

Ｆ－５Ｇｂ〈遺物集中地点〉（図18）

（位置）Ｄ－５グリッドに位置する。（規模）土器片と石が50cm×30cmの範囲でまとまって出土した。（遺物）堀之内式の無文土器が２点出土している。その下には土坑やピットは確認できな

かったが、北側約80cmの所にＦ－５Ｇａがあり、礫の出土状況が密集した様になっているので、遺構と認定した。（時期）縄文後期堀之内式期である。

１号掘立柱建物跡（図19）

（位置）Ｃ－３・Ｃ－４グリッドに位置する。（規模）２間×３間の長方形をしている。長さは長軸方向が5.51ｍで、短軸方向が4.24ｍを測る。ピットは全部で10基確認でき、各ピットの大きさは次の通りである。（長軸cm×短軸cm×深さcm）

ピット１	50×47×21	ピット２	46×43×14	ピット３	55×47×17
ピット４	50×46×26	ピット５	63×48×28	ピット６	60×55×20
ピット７	43×41×22	ピット８	41×38×16	ピット９	48×32×20
ピット10	52×50×20				

（遺物）図56　縄文後期堀之内式が数点出土している。（時期）時期決定できるような遺物が出土していないので断定できないが、近くから平安時代の住居跡が発見されており、かつ、遺構の軸がほぼ同じであるので、平安時代のものと考えられる。

１号集石遺構（図20）

（位置）Ｂ－２・Ｂ－３グリッドに位置する。６号住居址の上に作られていた。（規模）3.1 ｍ×2.5ｍの範囲で礫が密集していた。（遺物）縄文土器が多数出土している。（時期）縄文土器が多く混じっているが、集石の出土位置が明らかに高く、縄文時代のものではない。

２号集石遺構（図21）

（位置）Ｅ－４・Ｆ－４グリッドに位置する。（規模）6.5ｍ×2.0ｍの範囲で礫がかたまって出土した。（遺物）縄文土器が少数出土している。（時期）１号集石と同じく、他の縄文遺構とは出土位置が違うので、縄文時代のものではない。

１号列石（図22）

（位置）Ｅ－４・Ｅ－５グリッドに位置する。（規模）大礫が14個、小礫が数十個で構成されている。礫は北から東へ北東側に膨らみながら弧を描くように並んでおり、弧の半径は約10ｍである。円形には並んでいなかった。礫のほとんどが輝石安山岩である。大礫の下部には浅い土坑が掘られていた。おそらく、墓坑が並んだものと思われる。（遺物）中央にあるＩ－Ｊ間の大礫の下から図57－１号列石－１が出土している。注口土器の把手であり、堀之内Ⅱ式である。（時期）図57－１や列石の周辺から出土する土器から堀之内Ⅱ式期と考えられる。（備考）ほぼ同時期と考えられる６・７号住居址とは約35ｍ北に離れている。すぐ北には３号住居址があるが、3号住居址の方が時期は古く、同時に存在はしていない。また、地山には拳大前後の礫は数多く含まれているが、列石を構成するような大礫は含まれていないので、おそらく近くの河原から運んできたものと思われる。

２．遺物

遺構外出土土器（図59～75）

今回の発掘調査で、縄文時代の土器が多数出土している。そのほとんどが後期の堀之内式であり、中期末の土器も少なからず出土している。それ以外は中期前葉から中葉の土器が数点出土するぐらいであり、遺跡の主体的な時期は中期末から後期前半であり、主に後期堀之内式である。縄文時代の遺物は調査区の南半分で出土量が多く、遺構もそのような傾向である。

図59－Ｂ２－１・５は堀之内Ⅱ式の浅鉢形土器である。図60－48は縄文中期末の深鉢形土器である。おそらく口縁部３cm下に１条の隆帯を付ける土器であると考えられる。胴部には櫛状の工具で縦に懸垂文を施している。図60－66はミニチュア土器である。口縁部に横位の沈線を引き、胴部に複雑な沈線文を施している。図61－101は縄文後期の深鉢形土器である。頸部から外に開いて、口縁部で「く」字状に内側に折れ、口唇部外側に１条の沈線を入れている。図65－448は縄文後期堀之内式の深鉢形土器である。

土製円盤（図76）

土製円盤は全部で38点出土している。無文のものが多いが、文様のあるものでは縄文のものと沈線文のものがある。中には底部を利用したものもある。

石器（図77～94）

今回の調査で出土した石器・石製品は全部で318点である。その内訳は石鏃３点、石錘14点、打製石斧37点、横刃形石器14点、磨製石斧７点、磨石78点、磨・凹石63点、凹石69点、敲石７点、石皿７点、多孔石10点、石棒２点、茶臼１点、石製円盤１点、水晶１点、砥石２点、垂飾（玉）１点、玉未製品（蛇紋岩製）１点である。以下、各器種ごとに概要を述べていく。

石鏃（図77－１～３）

石鏃は３点出土している。全て無茎凹基で、黒曜石製である。大きさも２cm弱とほぼ同じである。

磨製石斧（図77－４～７・９～11）

磨製石斧は８点出土している。完形は４だけで、他のものは刃部や基部が欠損している。４～７・９は定角式で、10・11は偏平な乳房状をしている。

石錘（図78）

石錘は14点出土している。長軸方向に切れ込みがあるの８点（１・３・４・５・７・11・13・14）、短軸方向に切れ込みを持つもの５点（２・６・８・９・10）、長軸と短軸の両方向に切れ込みを持つもの１点（12）がある。切れ込みはほとんどが打ち欠いて作られているが、13・14

はわずかに切れ込みが磨られている。

北巨摩郡内では須玉町上ノ原遺跡（100点以上）、韮崎市新田遺跡（27点）、明野村屋敷添遺跡（27点）に次ぐ出土量の多さである。石錘が10点以上出土する遺跡は以外と少ない。

打製石斧（図79－２・３・５～11・13～15・17、図80－１・２）

打製石斧は37点出土し、そのうち15点図示した。短冊形17点、撥形11点、不明9点である。縄文時代の石器315点における打製石斧の比率は11.7%である。中部高地における中期中葉の圧倒的な出土量と比べるとかなり少ない。中部高地では、中期後半から石器組成における打製石斧の割合が減少していき、後期になると磨石・凹石より割合が少なくなる傾向があり、本遺跡も該期の様相に当てはまる。

横刃形石器（図79－１・４・12・16・21・22、図80－３・４）

横刃形石器は14点出土し、そのうち８点図示した。打製石斧より厚さが薄く、側縁の片側に刃部を作り出している。鎌のような機能を持っていたと考えられる。

磨石、凹石、磨・凹石（図80－５～12、図81～91）

本遺跡から磨石78点、凹石69点、磨・凹石（磨面と凹みをもつもの）63点の合計210点出土した。縄文時代の石器の中で最も出土量が多く、石器組成の主体をなすものであり、その割合は66.6%にもなる。今回はそのうち132点図示した。

磨石、凹石、磨・凹石のうちそれぞれの割合は、磨石37.1%、凹石32.9%、磨・凹石30%となり、わずかに磨石の割合が多いが、ほぼ同じとみてよいだろう。石材は八ヶ岳山麓から産出する輝石安山岩がほとんどであり、在地の石材を利用している。

多孔石（図92・93）

多孔石は10点出土している。拳大から人頭大の大きさの、不定形な自然礫に多くの凹みがあるものである。

石皿（図94－１～３）

石皿は７点出土している。ほとんどが凹面を持つ石皿であるが、２は平坦な作業面を持っている。

砥石（図94－４・５）

砥石は2点出土している。どちらも平安時代のものと考えられる。

茶臼（図94－６）

茶臼は1点のみ出土している。茶臼の下臼であり、かろうじて受け皿部につながる部分が残っ

ていたので茶臼と判明した。全体の1/6ぐらいの破片である。

石棒（図77－13、図94－７）

石棒は２点出土している。図77－13は小型のものであり頭部は欠損していて不明である。図94－７は大型のもので2号集石の中に混ざっていた。表面は敲打で形を作りだしている。こちらも半分が欠損していて全体の様子は不明である。

垂飾（玉）（図77－12）

垂飾が１点出土している。長軸2.5cmの楕円形をした滑石に、中心からやや上方にずれたところに径６mmの孔を空けている。7号住居址から出土し、縄文後期堀之内式期のものであろう。

水晶（図77－14）

水晶が３号住居址から１点出土している。胴部断面が六角形をした自然の結晶であり、六角錐の頭が残っている。頭の先端にわずかに摩耗した跡がみられる。道具として使用されていた可能性がある。

八ヶ岳山麓から水晶は産出しないので、水晶の産出する甲府市北部の金峰山周辺や南アルプスの甲斐駒ヶ岳周辺から持ち込まれたものである。山梨県内の縄文時代遺跡において、水晶が出土することは少なからずあるのだが、石鏃等の石器石材として持ち込まれるため、水晶破片や石英破片が数点発見されることが多い。しかし、本遺跡からはこの水晶結晶１点だけであり、他の破片が出土していない。想像力をたくましくすれば、石器石材としてではなく水晶の美しさに魅了され、所持するために持ち込まれたと思われる。

石製円盤（図77－15）

石製円盤が１点、７号住居址から出土している。周りを打ち欠いて製作している。

この中で、砥石と茶臼以外は縄文時代のものと考えられる。出土土器には中期中葉から後期前半まであるが、中期末と後期堀之内式が主体となるので、石器のほとんどがそのどちらかの時期に帰属すると思われる。組成の中で注目されるのは、磨石・凹石が多く出土することである。縄文時代のものと思われる315点の石器の内、磨石・凹石が占める割合は66.6%にもなる。本遺跡の北約1.5kmにある頭無遺跡からは中期後半の集落が発見されているが、同時期の遺跡と比べると、磨石・凹石が数多く出土している。そのことから、縄文時代中期において集落間に生業差があり、分業が行われていたのではとの指摘もある（末木1987）。

本遺跡の遺構確認層には、磨石・凹石に使えそうな礫が多量に含まれているので、磨石・凹石の材料には事欠かなかったであろう。本遺跡は中期末から後期前半の遺跡であり、時期的に磨石・凹石が多くなる時期ではあるが、縄文時代中期後半から後期前半まで、頭無遺跡を含め、この地域では磨石・凹石を多く出土することが特徴であると言えるだろう。

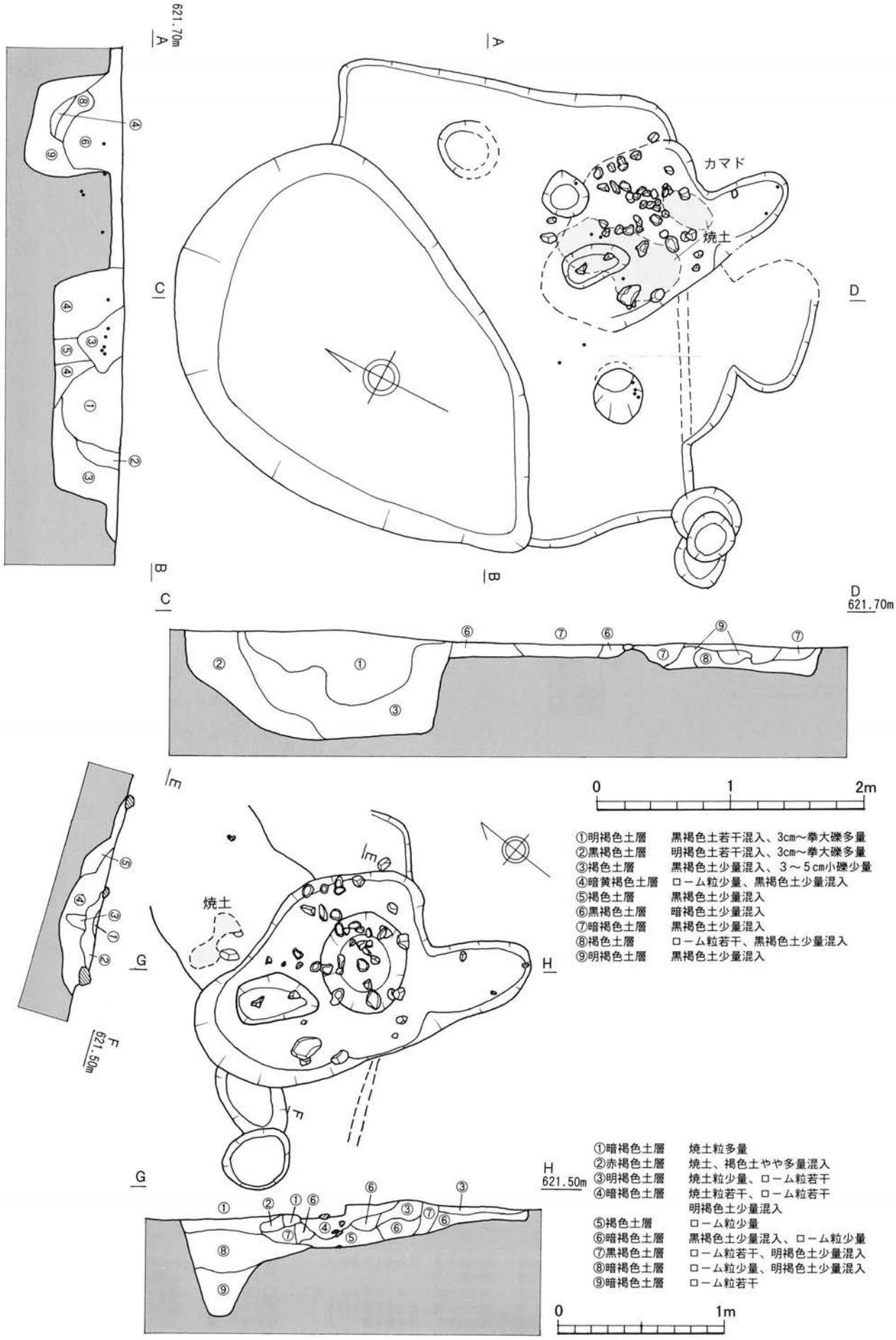


図４　１号住居址・カマド実測図

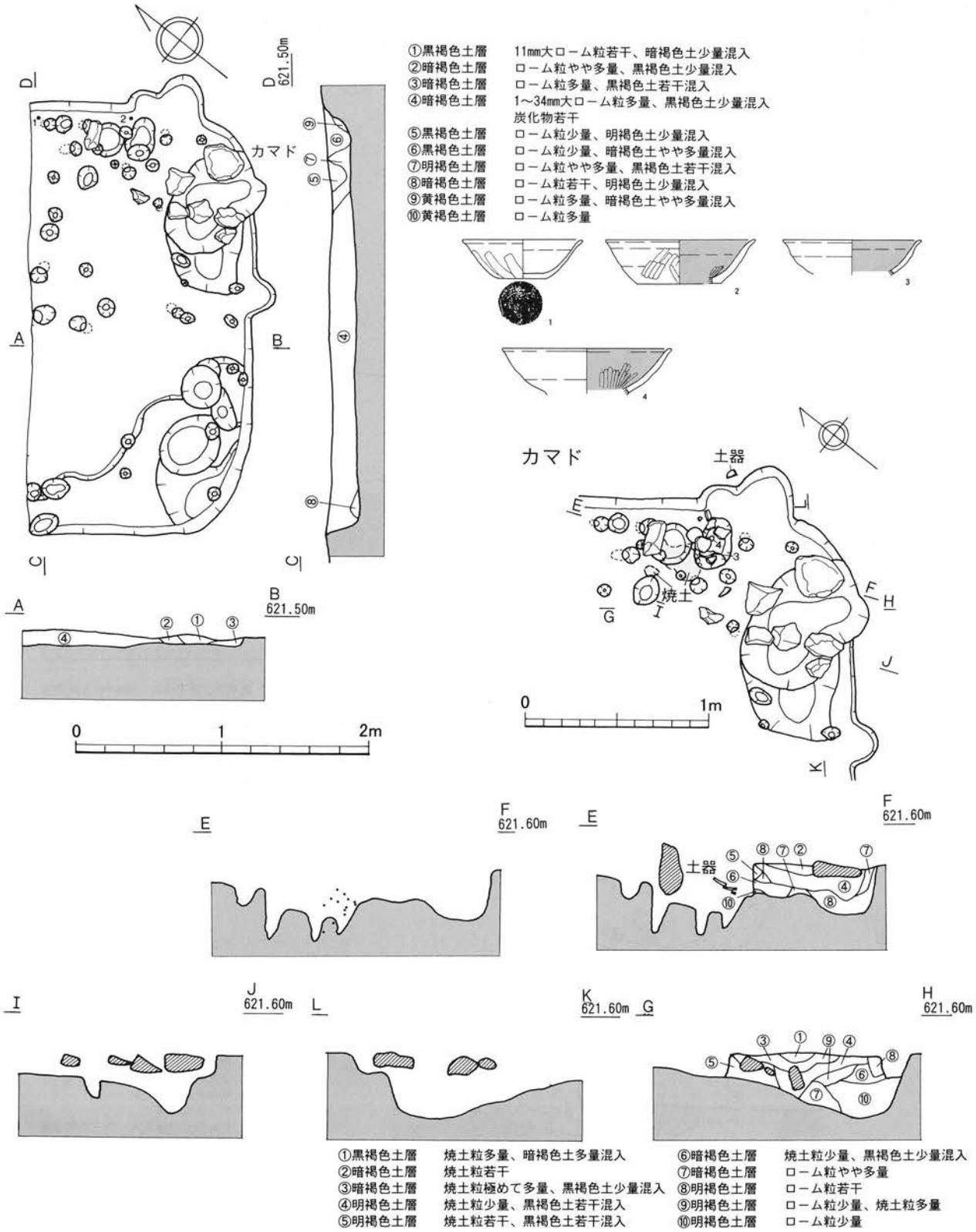


図５　２号住居址・カマド実測図

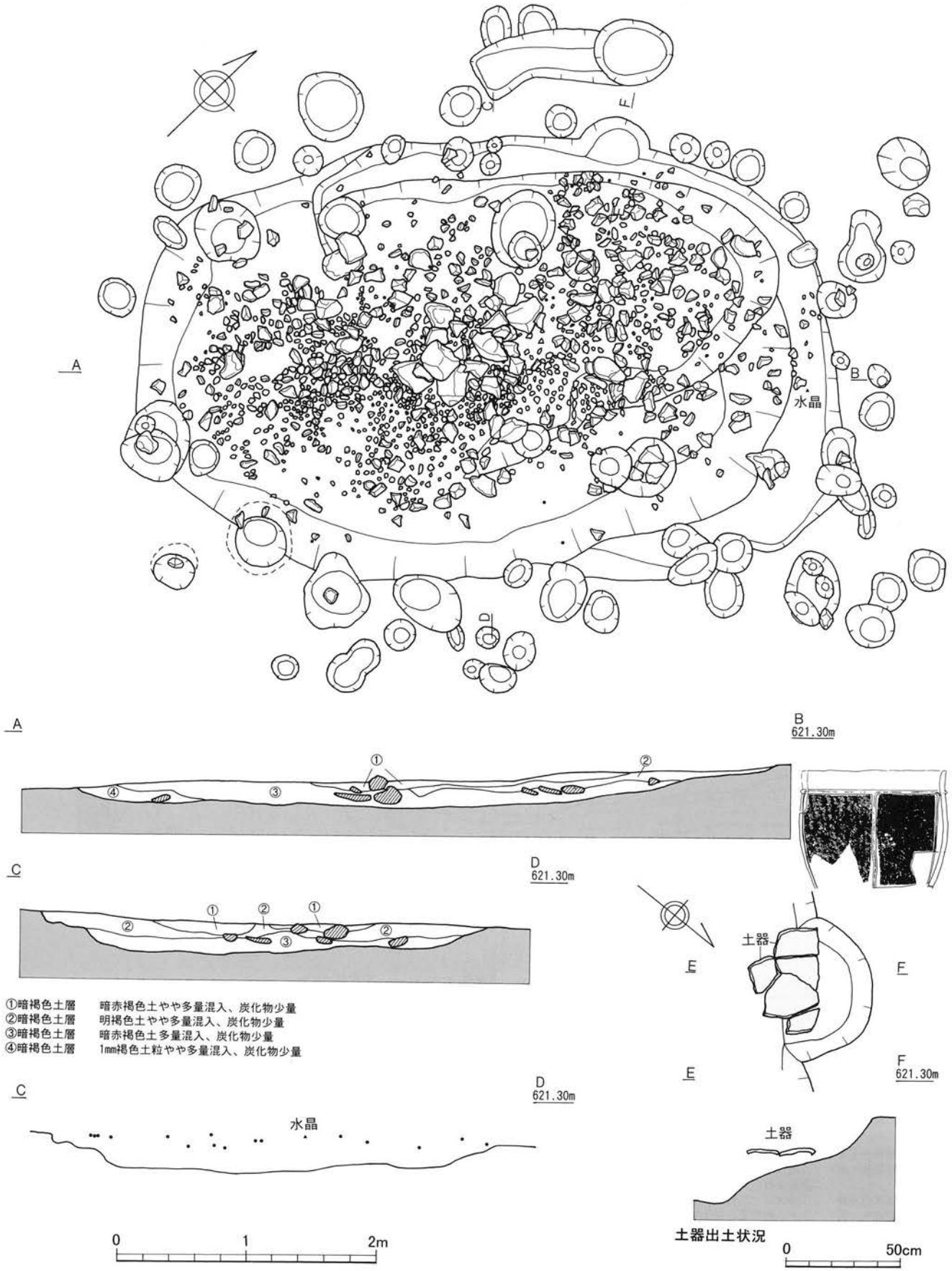
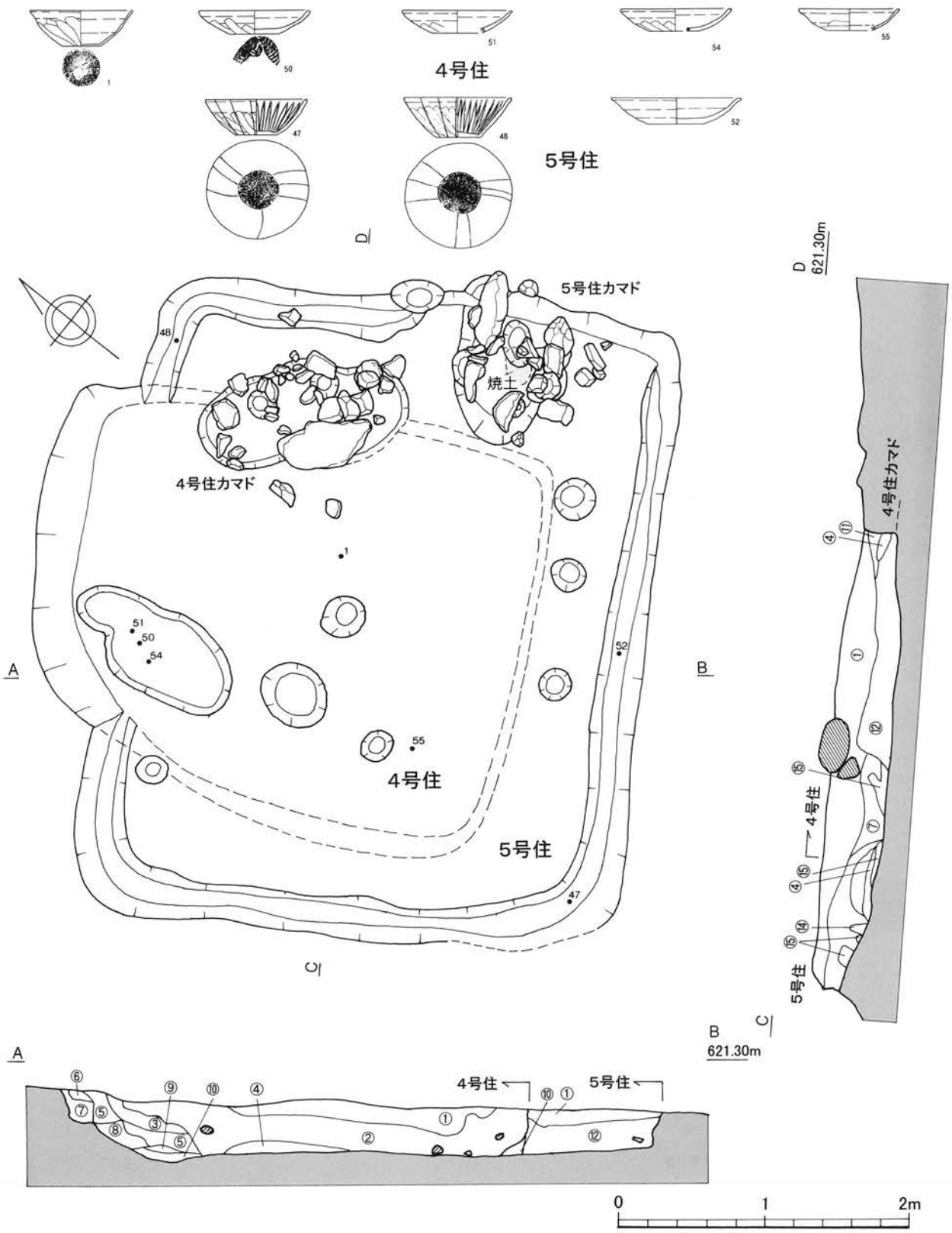
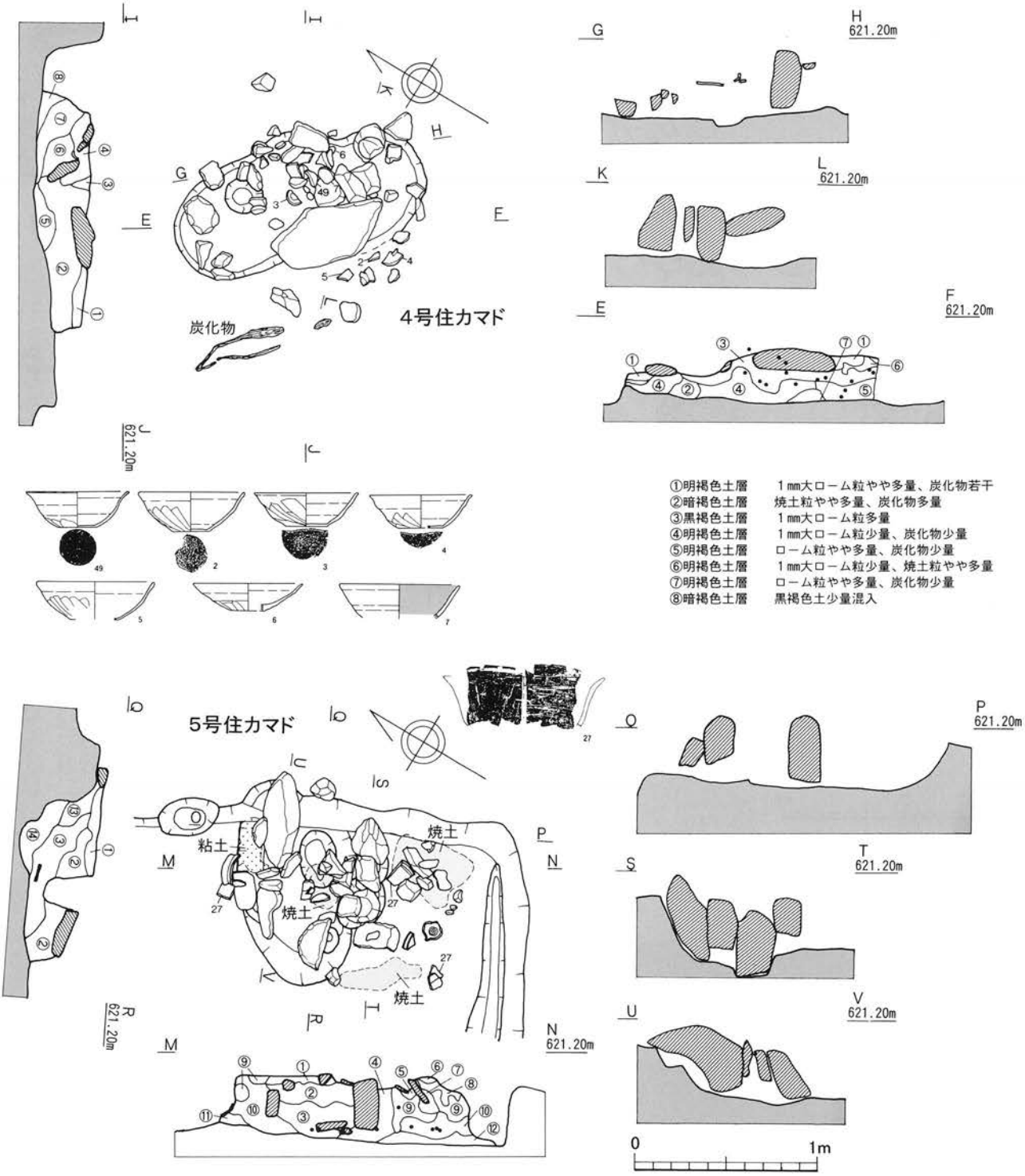

A
B
C
D
E
F
水晶
B
621.30m
D
621.30m
①暗褐色土層　暗赤褐色土やや多量混入、炭化物少量
②暗褐色土層　明褐色土やや多量混入、炭化物少量
③暗褐色土層　暗赤褐色土多量混入、炭化物少量
④暗褐色土層　1mm褐色土粒やや多量混入、炭化物少量
土器
F
621.30m
土器出土状況
0
1
2m
0
50cm

図６　３号住居址実測図



①暗褐色土層　1㎜大ローム粒若干
②暗褐色土層　5㎜大ローム粒少量、黒褐色土少量混入、炭化物若干
③暗褐色土層　1㎜大ローム粒やや多量、明褐色土多量混入
④明褐色土層　ローム粒多量、炭化物若干
⑤暗褐色土層　ローム粒多量、明褐色土少量混入、炭化物少量
⑥褐色土層　ローム粒少量、炭化物若干
⑦褐色土層　5㎜大ローム粒やや多量、褐色土多量混入
⑧褐色土層　ローム粒やや多量、褐色土やや多量混入
⑨暗褐色土層　ローム粒多量
⑩暗褐色土層　1～5㎜大ローム粒少量
⑪黒褐色土層　ローム粒少量
⑫暗褐色土層　5㎜大ローム粒少量、炭化物若干
⑬暗褐色土層　1～5㎜大ローム粒やや多量、炭化物やや多量褐色土少量混入
⑭明褐色土層　1～5㎜大ローム粒、炭化物少量
⑮黄褐色土層　ローム粒やや多量、暗褐色土少量混入

図7　4・5号住居址実測図



①明褐色土層　1mm大ローム粒やや多量、炭化物若干
②暗褐色土層　焼土粒やや多量、炭化物多量
③黒褐色土層　1mm大ローム粒多量
④明褐色土層　1mm大ローム粒少量、炭化物少量
⑤明褐色土層　ローム粒やや多量、炭化物少量
⑥明褐色土層　1mm大ローム粒少量、焼土粒やや多量
⑦明褐色土層　ローム粒やや多量、炭化物少量
⑧暗褐色土層　黒褐色土少量混入

①暗褐色土層　炭化物少量
②暗褐色土層　1mm大ローム粒やや多量、焼土粒・炭化物少量
③明褐色土層　ローム粒多量、焼土やや多量、炭化物少量
④暗褐色土層　粘土粒やや多量
⑤明褐色土層　粘土粒極めて多量、炭化物少量
⑥明褐色土層　粘土粒極めて多量
⑦赤褐色土層　焼土
⑧暗褐色土層　粘土粒多量、焼土粒やや多量、炭化物少量
⑨灰褐色土層　暗褐色土少量混入
⑩暗褐色土層　焼土粒少量、炭化物少量
⑪明褐色土層　粘土粒少量、炭化物少量
⑫褐色土層　焼土粒やや多量、暗褐色土少量混入、炭化物少量
⑬明褐色土層　焼土粒少量、黒褐色土・褐色土やや多量混入
⑭暗褐色土層　焼土粒少量、黒褐色土多量

図８　４・５号住居址カマド実測図

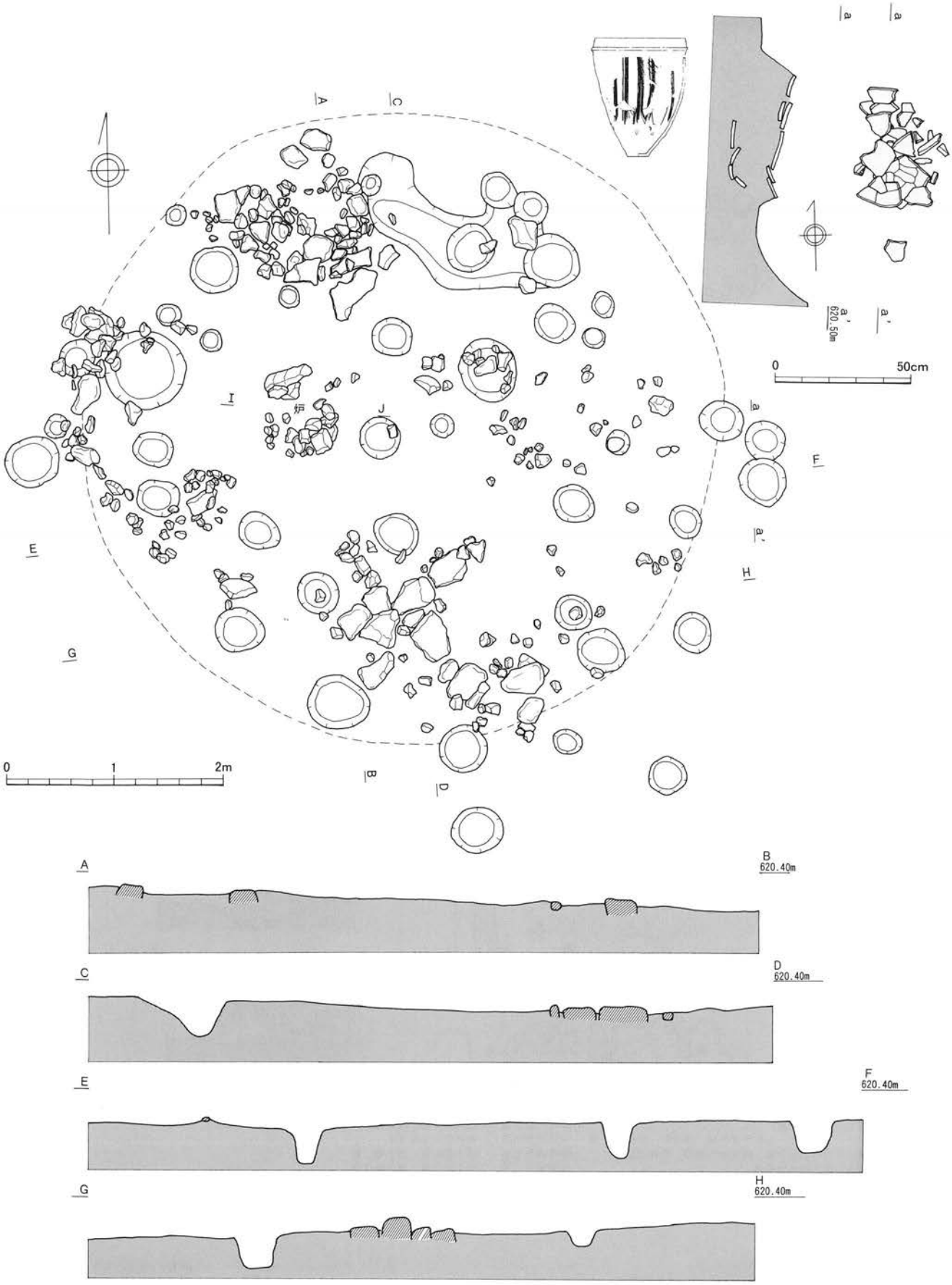

A
C
a
a
a'
620.50m
a'
0
50cm
I
炉
J
a
F
a'
E
H
G
0
1
2m
B
D
A
B
620.40m
C
D
620.40m
E
F
620.40m
G
H
620.40m

図９　６号住居址実測図

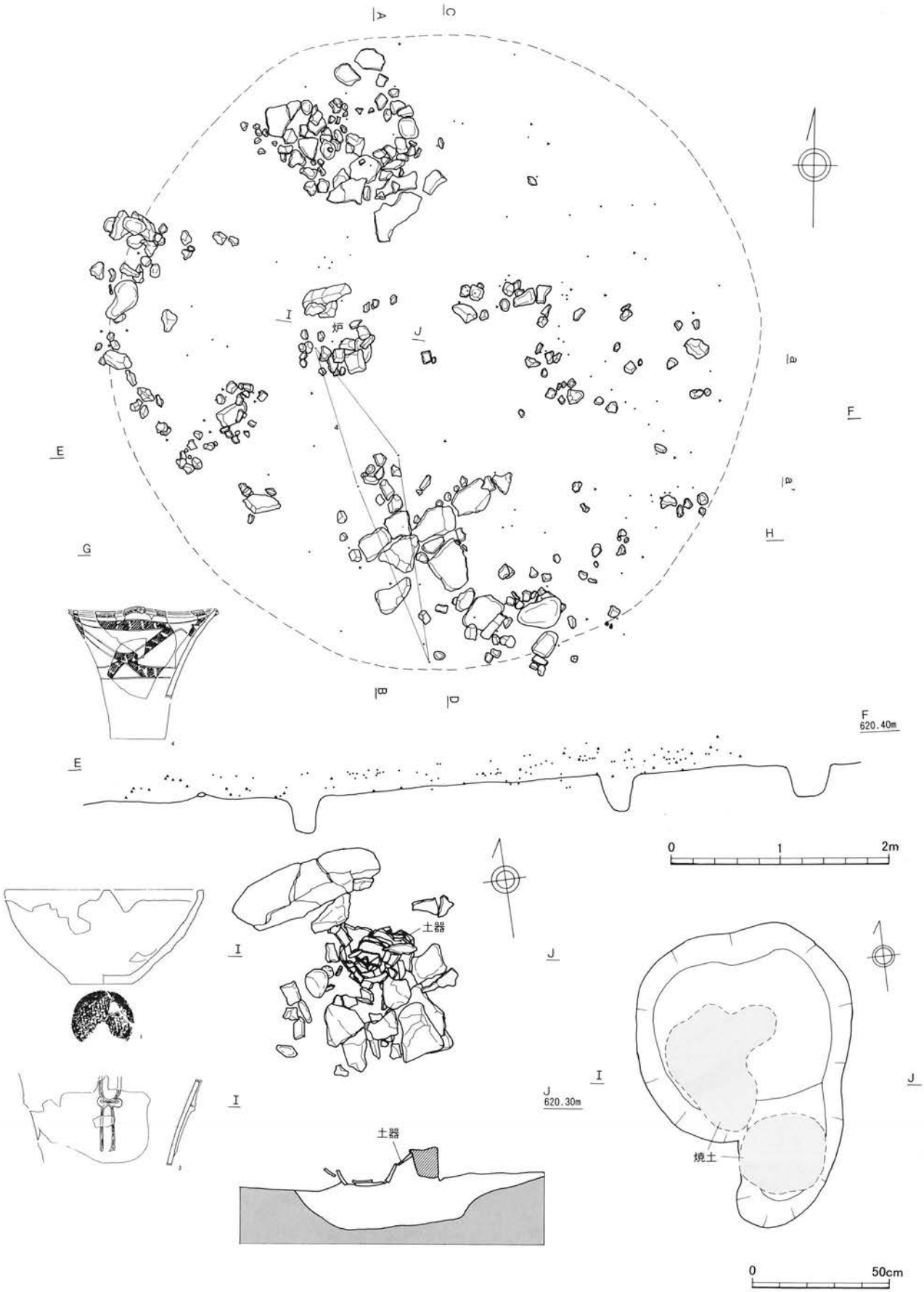


図10　6号住居址土器分布図

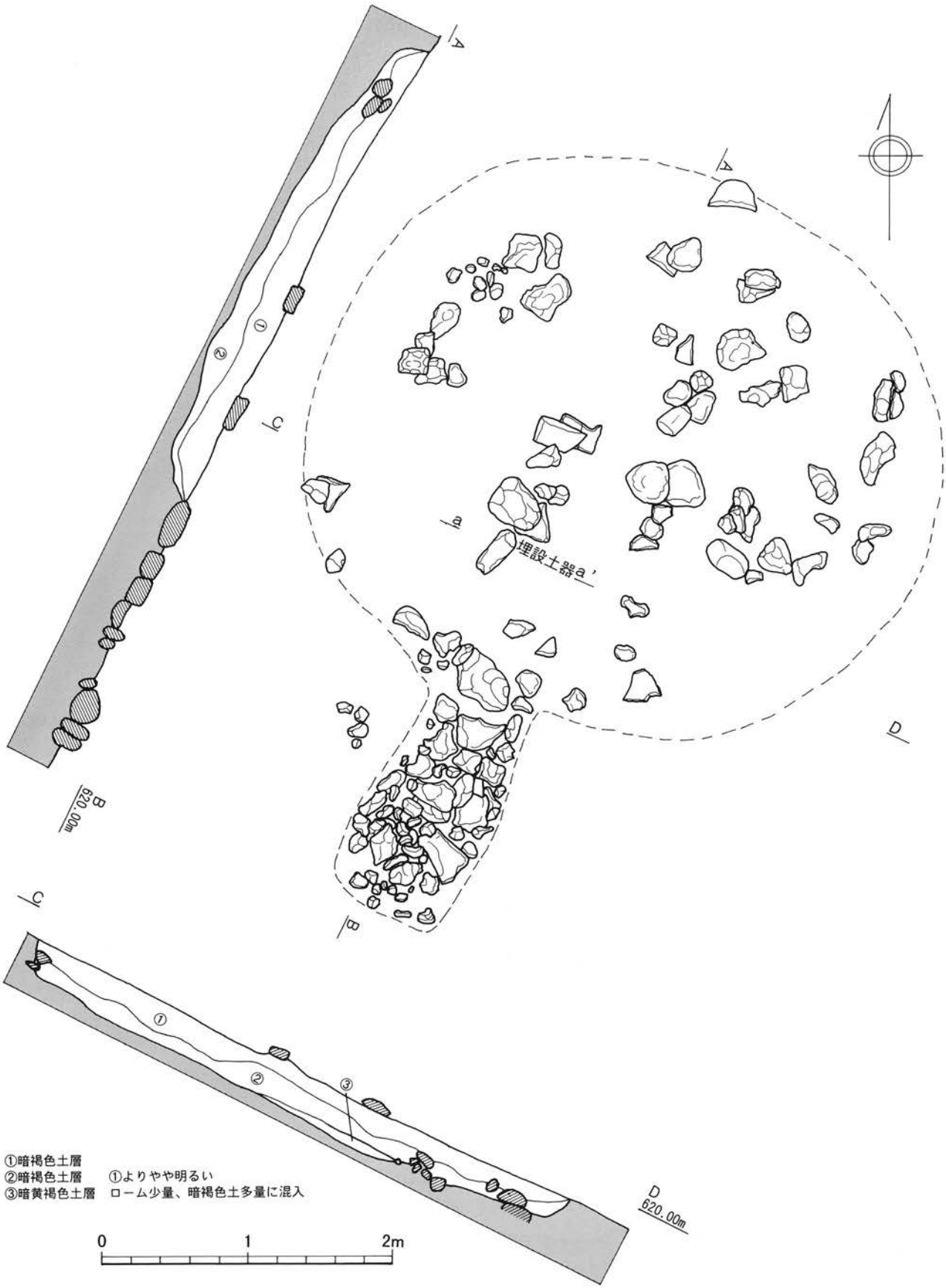


図11　7号住居址実測図

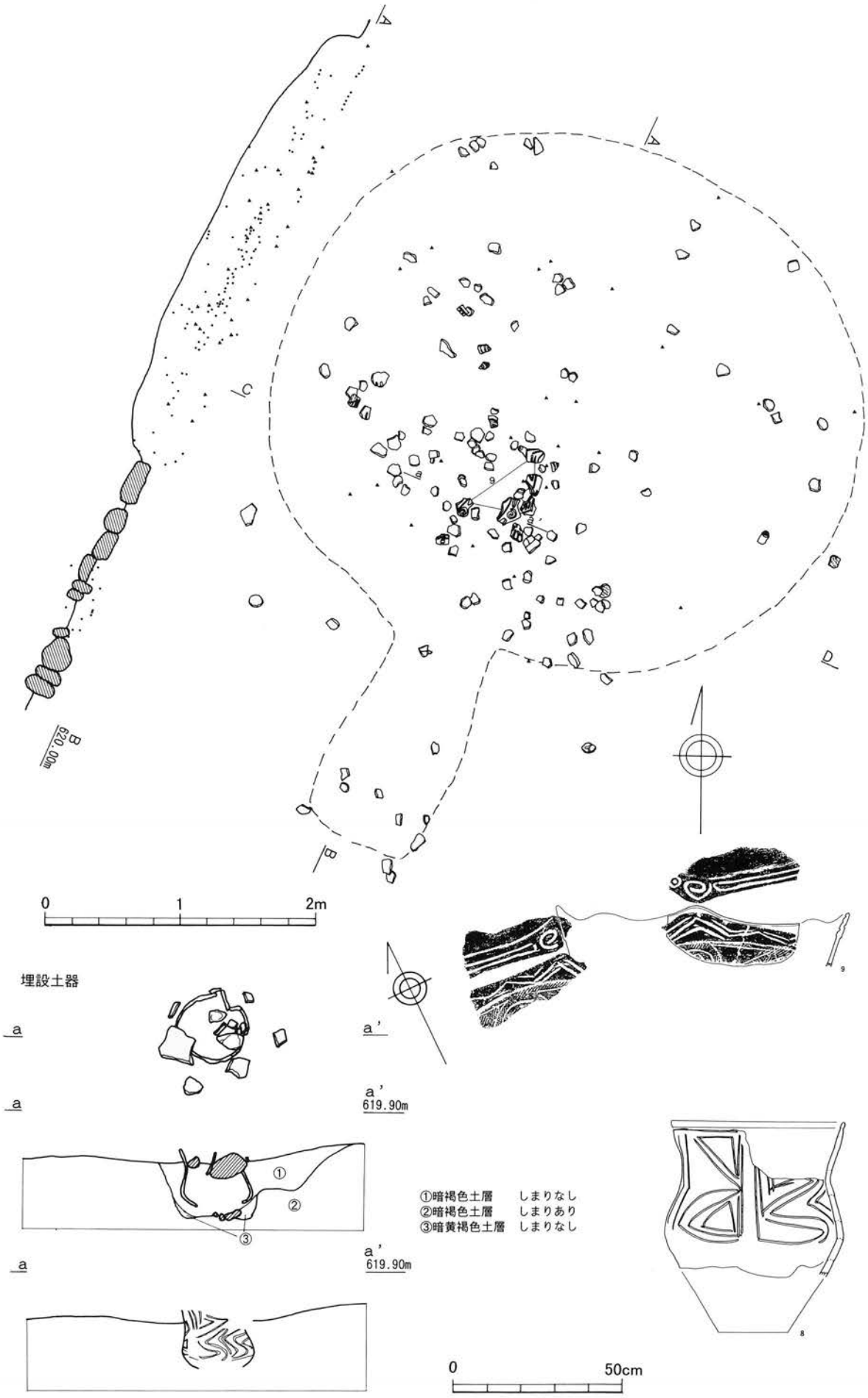


図12　7号住居址土器分布図

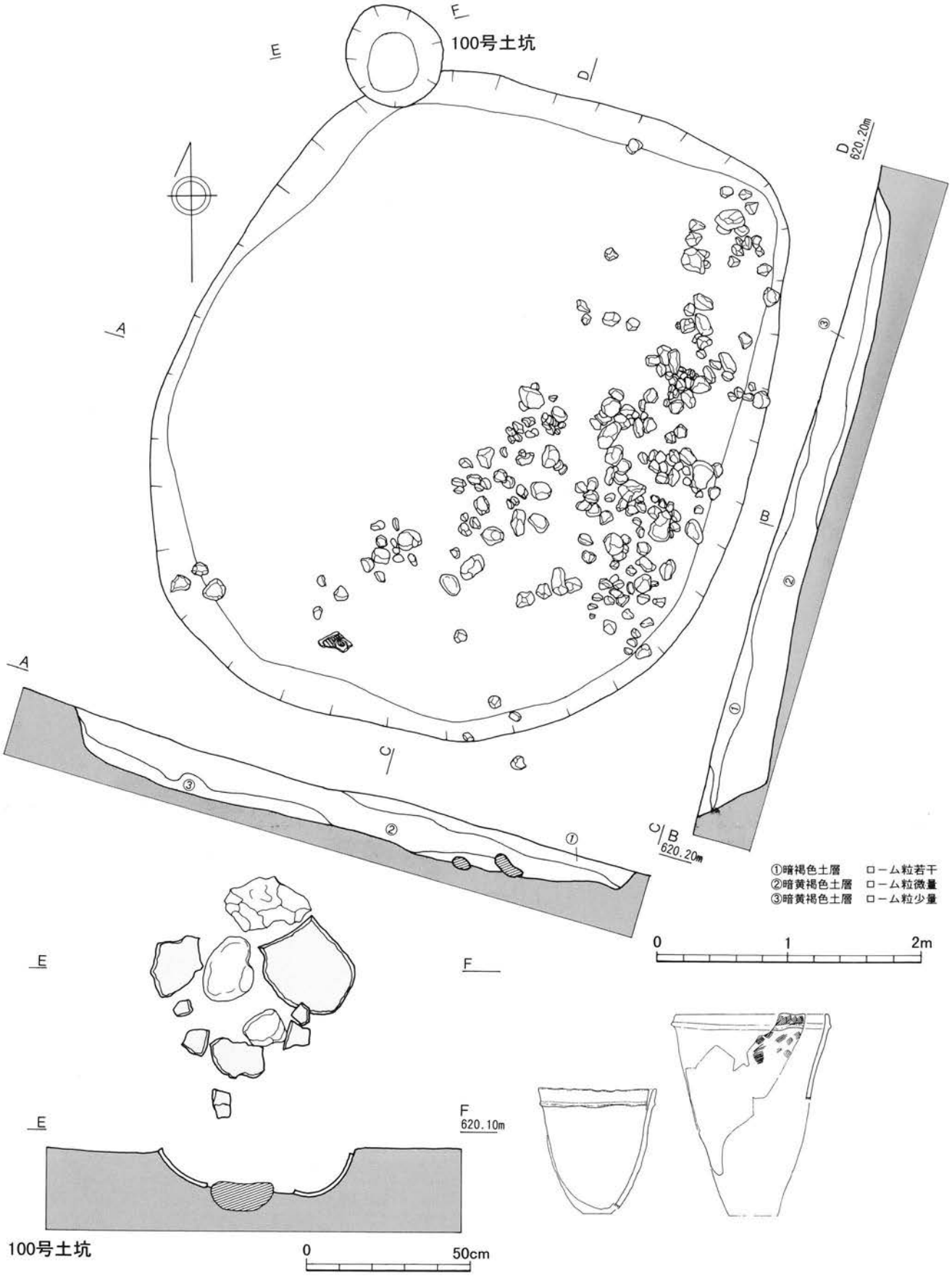


図13　8号住居址実測図

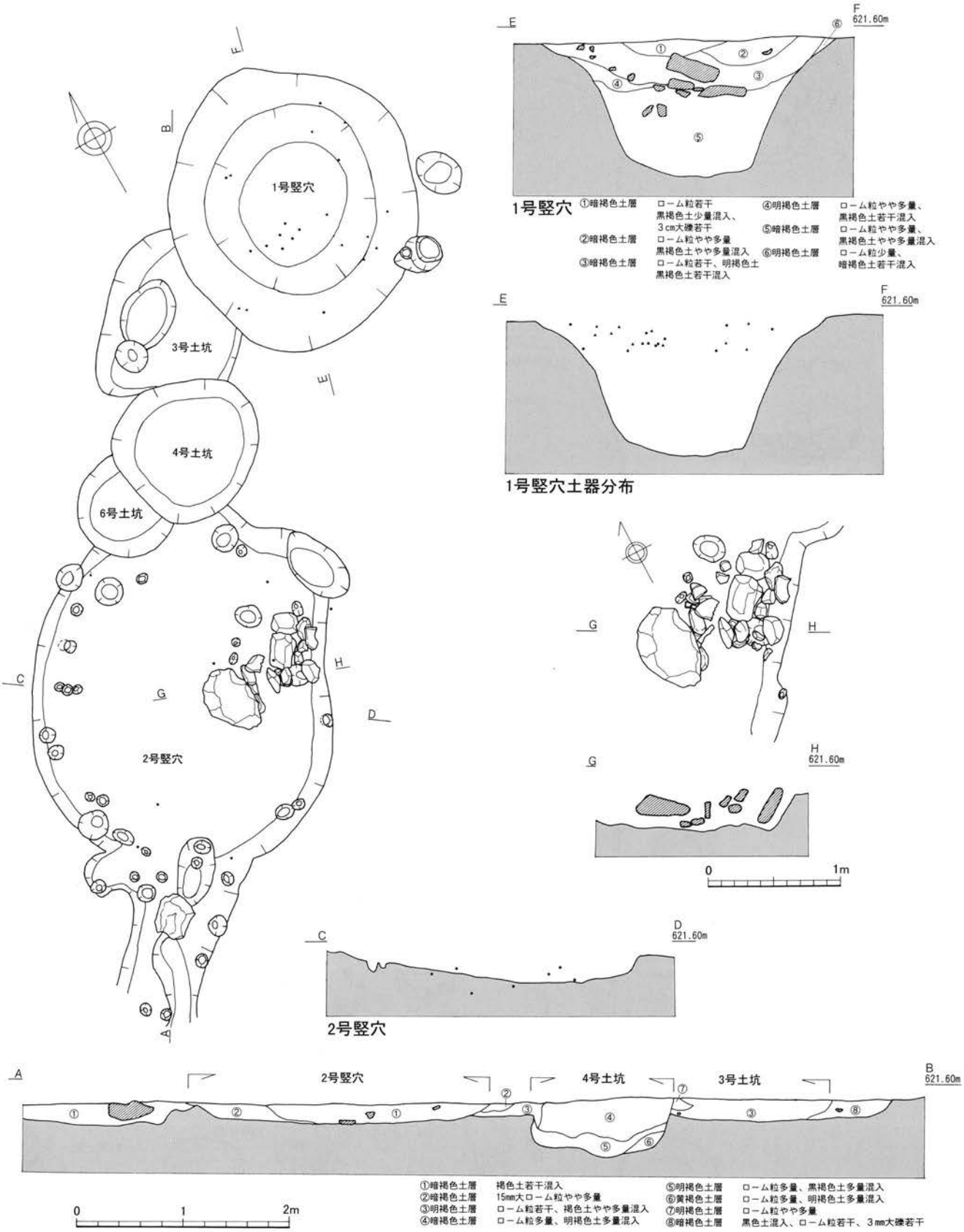


図14　1・2号竪穴遺構・土坑実測図

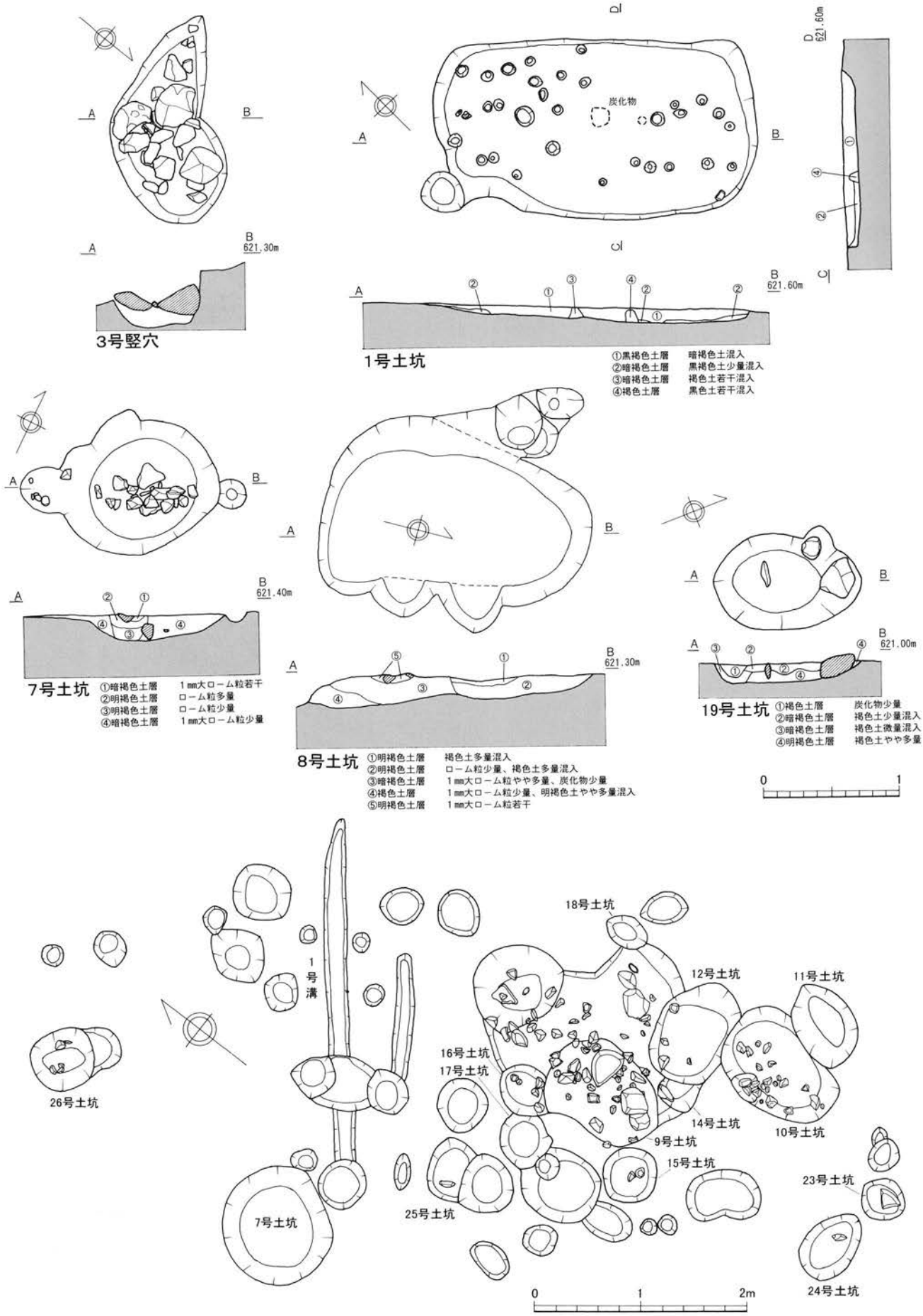


図15　3号竪穴遺構・土坑実測図

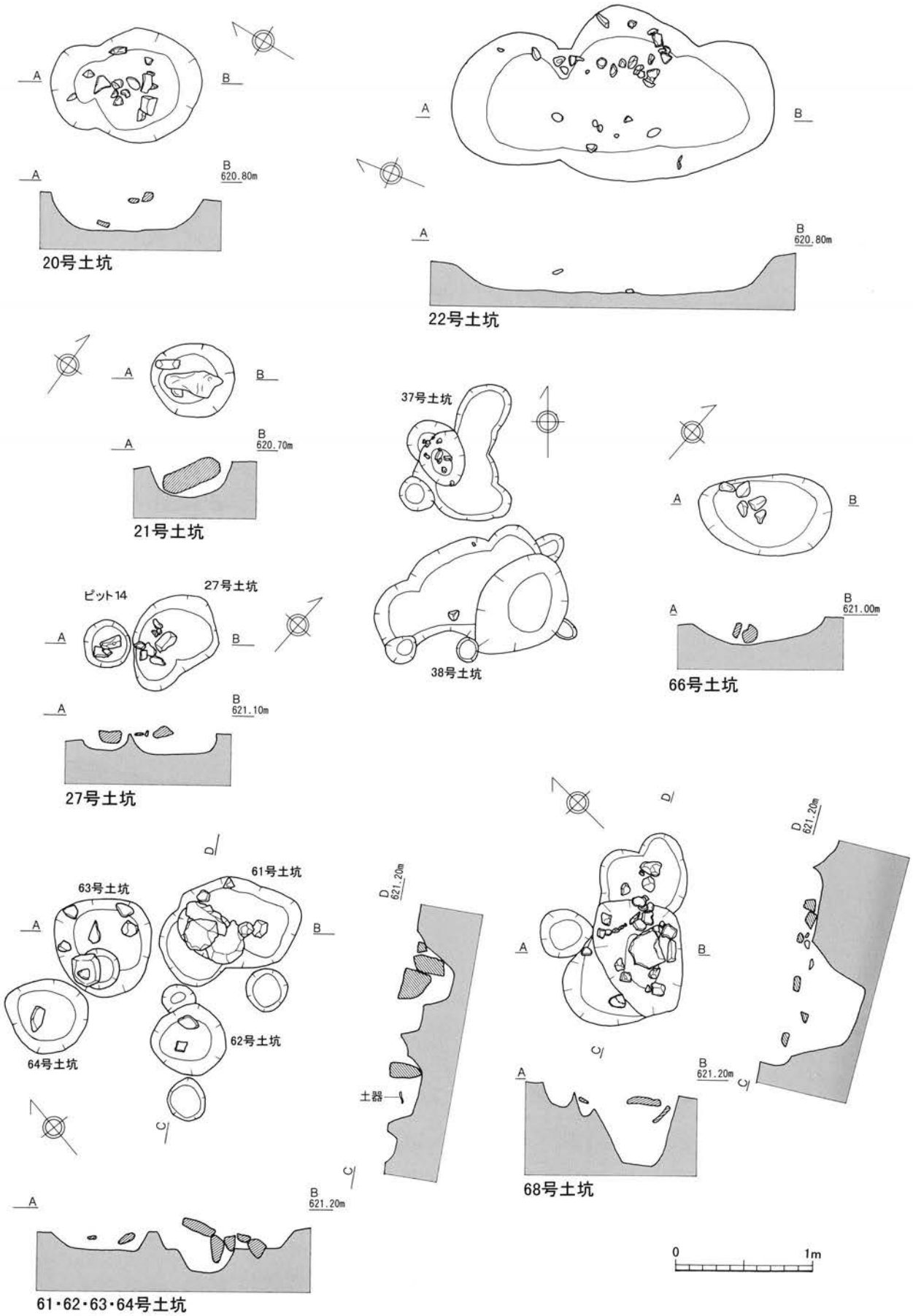
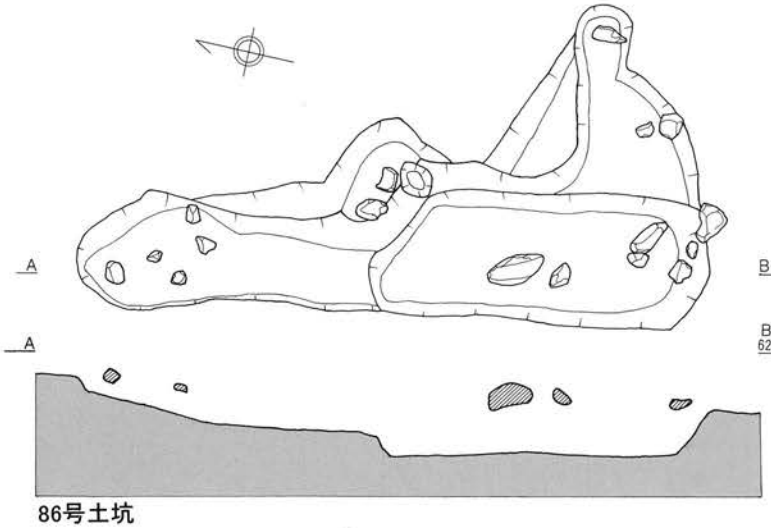
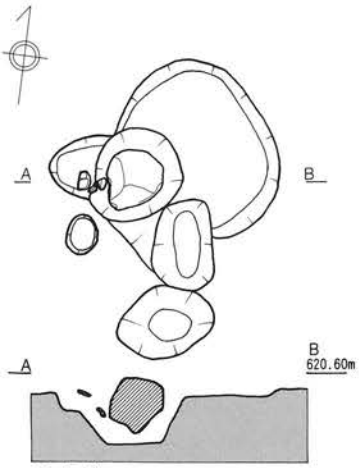

A
B
B
620.80m
20号土坑
22号土坑
B
620.70m
21号土坑
37号土坑
38号土坑
66号土坑
B
621.00m
ピット14
27号土坑
B
621.10m
27号土坑
63号土坑
61号土坑
62号土坑
64号土坑
D
621.20m
土器
C
B
621.20m
61・62・63・64号土坑
68号土坑
0
1m

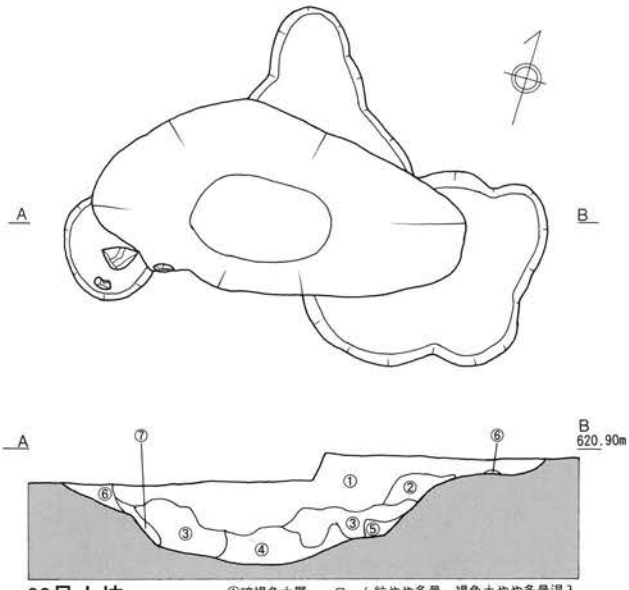
図16　土坑実測図



86号土坑

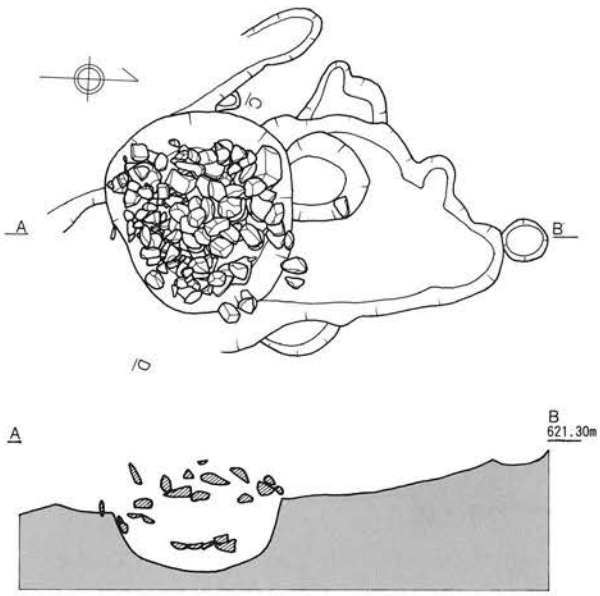


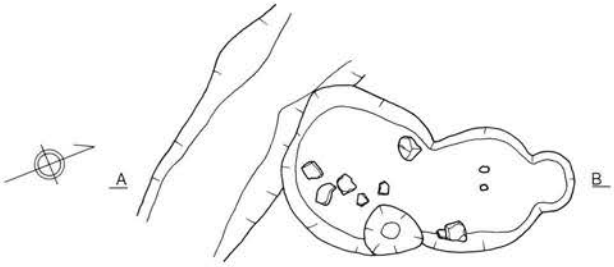
87号土坑

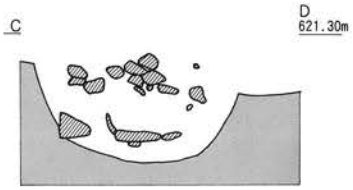


88号土坑

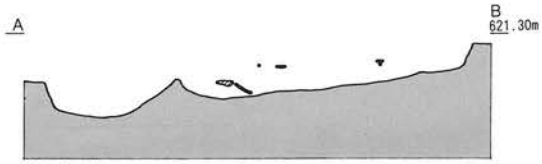
①暗褐色土層　ローム粒やや多量、褐色土やや多量混入
②明褐色土層　ローム粒多量、褐色土多量混入
③黒褐色土層　ローム粒少量、暗褐色土少量混入
④暗褐色土層　ローム粒多量
⑤褐色土層　ローム粒多量、暗褐色土やや多量混入
⑥褐色土層　ローム粒少量、暗褐色土少量混入
⑦明褐色土層　ローム粒多量、褐色土多量混入







95号土坑



89号土坑

図17　土坑実測図

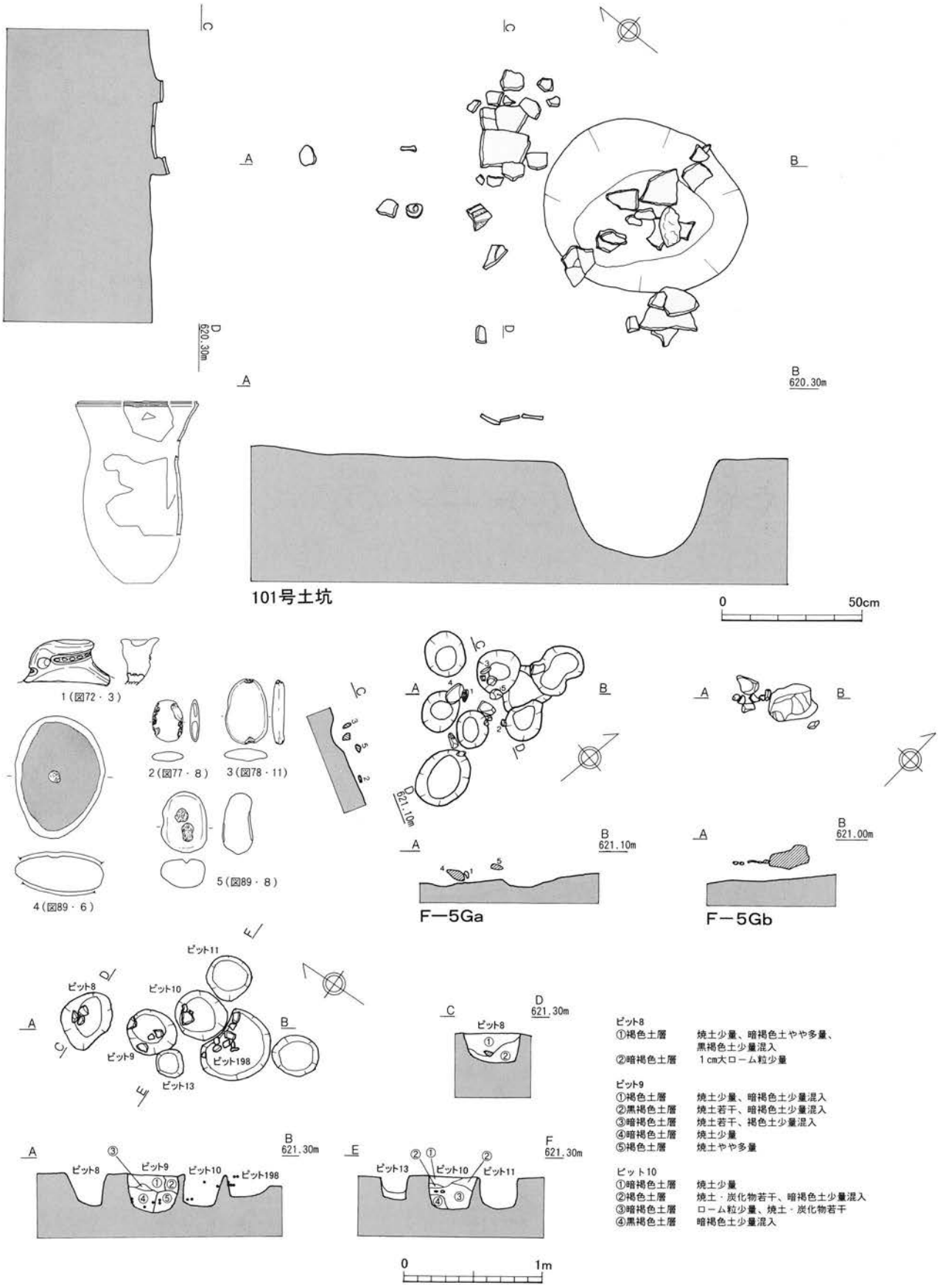


図18　土坑・ピット実測図

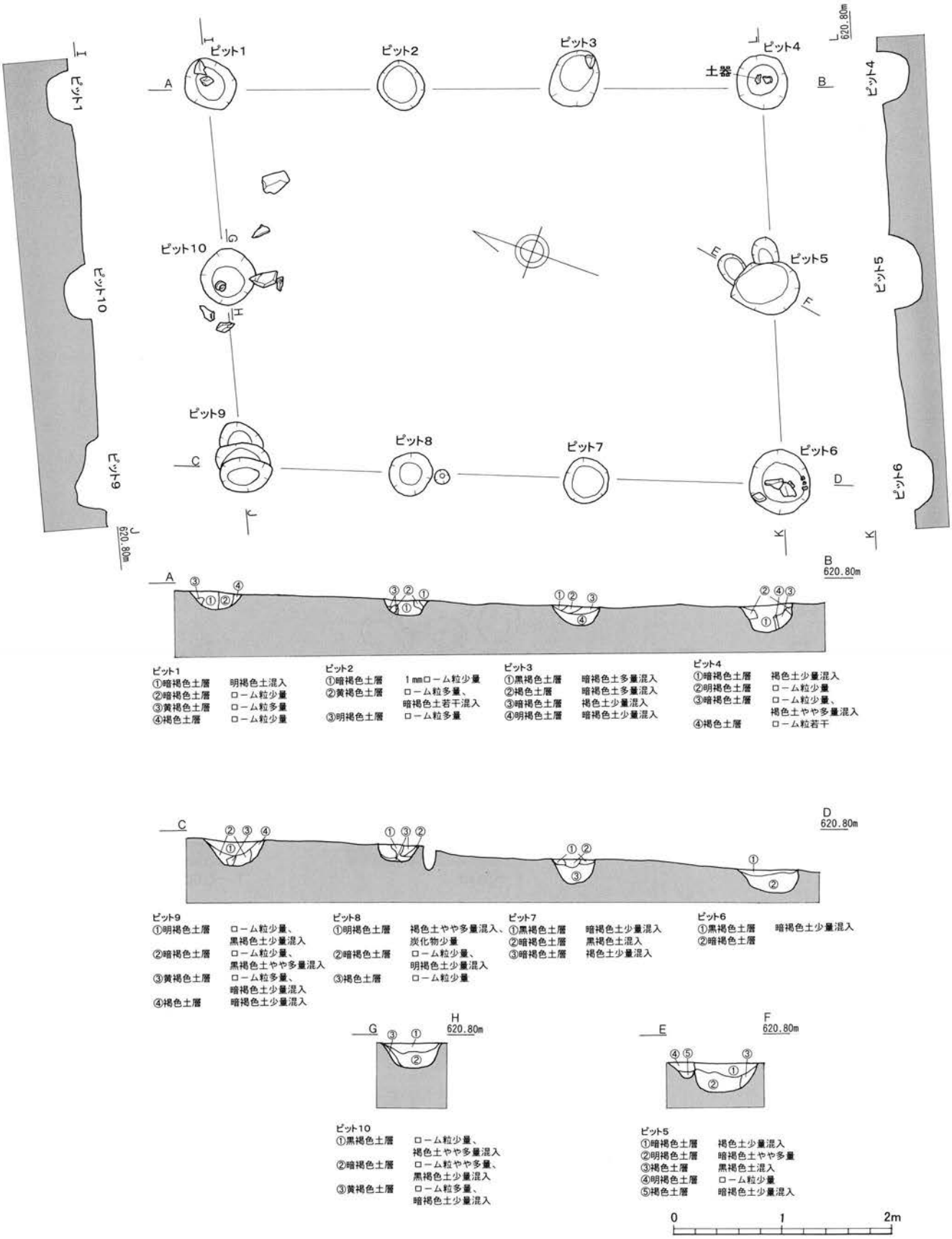


図19　1号掘立柱実測図・ピット土層図

図20　1号集石遺構

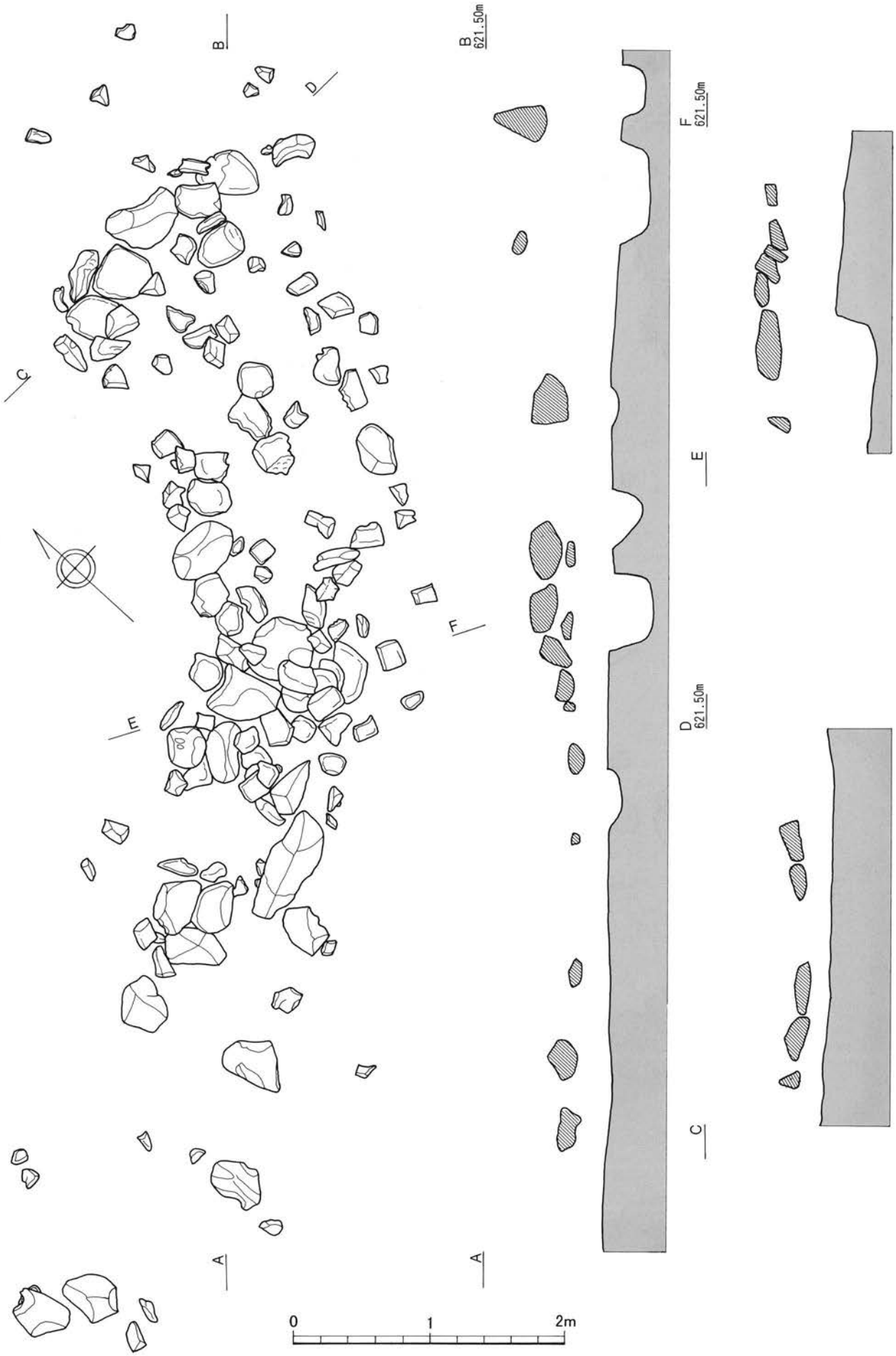


図21　２号集石遺構

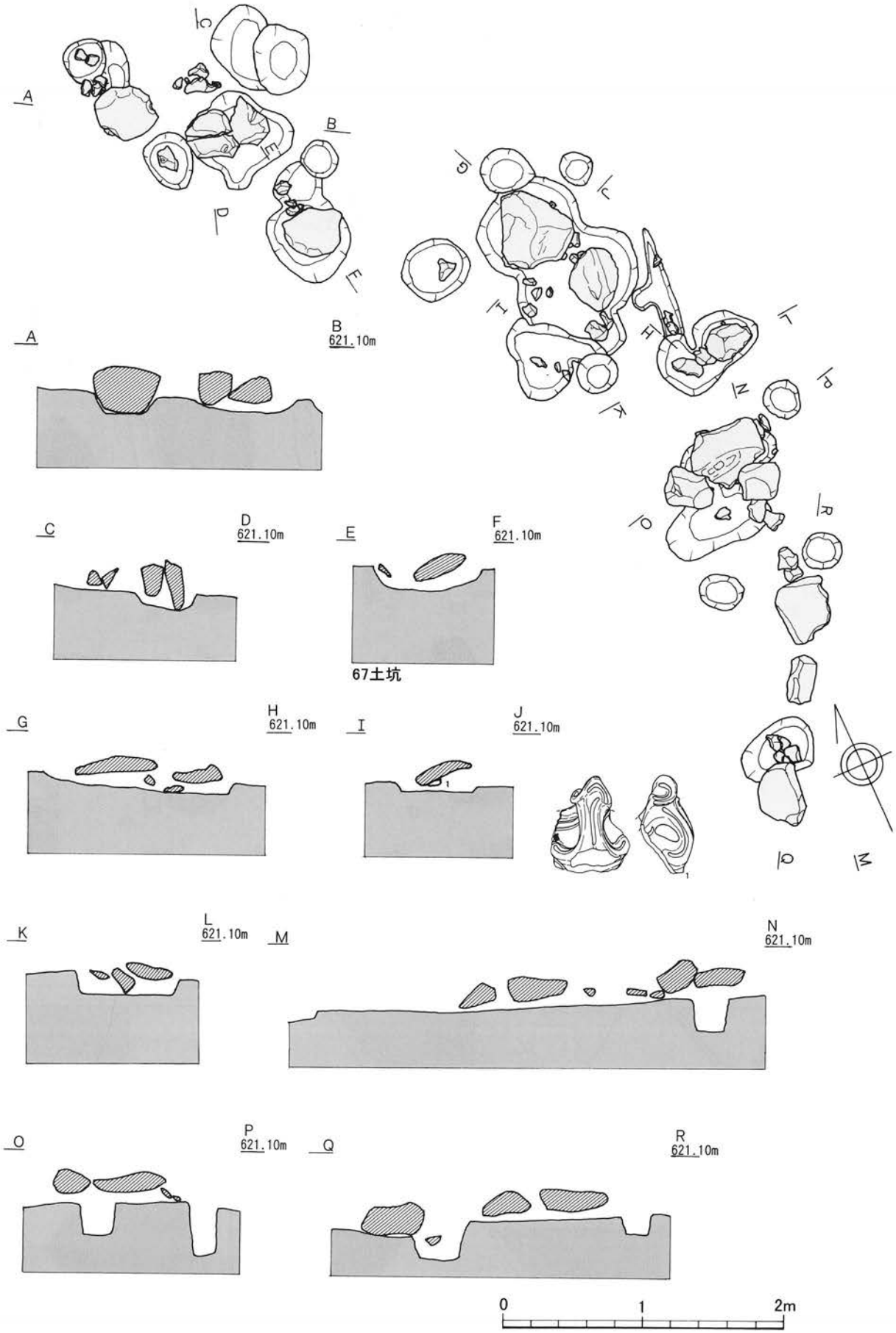


図22　1号列石実測図

図23　1号住居址出土遺物

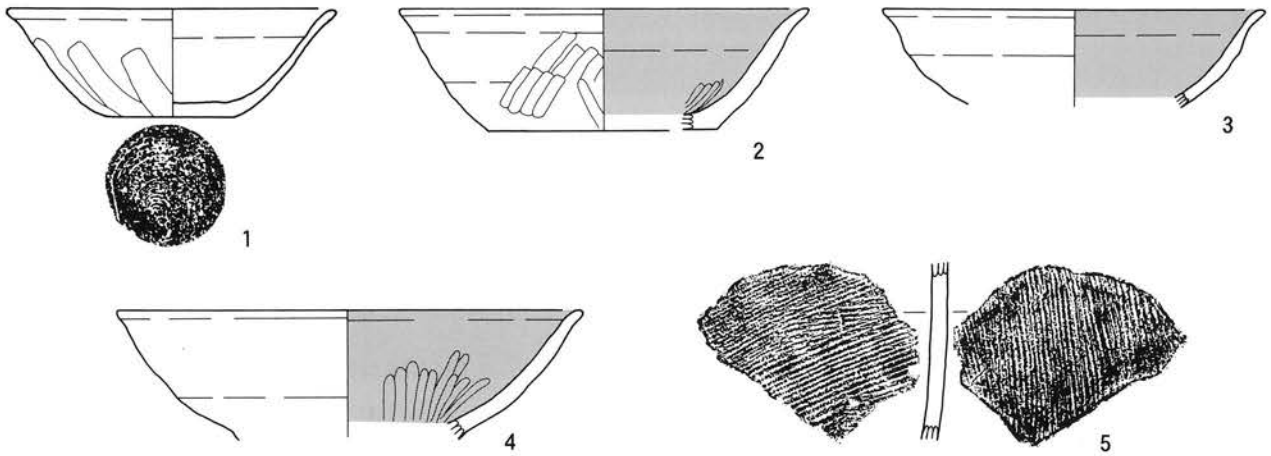


図24　2号住居址出土遺物(1)

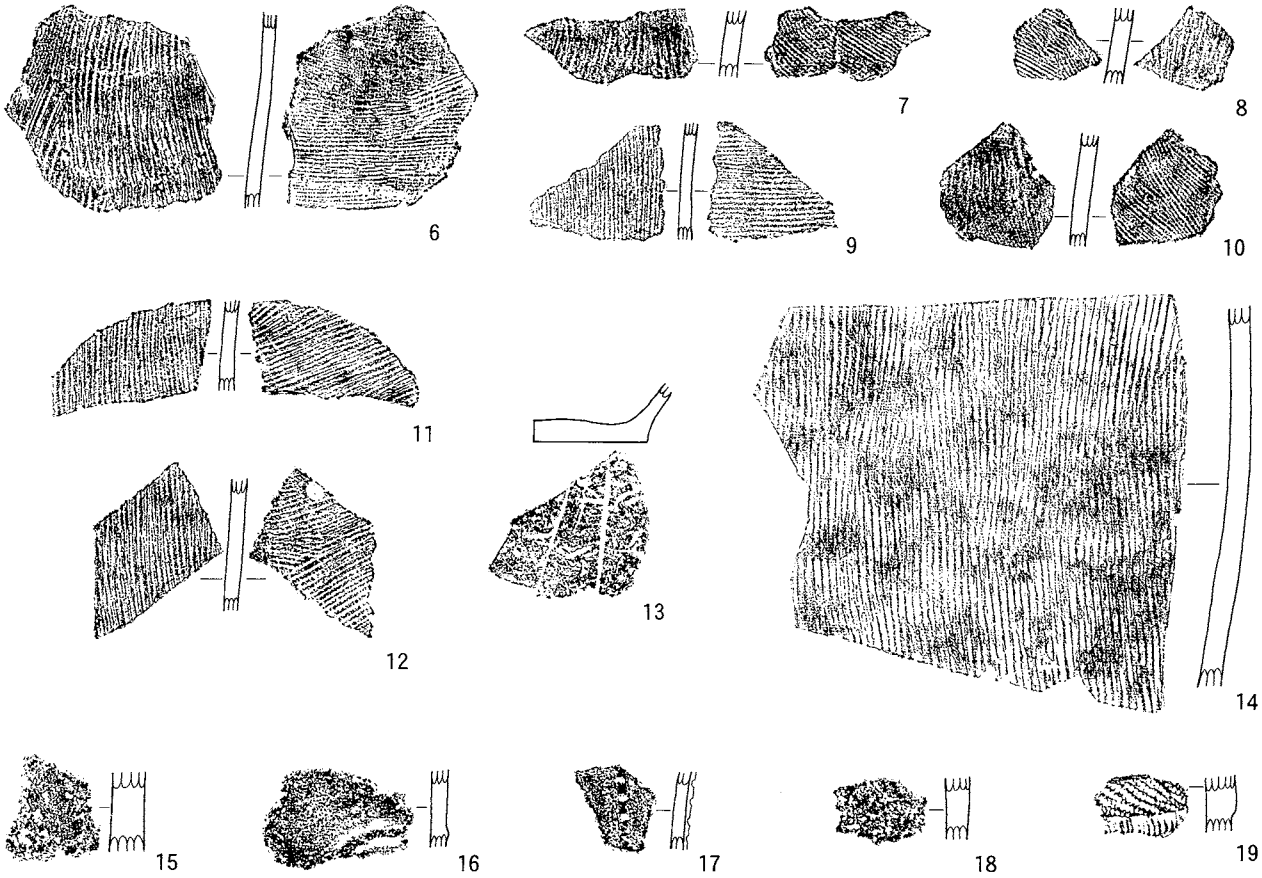


図25　２号住居址出土遺物(2)

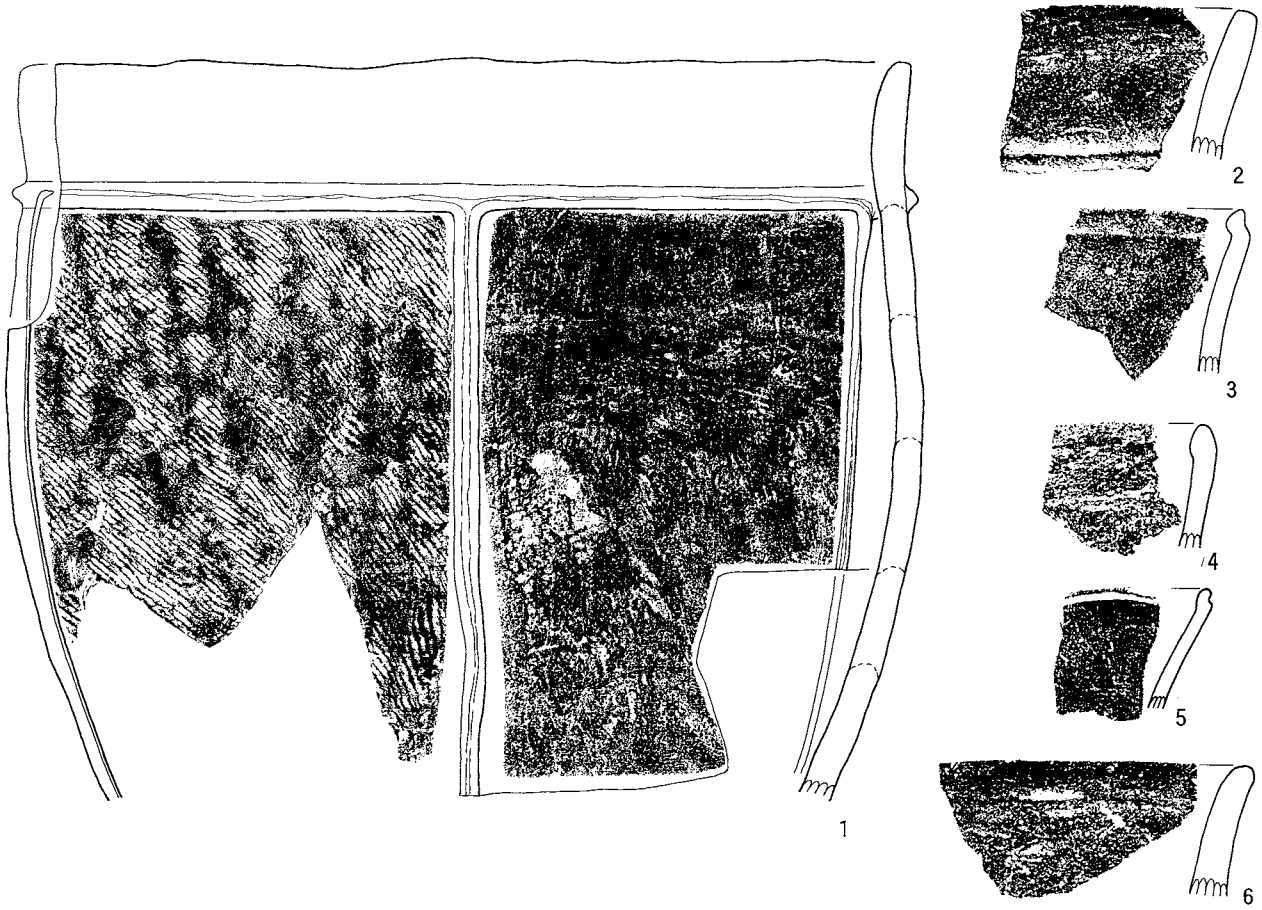


図26　３号住居址出土遺物(1)

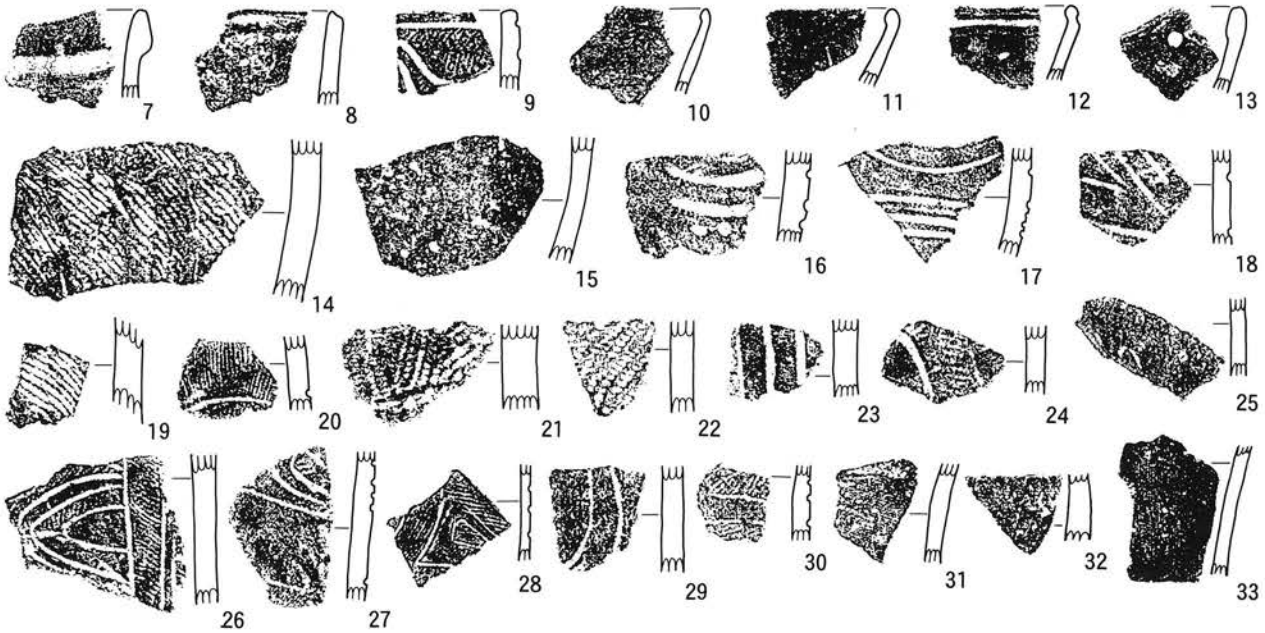


図27　3号住居址出土遺物(2)

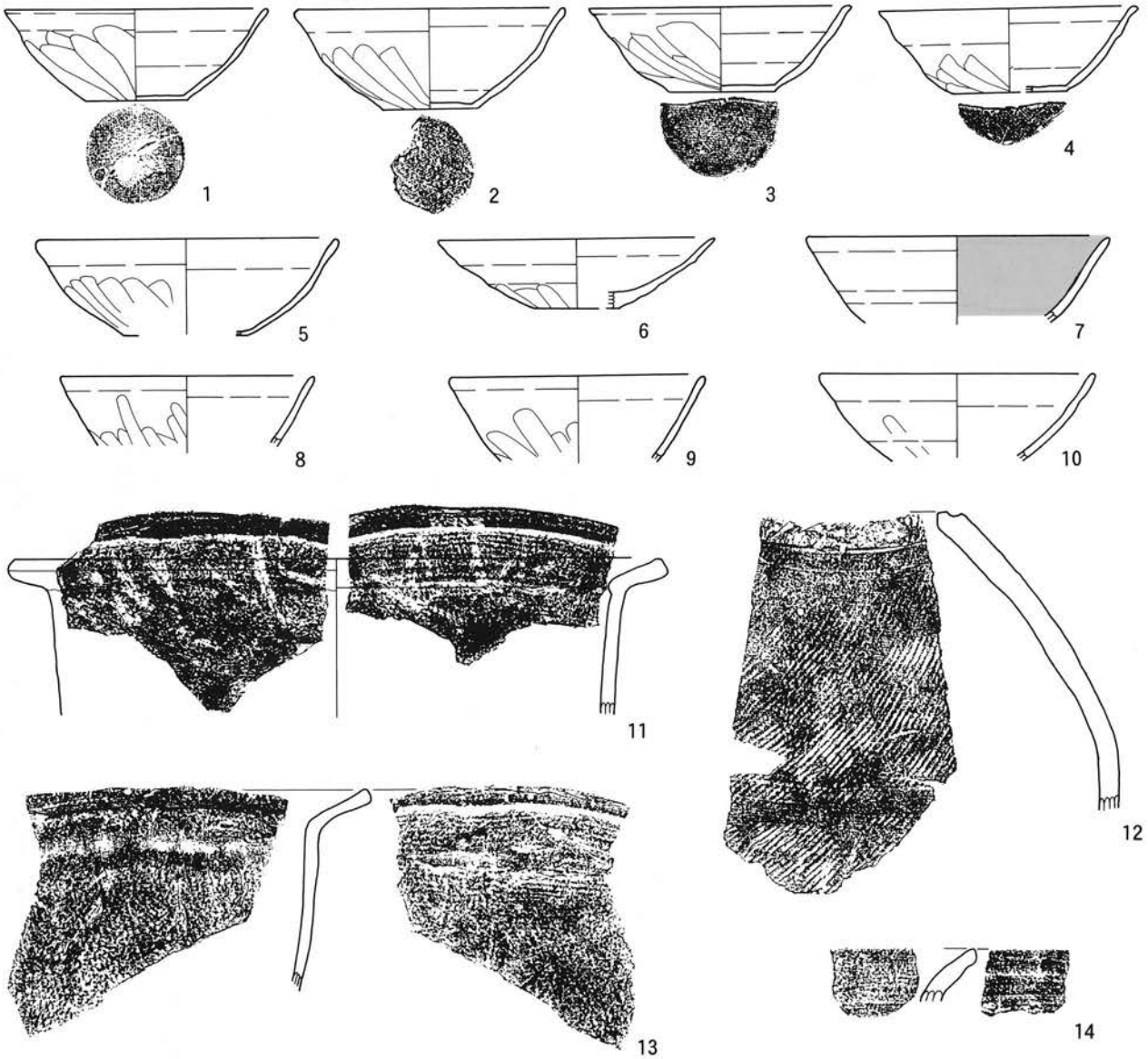


図28　4号住居址出土遺物(1)

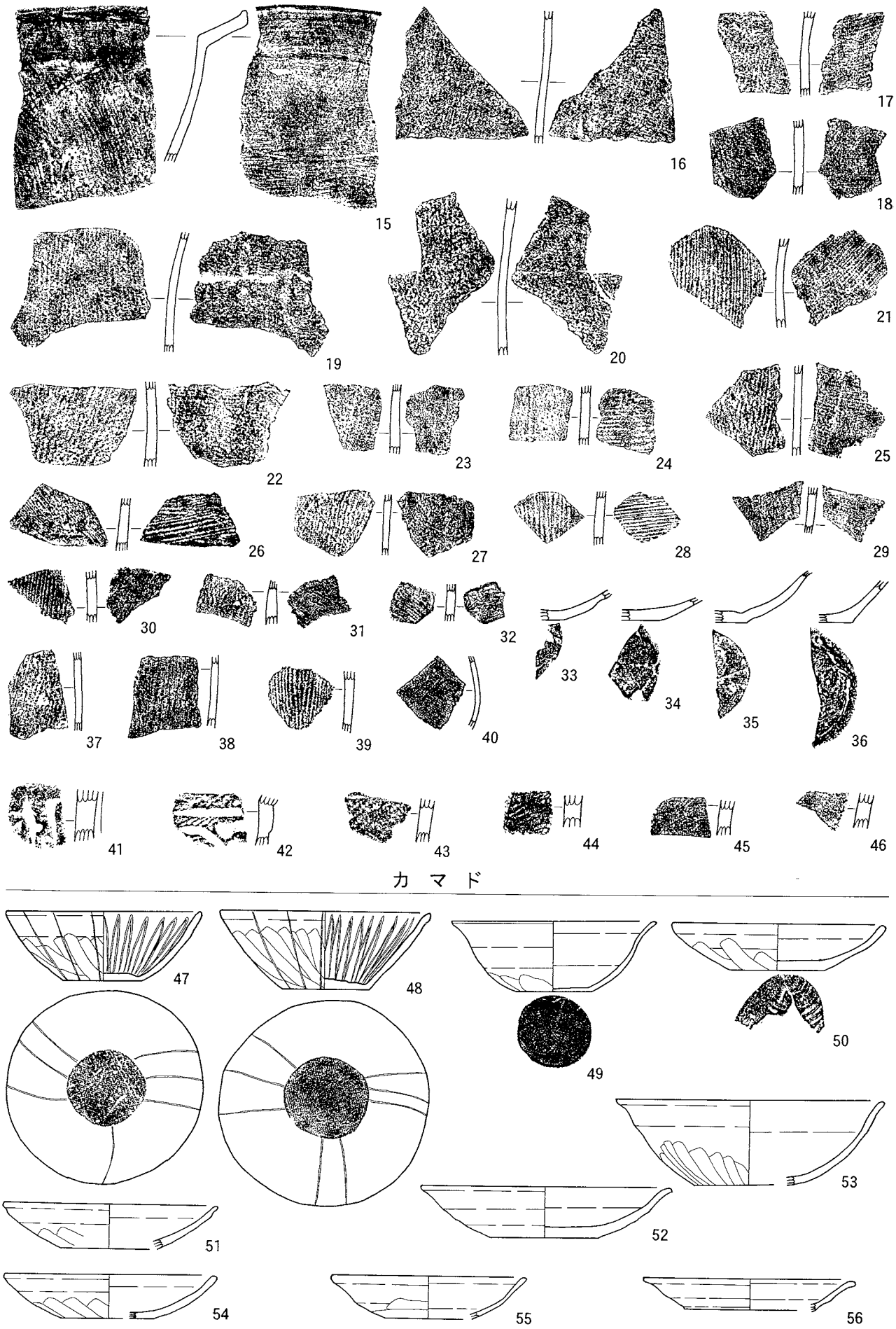


図29　４号住居址出土遺物(2)

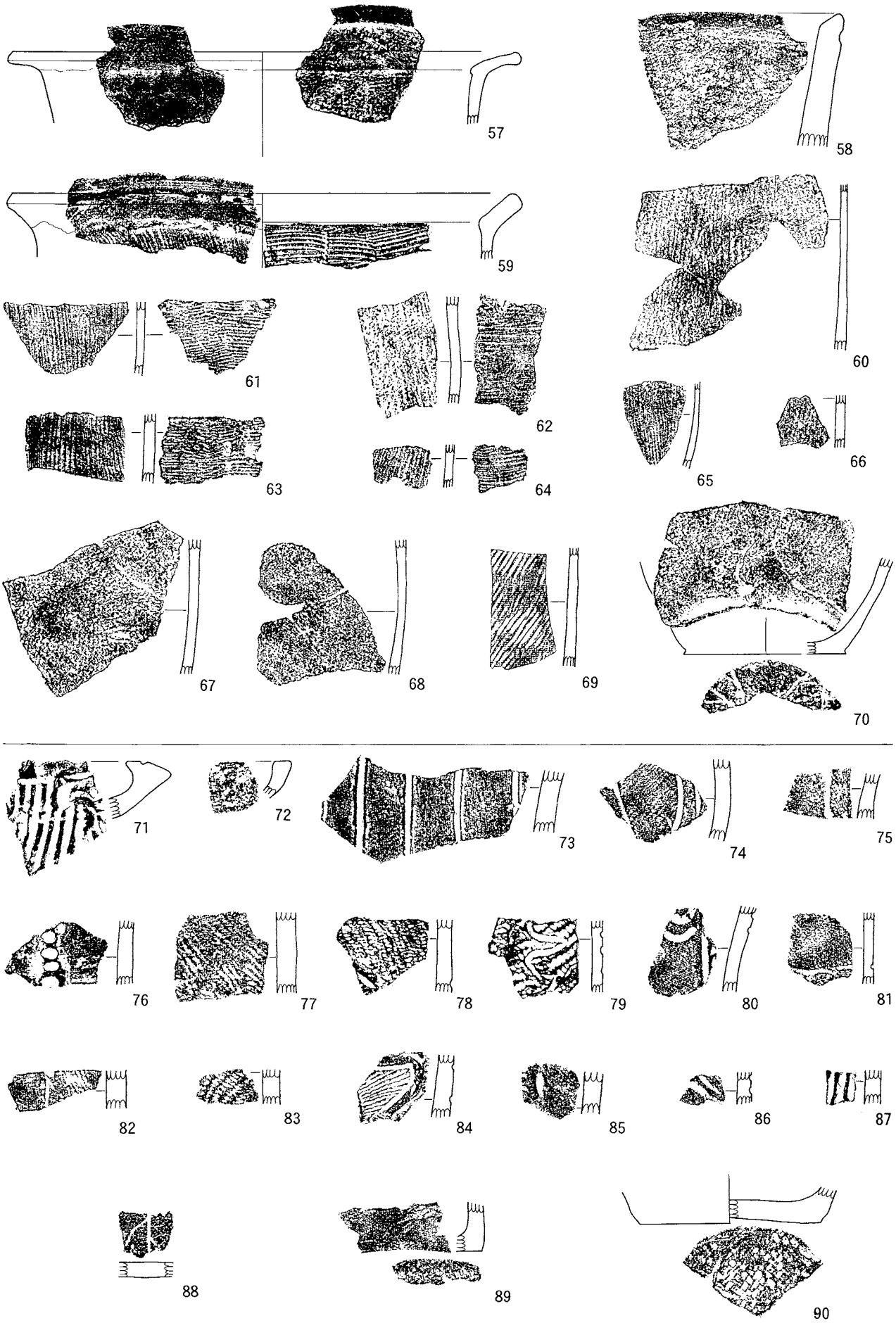


図30　４号住居址出土遺物(3)

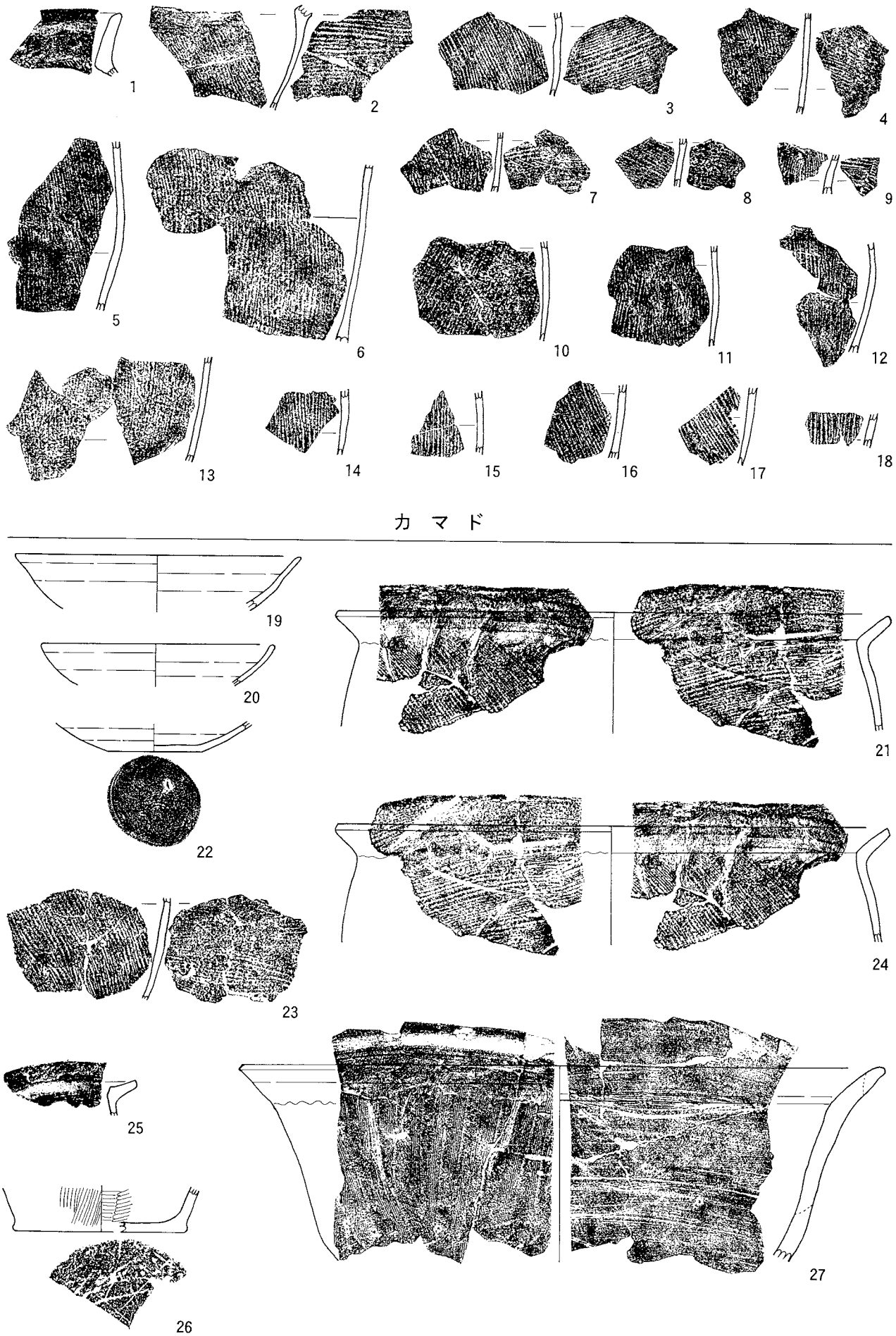


図31　５号住居址出土遺物

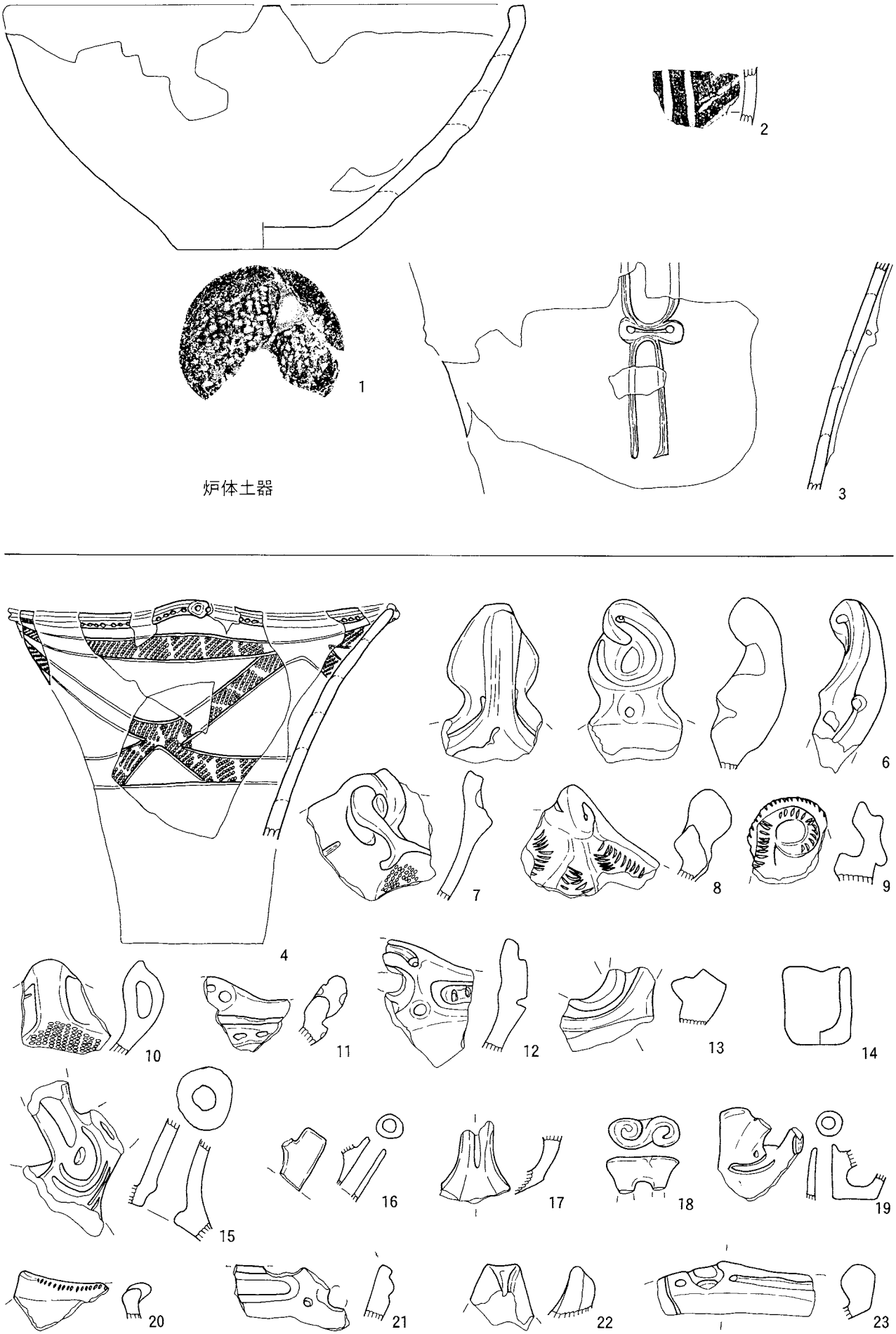


図32　6号住居址出土遺物(1)

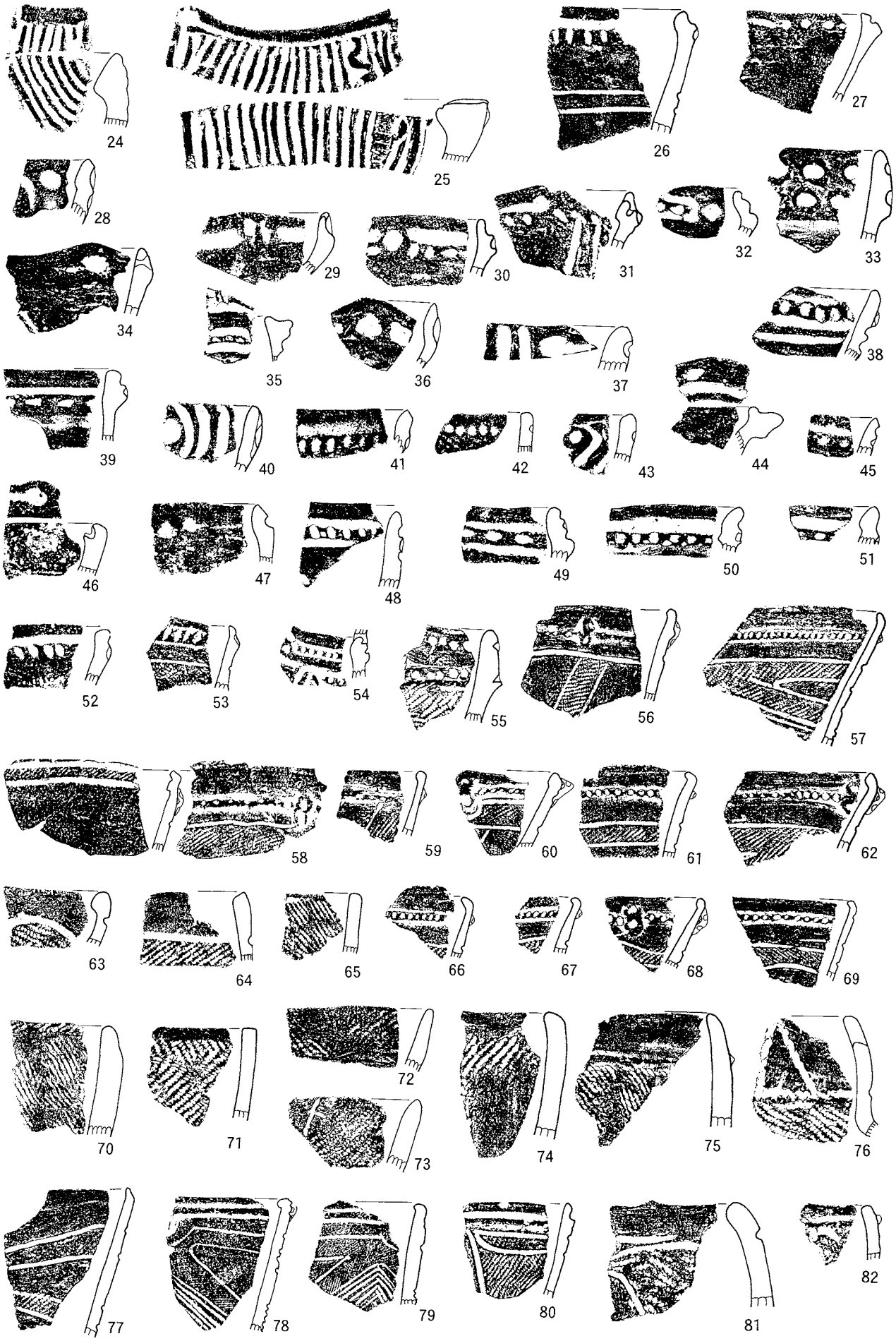


図33　6号住居址出土遺物(2)

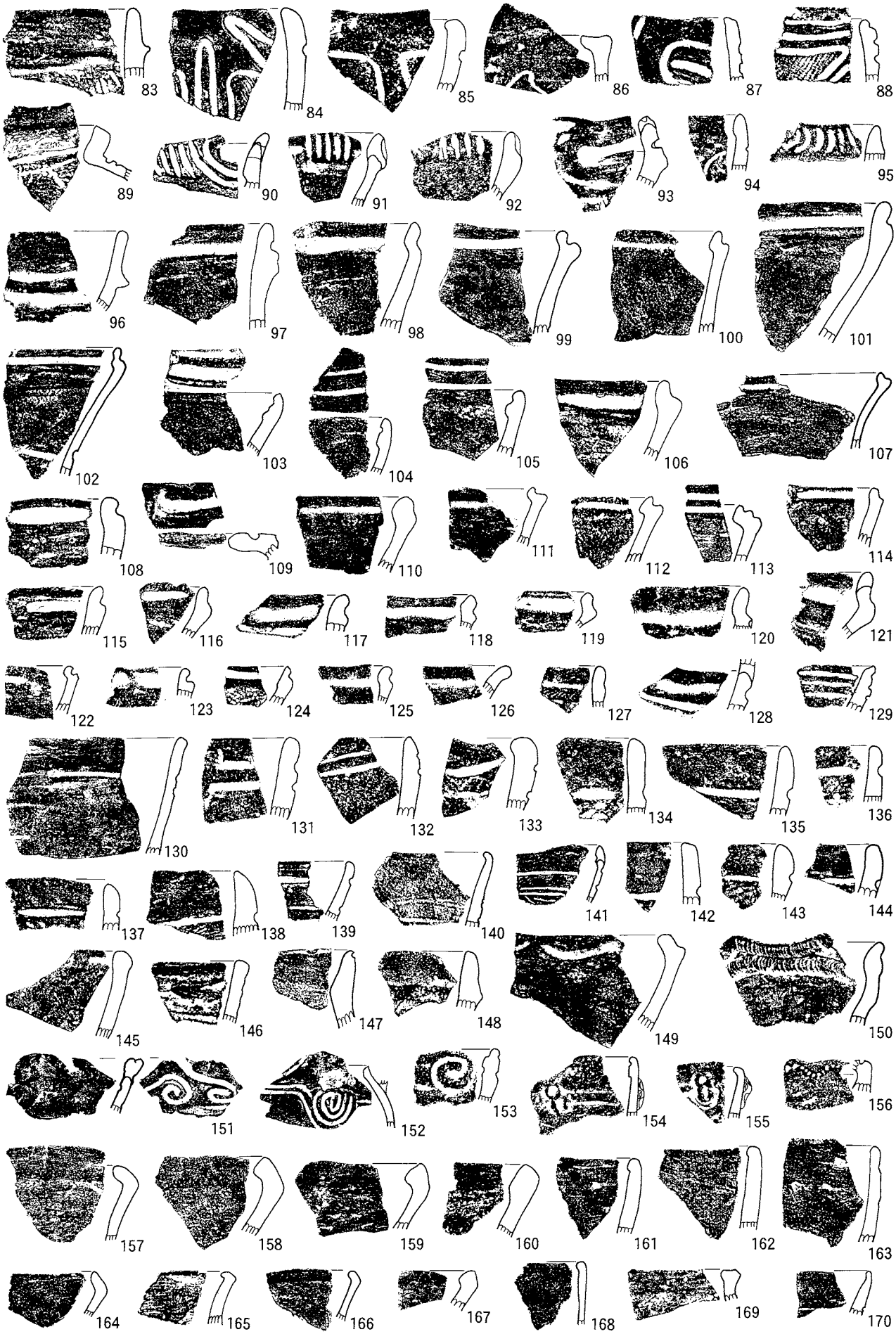


図34　6号住居址出土遺物(3)

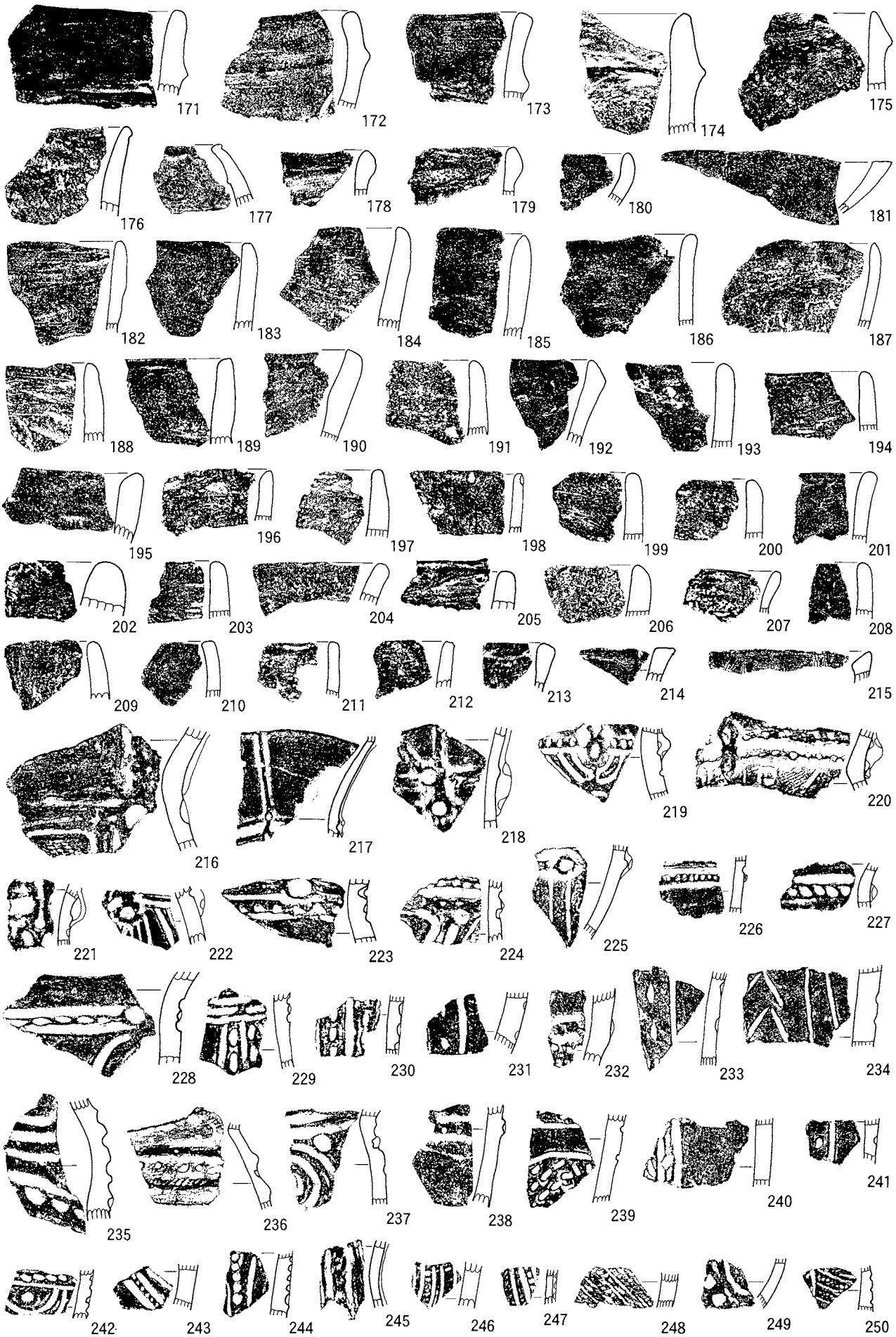


図35　6号住居址出土遺物(4)

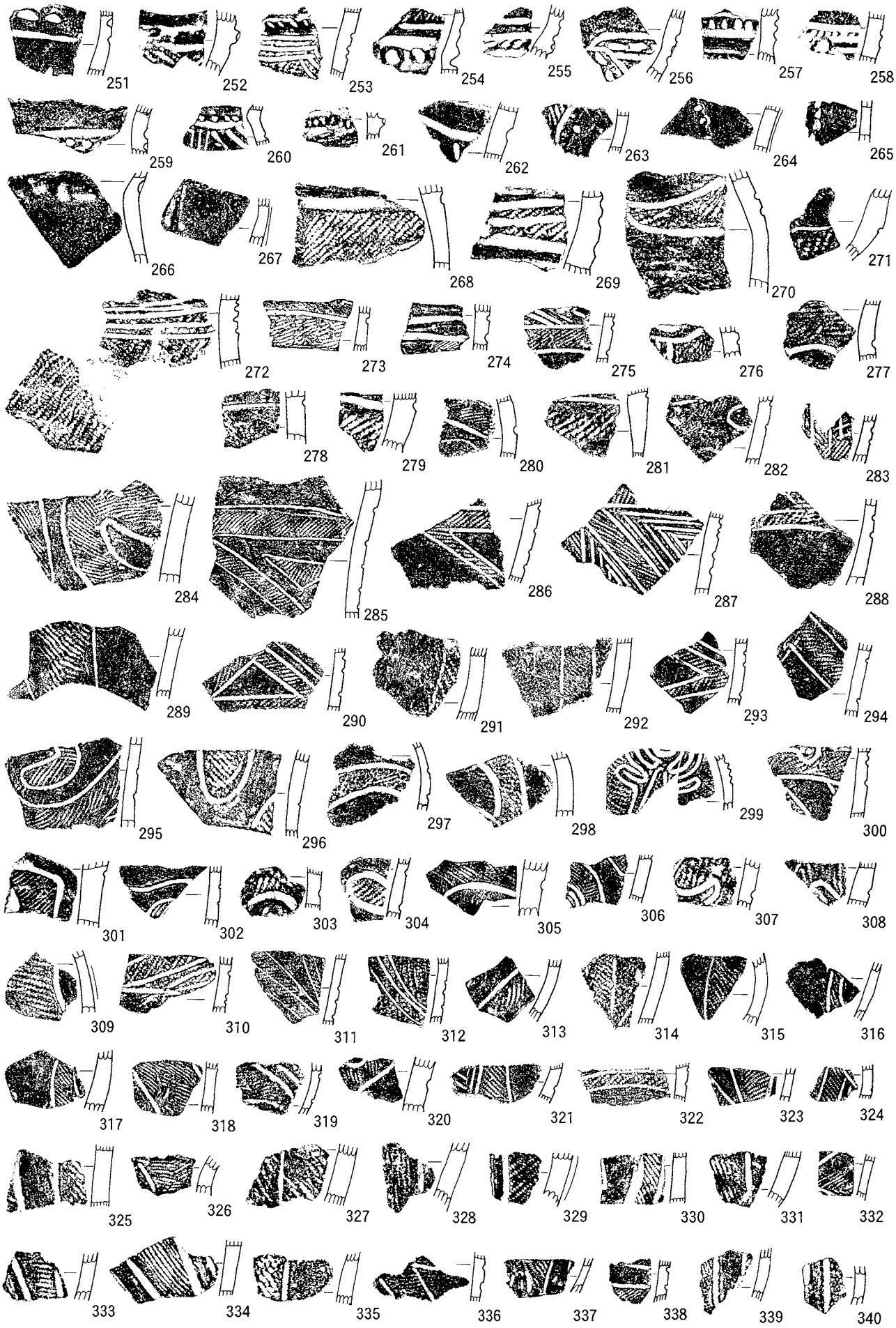


図36　6号住居址出土遺物(5)

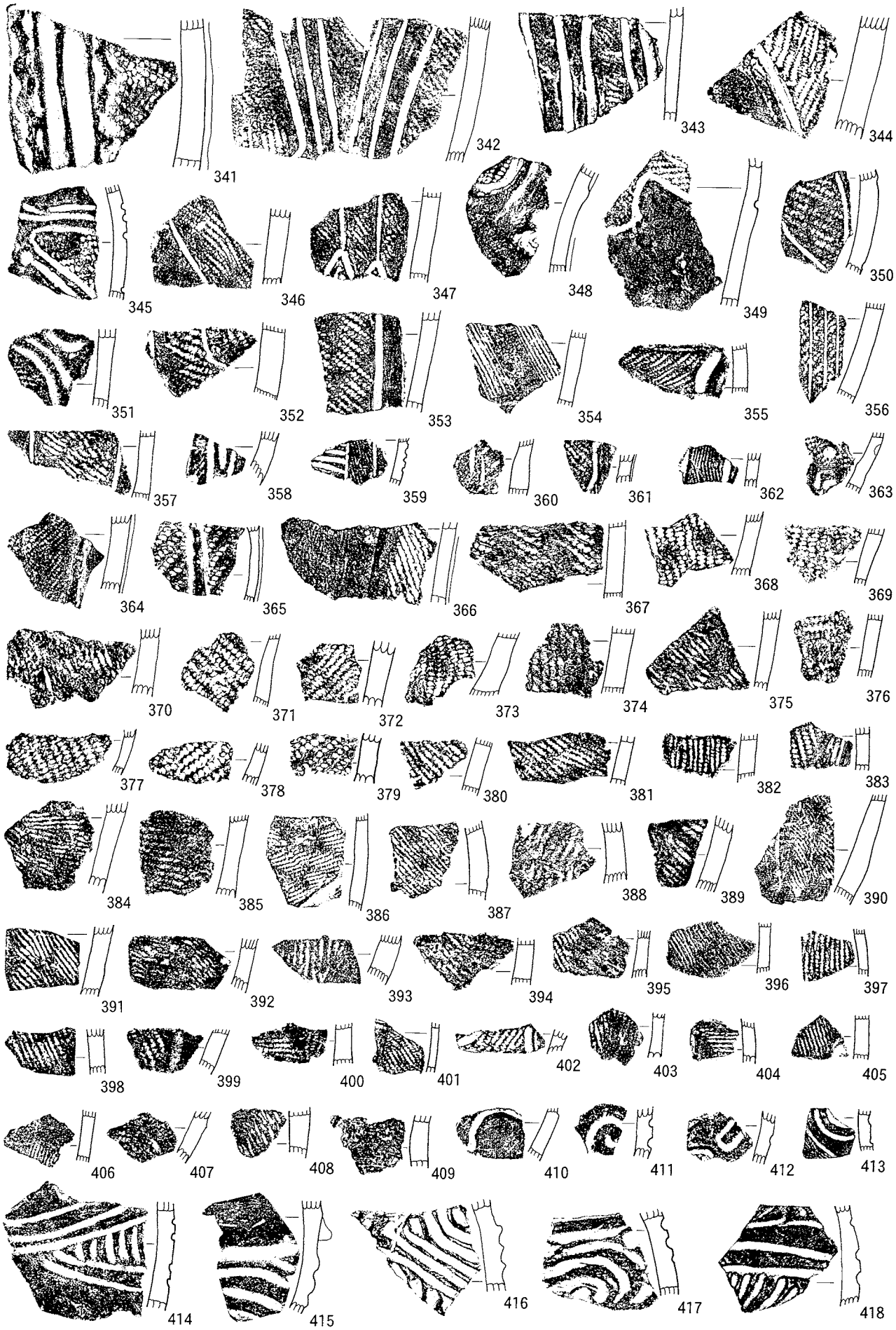


図37　6号住居址出土遺物(6)

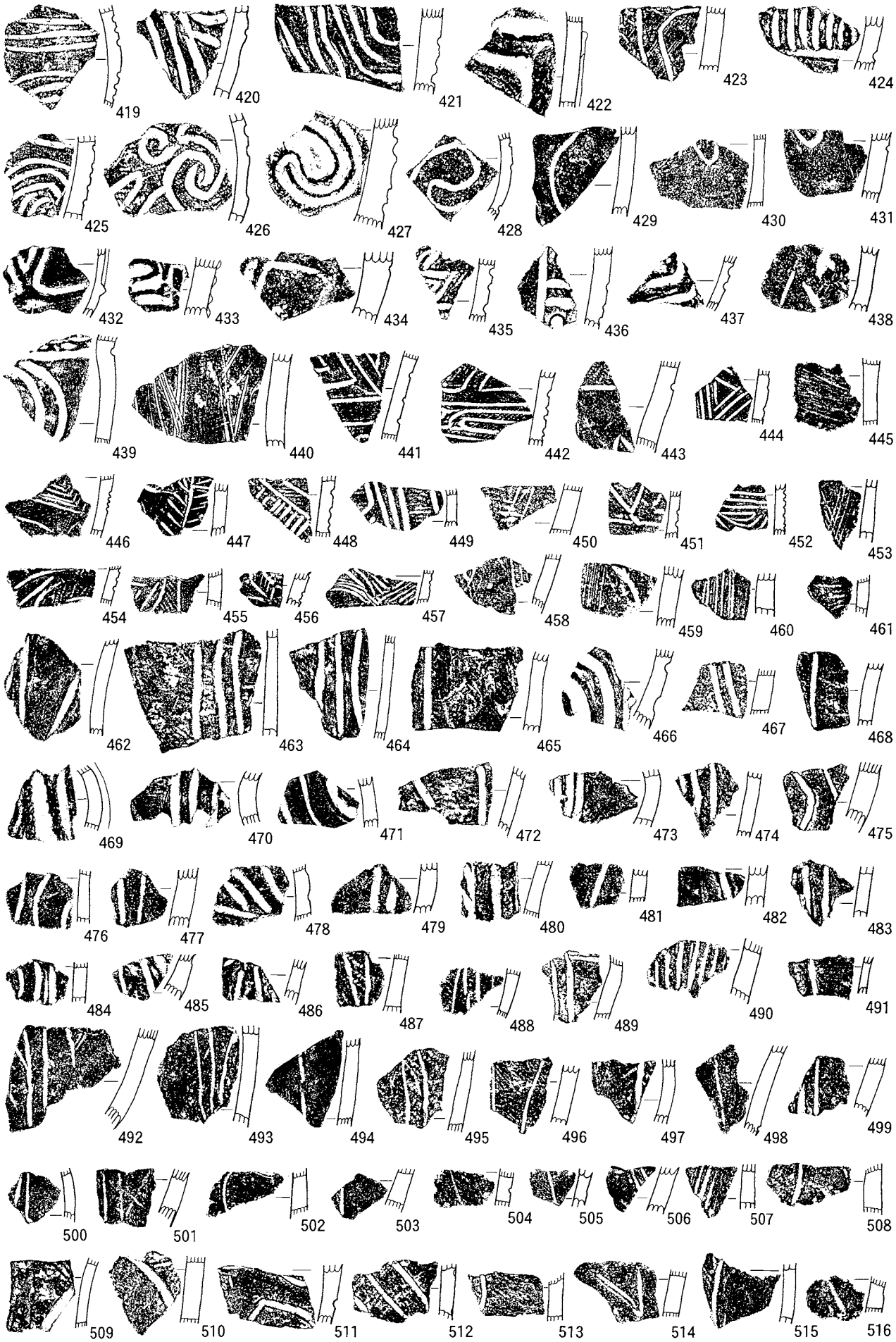


図38　6号住居址出土遺物(7)

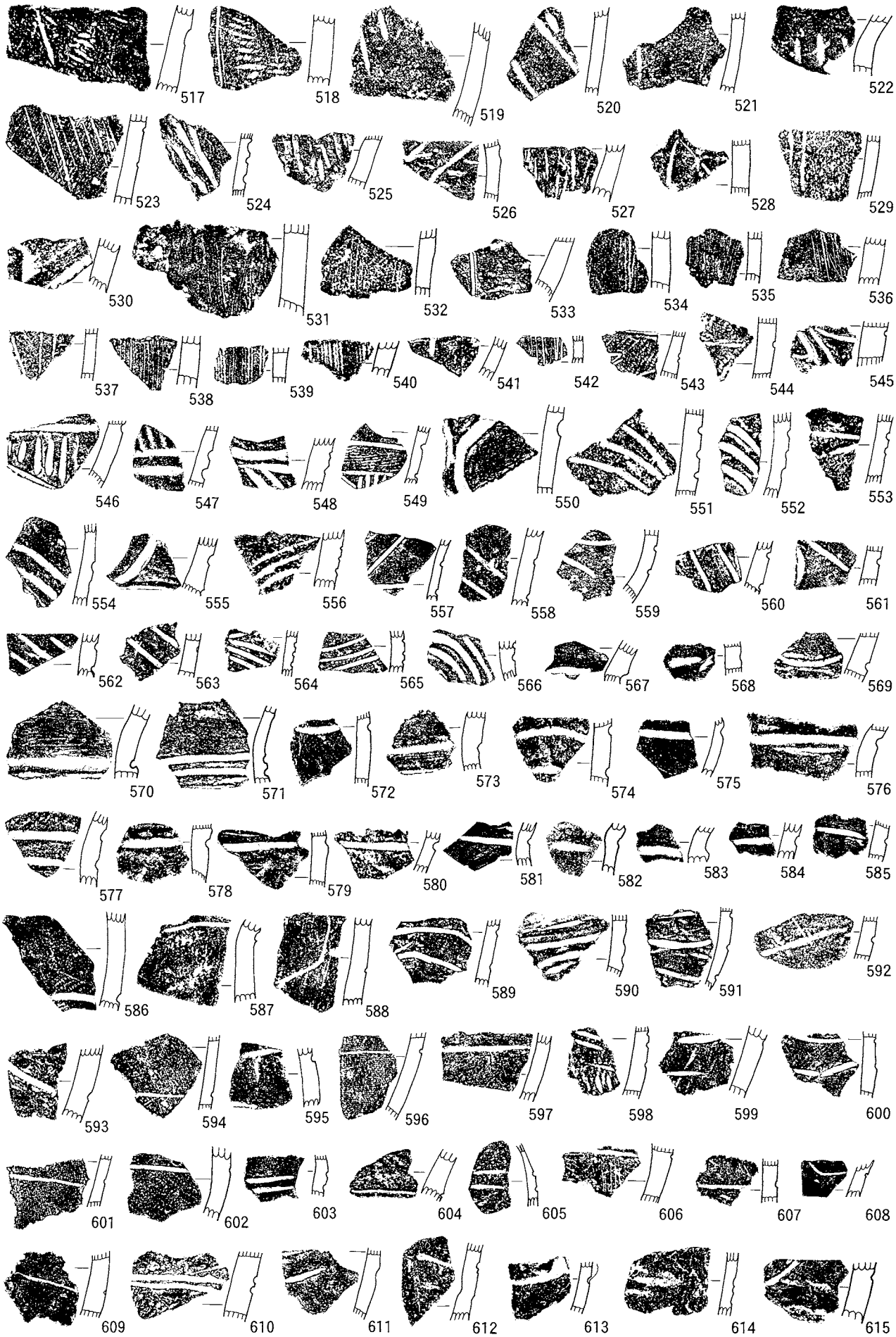


図39　6号住居址出土遺物(8)

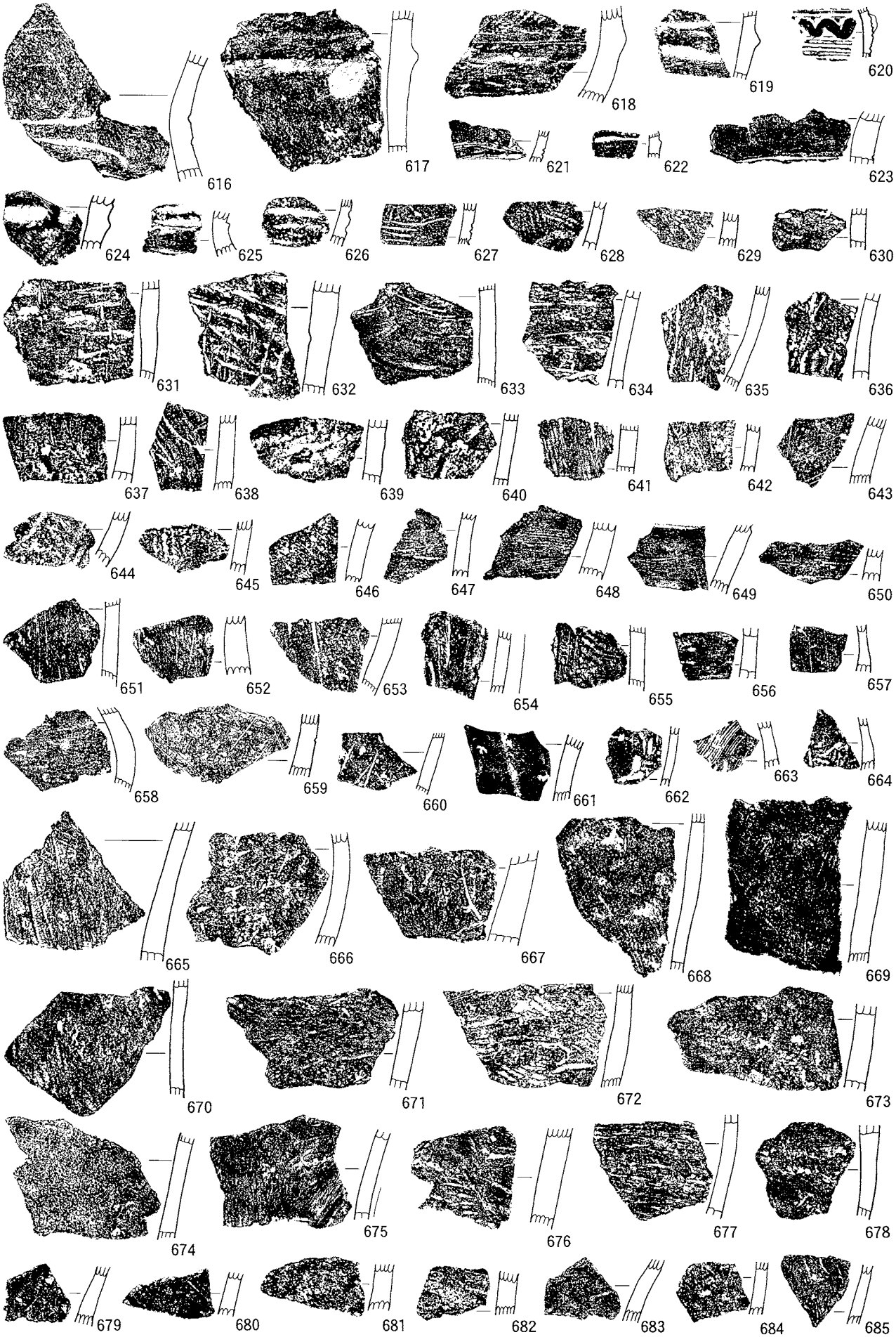


図40　6号住居址出土遺物(9)

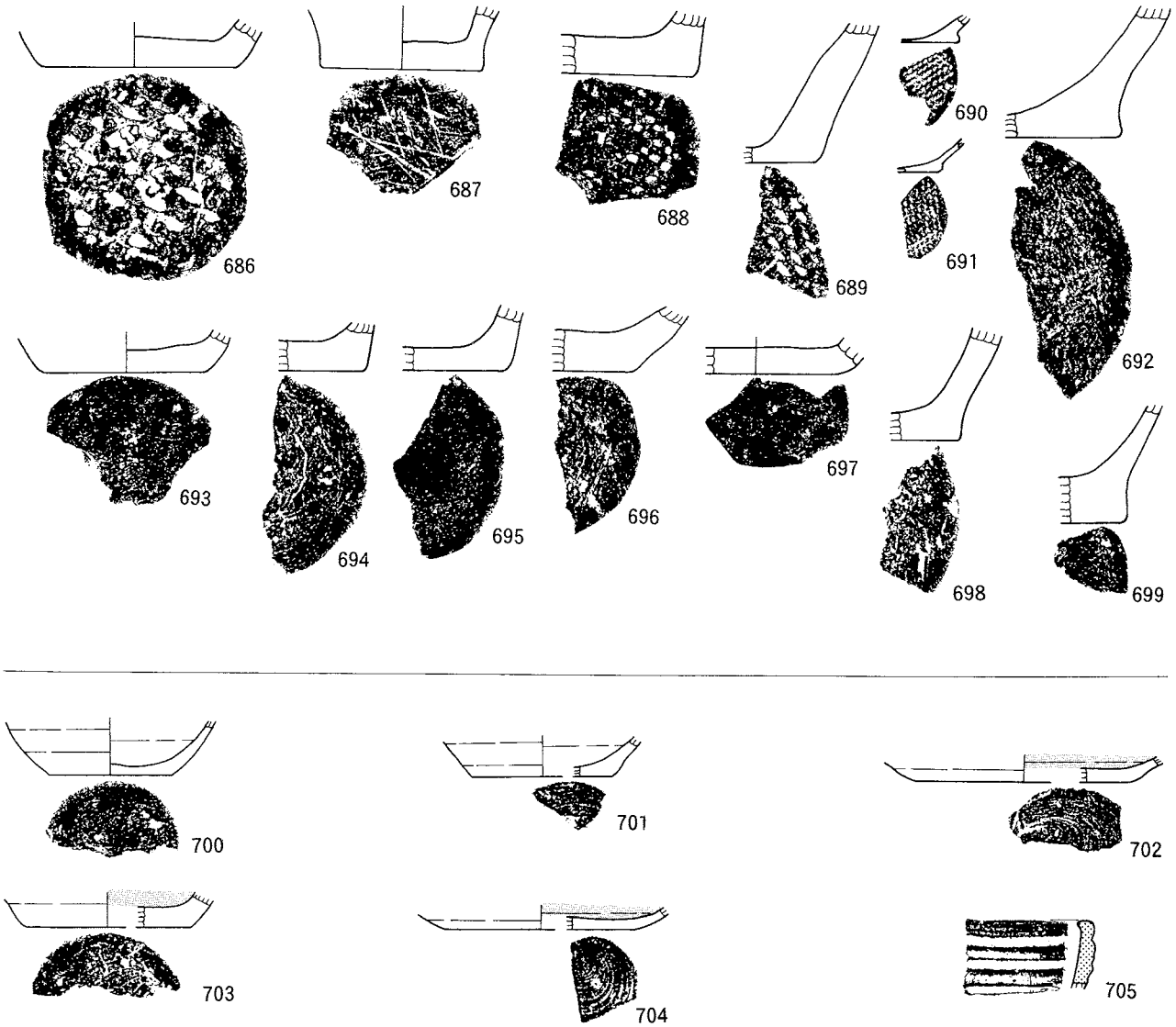


図41　6号住居址出土遺物(10)

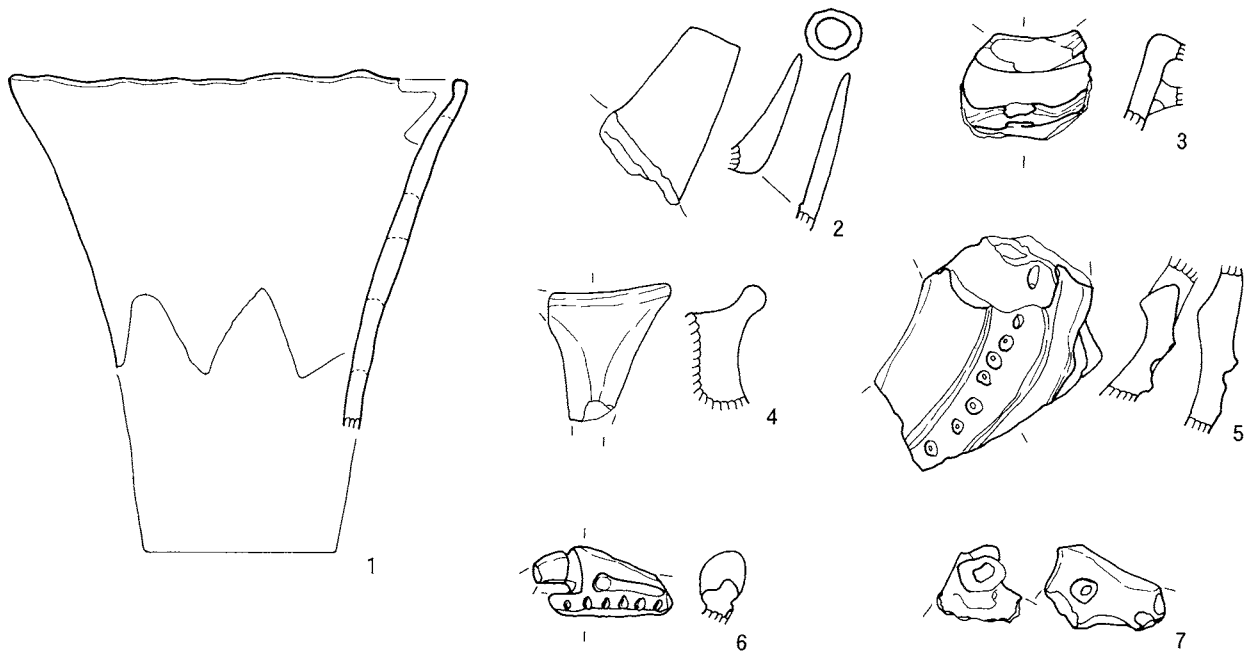


図42　7号住居址出土遺物(1)

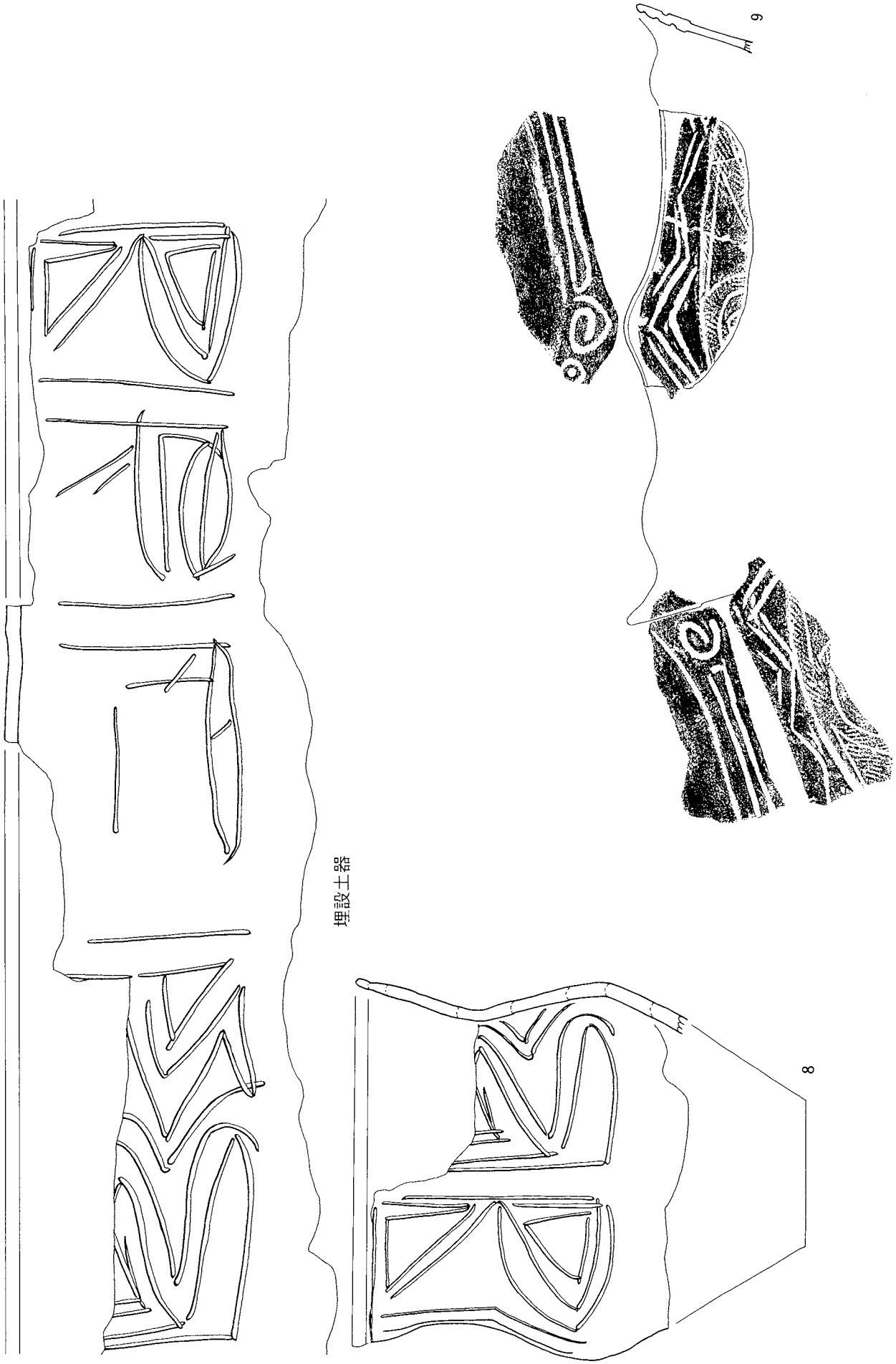


図43　7号住居址出土遺物(2)

図44　7号住居址出土遺物(3)

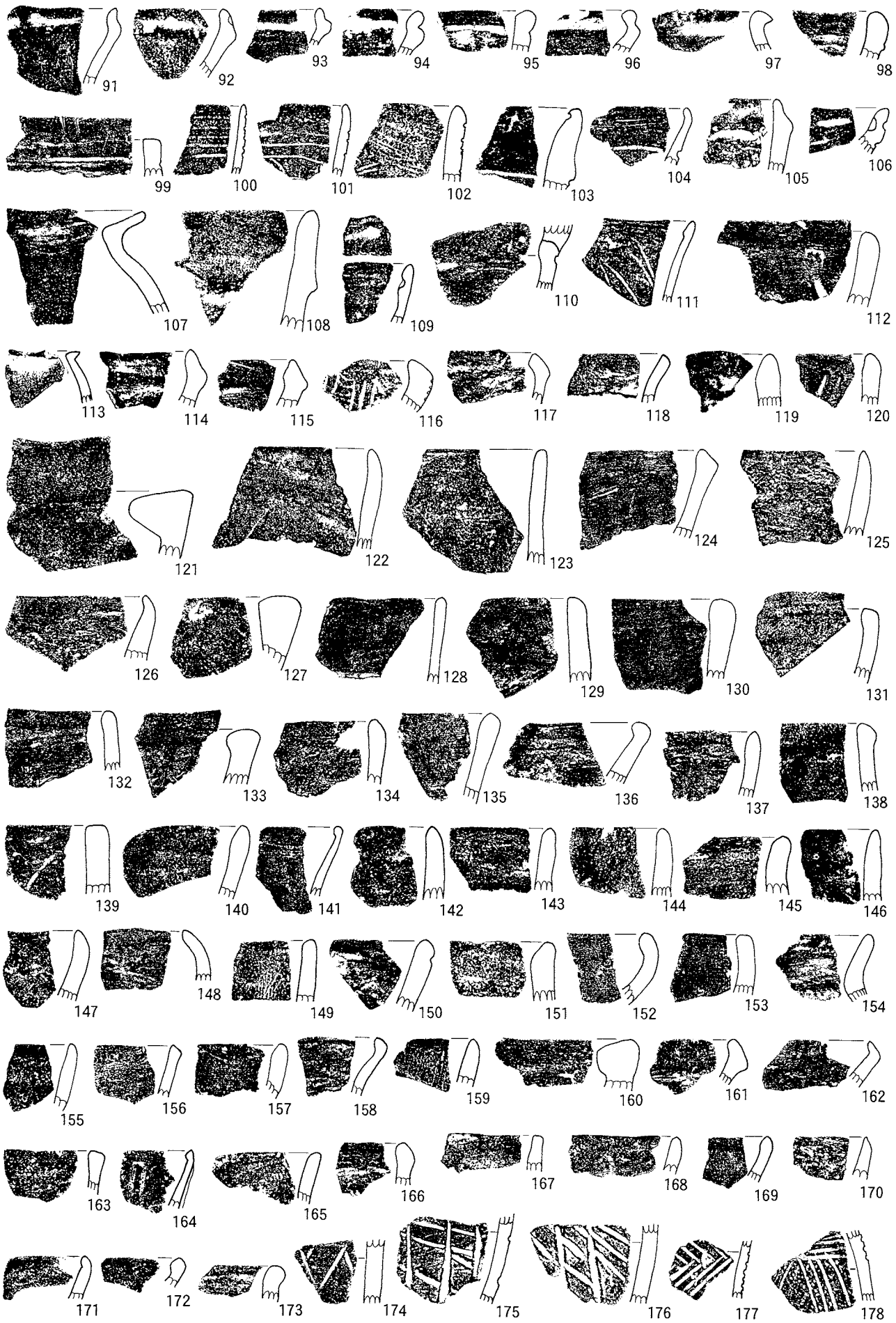


図45　7号住居址出土遺物(4)

図46　７号住居址出土遺物(5)

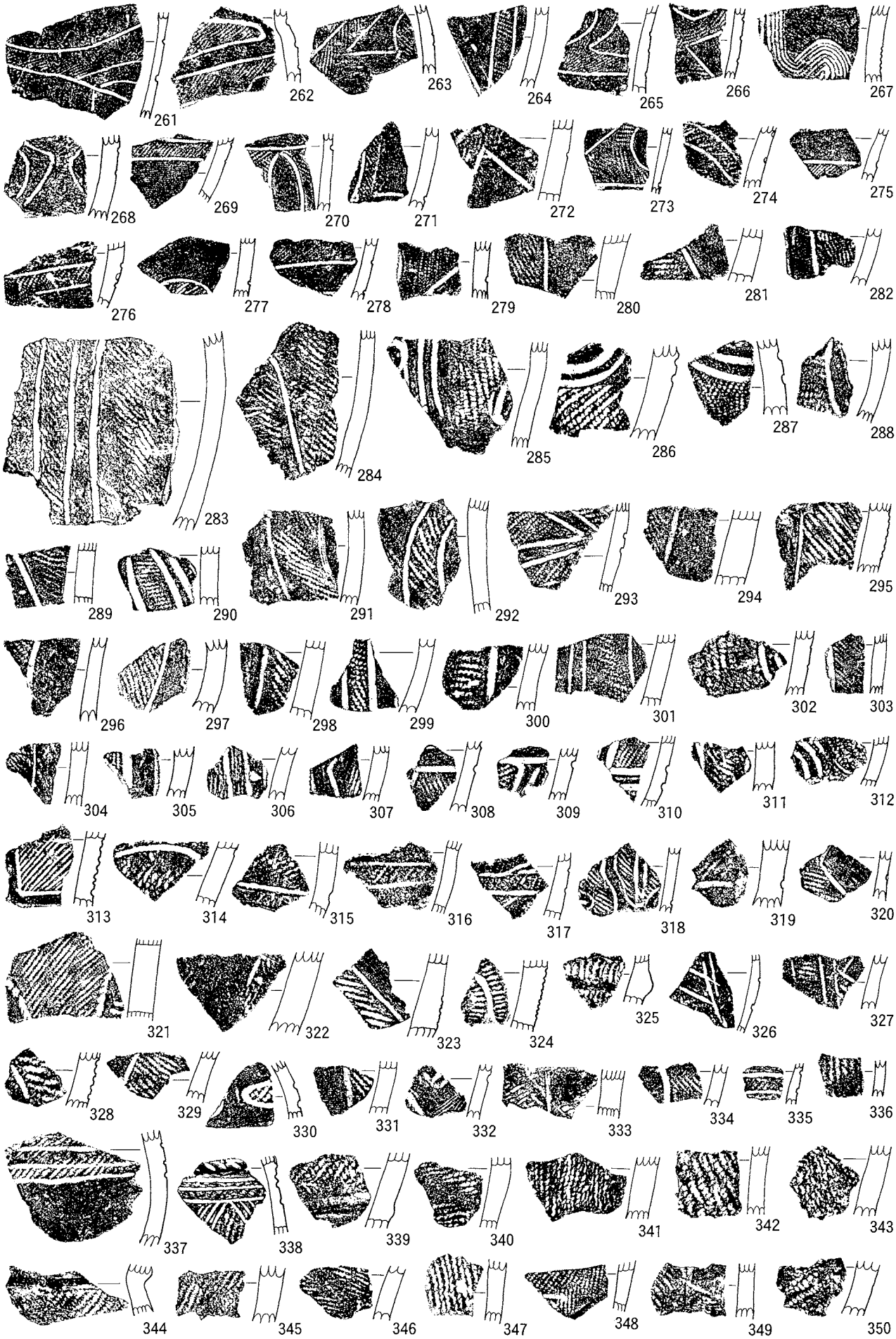


図47　７号住居址出土遺物(6)

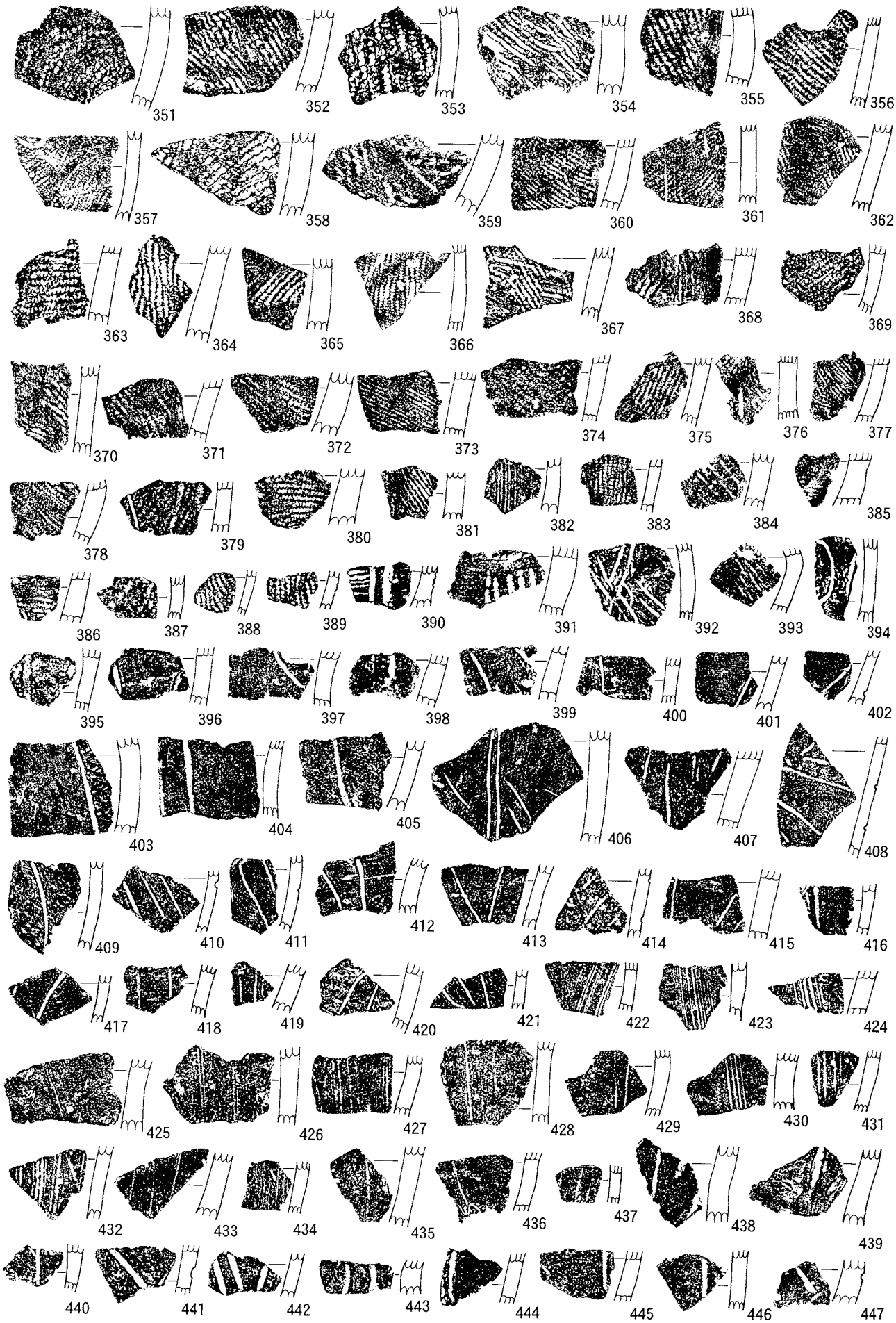


図48　7号住居址出土遺物(7)

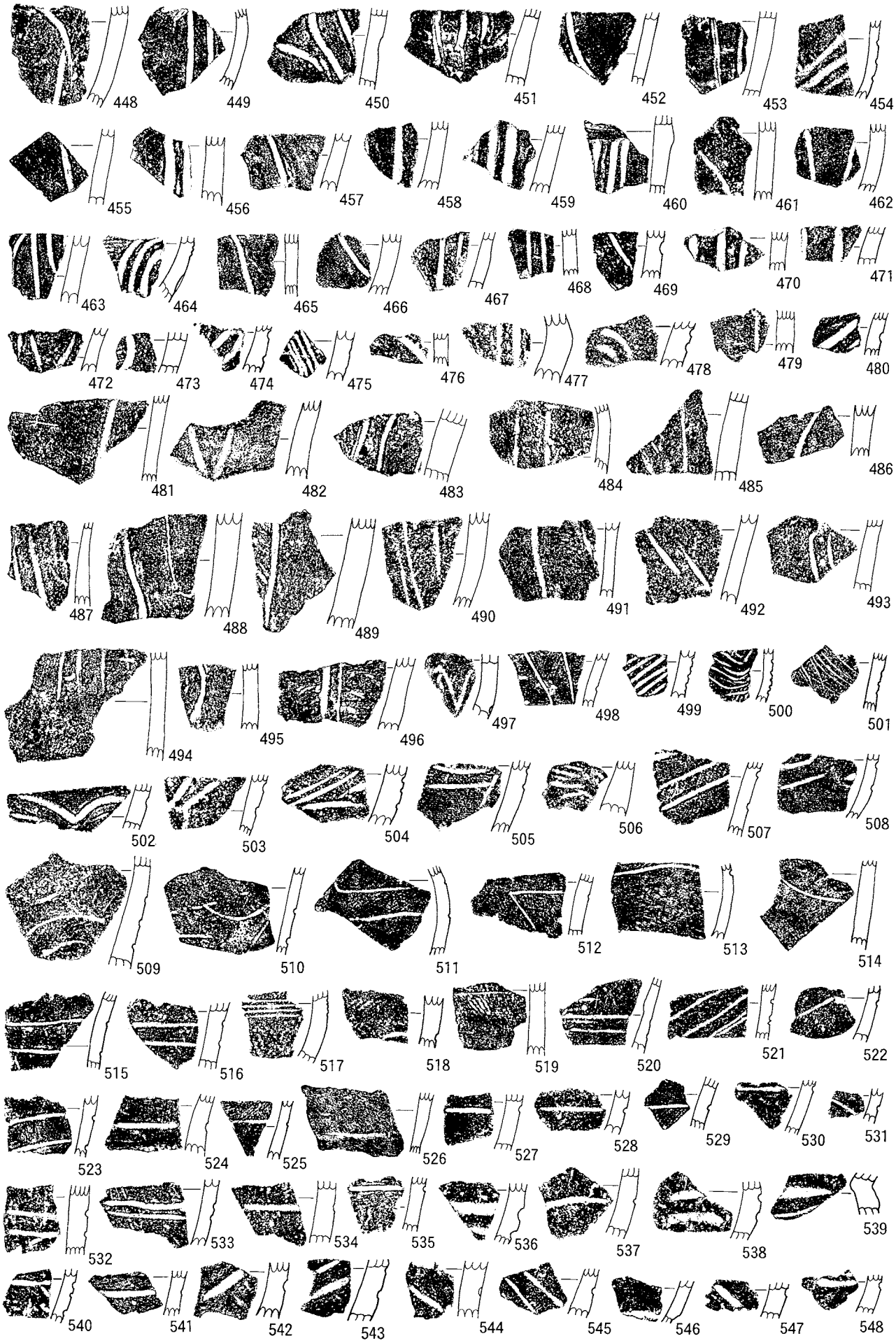


図49　7号住居址出土遺物(8)

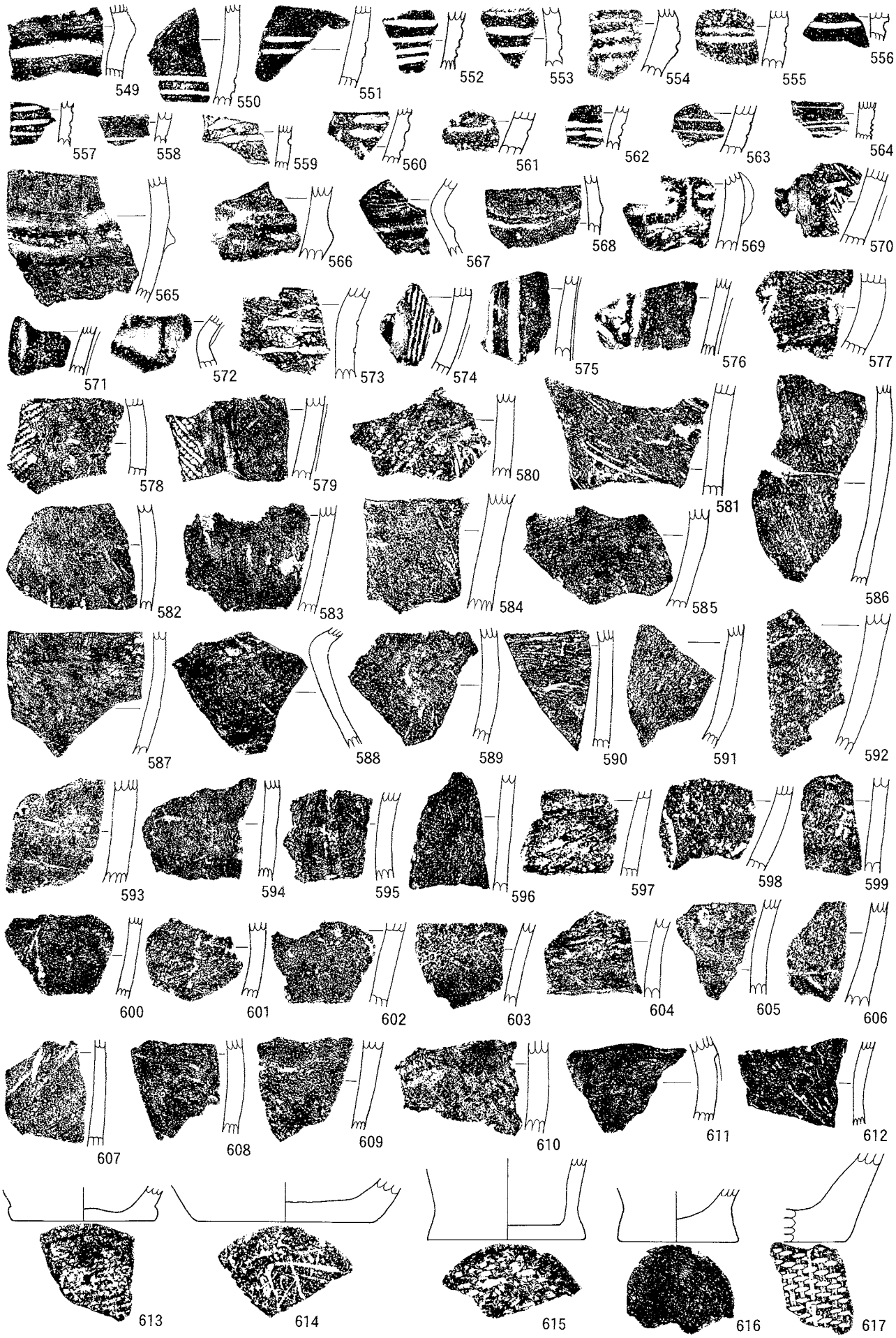


図50　7号住居址出土遺物(9)

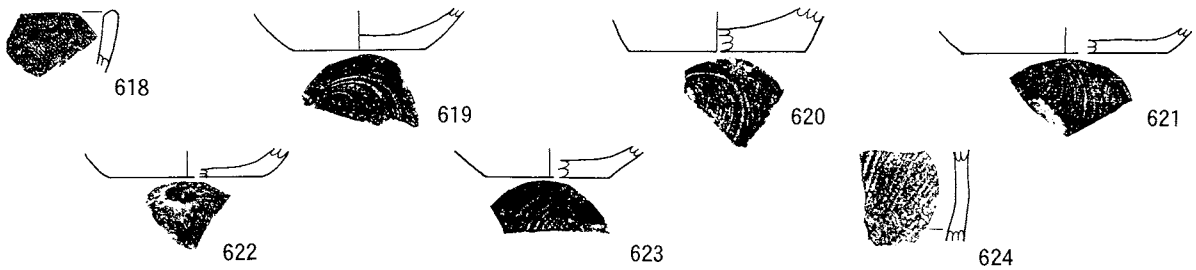


図51　7号住居址出土遺物(10)

図52　8号住居址出土遺物(1)

図53　8号住居址出土遺物(2)

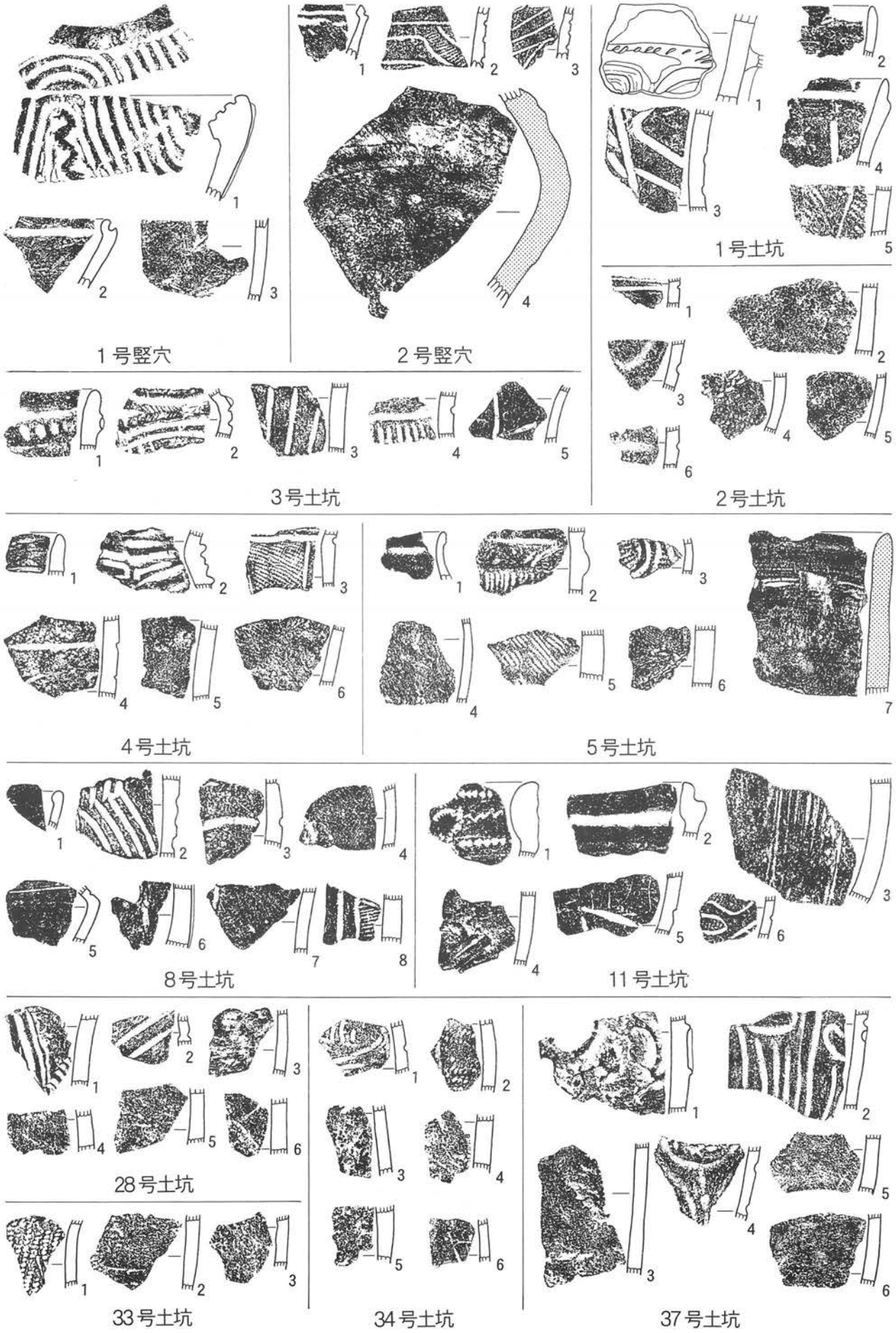
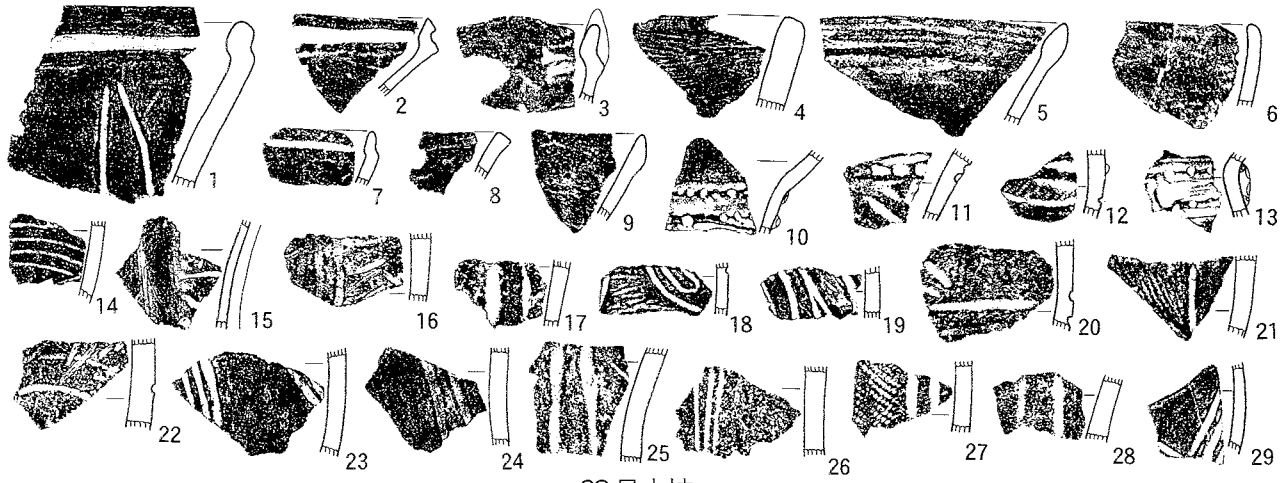
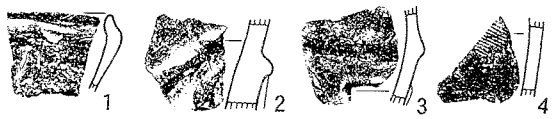

1号竪穴
2号竪穴
1号土坑
3号土坑
2号土坑
4号土坑
5号土坑
8号土坑
11号土坑
28号土坑
33号土坑
34号土坑
37号土坑

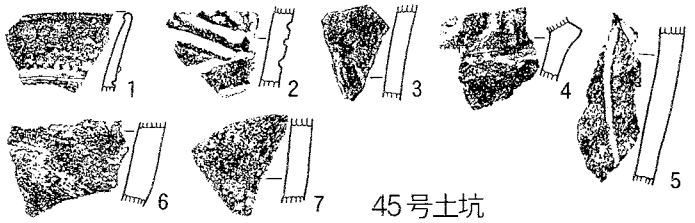
図54　出土遺物(1)



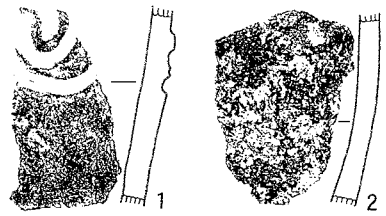
38号土坑



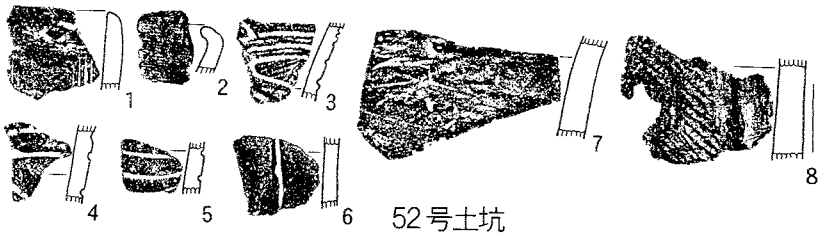
40号土坑



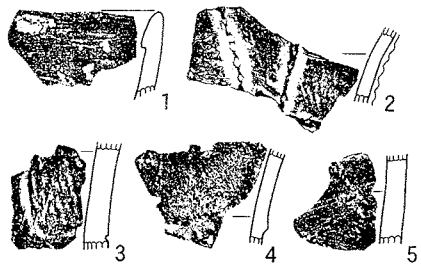
45号土坑



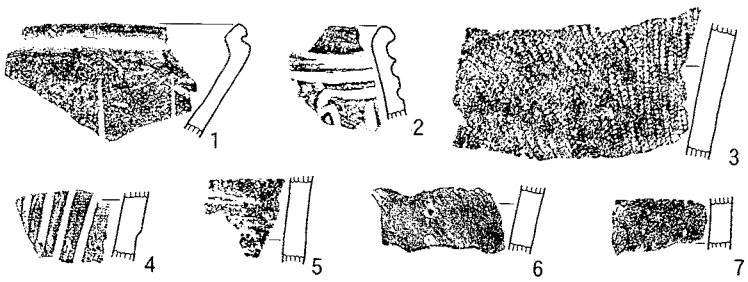
46号土坑



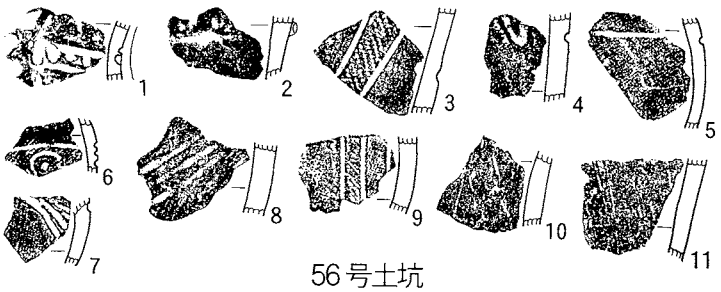
52号土坑



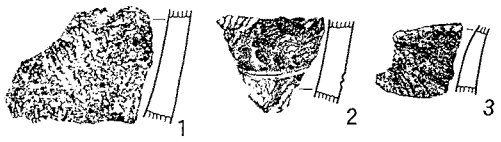
53号土坑



55号土坑

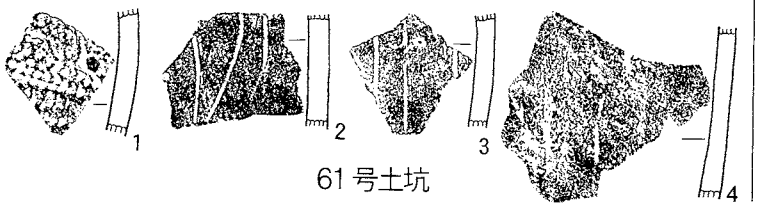


56号土坑

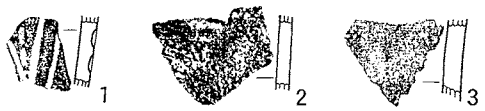


57号土坑

58号土坑



61号土坑



59号土坑

図55　出土遺物(2)

92号土坑
87号土坑
93号土坑
89号土坑
掘立柱ピット
Pit 1
Pit 5
Pit 8
Pit 9
Pit 10
Pit 11
Pit 12
Pit 87
Pit 89
Pit 90
Pit 91

図56　出土遺物(3)

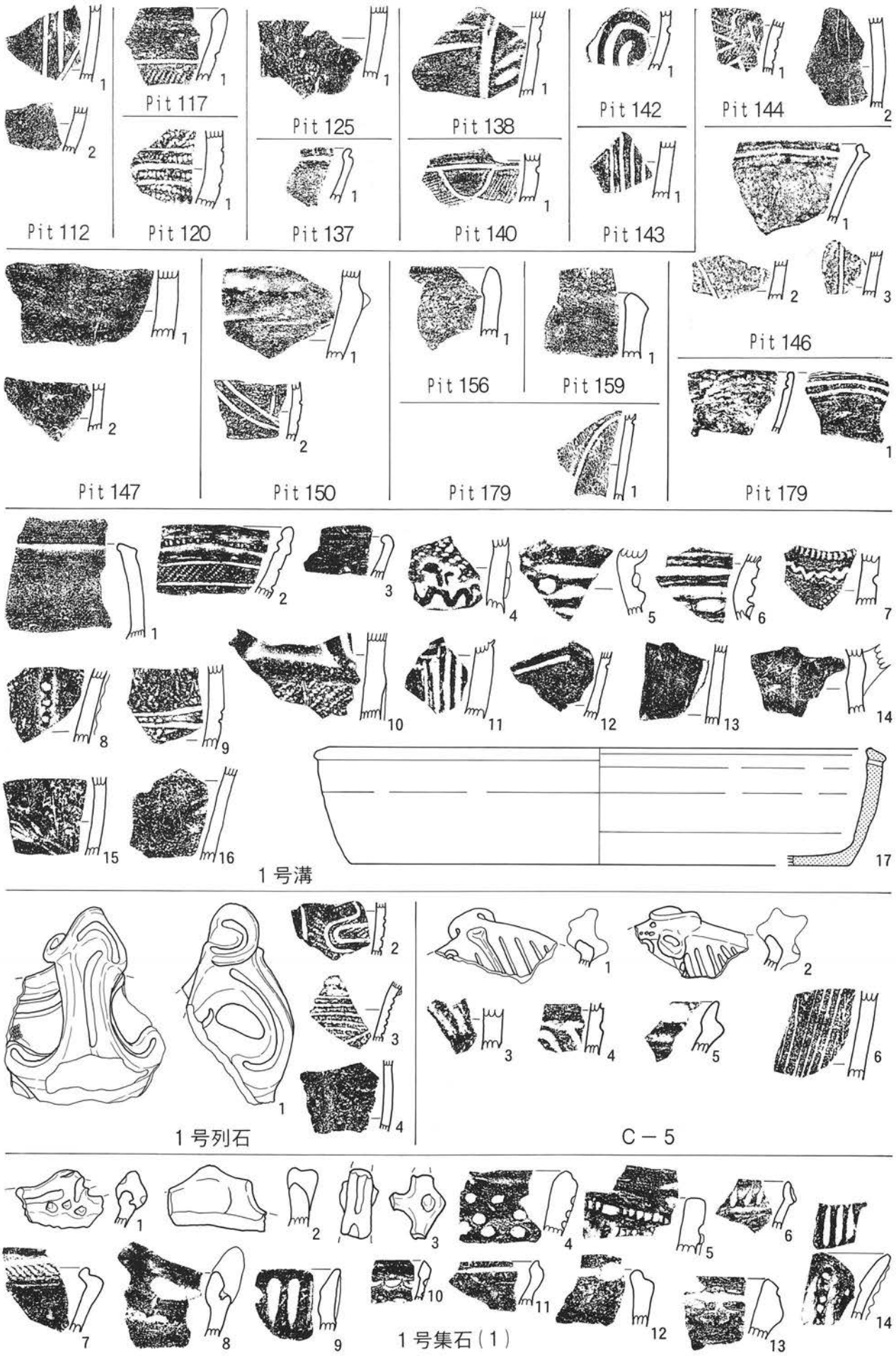
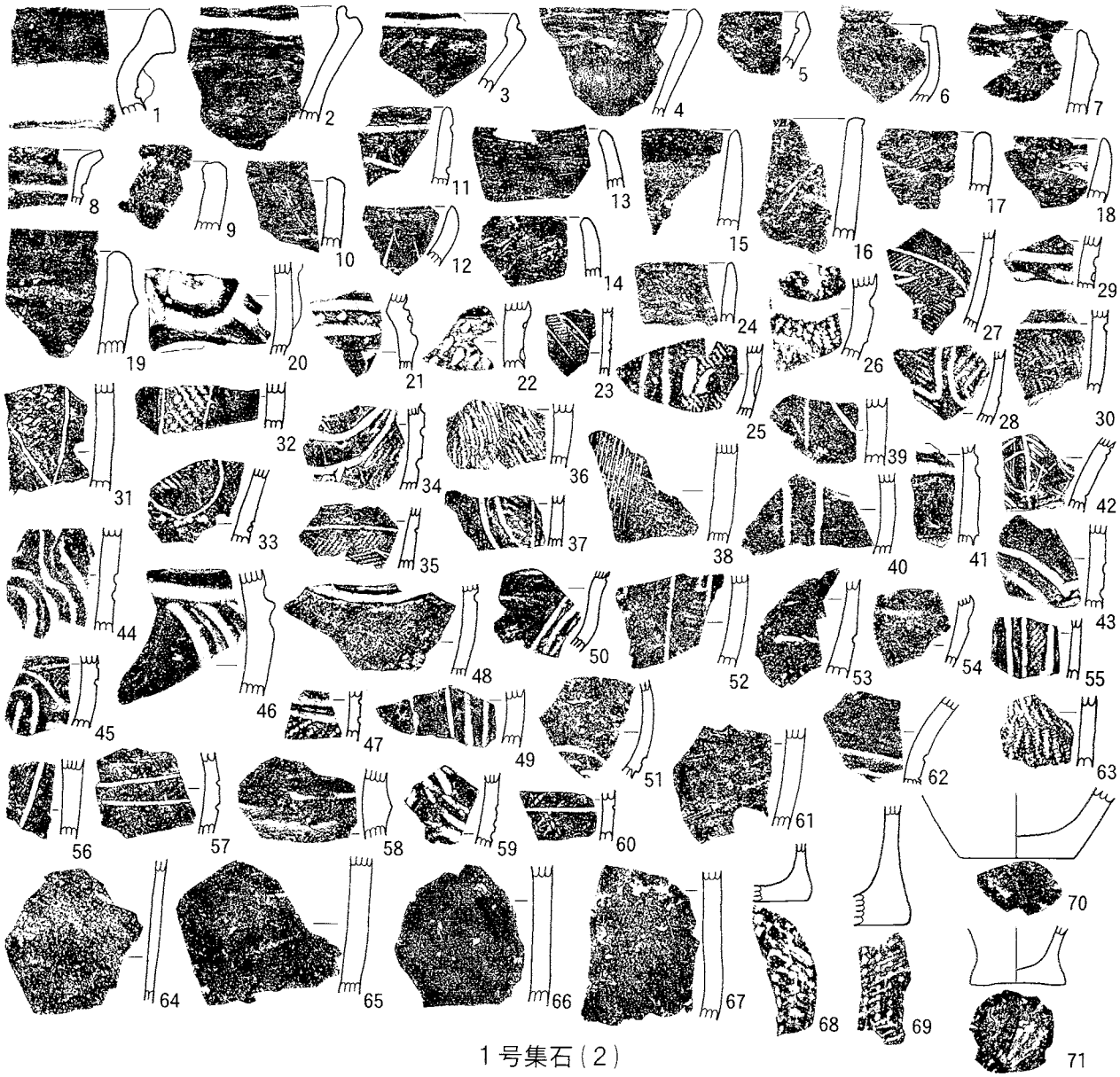
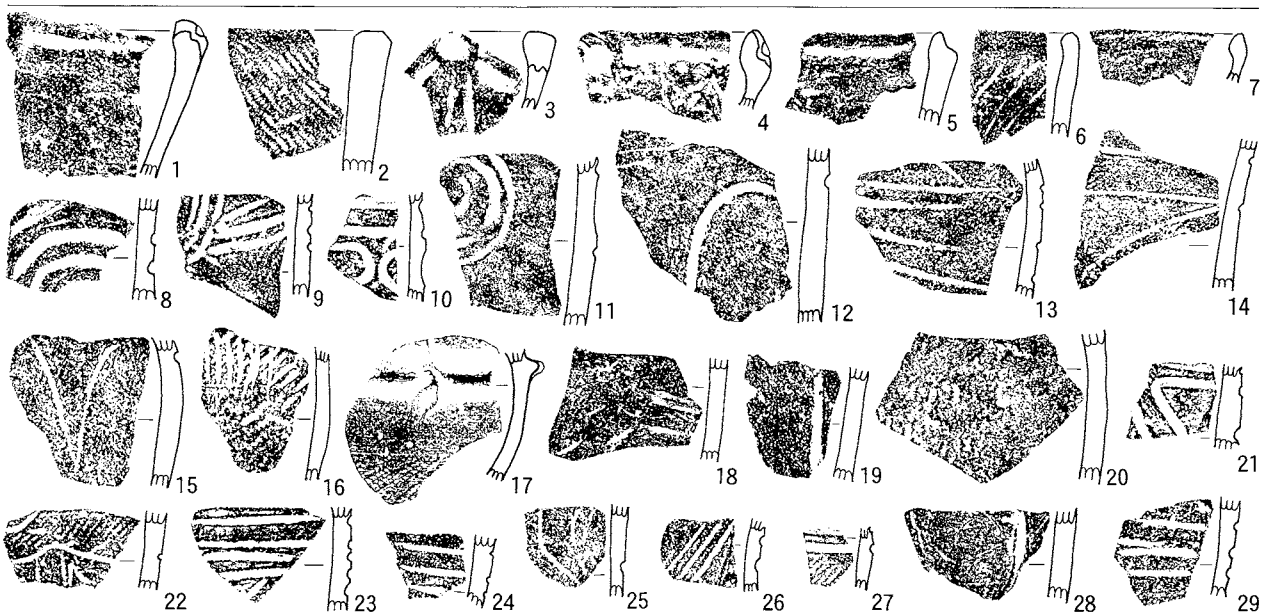

Pit 112
Pit 117
Pit 120
Pit 125
Pit 137
Pit 138
Pit 140
Pit 142
Pit 143
Pit 144
Pit 146
Pit 147
Pit 150
Pit 156
Pit 159
Pit 179
Pit 179
1号溝
1号列石
C－5
1号集石（1）

図57　出土遺物(4)

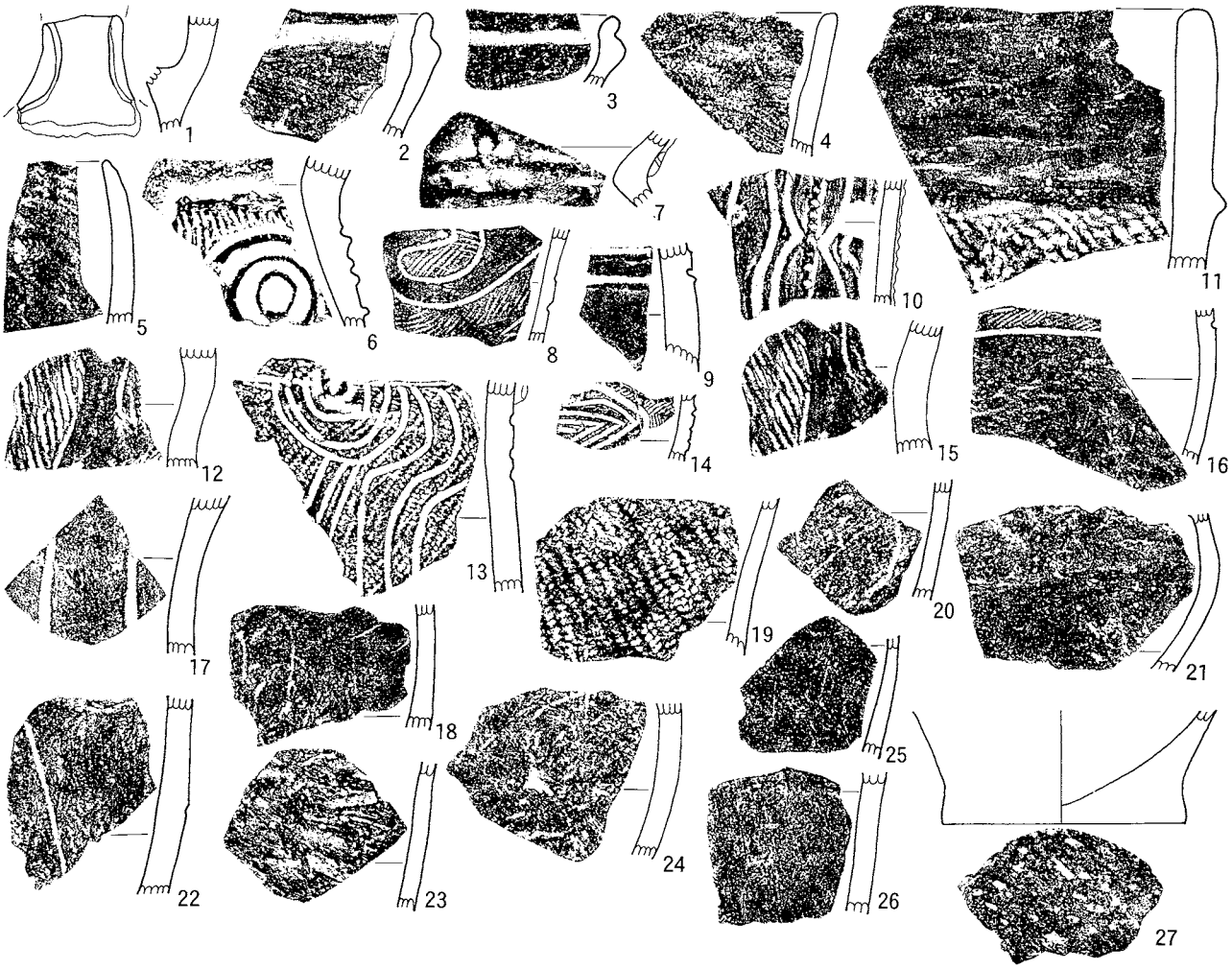


1号集石(2)

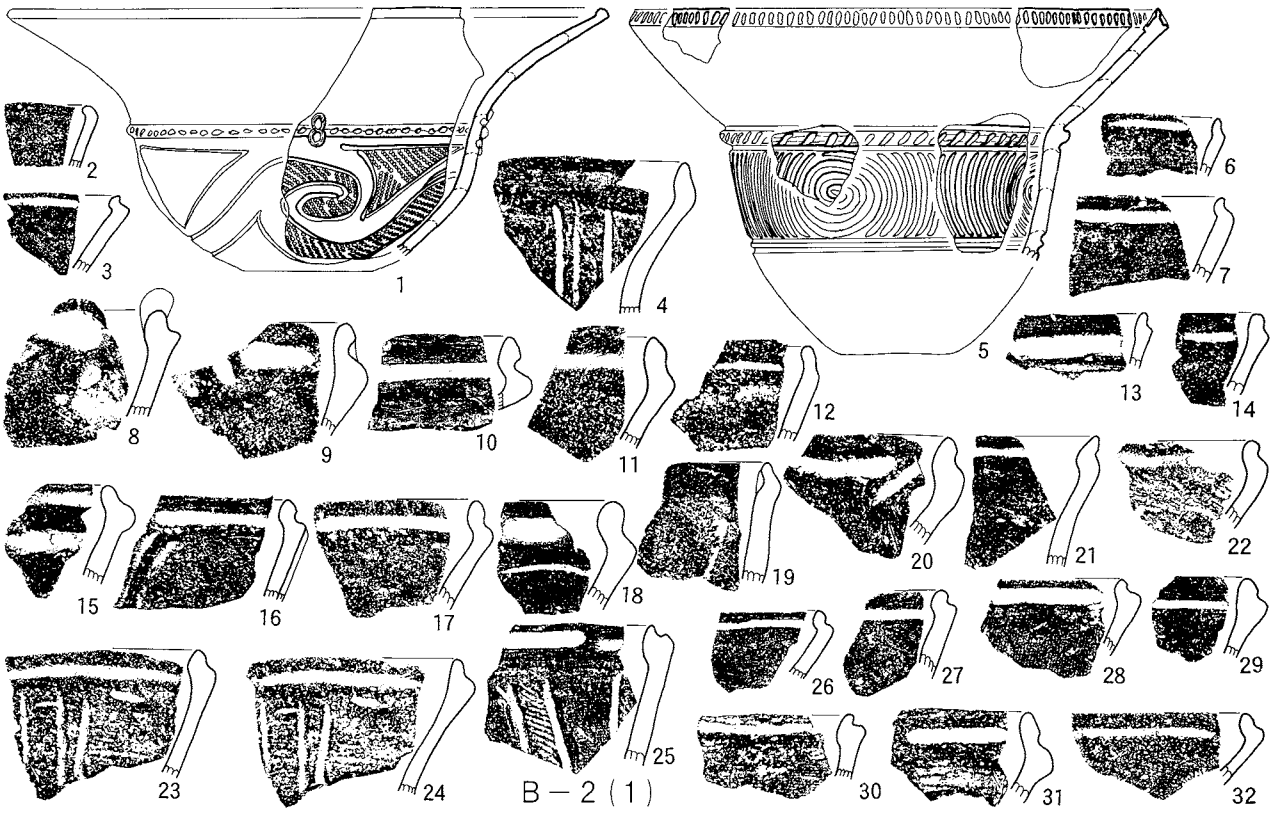


2号集石

図58　出土遺物(5)



A－2



B－2（1）

図59　出土遺物(6)

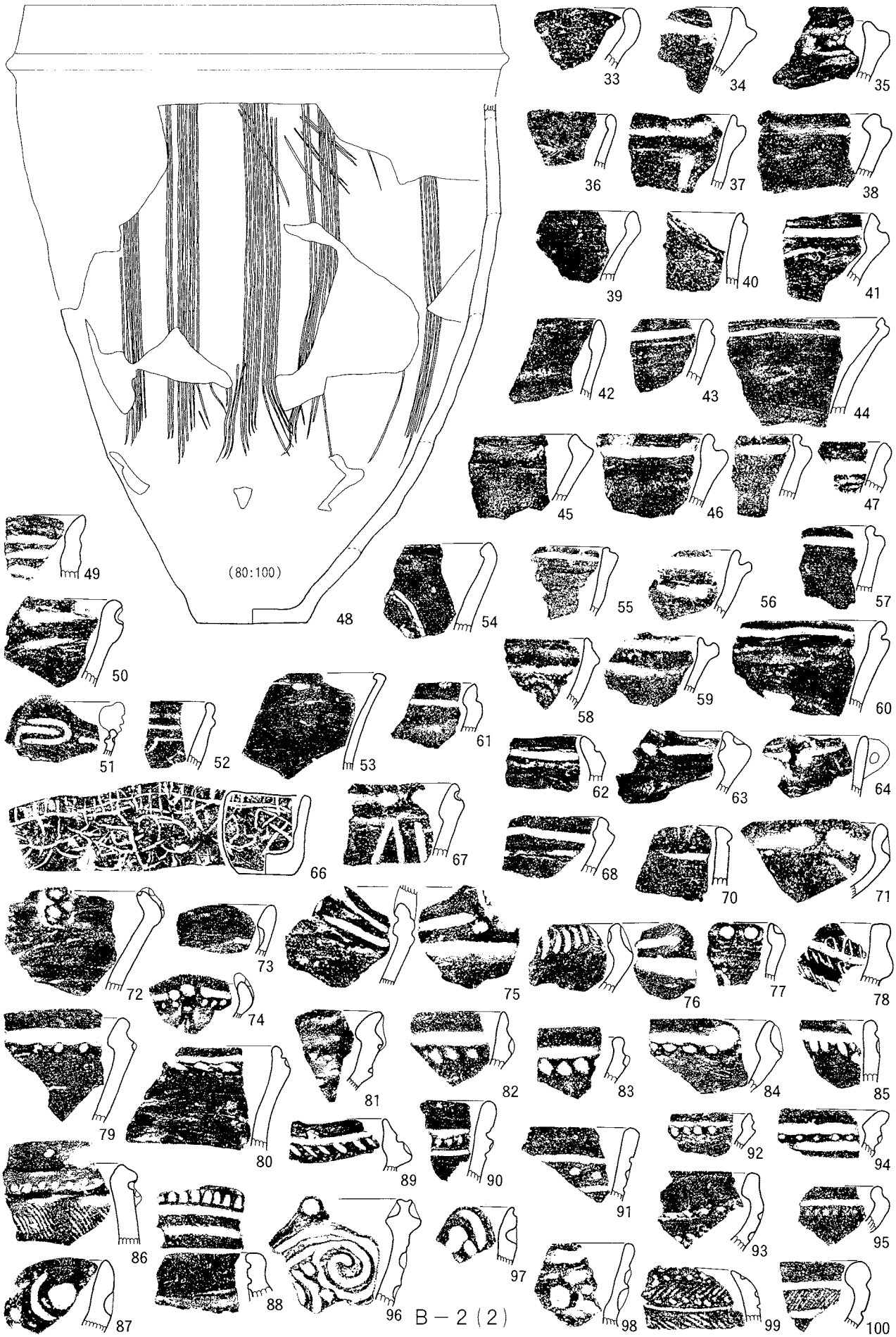


図60　出土遺物(7)

101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
B－2（3）

図61　出土遺物(8)

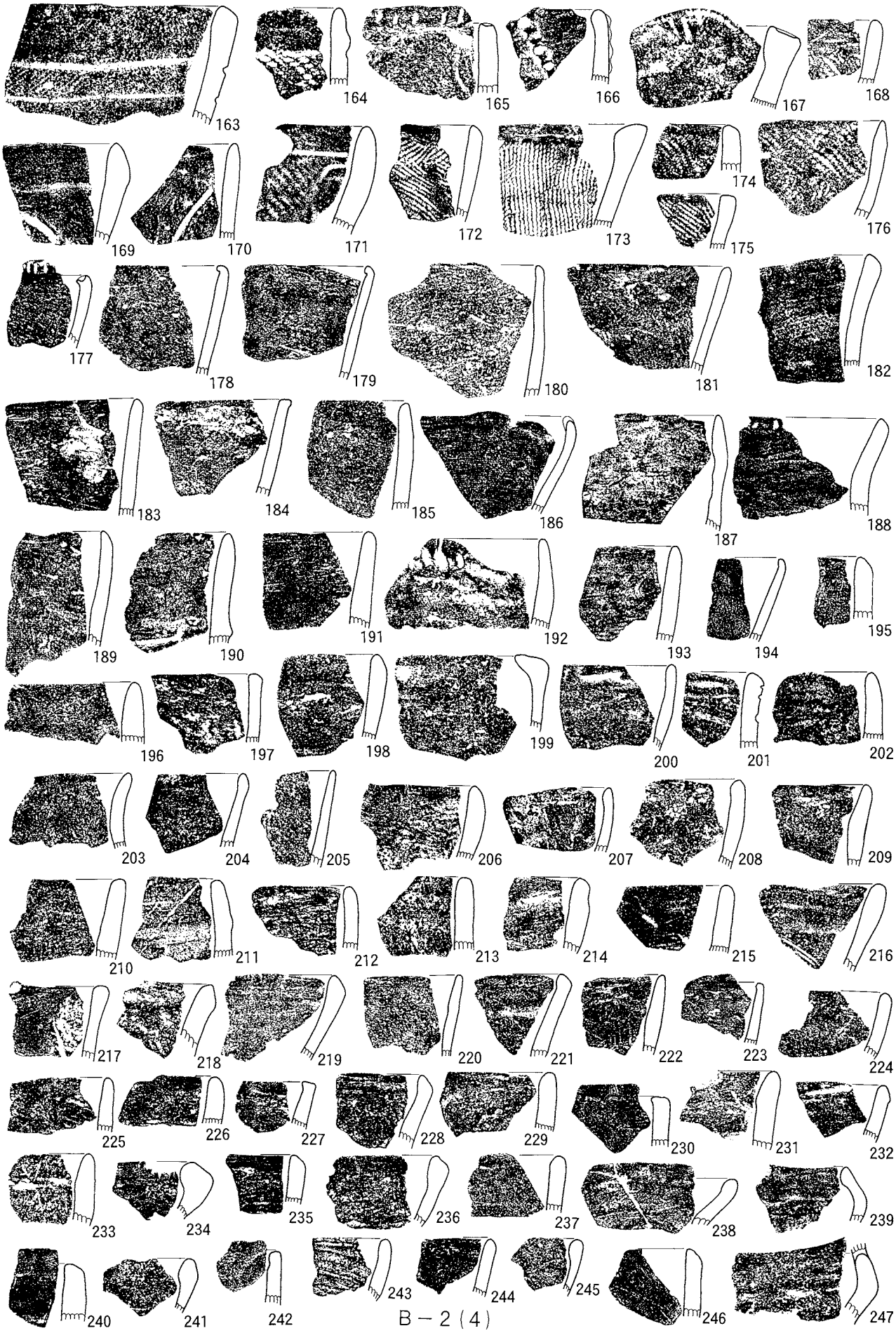

163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
B－2（4）

図62　出土遺物(9)

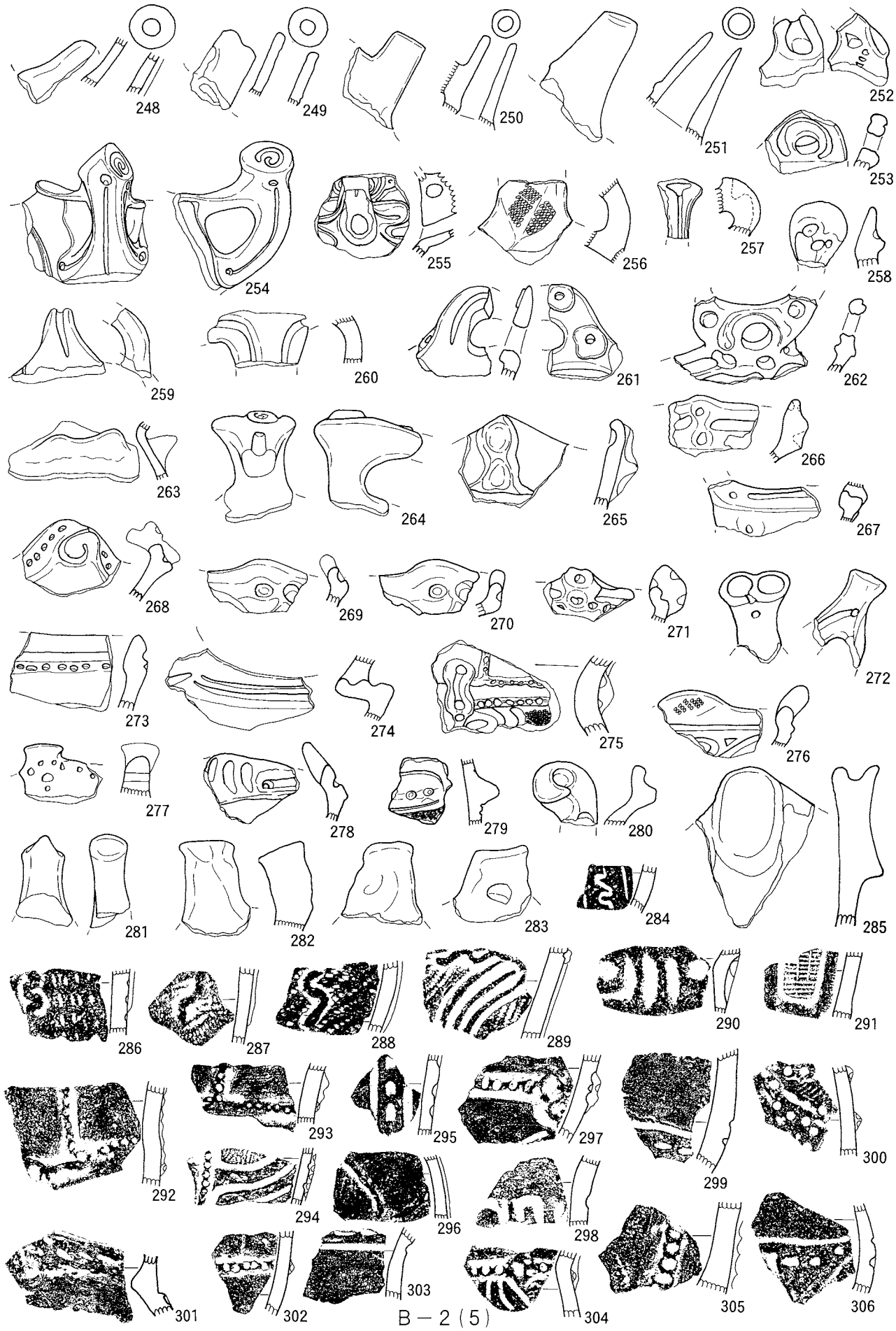

248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
B－2（5）

図63　出土遺物(10)

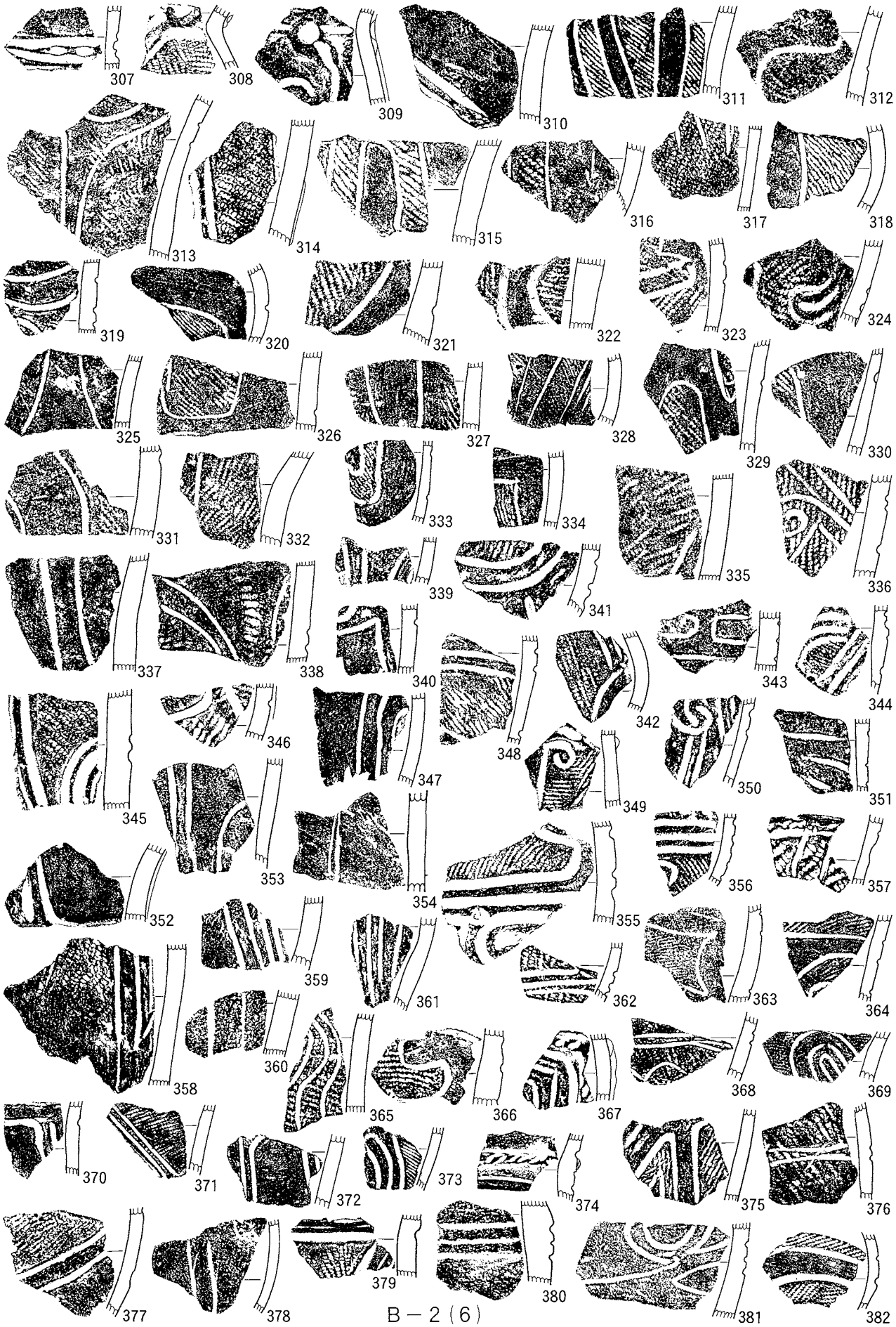

307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
B－2（6）

図64　出土遺物(11)

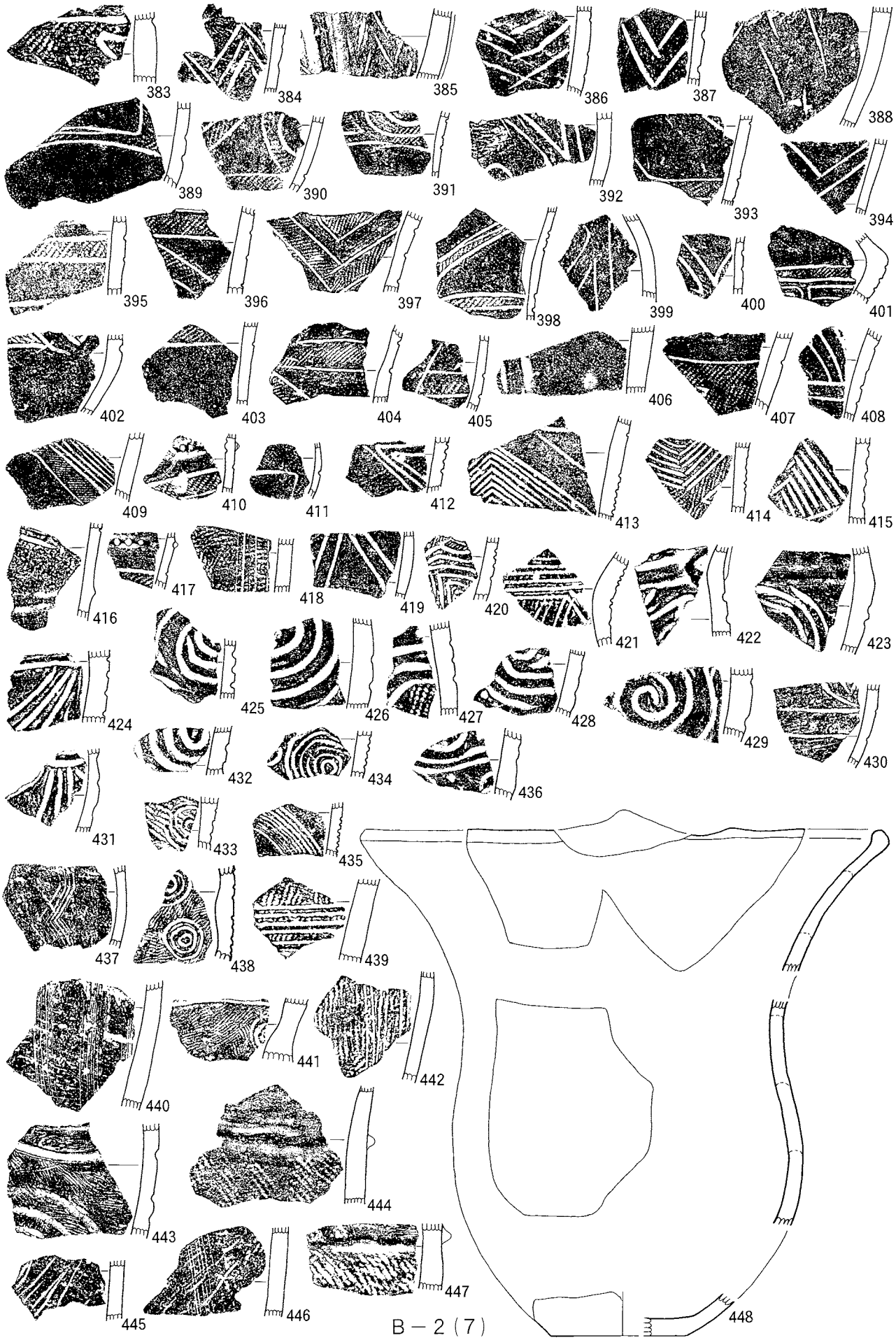
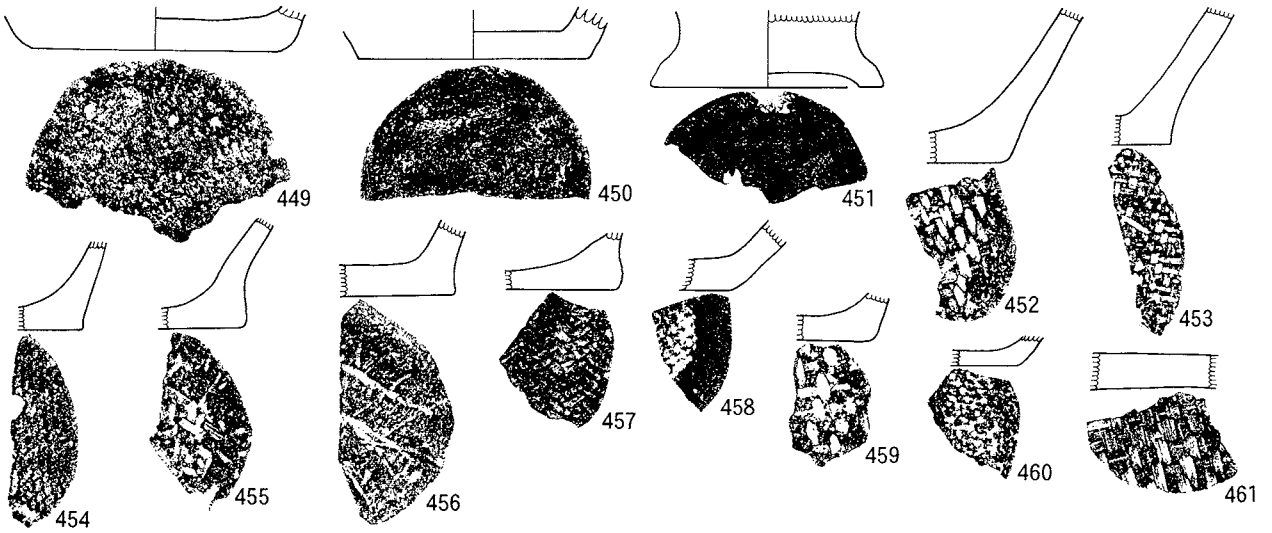
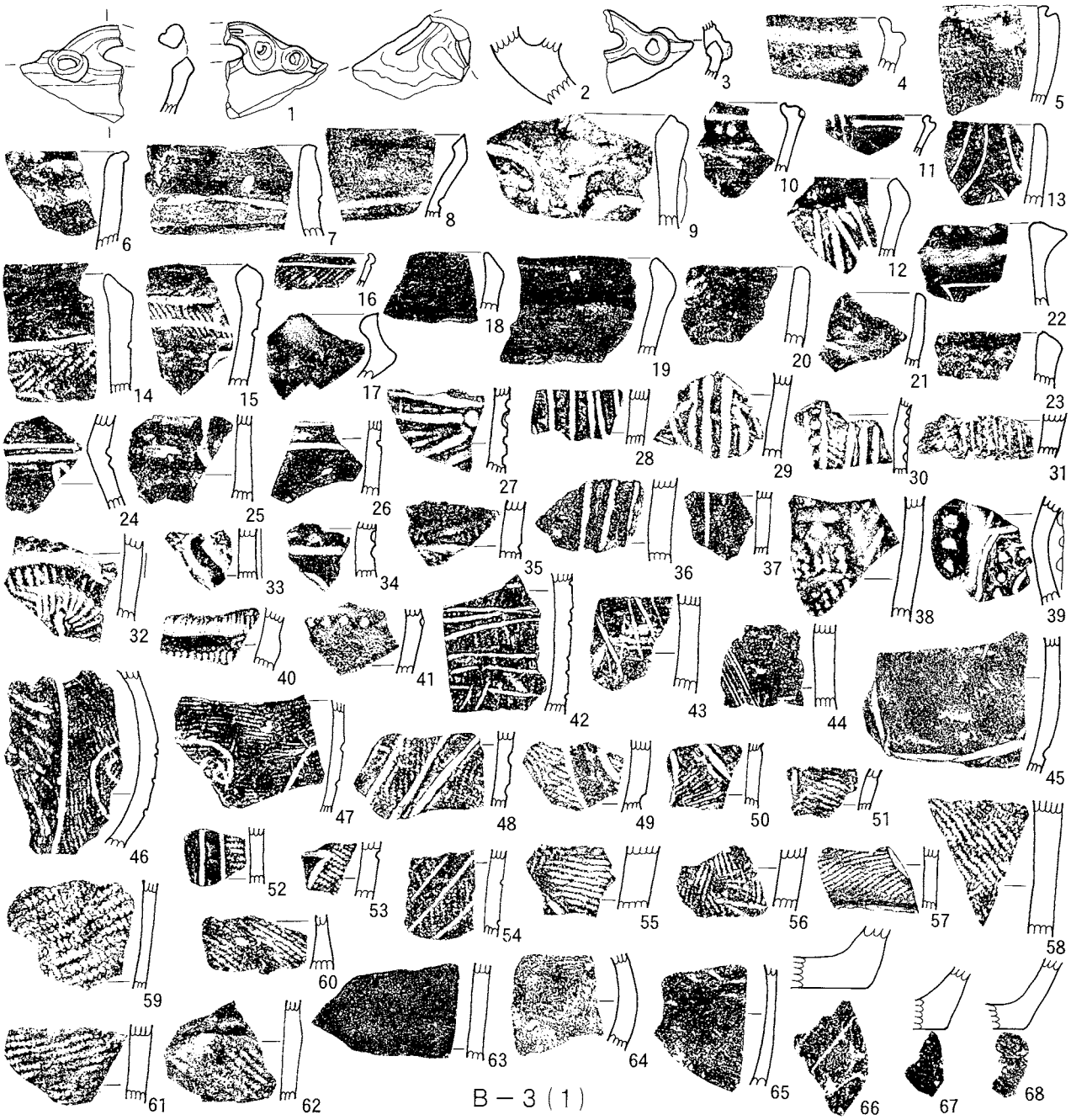

383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
B－2（7）

図65　出土遺物(12)



B－2（8）



B－3（1）

図66　出土遺物(13)

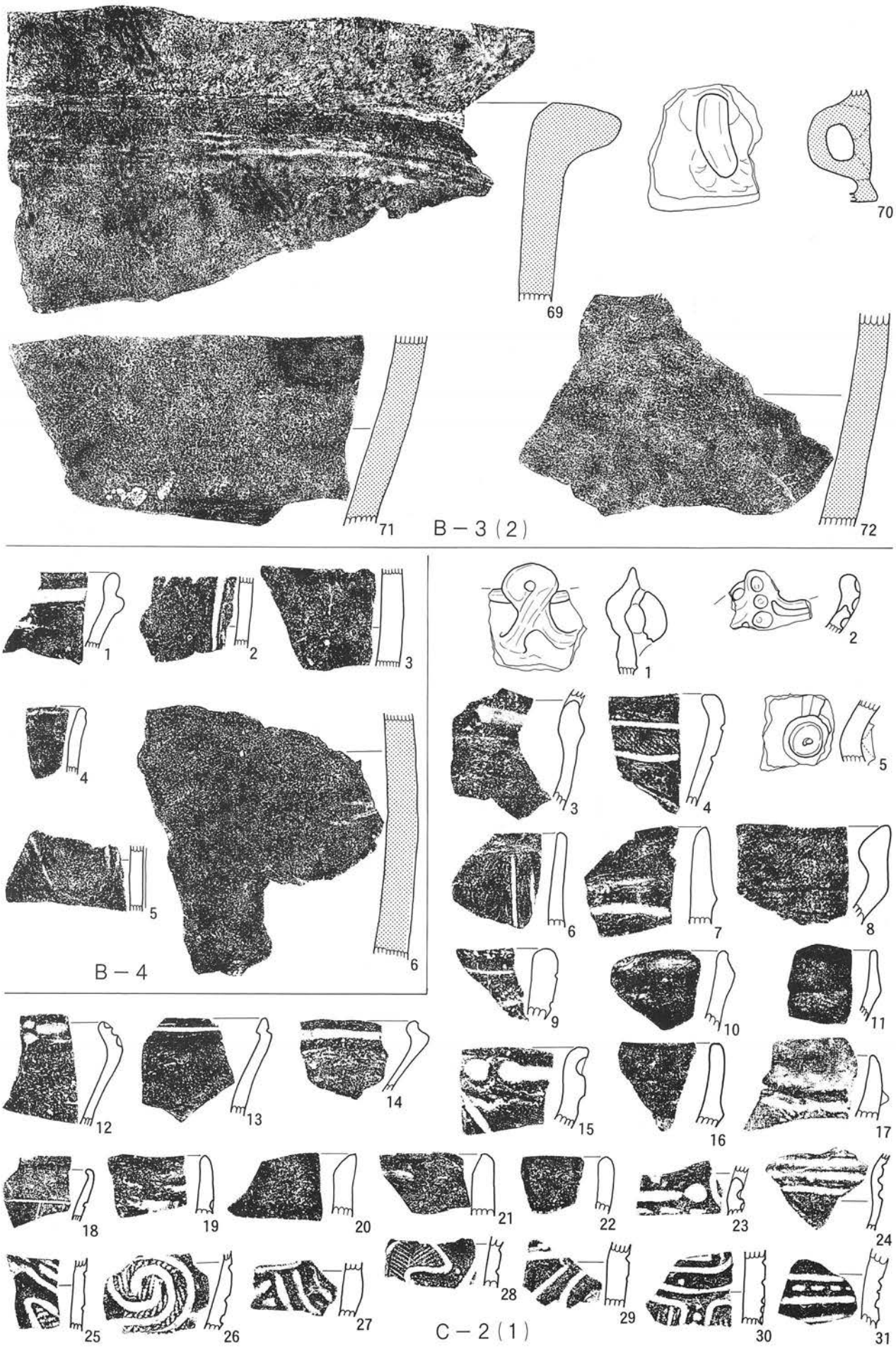

69
70
71
72
B－3（2）
1
2
3
4
5
6
B－4
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
C－2（1）

図67　出土遺物(14)

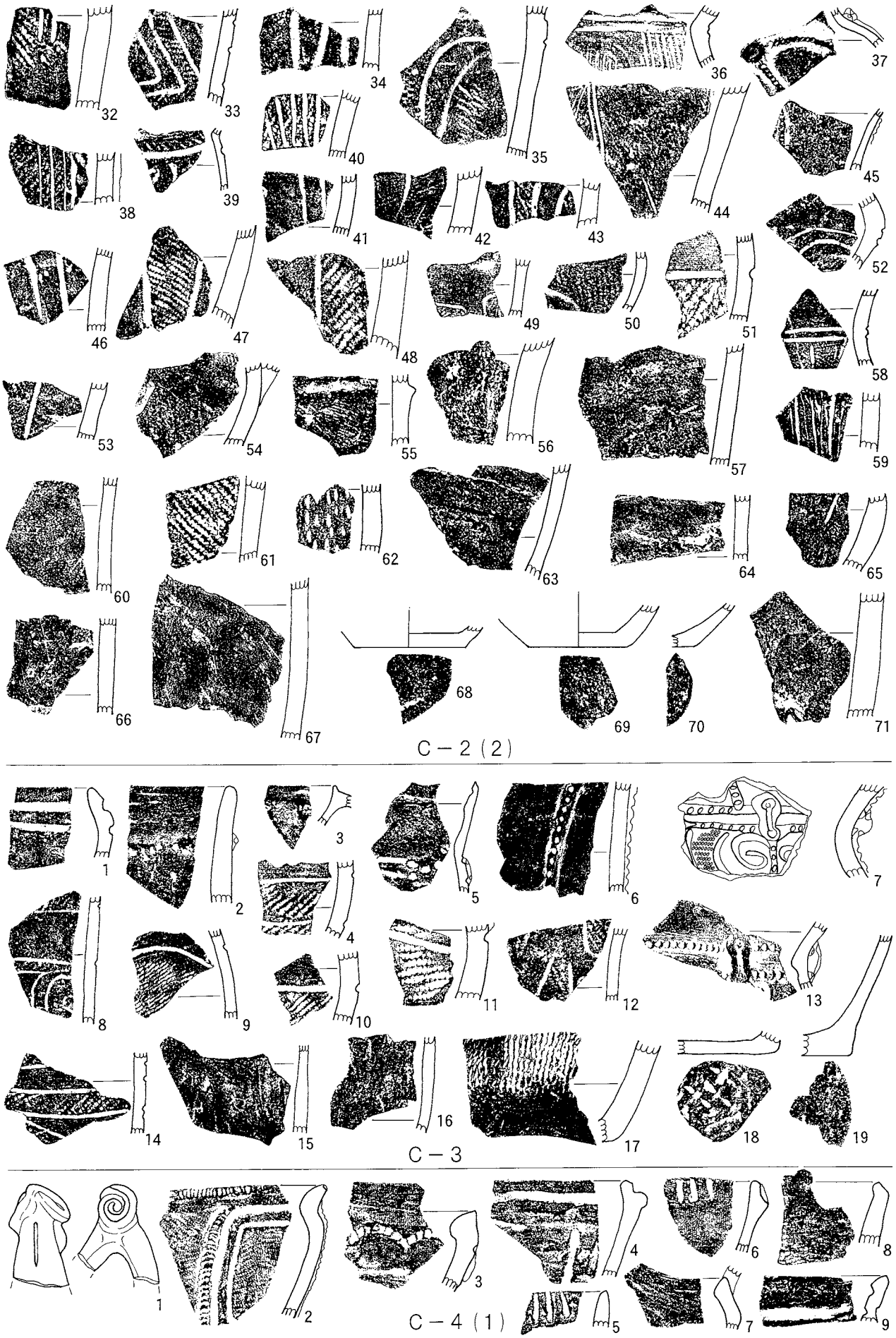


図68　出土遺物(15)

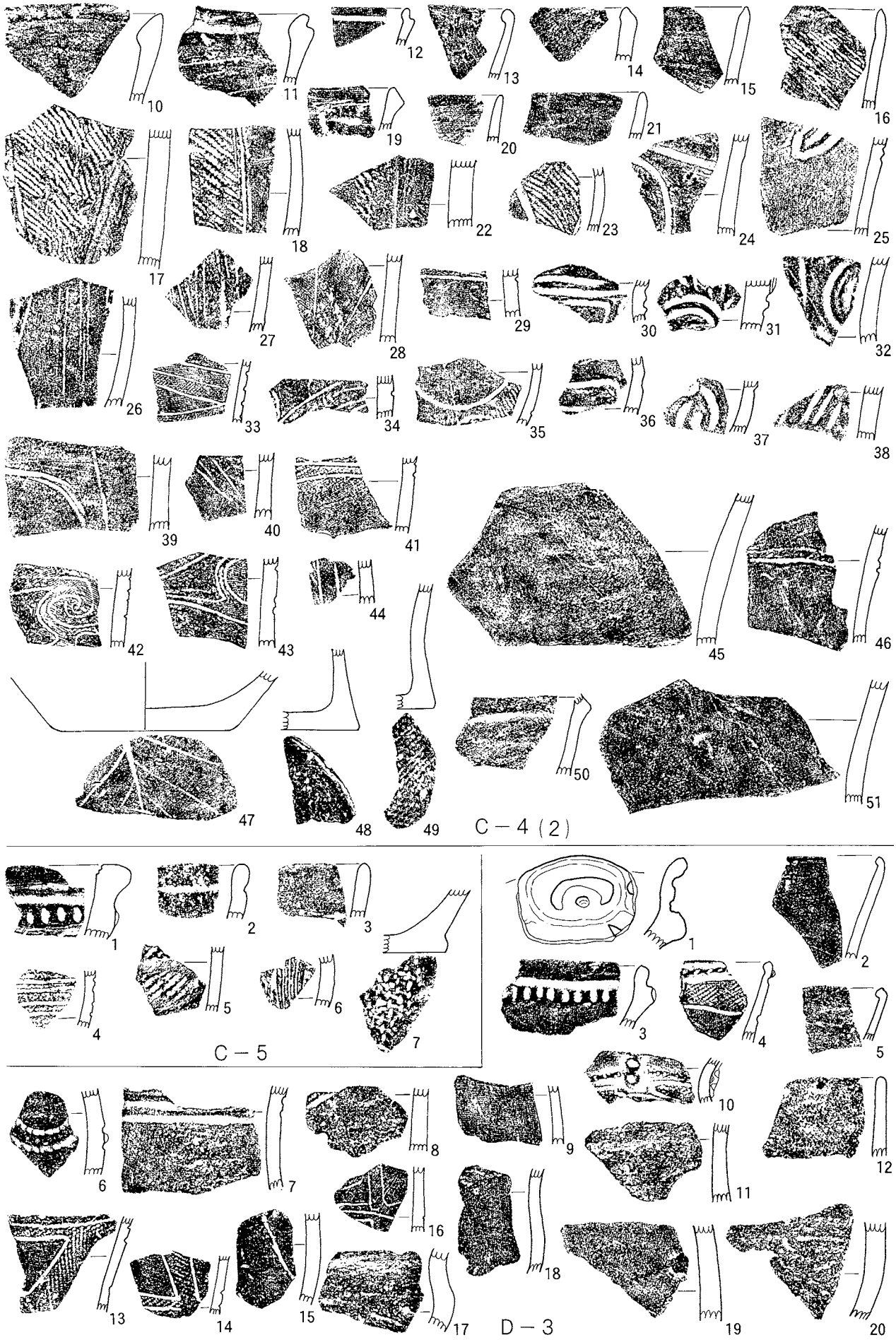


図69　出土遺物(16)

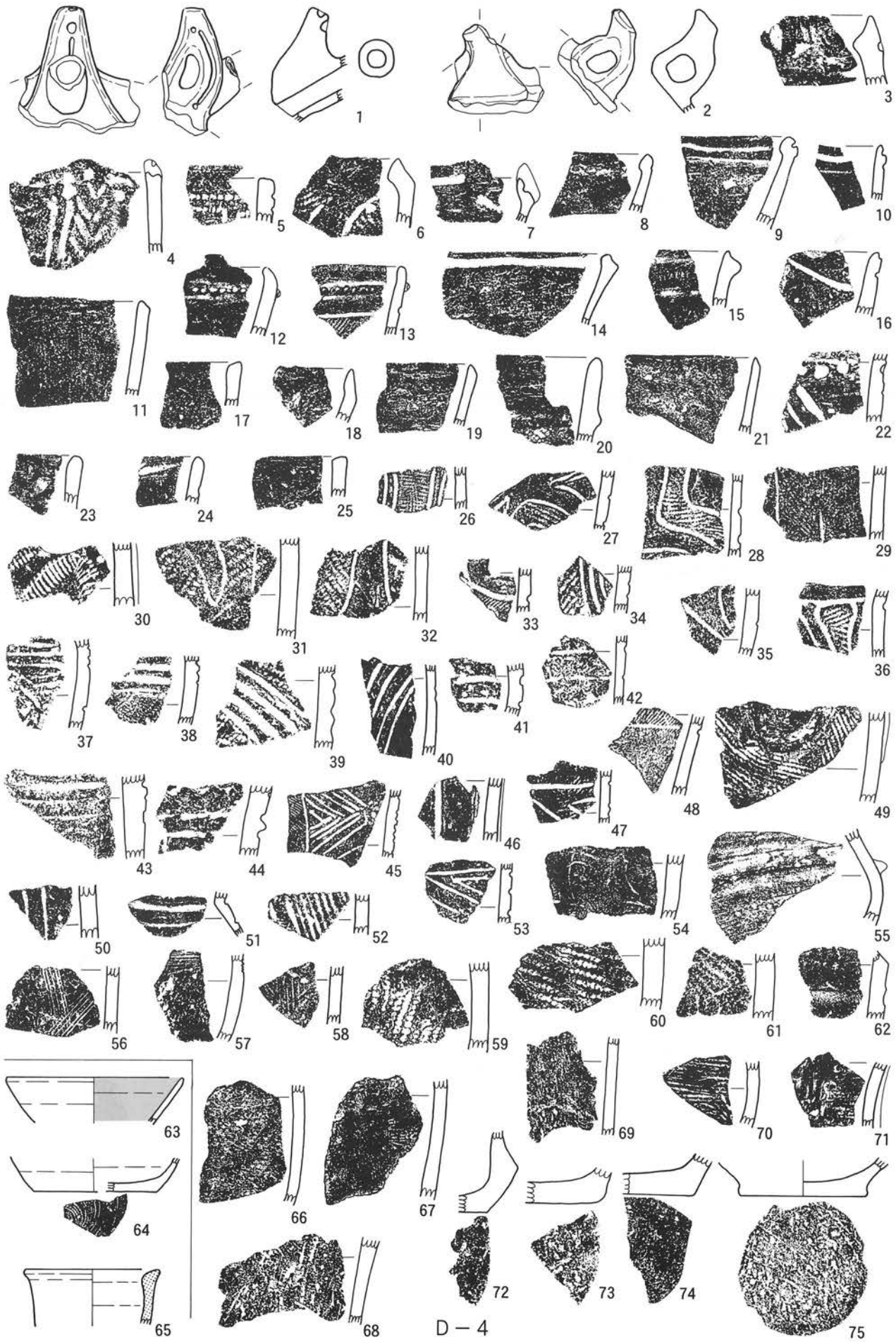


図70　出土遺物(17)

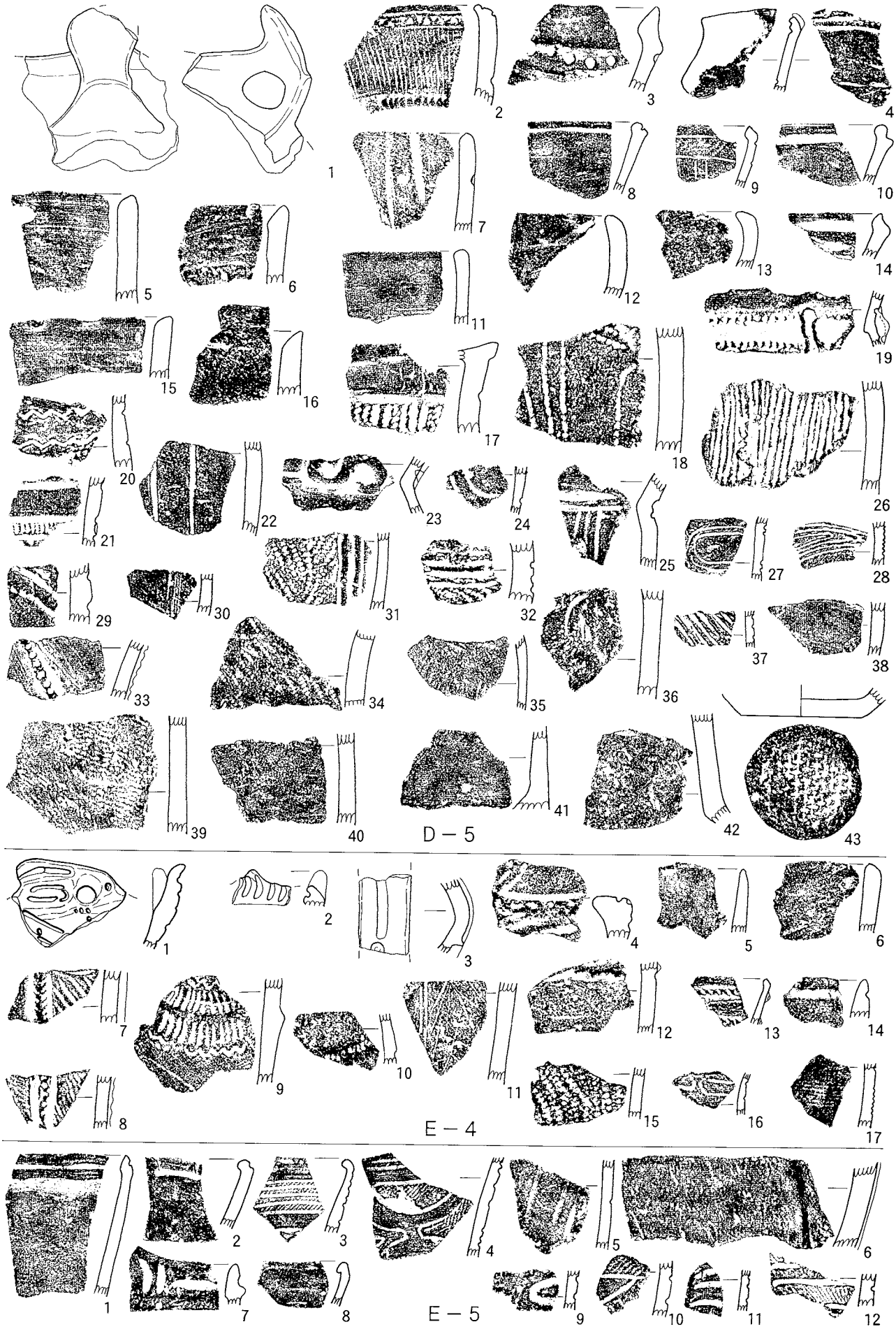
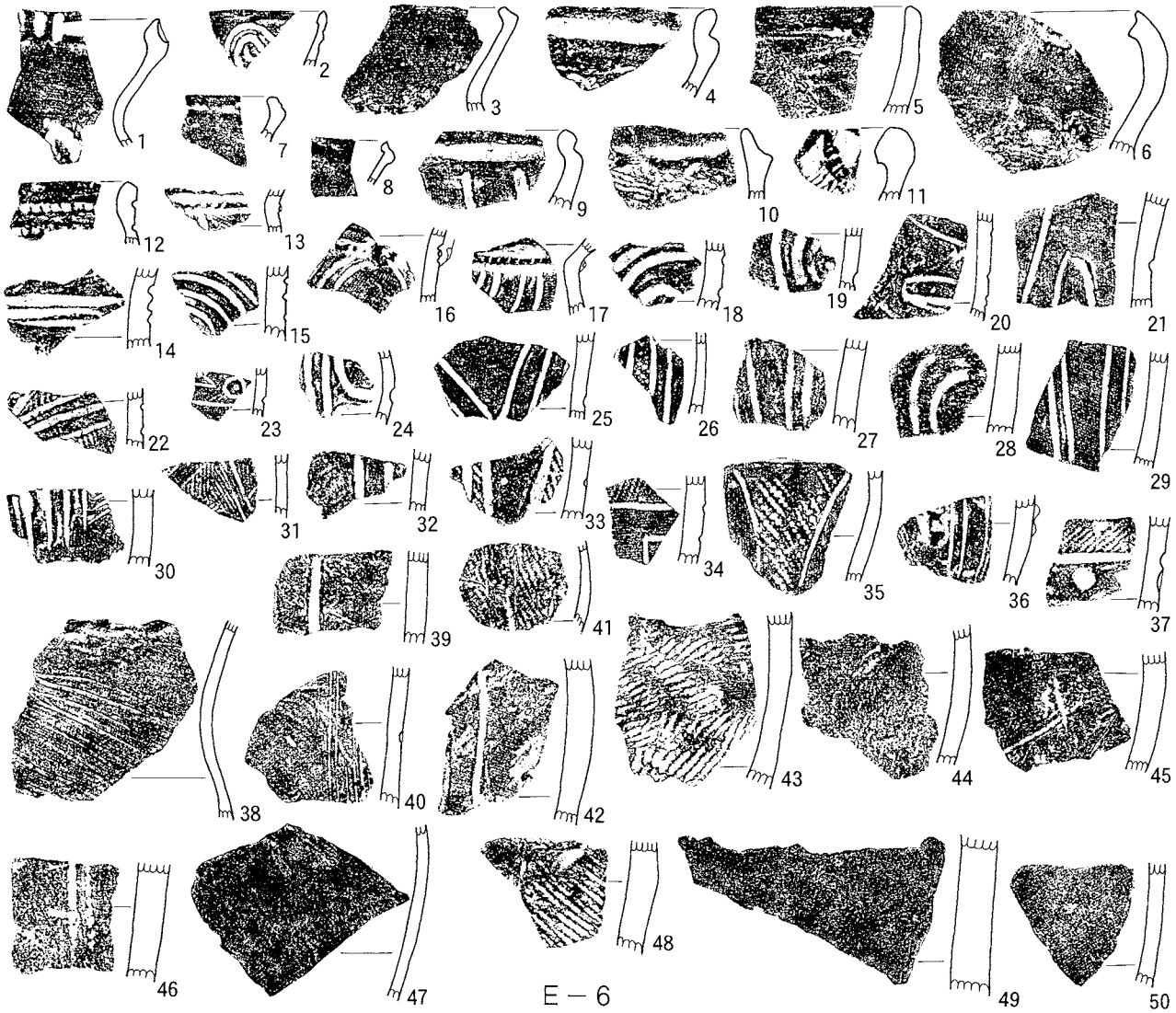
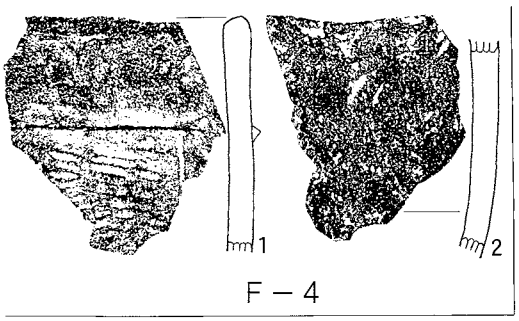


図71　出土遺物(18)





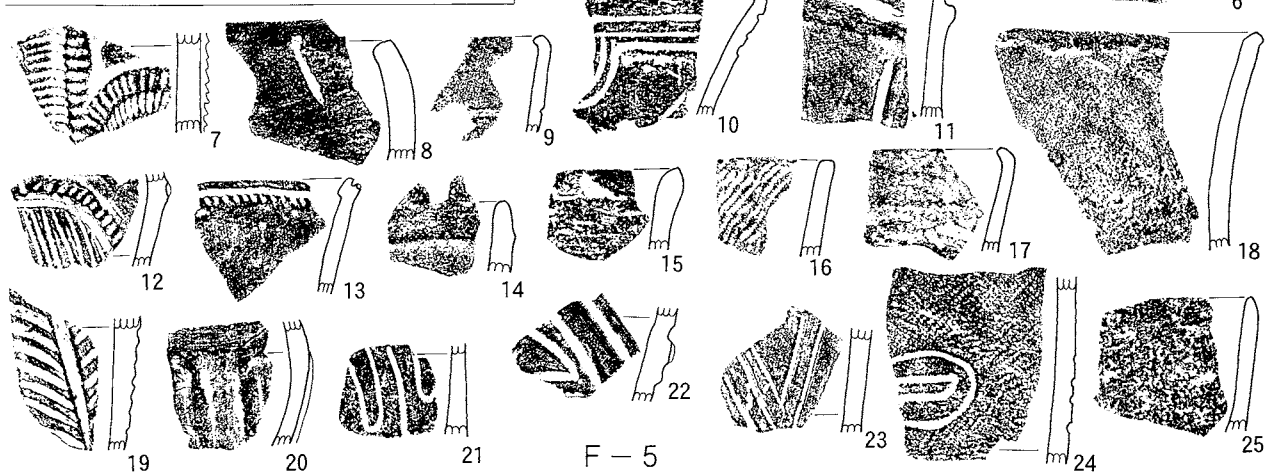


図72　出土遺物(19)

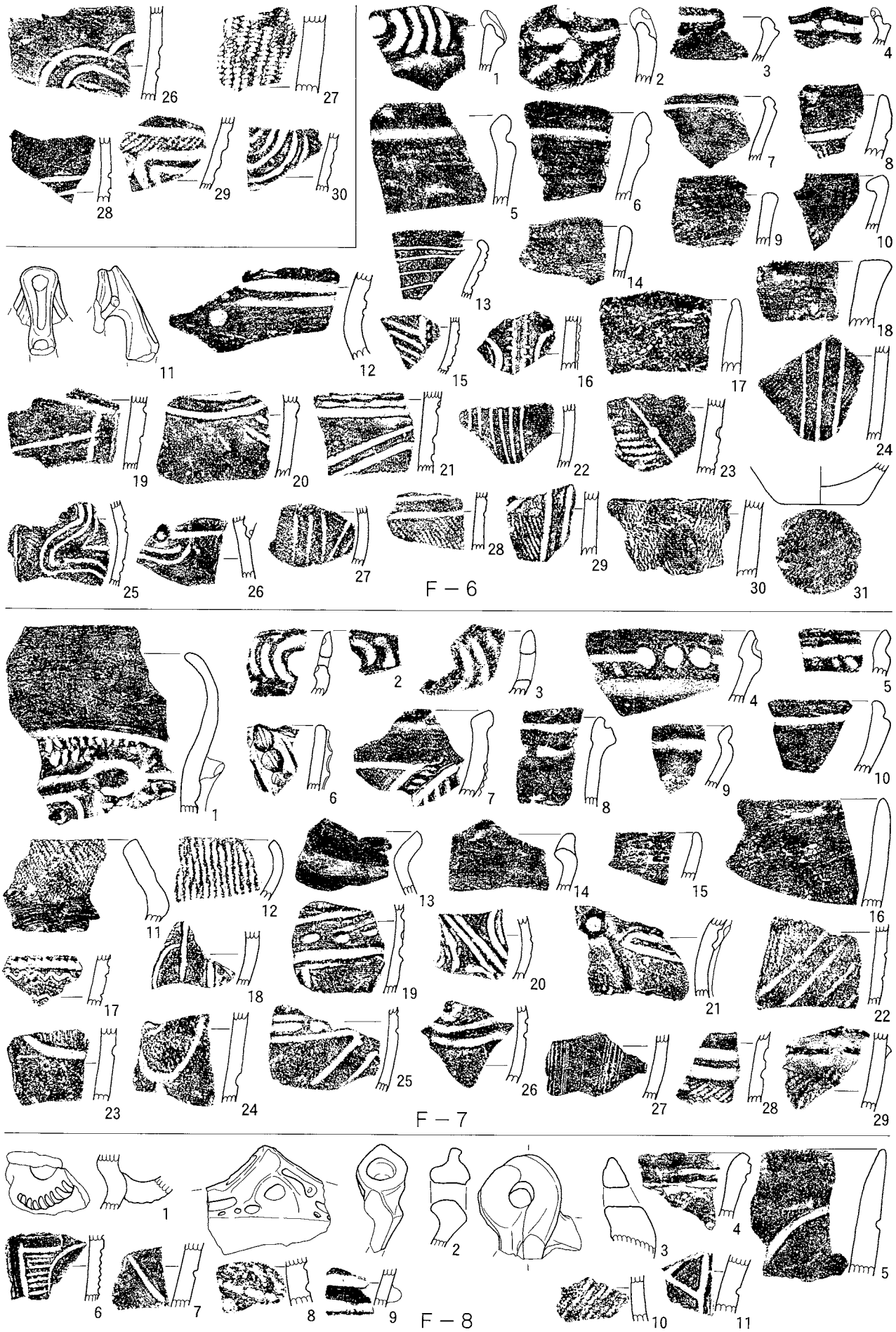


図73　出土遺物(20)

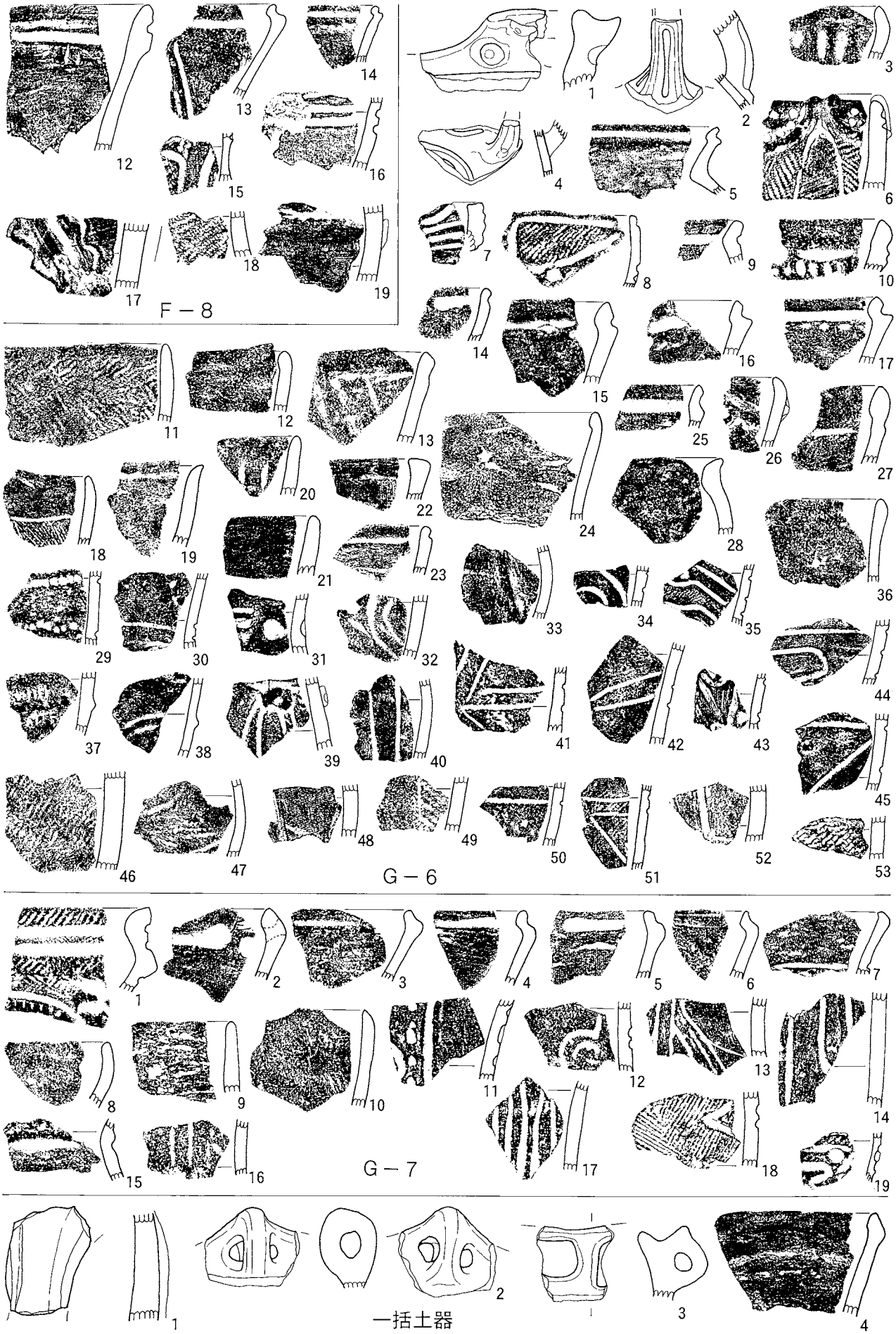


図74　出土遺物(21)

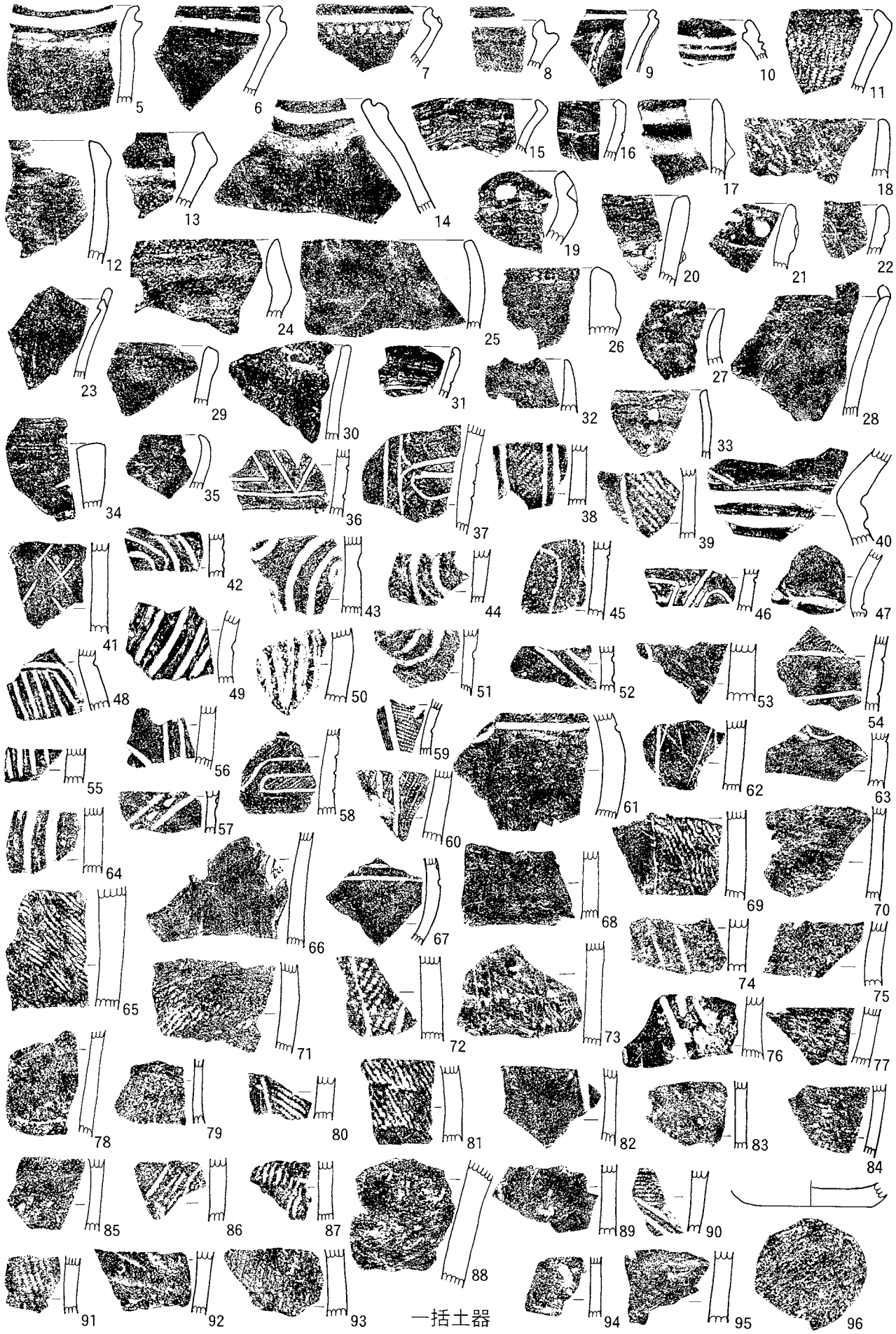
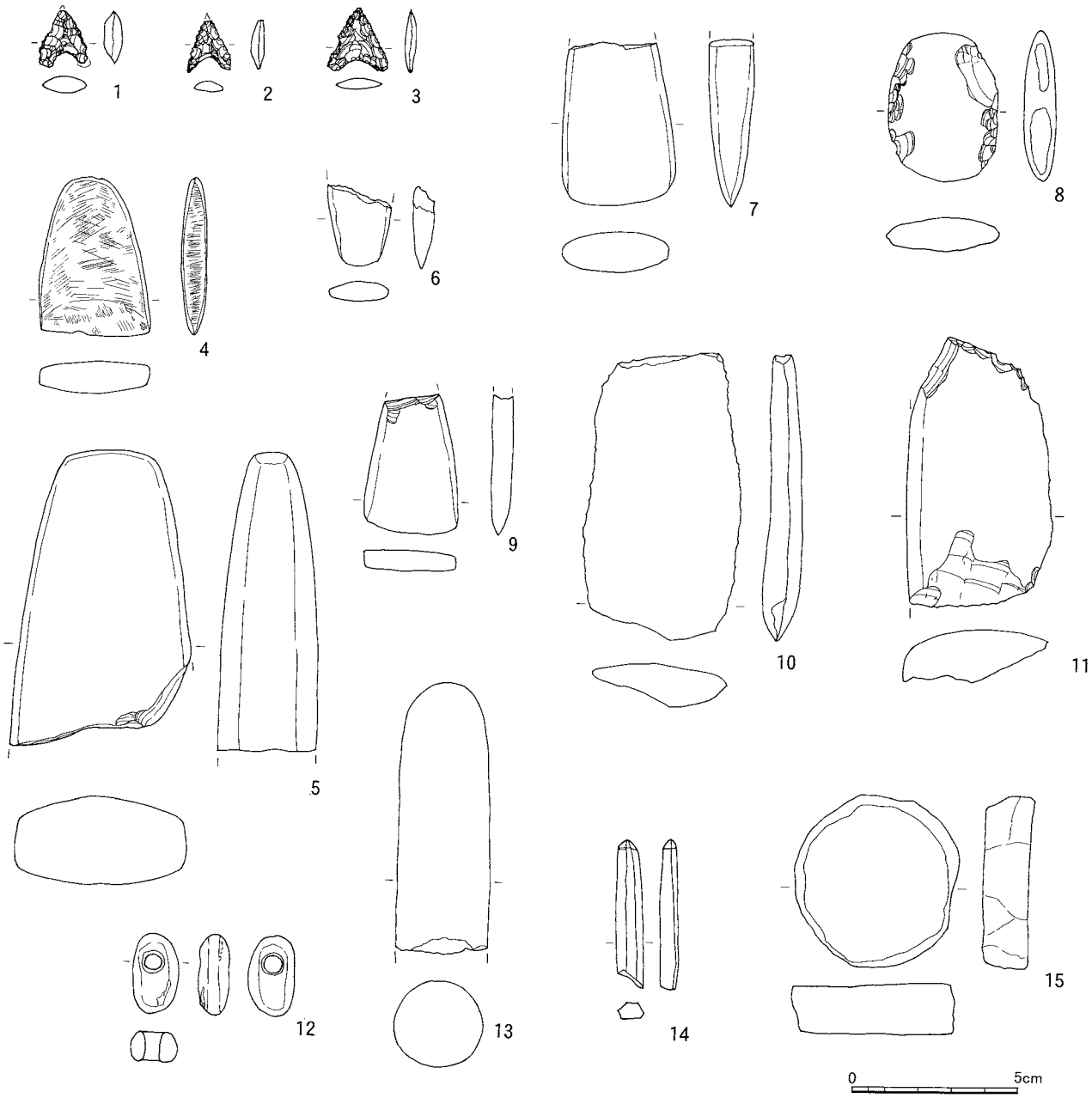


図75　出土遺物(22)

図76　出土遺物(23)



No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石鏃	1号竪穴	(1.9)	(1.5)	0.5	(1.2)	黒曜石	無茎凹基
2	石鏃	B－2	(1.6)	1.4	0.4	(0.4)	黒曜石	無茎凹基
3	石鏃	B－2	1.9	1.8	0.3	0.9	黒曜石	無茎凹基
4	磨製石斧	B－2	4.8	3.3	0.8	30	蛇紋岩	小型・定角
5	磨製石斧	B－3	(9.0)	(5.5)	(3.0)	(260)	砂岩	定角
6	磨製石斧	A－1	(2.5)	(1.9)	(0.6)	(5)	泥岩	小型
7	磨製石斧	38号土坑	(5.0)	3.4	(0.9)	(45)	緑色凝灰岩	
8	玉	F－5	4.6	3.4	1.0	25	蛇紋岩	未製品
9	磨製石斧	C－2	(4.3)	2.8	(0.6)	(18)	緑色岩	小型・定角
10	磨製石斧	C－4	(8.7)	(4.8)	(1.2)	(80)	緑色凝灰岩	
11	磨製石斧	D－4	(7.2)	(4.5)	(1.8)	(90)	緑色凝灰岩	
12	垂飾(玉)	7号住	2.5	1.4	0.9	4.4	滑石	
13	石棒	表採	(8.2)	(2.8)	(2.7)	(115)	緑色片岩	
14	水晶	3号住	4.5	0.8	0.5	3.3	水晶	自然結晶
15	石製円盤	7号住	5.3	5.0	1.6	61	凝灰岩	

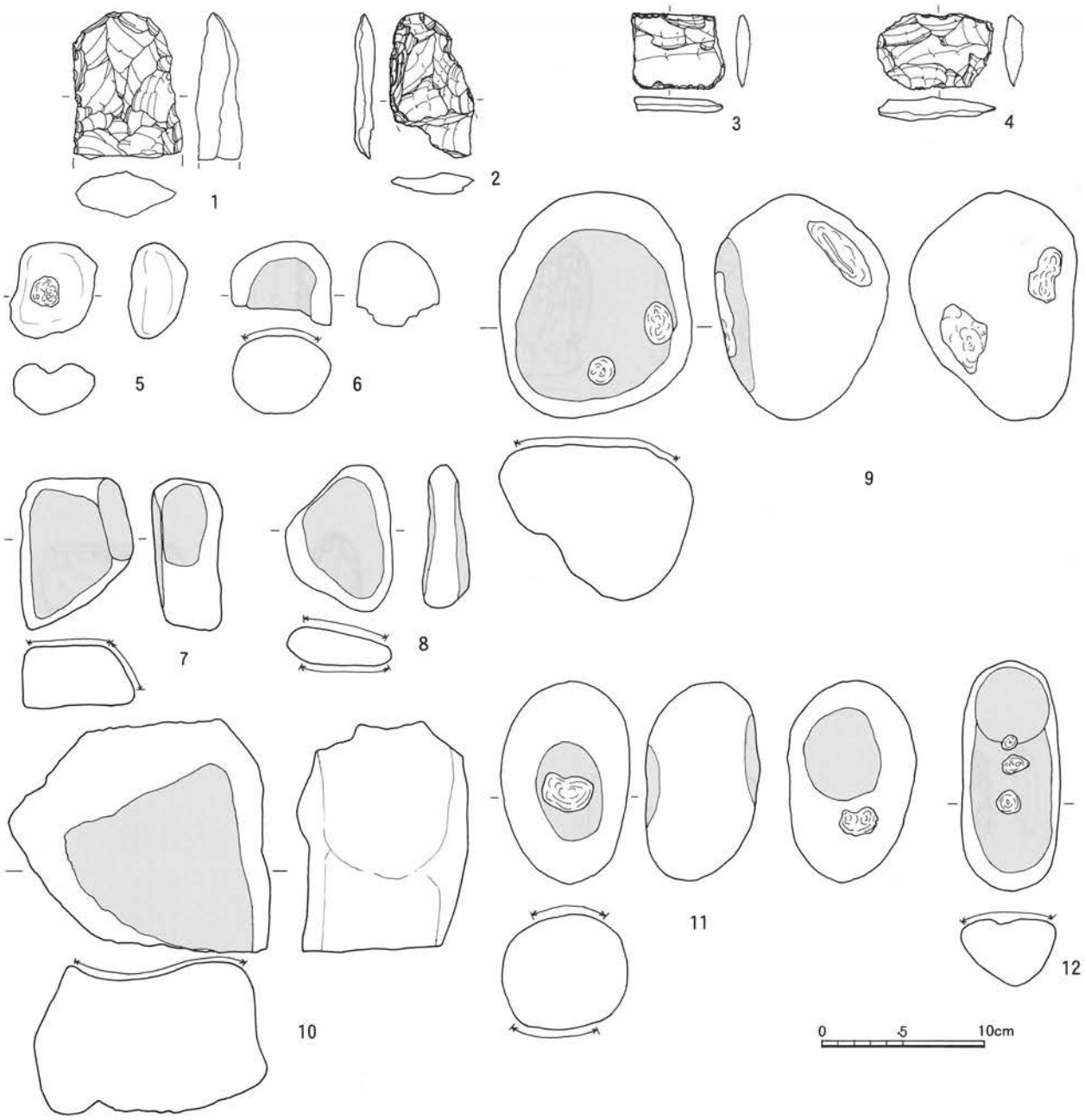
図77　出土石器(1)

No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石錘	4号住	8.6	6.9	1.4	114.9	輝石安山岩	打ち欠き・長軸
2	石錘	6号住	5.3	4.3	3.1	69.0	輝石安山岩	切目・短軸
3	石錘	7号住	7.7	7.1	2.3	122.0	輝石安山岩	切目・長軸
4	石錘	7号住	6.5	5.5	2.8	141.4	輝石安山岩	切目・長軸
5	石錘	B－1	(5.3)	4.4	1.5	(55.5)	粘板岩	打ち欠き・長軸
6	石錘	B－2	7.2	4.8	3.0	85.7	輝石安山岩	打ち欠き・短軸
7	石錘	D－4	5.0	4.4	1.8	48.6	輝石安山岩	打ち欠き・長軸
8	石錘	B－2	6.0	4.1	3.6	91.8	輝石安山岩	切目・短軸
9	石錘	C－4	6.3	5.0	2.3	84.7	輝石安山岩	切目・短軸
10	石錘	D－4	4.5	5.0	2.0	59.8	硬質砂岩	打ち欠き・短軸
11	石錘	F－5	7.1	4.6	1.4	61.6	頁岩	打ち欠き・長軸
12	石錘	F－5	7.1	6.3	2.2	128.1	砂岩	打ち欠き・長短軸
13	石錘	F－5	6.4	5.3	2.1	108.9	砂岩	切目・長軸
14	石錘	表採	6.0	4.8	2.5	92.4	砂岩	切目・長軸

図78　出土石器(2)

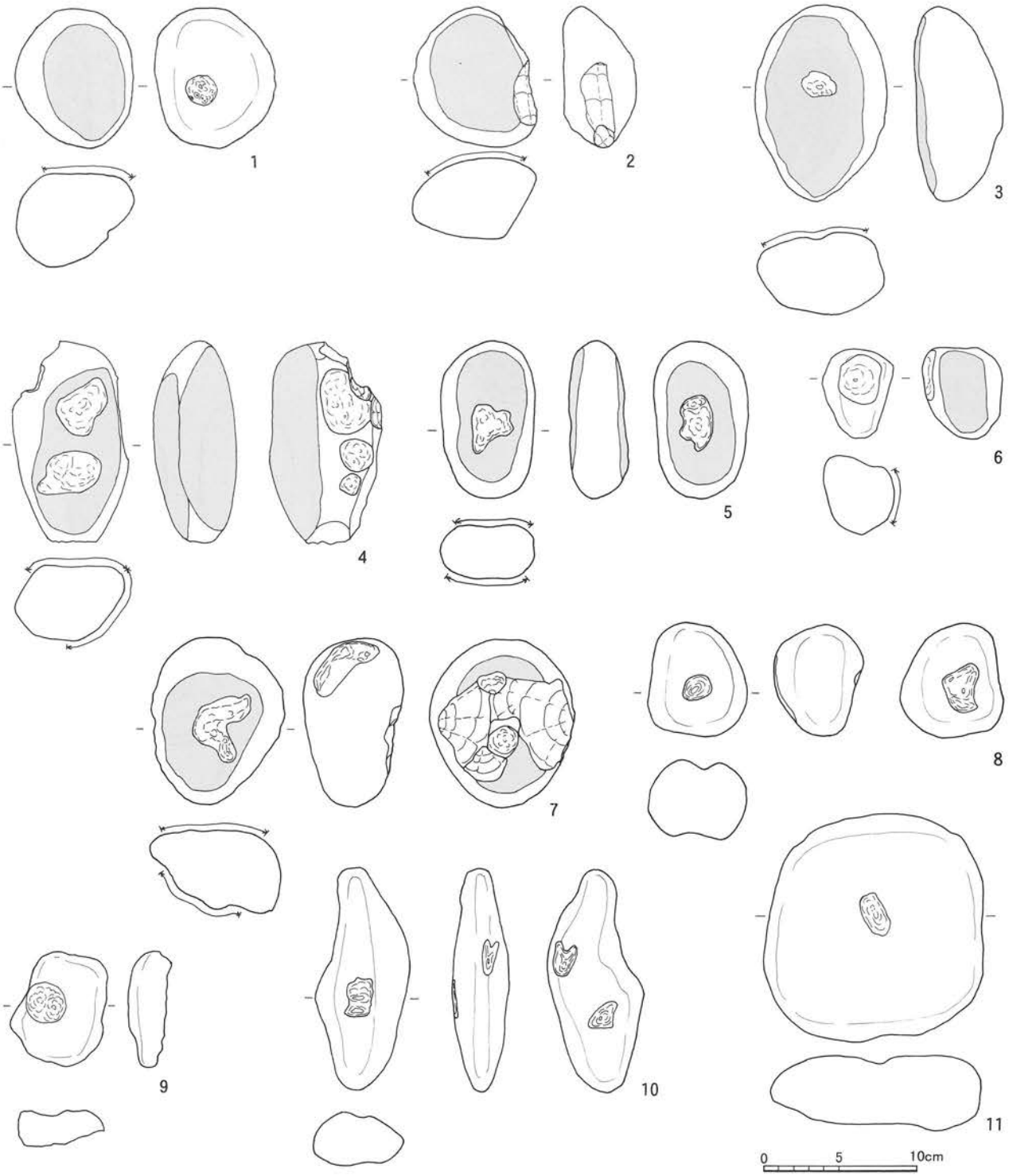
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	横刃形石器	3号住	(4.3)	(5.5)	(1.2)	(30)	頁岩	
2	打製石斧	7号住	10.2	5.7	1.6	115	砂岩	撥形
3	打製石斧	7号住	(8.0)	(4.6)	(1.4)	(75)	ホルンフェルス	短冊形
4	横刃形石器	8号住	6.7	5.6	1.5	45	砂岩	
5	打製石斧	D－4	(6.7)	(5.3)	(1.3)	(75)	砂岩	短冊形
6	打製石斧	D－4	(5.4)	(4.9)	(1.8)	(70)	砂岩	短冊形
7	打製石斧	D－4	10.8	5.5	2.1	198	砂岩	短冊形
8	打製石斧	D－4	(7.8)	(4.1)	(1.8)	(80)	砂岩	短冊形
9	打製石斧	D－5	(9.0)	5.3	(1.2)	(90)	ホルンフェルス	短冊形
10	打製石斧	E－6	(13.5)	5.8	2.3	(275)	砂岩	短冊形
11	打製石斧	表採	(10.5)	(6.3)	(2.3)	(210)	砂岩	短冊形
12	横刃形石器	表採	6.5	(8.6)	1.2	(92)	ホルンフェルス	
13	打製石斧	表採	(11.5)	5.2	2.2	(130)	ホルンフェルス	短冊形
14	打製石斧	表採	(9.8)	(5.4)	1.6	(100)	ホルンフェルス	撥形
15	打製石斧	表採	(6.3)	(4.1)	(1.2)	(40)	ホルンフェルス	撥形
16	横刃形石器	表採	4.9	8.8	1.9	80	砂岩	
17	打製石斧	表採	(5.8)	(4.3)	(1.6)	(40)	砂岩	撥形
18	横刃形石器	表採	7.5	(8.8)	1.7	(120)	ホルンフェルス	
19	横刃形石器	表採	(7.1)	(5.9)	(1.1)	(78)	ホルンフェルス	

図79　出土石器(3)



No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	打製石斧	C－3	(9.1)	(6.7)	2.9	(225)	ホルンフェルス	短冊形
2	打製石斧	1号溝	(9.0)	(5.3)	1.4	(59)	頁岩	撥形
3	横刃形石器	1号溝	4.8	5.6	1.0	50	頁岩	
4	横刃形石器	C－3	4.8	7.2	1.6	48	砂岩	
5	凹石	1号住	5.9	5.3	3.5	115	安山岩	使用面1
6	磨石	1号住	(5.2)	(6.2)	(5.1)	(150)	安山岩	使用面1
7	磨石	3号住	(9.2)	(7.0)	(4.0)	(430)	輝石安山岩	使用面2
8	磨石	3号住	9.1	6.6	2.9	190	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	3号住	13.8	11.9	9.5	1638	輝石安山岩	使用面3
10	石皿	3号住	(14.4)	(16.1)	(10.6)	(3500)	輝石安山岩	
11	磨・凹石	4号住	12.4	7.9	7.0	778	輝石安山岩	使用面2
12	磨・凹石	3号住	14.2	6.2	4.3	—	輝石安山岩	使用面1

図80　出土石器(4)



No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨・凹石	4号住	9.3	7.7	6.3	510	輝石安山岩	使用面2
2	磨石	4号住	9.4	7.5	5.4	428	安山岩	使用面2
3	磨・凹石	4号住	13.1	8.2	5.5	755	輝石安山岩	使用面1
4	磨・凹石	6号住	13.4	7.7	5.5	523	輝石安山岩	使用面2
5	磨・凹石	6号住	10.5	6.2	3.6	325	輝石安山岩	使用面2
6	磨・凹石	6号住	6.0	4.7	5.3	188	安山岩	使用面2
7	凹石	6号住	11.1	8.9	(6.6)	(690)	安山岩	使用面3
8	凹石	6号住	7.6	6.7	6.0	340	輝石安山岩	使用面2
9	凹石	6号住	(7.6)	(6.3)	(2.5)	(130)	輝石安山岩	使用面1
10	凹石	6号住	14.9	6.3	3.8	325	輝石安山岩	使用面3
11	凹石	6号住	15.3	14.4	5.0	2000	輝石安山岩	使用面1

図81　出土石器(5)

No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨・凹石	6号住	9.5	8.0	5.5	585	輝石安山岩	使用面3
2	磨・凹石	6号住	15.5	5.9	4.4	575	輝石安山岩	使用面4
3	磨石	6号住	5.7	4.8	2.7	80	輝石安山岩	使用面2
4	凹石	6号住	10.5	7.6	5.1	470	輝石安山岩	使用面2
5	凹石	6号住	11.5	8.0	5.0	530	輝石安山岩	使用面2
6	磨・凹石	6号住	12.0	10.2	6.0	1000	輝石安山岩	使用面2
7	磨石	6号住	7.2	8.0	4.8	340	安山岩	使用面2
8	磨石	6号住	14.9	9.8	3.2	520	輝石安山岩	使用面1
9	磨石	6号住	12.6	10.0	4.0	517	輝石安山岩	使用面1
10	磨石	6号住	12.8	10.5	6.0	1003	輝石安山岩	使用面2
11	磨石	6号住	9.0	5.0	4.2	200	輝石安山岩	使用面2

図82　出土石器(6)

No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨石	6号住	(10.3)	(10.5)	(2.9)	(430)	輝石安山岩	使用面1
2	磨石	6号住	8.9	5.8	4.2	430	輝石安山岩	使用面5
3	磨石	6号住	10.5	9.0	4.7	493	安山岩	使用面2
4	磨石	6号住	6.8	7.7	7.4	495	輝石安山岩	使用面1
5	磨石	6号住	13.6	7.6	3.5	468	輝石安山岩	使用面2
6	磨石	6号住	10.3	8.2	4.8	410	安山岩	使用面2
7	磨石	6号住	10.0	7.9	7.3	770	輝石安山岩	使用面5
8	磨石	6号住	10.5	7.1	2.6	270	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	7号住	11.6	8.9	5.1	550	輝石安山岩	使用面2
10	磨・凹石	7号住	9.5	8.3	5.3	443	輝石安山岩	使用面2
11	磨・凹石	7号住	10.0	6.4	5.3	360	安山岩	使用面2
12	凹石	7号住	10.3	8.3	4.1	480	輝石安山岩	使用面2
13	凹石	7号住	11.2	5.9	4.3	330	輝石安山岩	使用面1

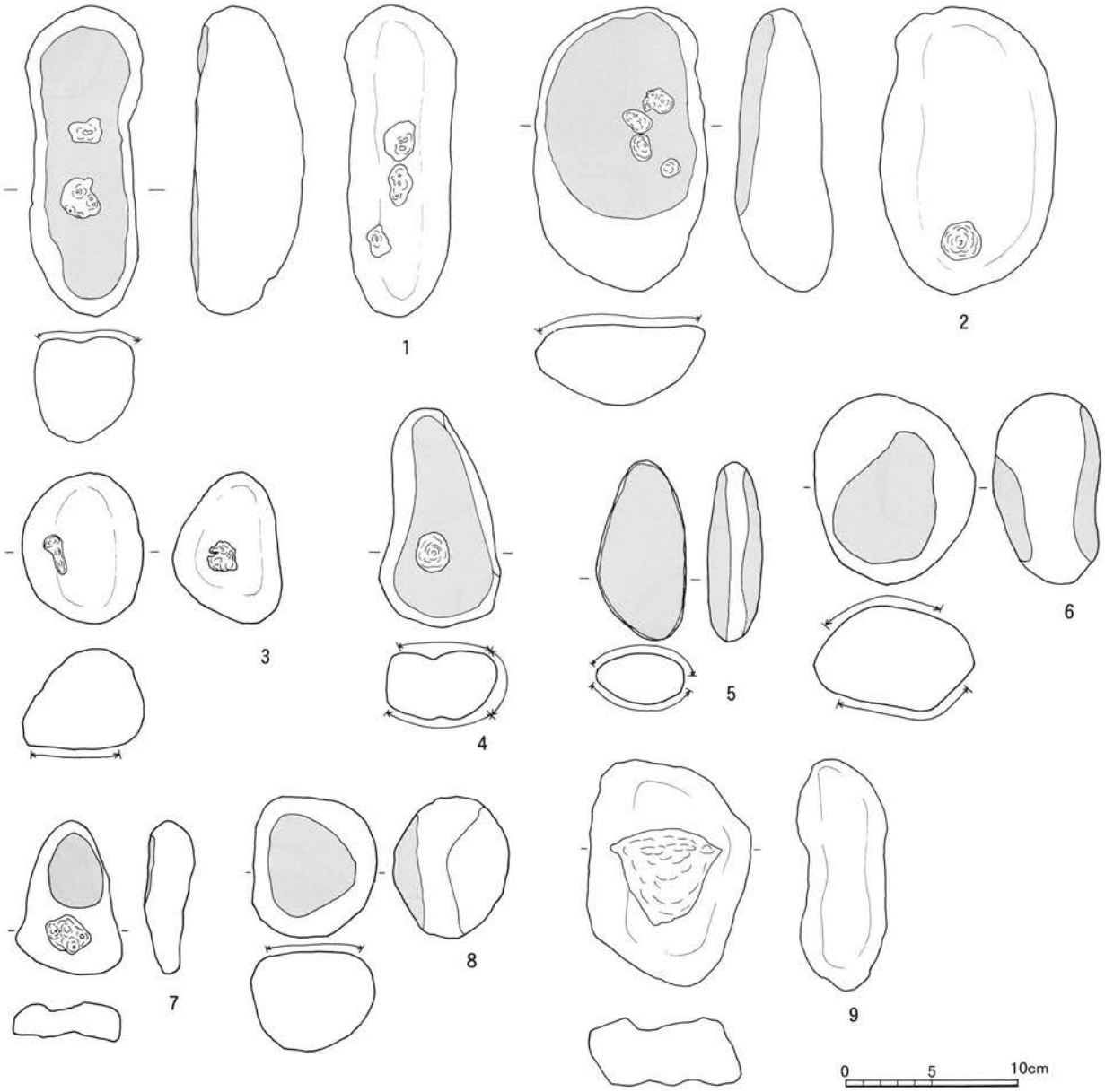
図83　出土石器(7)

No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	凹石	7号住	(11.2)	(12.3)	(4.8)	(1035)	輝石安山岩	使用面1
2	凹石	7号住	7.9	7.8	4.2	320	輝石安山岩	使用面3
3	磨・凹石	7号住	11.7	6.5	3.5	350	安山岩	使用面2
4	凹石	7号住	(8.5)	(8.2)	(3.3)	(280)	輝石安山岩	使用面1
5	磨石	7号住	12.4	9.5	7.5	1363	輝石安山岩	使用面2
6	磨石	7号住	11.4	9.3	4.8	605	輝石安山岩	使用面2
7	磨石	7号住	10.2	8.1	6.9	745	安山岩	使用面2
8	磨石	7号住	6.6	4.8	2.3	88	輝石安山岩	使用面2
9	凹石	1号竪穴	(12.4)	(17.6)	(6.7)	(1500)	輝石安山岩	使用面3
10	磨石	7号住	9.5	6.8	6.1	418	輝石安山岩	使用面3
11	凹石	2号竪穴	11.3	12.0	8.1	1045	輝石安山岩	使用面3
12	磨・凹石	2号竪穴	14.3	7.3	4.4	570	輝石安山岩	使用面2

図84　出土石器(8)

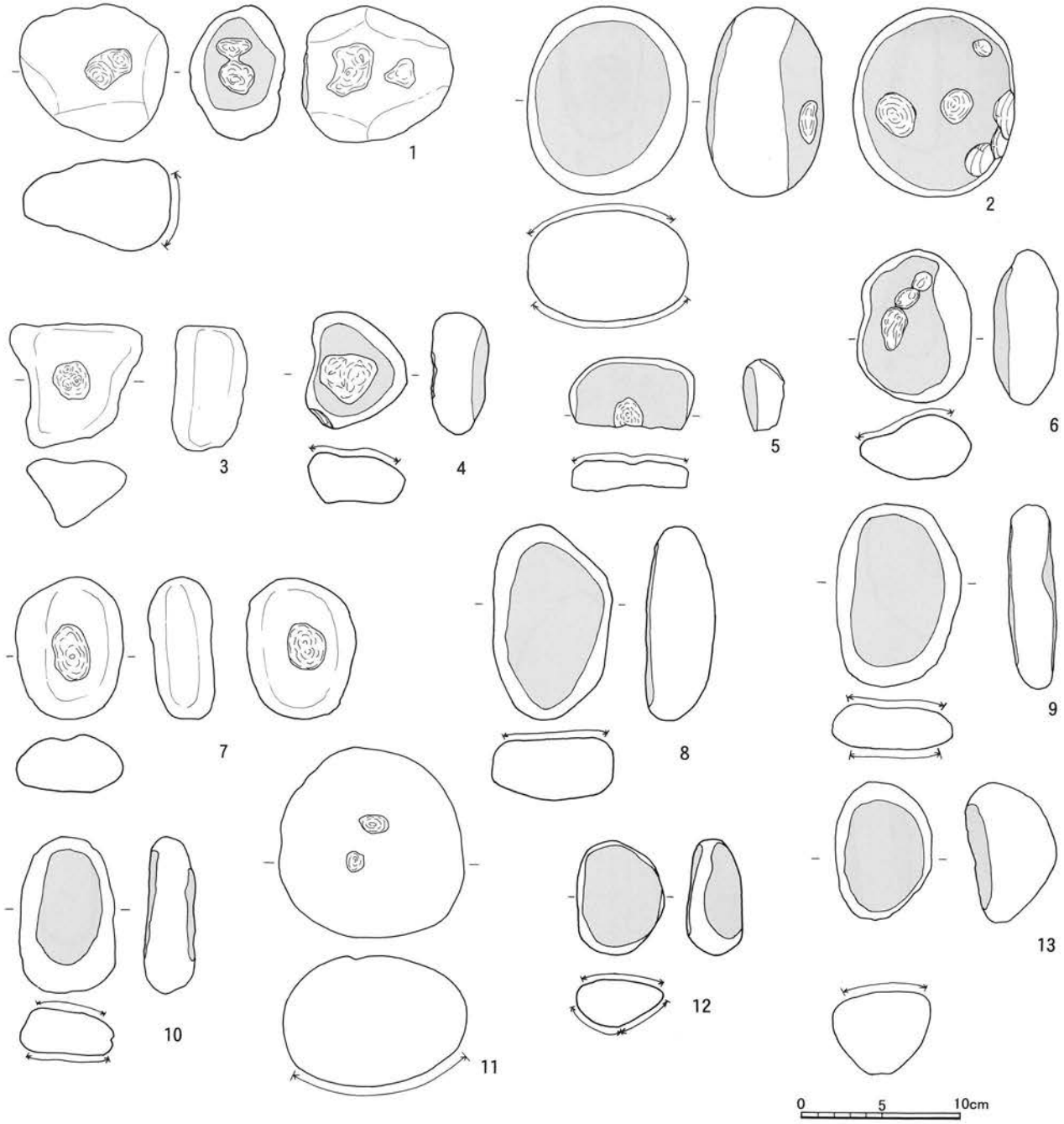
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨石	2号竪穴	(14.2)	(10.7)	6.2	(1183)	輝石安山岩	使用面2
2	磨石	2号竪穴	14.0	6.9	4.3	790	輝石安山岩	使用面1
3	磨・凹石	3号竪穴	10.9	9.4	7.3	700	安山岩	使用面2
4	磨・凹石	9号土坑	11.0	7.6	3.5	418	輝石安山岩	使用面2
5	凹石	32号土坑	(5.3)	(8.4)	(4.3)	(250)	安山岩	使用面2
6	磨石	9号土坑	8.2	8.5	5.1	390	輝石安山岩	使用面3
7	磨石	ピット69	11.0	5.5	2.9	210	輝石安山岩	使用面2
8	凹石	ピット93	9.5	(5.1)	(3.7)	(225)	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	1号溝	13.6	5.7	5.3	470	輝石安山岩	使用面2
10	磨・凹石	1号溝	12.0	8.9	6.4	910	輝石安山岩	使用面1
11	磨・凹石	1号溝	8.2	6.5	5.4	412	輝石安山岩	使用面2

図85　出土石器(9)



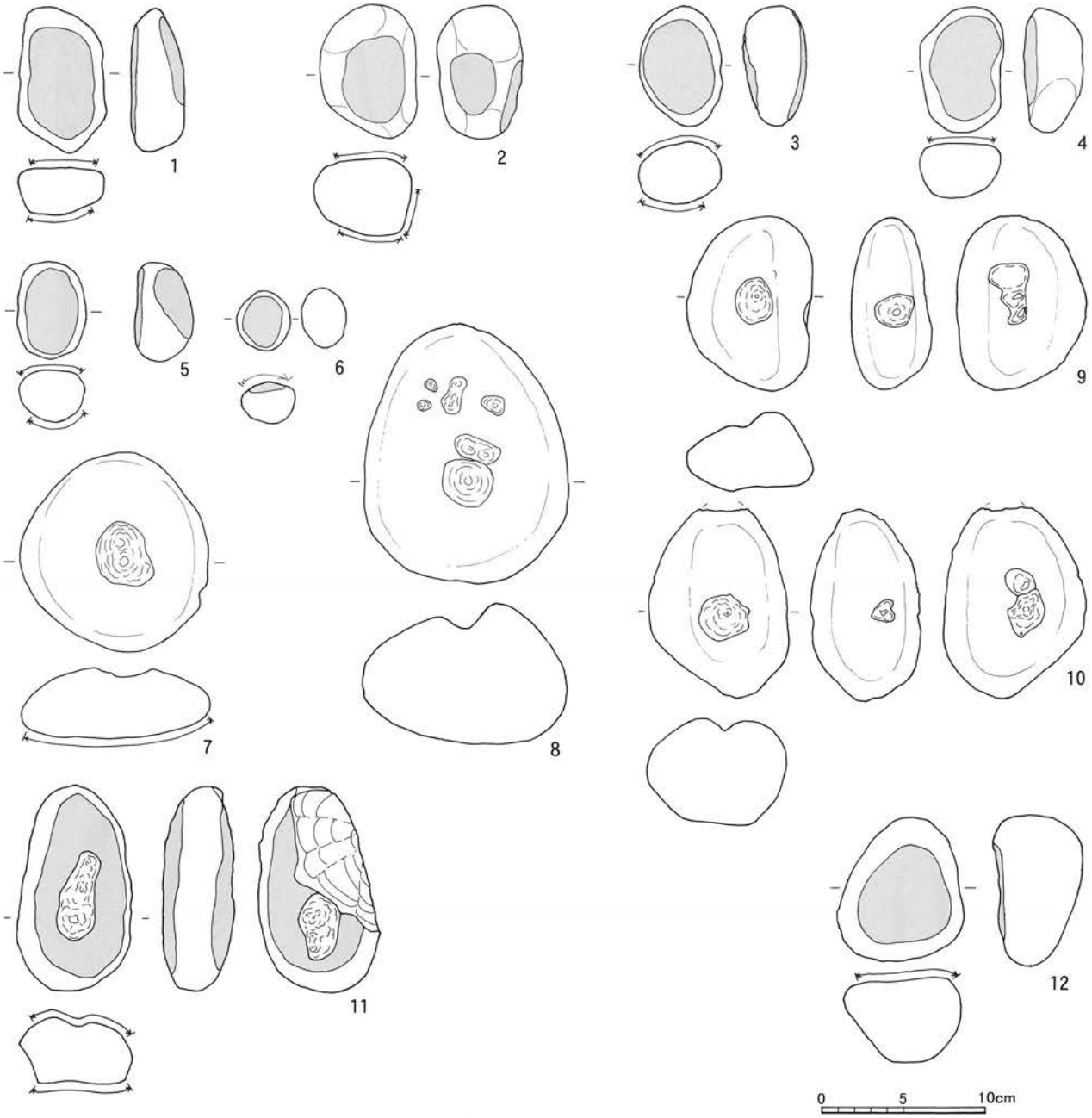
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨・凹石	1号溝	18.4	6.8	6.2	130	輝石安山岩	使用面2
2	磨・凹石	1号溝	16.7	10.1	5.6	1164	輝石安山岩	使用面2
3	磨・凹石	1号溝	8.9	7.2	6.4	405	輝石安山岩	使用面2
4	磨・凹石	1号溝	13.0	7.1	4.0	565	輝石安山岩	使用面3
5	磨石	1号溝	10.6	5.2	3.2	240	緑色凝灰岩	使用面2
6	磨石	2号溝	11.2	9.1	6.0	815	輝石安山岩	使用面2
7	磨・凹石	1号列石	(9.1)	(6.3)	(2.4)	(155)	輝石安山岩	使用面1
8	磨石	1号列石	8.3	7.4	6.8	440	安山岩	使用面1
9	凹石	1号列石	13.4	9.5	5.4	870	安山岩	使用面1

図86　出土石器(10)



No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	凹石	B－2	8.4	9.4	6.0	460	輝石安山岩	使用面3
2	磨・凹石	B－2	11.9	10.4	7.2	—	輝石安山岩	使用面2
3	凹石	B－2	7.9	8.4	4.3	300	輝石安山岩	使用面1
4	凹石	B－2	7.4	5.9	3.2	180	輝石安山岩	使用面2
5	磨・凹石	B－2	(4.4)	(7.7)	(2.5)	(125)	輝石安山岩	使用面1
6	凹石	B－2	9.7	7.3	4.2	335	安山岩	使用面3
7	凹石	B－2	9.0	6.8	4.2	300	輝石安山岩	使用面2
8	磨石	B－2	12.3	7.6	4.5	600	安山岩	使用面1
9	磨石	B－2	11.6	7.9	3.2	350	安山岩	使用面2
10	磨石	B－2	9.9	6.1	3.1	250	輝石安山岩	使用面2
11	磨・凹石	B－2	12.0	11.7	8.3	1500	輝石安山岩	使用面2
12	磨石	B－2	7.2	5.5	3.0	165	輝石安山岩	使用面3
13	磨石	B－2	8.7	6.1	5.3	390	輝石安山岩	使用面1

図87　出土石器(11)

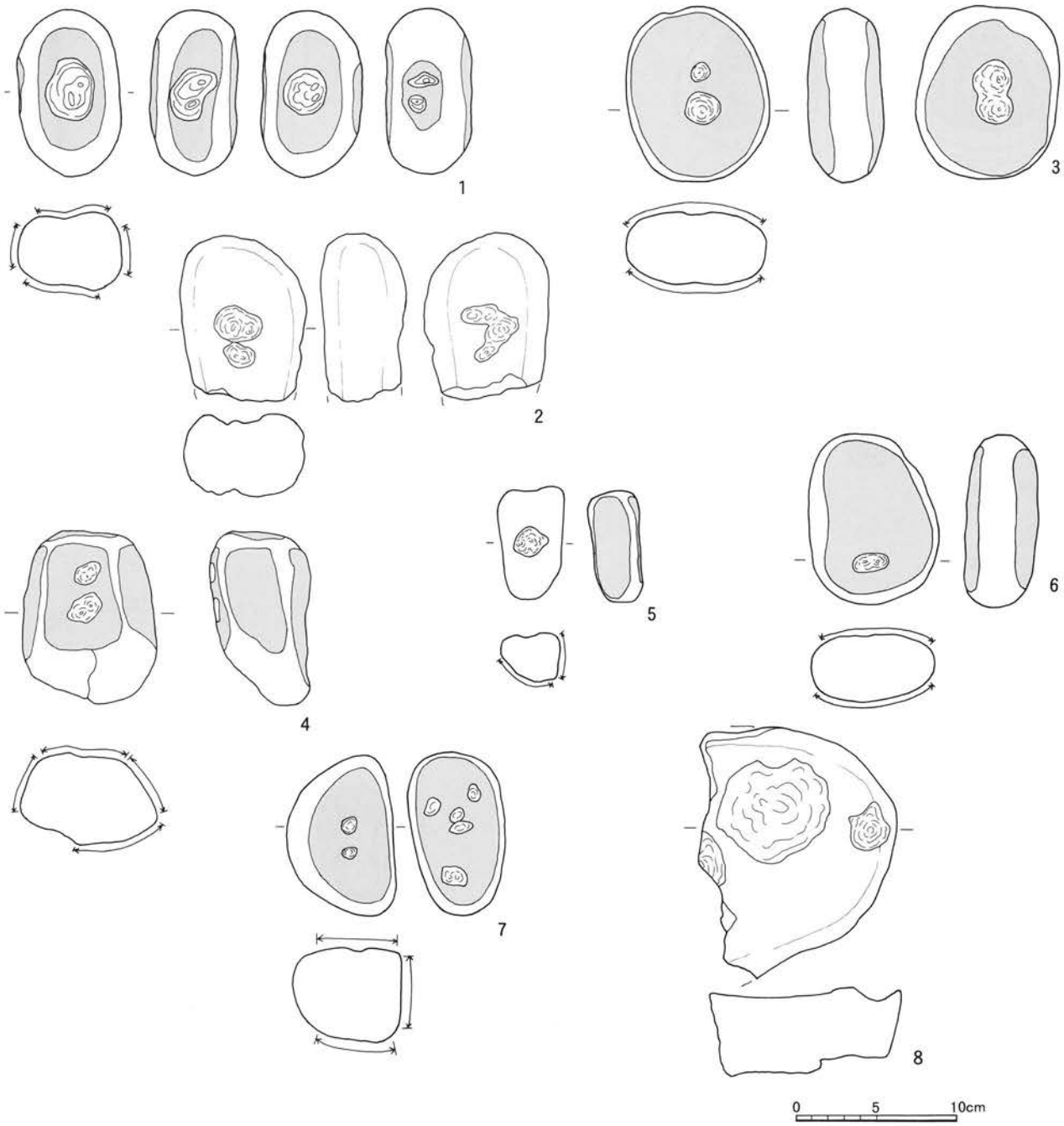


No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨石	B－2	9.0	5.6	3.2	245	輝石安山岩	使用面2
2	磨石	B－2	8.3	6.0	5.2	315	輝石安山岩	使用面3
3	磨石	B－2	7.5	5.0	4.0	183	輝石安山岩	使用面2
4	磨石	B－2	7.7	5.0	3.6	190	輝石安山岩	使用面1
5	磨石	B－2	5.9	4.3	3.2	90	輝石安山岩	使用面2
6	磨石	B－2	3.7	3.4	2.6	45	輝石安山岩	使用面1
7	凹石	C－3	12.4	11.5	4.4	735	輝石安山岩	使用面2
8	凹石	C－3	16.0	12.5	8.8	2000	輝石安山岩	使用面1
9	凹石	C－3	10.7	7.7	5.0	460	輝石安山岩	使用面3
10	凹石	C－4	(11.7)	8.7	6.8	(670)	輝石安山岩	使用面3
11	磨・凹石	D－4	12.6	7.2	4.4	453	輝石安山岩	使用面2
12	磨石	D－4	8.9	7.8	5.4	380	輝石安山岩	使用面1

図88　出土石器(12)

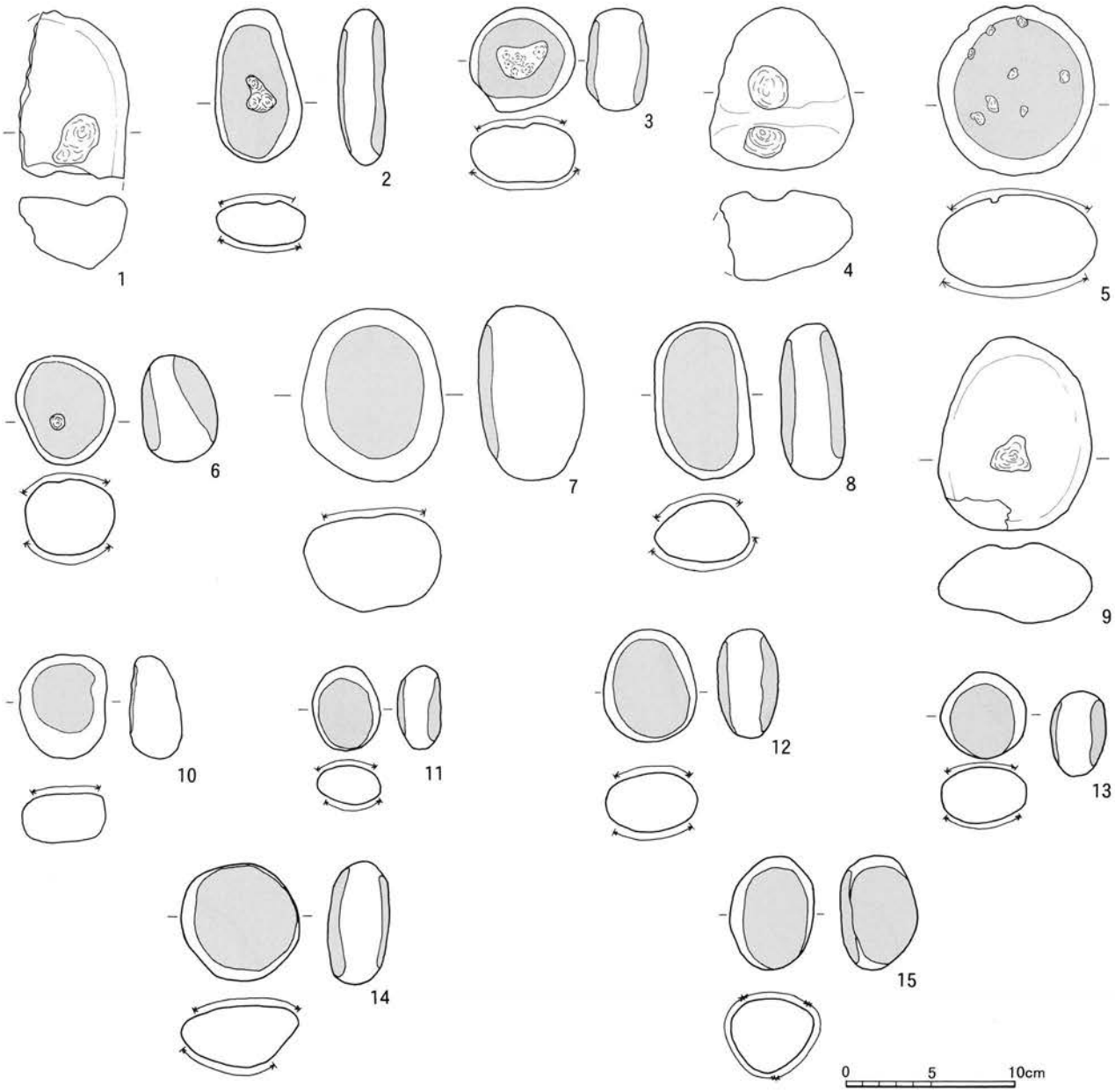
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重　量(g)	石　材	備　考
1	磨・凹石	D－4	9.0	8.8	4.1	340	輝石安山岩	使用面2
2	凹石	D－4	9.8	4.9	4.0	330	安山岩	使用面3
3	磨石	D－4	(9.8)	(6.1)	(3.1)	(255)	輝石安山岩	使用面1
4	磨・凹石	D－4	10.2	6.7	4.5	347	輝石安山岩	使用面3
5	磨石	D－5	(10.9)	(7.3)	(4.5)	(730)	安山岩	使用面3
6	磨・凹石	F－5	17.4	12.9	5.5	－	輝石安山岩	使用面2
7	凹石	F－5	13.4	6.1	4.3	490	輝石安山岩	使用面4
8	凹石	F－5	8.7	6.5	4.2	285	輝石安山岩	使用面2
9	磨・凹石	F－6	(11.1)	8.3	5.4	(695)	輝石安山岩	使用面2

図89　出土石器(13)



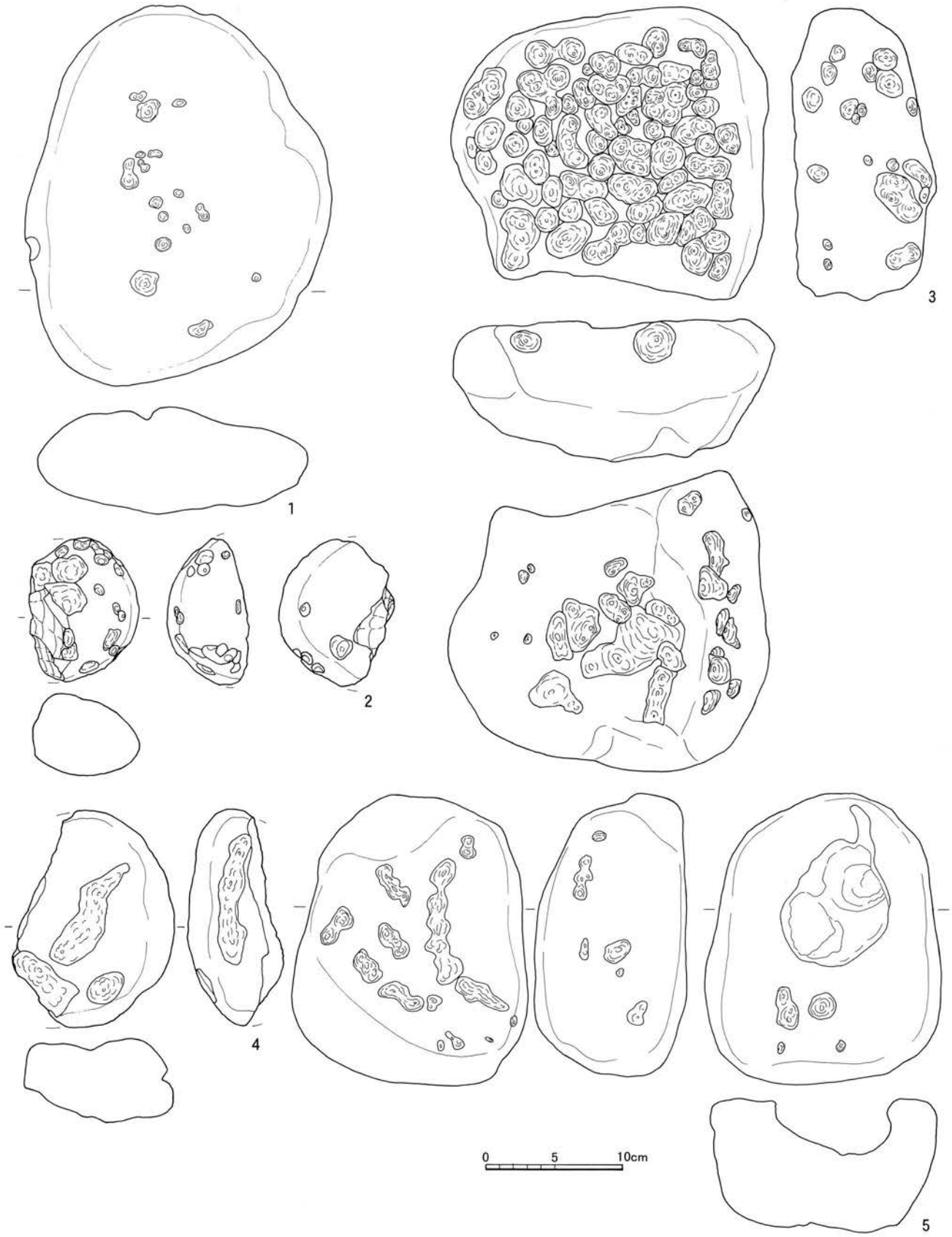
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	磨・凹石	調査区一括	10.5	6.4	5.0	470	輝石安山岩	使用面4
2	凹石	調査区一括	(10.8)	7.9	5.2	(520)	輝石安山岩	使用面2
3	磨・凹石	調査区一括	11.1	9.1	4.7	660	輝石安山岩	使用面2
4	凹石	調査区一括	10.9	8.4	6.4	700	輝石安山岩	使用面4
5	凹石	調査区一括	7.2	4.2	3.1	155	輝石安山岩	使用面3
6	磨・凹石	調査区一括	10.7	8.1	4.3	535	輝石安山岩	使用面2
7	磨・凹石	調査区一括	10.4	6.8	6.0	555	花崗岩	使用面3
8	凹石	調査区一括	(15.9)	(12.1)	5.3	(1500)	輝石安山岩	使用面1

図90　出土石器(14)



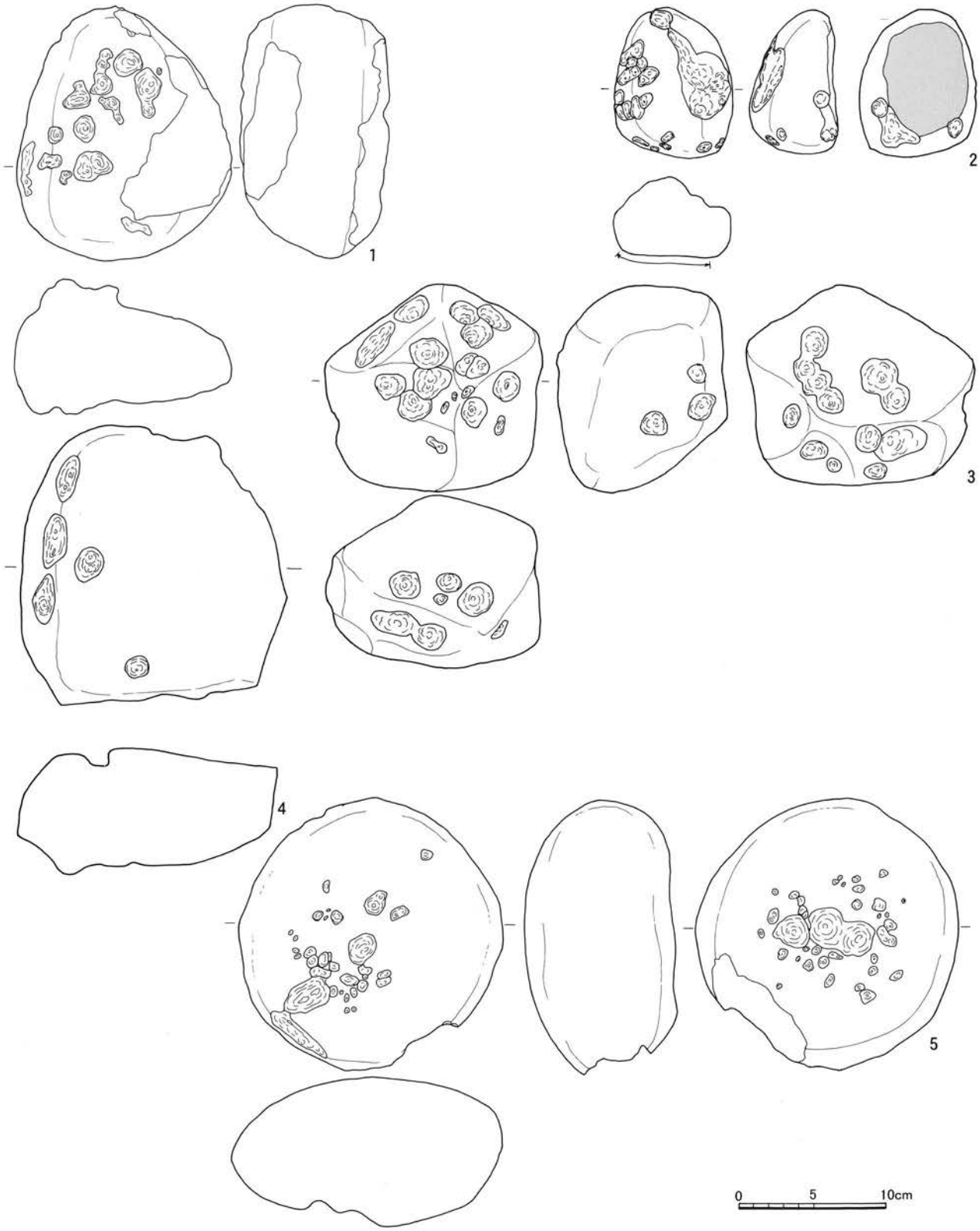
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	凹石	調査区一括	(10.3)	(6.6)	4.3	(365)	輝石安山岩	使用面1
2	磨・凹石	調査区一括	9.3	5.2	2.7	220	輝石安山岩	使用面2
3	磨・凹石	調査区一括	6.4	6.2	3.6	175	輝石安山岩	使用面2
4	凹石	調査区一括	9.9	8.1	5.5	765	輝石安山岩	使用面1
5	磨・凹石	調査区一括	10.4	9.4	5.6	660	輝石安山岩	使用面2
6	磨・凹石	調査区一括	6.5	6.0	4.6	215	輝石安山岩	使用面2
7	磨石	調査区一括	10.4	8.5	5.8	715	輝石安山岩	使用面1
8	磨石	調査区一括	9.6	6.1	3.8	310	輝石安山岩	使用面2
9	凹石	調査区一括	11.7	9.2	4.9	650	輝石安山岩	使用面1
10	磨石	調査区一括	6.3	5.3	3.1	120	輝石安山岩	使用面1
11	磨石	調査区一括	5.2	4.1	2.4	70	安山岩	使用面2
12	磨石	調査区一括	6.7	5.6	3.1	160	輝石安山岩	使用面2
13	磨石	調査区一括	5.2	5.0	3.4	110	輝石安山岩	使用面2
14	磨石	調査区一括	7.1	7.1	3.7	275	輝石安山岩	使用面2
15	磨石	調査区一括	6.9	5.1	4.5	210	輝石安山岩	使用面3

図91　出土石器(15)



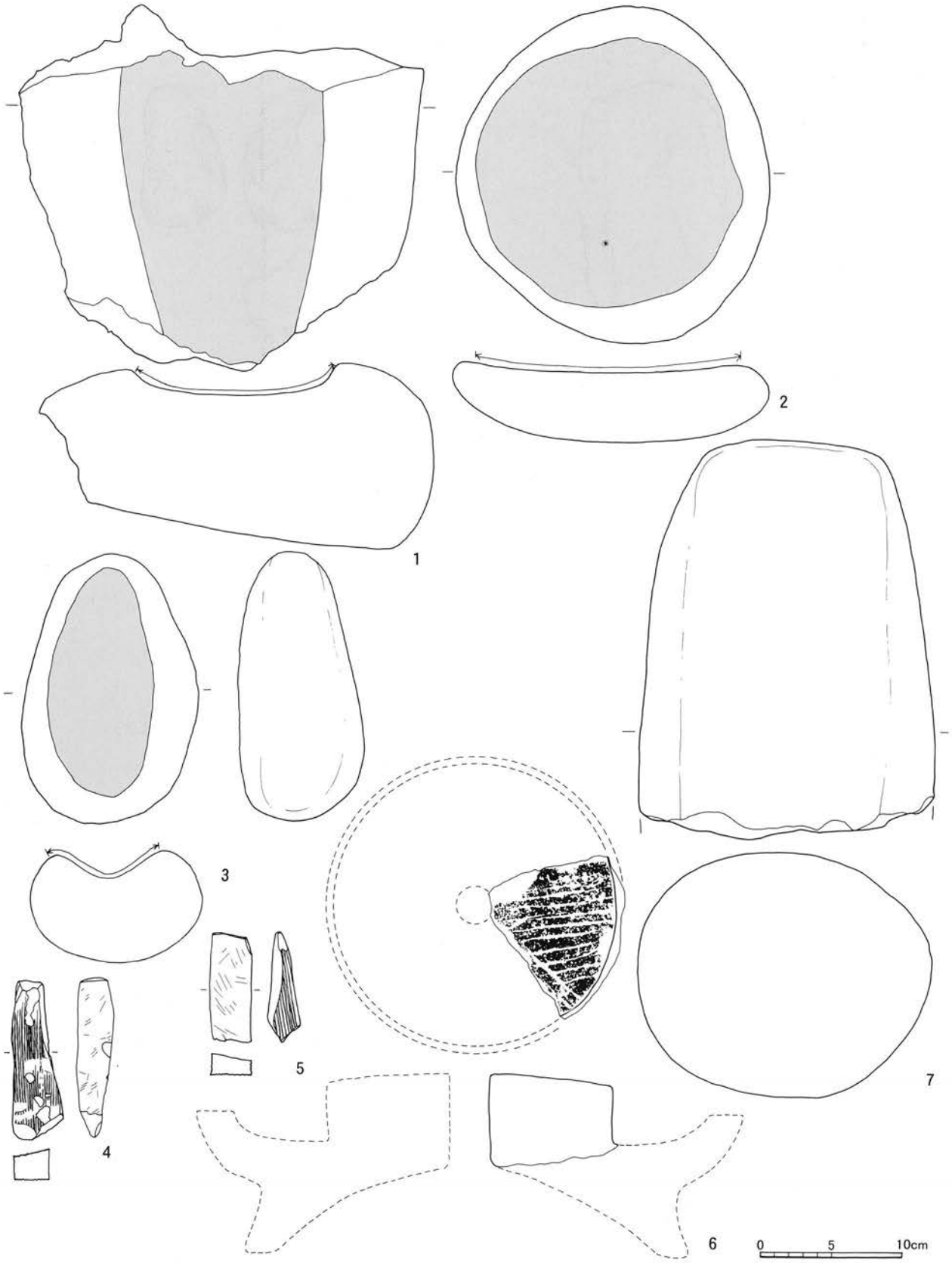
No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	多孔石	2号住	27.9	22.3	7.6	6000	輝石安山岩	使用面1
2	多孔石	6号住	10.5	(7.9)	6.0	(435)	輝石安山岩	使用面4
3	多孔石	6号住	(21.5)	(22.8)	(10.4)	(4000)	輝石安山岩	使用面4
4	多孔石	6号住	15.8	(11.3)	(6.0)	(1080)	輝石安山岩	使用面2
5	多孔石	7号住	21.2	17.0	9.7	4500	輝石安山岩	使用面3

図92　出土石器(16)



No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	多孔石	C－5	17.6	14.7	9.3	3000	輝石安山岩	使用面2
2	多孔石	B－2	10.4	8.1	6.0	510	安山岩	使用面3
3	多孔石	B－2	14.3	14.8	11.9	2500	輝石安山岩	使用面4
4	多孔石	F－5	(19.0)	(18.3)	(8.7)	(4500)	輝石安山岩	使用面2
5	多孔石	調査区一括	18.9	18.0	10.3	4500	安山岩	使用面2

図93　出土石器(17)



No.	器　種	出土位置	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石皿	61号土坑	(25.7)	(28.3)	13.1	(10500)	多孔質安山岩	
2	石皿	7号住	23.7	21.8	5.5	3500	輝石安山岩	
3	石皿	E－6	18.8	12.5	8.7	2500	輝石安山岩	
4	砥石	D－5	(11.2)	(3.5)	(2.2)	(110)	流紋岩	
5	砥石	D－5	(7.8)	(2.9)	(1.5)	(50)	流紋岩	
6	茶臼(下臼)	調査区一括	直径(23)×ふくみ幅(0.8)、6区画、溝10本			(594)	多孔質安山岩	回転方向左
7	石棒	2号集石	(28.2)	20.6	17.3	(13500)	輝石安山岩	

図94　出土石器(18)

第4章　ま　と　め

今回の調査では縄文時代・平安時代・中世の遺構・遺物が出土した。塚川地区での本格的な発掘調査は頭無遺跡に次ぐものであり、この地域の歴史の解明に役立つものと思われる。以下各時代の概要および特筆すべき点を記してまとめとしたい。

1　縄文時代

縄文時代の遺構は中期末～後期初頭の住居址２軒（小礫を敷き詰めた敷石住居含む）、堀之内式期の敷石住居２軒・列石１基、土坑数基が発見された。遺物は中期中葉から後期前半にかけての土器が出土し、その大多数が堀之内式で占められている。出土石器は磨石・凹石を中心に石鏃・打製石斧・磨製石斧・石錘・石皿・石棒等がある。

（１）小礫を敷き詰めた敷石住居について

中期末～後期初頭と考えられる３号住居址は小礫を敷き詰めた敷石住居である。県内ではこれと類似する事例は今のところ確認できない。唯一八ヶ岳西南麓の長野県富士見町唐渡宮遺跡33号住居址（図95－１）が似たような状況を示している。それは、直径が3.6mほどの小さな住居で、手のひら大の平石を一部に敷いているが、ほとんどが小礫で敷き詰められている。本遺跡の３号住居址と違い、石囲炉を伴うことから住居と断定できる。時期は曽利Ｖ式期である。また、唐渡宮遺跡29号住居址（図95－２）は住居内ではないが外側に小礫が敷かれている。調査区にかかり敷石の全体形は不明であるが、手のひら大ないし拳大前後、あるいはそれ以下の小礫が集中している。地山に礫が多く含まれており、その敷石の礫が地山に埋もれていたり食い込んだりしていたため、人工のものと判断するのに迷ったようであるが、その周辺にこのような小礫の密集したところが確認されなかったため、敷石ととらえている。住居址との関係は、調査では判断つかなかったらしいが、29号住居址と関連のあることは間違いないようである。時期は曽利Ⅳ～Ｖ式期である。

本遺跡の地山にも礫が多く含まれており、唐渡宮遺跡の地山と類似しているが、３号住居址周辺および床面の下に小礫の密集した所は確認できなかったので、３号住居址の礫が敷き詰められたものと判断した。時期も本遺跡の方が若干新しいと思われるが、中期末と考えると、これらの住居址と時期的に重なってくる。中期末に中部高地に敷石住居が出現してくるのだが、その時に平石を使わず、地山の礫で間に合わせて作ったのかもしれない。現在のところ、一般的な平石を使う敷石住居と関係があるかどうかも不明であるが、いずれにしても、敷石住居の一つの形態として、平石を使わず小礫を敷き詰めるだけの敷石住居もあるということを考えてもいいのではないだろうか。

それらとは少し違った遺構も長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡で確認されている。Ｄ－８号土坑（図95－３）であるが、3.26m×1.63mの楕円形をした土坑の側壁に偏平な礫が張り付けられ、中央に後期初頭の大型粗製深鉢が正位に埋められていた。この土器の中から骨粉が出土

しているので、この土坑は墓坑であるとしている。時期は後期初頭である。本遺跡３号住居址とは遺構の規模・土器の出土状況・敷石の状態等が異なるが、この土器は本遺跡から出土した土器（図60－48）と似ており、炉のない３号住居址が住居と断定できないだけに、同時期の遺構として見逃せないものであろう。

以上、小礫を敷き詰めた敷石住居は発見例が少なく、現在のところ分布状況・遺構の性格・一般的なの敷石住居との関連など不明な点が多い。資料の増加を期待したい。

（２）列石について

後期堀之内式期の1号列石は弧状を呈するものである。全長８ｍであり、弧の半径はおよそ10ｍである。大きい礫の下には浅い土坑が掘られており、墓坑の集合体の可能性がある。同時期の敷石住居とは約35m離れているので、居住域と墓域が区別されていたであろう。今回の調査区は北東から南西にかけてはしる沢筋にあり、南西方向が開けていてその正面に鳳凰三山の嶺々が望める。列石の軸から直交した方角が地蔵岳のオベリスクにあたるとか、冬至・夏至・彼岸の中日に地蔵岳のオベリスクに日が落ちるとかは不明であるが、この遺跡に立つと北の八ヶ岳、東の金峰山、西の甲斐駒ヶ岳、南の富士山が見えず、鳳凰三山のみが眺望できるだけなので、それを意識して作られている可能性が高いであろう。

縄文時代中期後半になると、気候変動等により社会的不安が大きくなり、集落間の結びつきが強く求められるようになり、その一端として、大規模配石等の構築といった地域での共同作業が行われ、それまでの伝統的な社会関係が変化していく（佐野・小宮山1994）ようである。本遺跡の列石もこのような社会的不安の解消、集落間の相互関係強化・維持のために作られたのであろう。大泉村金生遺跡、高根町青木遺跡・石堂Ｂ遺跡と行った大規模配石を伴う遺跡は、現在水田になっている低地から発見されており、本遺跡も同様に低地に立地している。

（３）石錘について

本遺跡から石錘が14点と数多く出土している。北巨摩郡内で石錘は、韮崎市宿尻遺跡（1点、中期）・後田遺跡（１点、中期）・宮ノ前遺跡（３点、中～後期）・新田遺跡（27点、後期）・三宮地遺跡（１点、晩期）、双葉町唐松遺跡（４点、中期）、明野村屋敷添遺跡（27点、中～後期）・清水端遺跡（４点、後期）・神取遺跡（１点、時期不明）、須玉町上ノ原遺跡（100点以上、後期）、白州町板橋遺跡（１点、早期）、高根町青木遺跡（４点、後期）・社口遺跡（６点、後期）・川又坂上遺跡（２点、後期）、大泉村甲ッ原遺跡（１点、後期）・金生遺跡（８点、後～晩期）から出土している。この中で、上ノ原遺跡・新田遺跡・屋敷添遺跡が数多く石錘を出土する遺跡であり、県内でも大月市大月遺跡で22点の出土が見られるくらいで、石錘が出土する場合はほとんどが10点未満の点数である。本遺跡も14点出土しているので、石錘の多い遺跡といえるであろう。

これらの遺跡で共通することは、後期の、それも堀之内式期を中心とした遺跡であり、敷石住居や配石遺構が発見されていることである。そして、石錘の出土状況をみると、住居内からの出土が少なく、配石遺構や土坑の中およびその周辺からの出土が目立っている。遺構外出土の遺物は、近くの遺構と関係していたかどうかは判断しづらいが、出土点数の少ない他の遺跡

の出土状況を見ても、配石遺構や土坑の中およびその周辺から出土していることが多い。これは偶然の可能性も否定できないが、多くの遺跡で見られる傾向であるので、石錘と配石遺構や土坑が何か関連していると考えてもいいであろう。

また、石錘の推定時期を見ると早期から晩期まで出土しているが、点数が多くなるのは後期堀之内式期である。称名寺式期までは数点しか出土しないが、堀之内式期になり急激に出土量が増える。前出の上ノ原遺跡・新田遺跡・屋敷添遺跡は堀之内式が主体の遺跡であり、本遺跡も堀之内式が主体の遺跡である。渡辺誠氏の説によると中期前葉に東関東で発達した土器片錘が、中期後半に土器から石への素材転換を伴い、中部高地に伝播していく（渡辺1973）ようである。山梨県においては中期後半に石錘が増え始め、後期堀之内式期に急増してくる。しかし、次の加曽利Ｂ式期以降になるとまた出土数が減り、堀之内式期の出土数が突出している。

石錘は従来漁網錘や編み物用の錘と考えられてきた。しかし、石錘の遺跡内での残され方は、配石遺構や土坑周辺が多い。漁網もしくは編み物用具の保管は素直に考えると、住居内が妥当であろう。実際に、弥生時代や平安時代の住居内から細長い礫が10数個まとまって出土する事例がいくつかあり、それらが編み物用の錘と考えられている。また、保管された状態でなく、廃棄された状態の出土を考えると、やはり、住居覆土内からの出土が多くてもよいであろう。しかし、山梨県内の石錘の出土状態を見ると配石遺構や土坑周辺から出土する場合が多く、何か意味があるように思えてくる。石錘が漁網錘や編み物用の錘として使用されていたことは否定しないが、遺跡からの出土状況を見る限り、石錘が廃棄される時、祭祀行為や葬送行為が関係していたのではないであろうか。その時の具体的な関係は現在のところ分からないが、漁網錘や編み物用の錘以外の使用も考えられるであろう。

本遺跡も、南に約50ｍ行くと鳩川に出るので、石錘を使用した網漁活動があったであろう。しかし、図78－11のように土坑の副葬品と考えられる出土がみられるため、全部ではないが、石錘の廃棄時に祭祀あるいは葬送行為と関係していると思われる。

2　平安時代

平安時代の遺構は住居址４軒、掘立柱建物跡１棟が発見された。住居址の帰属時期は出土土器と切り合い関係で、５号住居址が４号住居址より古く甲斐型土器編年Ｘ期である。１・２・４号住居址の時期は、出土土器をみると甲斐型土器編年XI期～XII期と思われるが、１・２号住居址と４号住居址とではカマドの位置が異なり、５号住居址と同じ方向の４号住居址が１・２号住居址より古いと考えられる。また、出土した甲斐型坏を比べると２号住居址の方が、玉縁化が進んでいるようなので、少し新しいと考えられる。１号住居址は出土遺物がほとんどなく、時期決定は難しいのだが、２号住居址とカマドの位置が同じであり、住居の掘り込みも４・５号住居址と違い、２号住居址と同じくらいの深さであるので、２号住居址と同時期と思われる。よって、平安時代の住居は、５号住居址（Ｘ期）→４号住居址（おそらくXI期）→１・２号住居址（おそらくXII期）と変遷していく。掘立柱建物跡は４・５号住居址に隣接し、遺構の軸がほぼ同じなので、４・５号住居址と同時期と思われ、Ｘ～XI期であろう。

平安時代の実年代は、甲斐型土器研究グループの編年研究により、Ⅹ期が860年～880年、Ⅺ期が880年～920年、Ⅻ期が920年～960年と考えられている。この土地には９世紀後半から人々は住み始め、およそ100年間継続してこの土地を集落として利用してきた。

平安時代の八ヶ岳山麓では、９世紀半ば以降新たに集落が形成され、10世紀前半に繁栄し、10世紀後半に突如として廃絶していくことが知られている。８世紀前半代の生産力の停滞を打破するために、当時の律令政府は「三世一身法」「墾田永世私財法」等の開墾奨励策を打ち出した。それにより、平地部の富豪百姓層が没落農民や浮浪農民を支配し、共同用益地であった八ヶ岳山麓一帯の開墾を推し進めていったと考えられる（萩原1986・岡本1990）。これが、９世紀半ばに集落が急速に形成された要因であろう。しかし、それが租を納めなくてもよい公田として開墾されたために、律令政府は再び、そこから収奪できるように国家体制および土地制度を改革し、それで経営基盤の弱い富豪百姓層は農業経営に行き詰まり、この地からの撤退を余儀なくされたと思われる。10世紀半ばに集落が激減するのはこのためであろう。

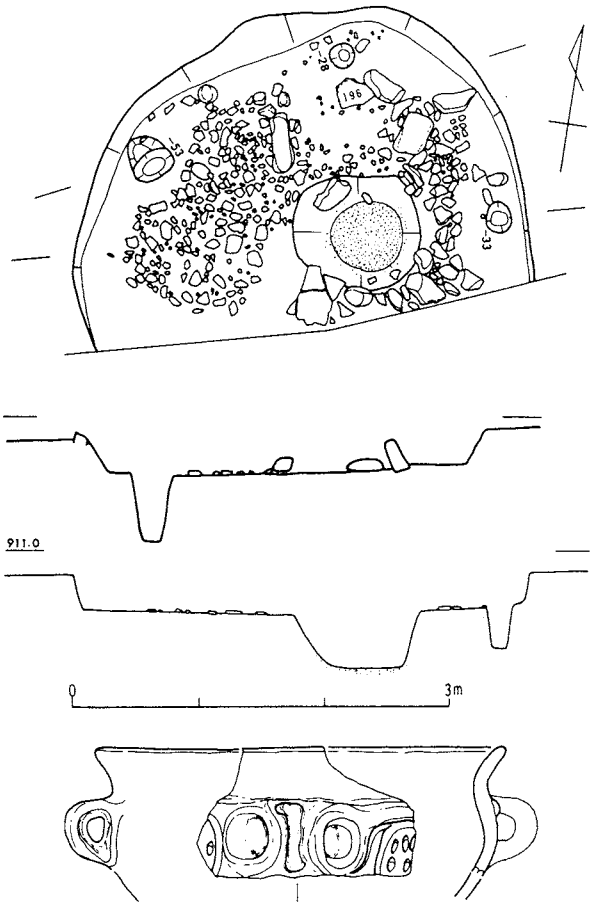
本遺跡も９世紀半ばから10世紀半ばまでの集落であり、八ヶ岳山麓の開墾に合わせて進出してきた集落と考えられる。農業経営の盛衰の一端を示しているこの集落が、圃場整備という現代の農業経営基盤整備事業で発見されたことは、意味深である。平安時代では経営に行き詰まり撤退を余儀なくされたが、現代においてはどうであろうか。この歴史を教訓として、平安時代の二の舞を演じないことを願うのみである。

３　中世

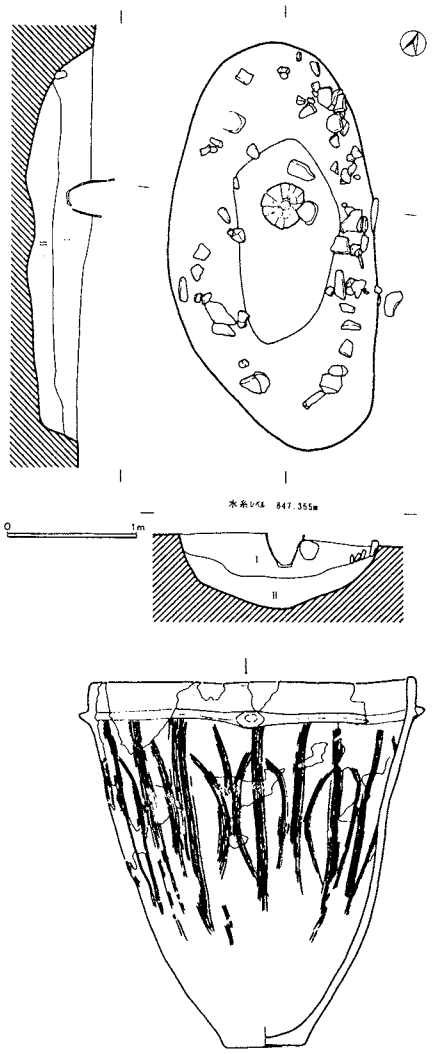
中世のものと考えられる遺構に竪穴遺構２基がある。１号竪穴は形状からみると井戸と考えられる。２号竪穴はカマドに似た石組遺構を持つ楕円形をした竪穴であるが、どういう性格の遺構か不明である。規模が3.4m×2.8mと小さく、石組遺構もカマドとして使われていた様子はなく、その遺構だけでは住居址とは考えにくい。２号竪穴の東側周辺には柱穴のようなピットが数多くあるので、それらが掘立柱建物となり、２号竪穴がその建物の付属施設あるいは建物内の一部である可能性が考えられる。

石組遺構をカマドと考え２号竪穴を土間の調理場とすると、普通カマドは建物の外壁に造られ、煙を外に出すように設置するであろう。しかし、２号住居址を掘立柱建物の一部と仮定すると、石組遺構は建物内部に向くことになり、煙を排出するには不都合であろう。そのため、掘立柱建物の一部と考える時は、石組遺構はカマドとは考えにくい。逆に２号竪穴の西側に建物跡が展開していたとも考えられるが、現段階では調査区外にあたりピットが確認できておらず、なおかつ、そこには水路が流れ、対岸が急な斜面で立ち上がっているので、その考えには無理がある。石組遺構がカマドでなく別のものとして機能していて、竪穴の東側に掘立柱建物跡が展開していたと考える方が妥当であろう。

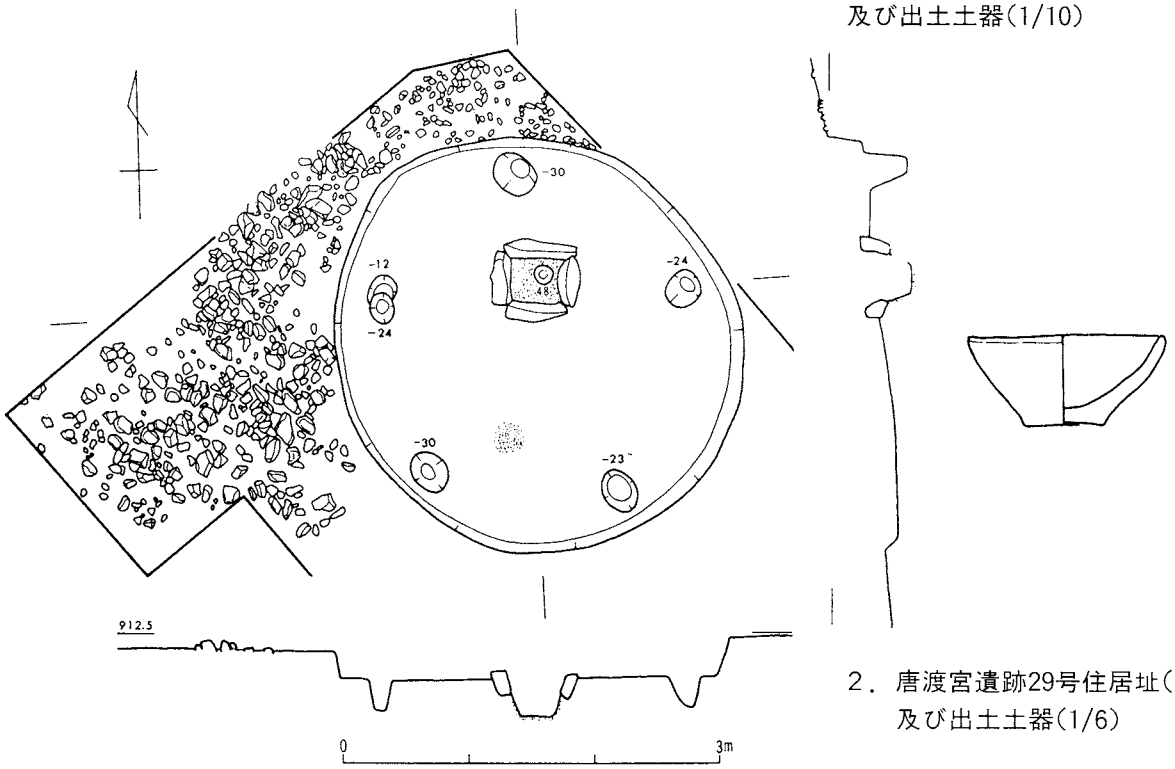
詳細な時期は不明であるが、この建物跡は中世（13～16世紀）のものと思われる。10世紀後半の集落廃絶から約200年以上は、この土地の利用は空白である。中世になりこの地に再び集落が形成され、現在に至るまで連綿と続いている。



1．唐渡宮遺跡33号住居址(1/60)及び出土土器(1/6)



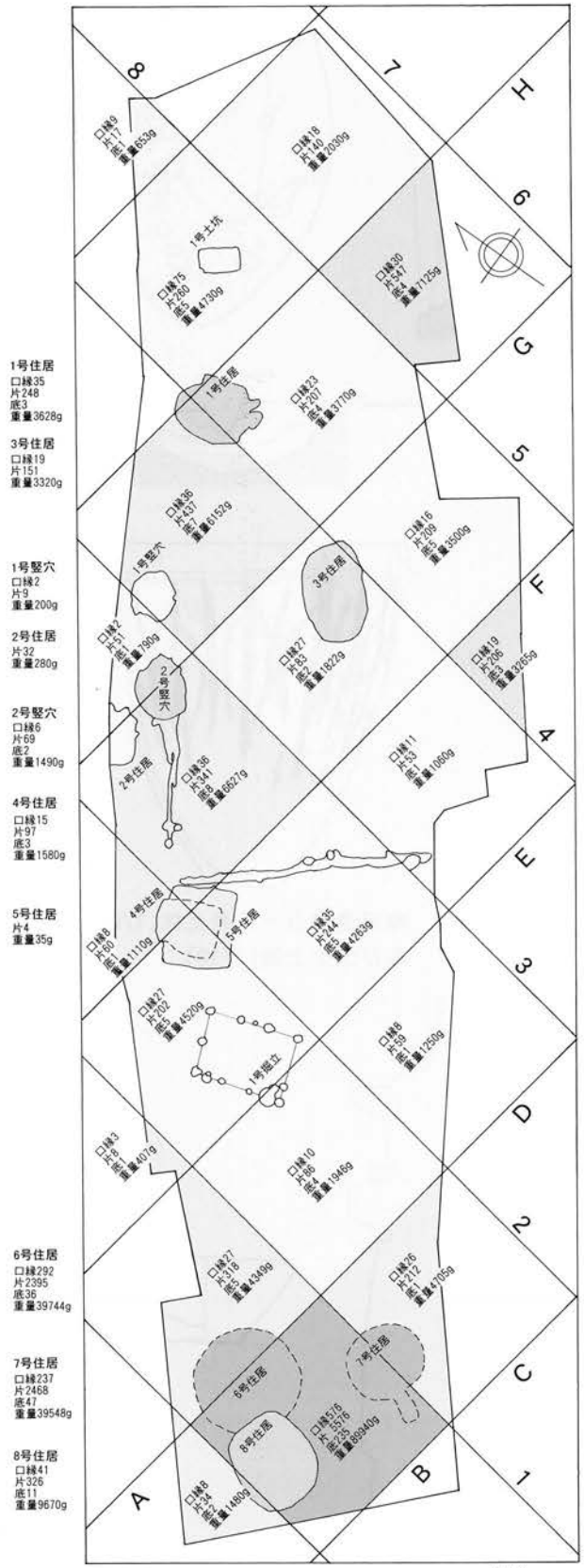
3．滝沢遺跡Ｄ－８号土坑(1/60)
及び出土土器(1/10)



2．唐渡宮遺跡29号住居址(1/60)
及び出土土器(1/6)

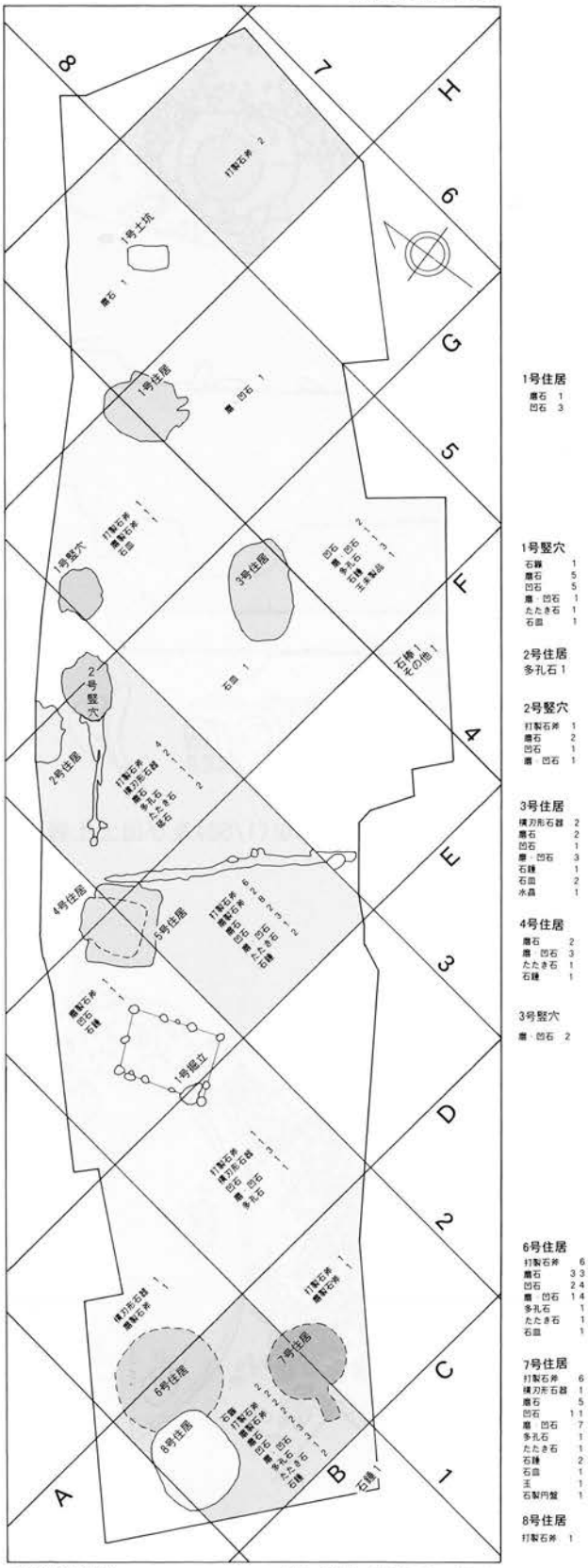
図95　小礫を敷き詰めた遺構

アミの濃度は遺物量を示す



縄文時代土器分布図

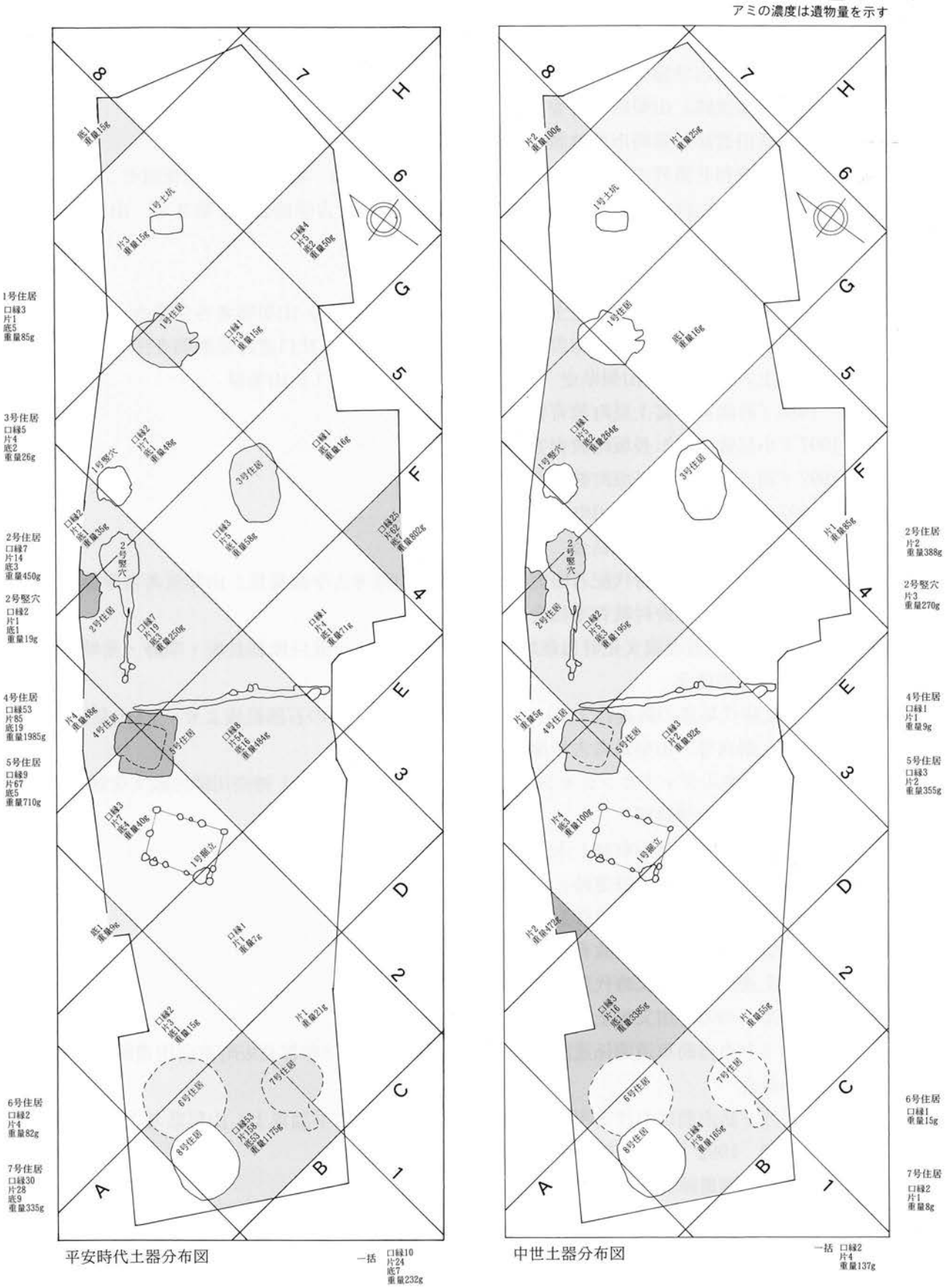
一括　口縁82
片915
底23
重量14525g



石器分布図

表採　打製石斧　7　凹石　10　茶臼　1
横刃形石器　5　多孔石　1
磨石　10　石棒　1
磨・凹石　12　石錘　1

図96　遺物分布図(1)



平安時代土器分布図　　中世土器分布図

図97　遺物分布図(2)

参考文献

雨宮正樹・山下孝司・櫛原功一　1988「山梨県高根町青木遺跡調査概報」『山梨県考古学協会誌』第２号　山梨県考古学協会

石神孝子　1996『唐松遺跡』山梨県教育委員会

伊藤正彦　1996『新田遺跡』韮崎市遺跡調査会

稲村晃嗣　1990「加曽利Ｅ系列の土器群」『調査研究集録』第７冊　横浜市埋蔵文化財センター

岡本範之　1990「平安期における甲斐国巨麻郡の動向」『山梨県考古学協会誌』第３号　山梨県考古学協会

折井敦　1989『板橋遺跡』白州町教育委員会

甲斐型土器研究グループ　1992『甲斐型土器　－その編年と年代－』山梨県考古学協会

櫛原功一　1997『社口遺跡第３次調査報告書』高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団

櫛原功一　1998「上ノ原遺跡」『山梨県史　資料編１　原始・古代１』山梨県

小林公明他　1988『唐渡宮』富士見町教育委員会

小宮山隆　1997『小屋敷遺跡』長坂町教育委員会

小宮山隆　1997『別当西遺跡』長坂町教育委員会

小山岳夫編　1997『滝沢遺跡』御代田町教育委員会

佐野隆　1994『神取』明野村教育委員会

佐野隆・小宮山隆　1994「縄文時代配石研究の一視点」『山梨考古学論集Ⅲ』山梨県考古学協会

佐野隆　1996『屋敷添Ⅱ』明野村教育委員会

末木健　1975『山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　－北巨摩郡長坂・明野・韮崎地内－』山梨県教育委員会

末木健　1987「縄文時代集落の継続性（Ⅱ）－縄文中期八ヶ岳山麓の石器組成より－」『山梨県考古学協会誌』創刊号　山梨県考古学協会

長岡文紀編　1997『パネルディスカッション敷石住居の謎に迫る記録集』神奈川県埋蔵文化財センター㈶かながわ考古学財団

長坂町誌編纂委員会　1990『長坂町誌』上巻　長坂町

長沢宏昌・笠原みゆき　1996『中谷遺跡』山梨県教育委員会

長沢宏昌・笠原みゆき　1997『大月遺跡』山梨県教育委員会

中山誠二　1993『宿尻遺跡』山梨県教育委員会

新津健　1989『金生遺跡Ⅱ（縄文時代編）』山梨県教育委員会

新津健・三田村美彦　1993『川又坂上遺跡』山梨県教育委員会

仁科義男他　1970『中央自動車道関係遺跡第一次調査概報　－北巨摩郡長坂町東前田遺跡－』山梨県教育委員会

萩原三雄　1986「八ヶ岳南麓における平安集落の展開」『山梨考古学論集Ⅰ』山梨県考古学協会

平野修・櫛原功一編　1992『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会

宮沢公雄　1986『清水端遺跡』明野村教育委員会

山下孝司　1989『後田遺跡』　韮崎市教育委員会

山下孝司・閏間俊明・秋山圭子　1998『三宮地遺跡』韮崎市遺跡調査会

山本茂樹・野代幸和　1994『甲ッ原遺跡（第５次）Ⅰ』山梨県教育委員会

渡辺誠　1973『縄文時代の漁業』雄山閣出版

宮久保遺跡

図版１　宮久保遺跡全景

図版２　１号住居址

図版３
２号住居址

図版４
２号住居址
遺物出土状況

図版５　作業風景

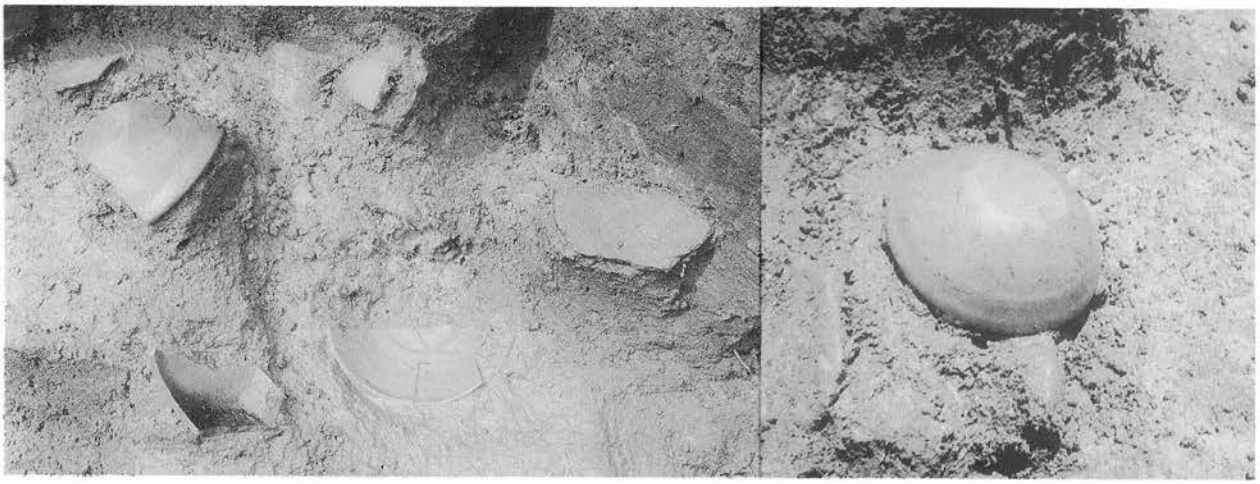
図版６　３号住居址

図版７
３号住居址　遺物出土状況

図版８　４・５号住居址

図版９　４号住居址カマド

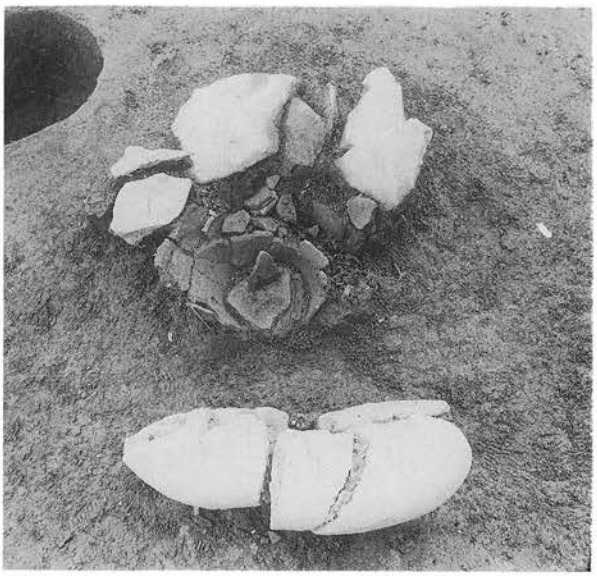
図版10　５号住居址カマド



図版11　４号住居址　遺物出土状況　　５号住居址　遺物出土状況

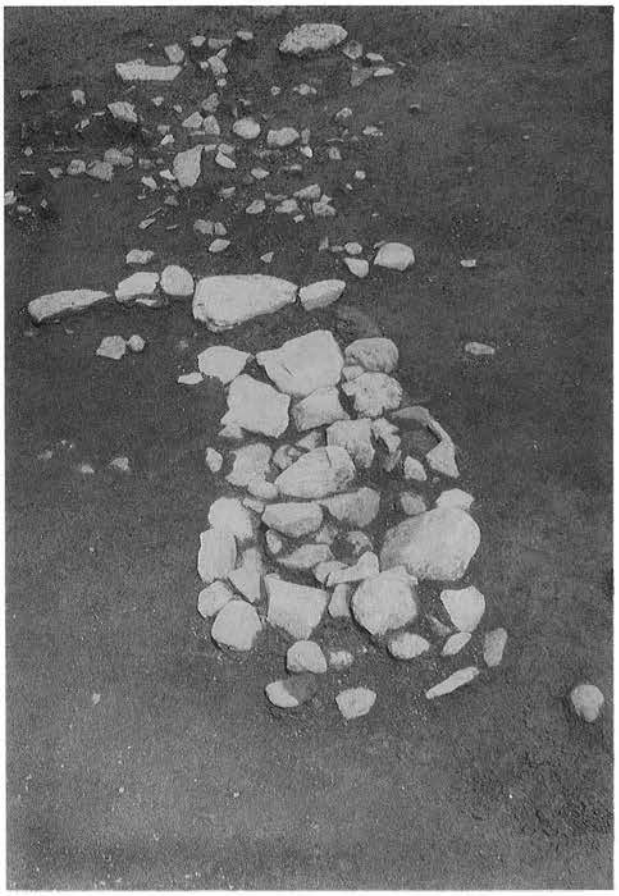
図版12　6号住居址

図版13　6号住居址上層

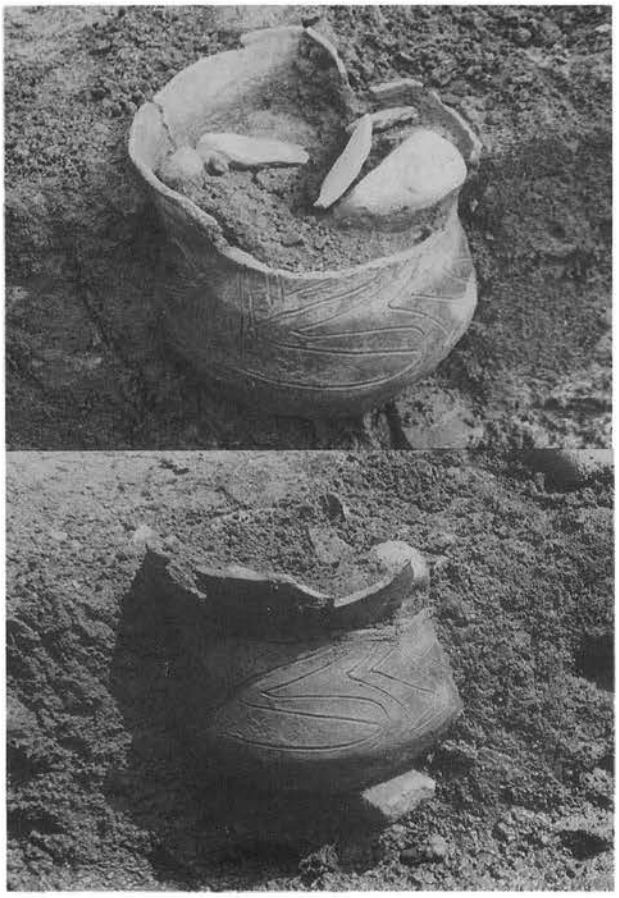


図版14　6号住居址　炉

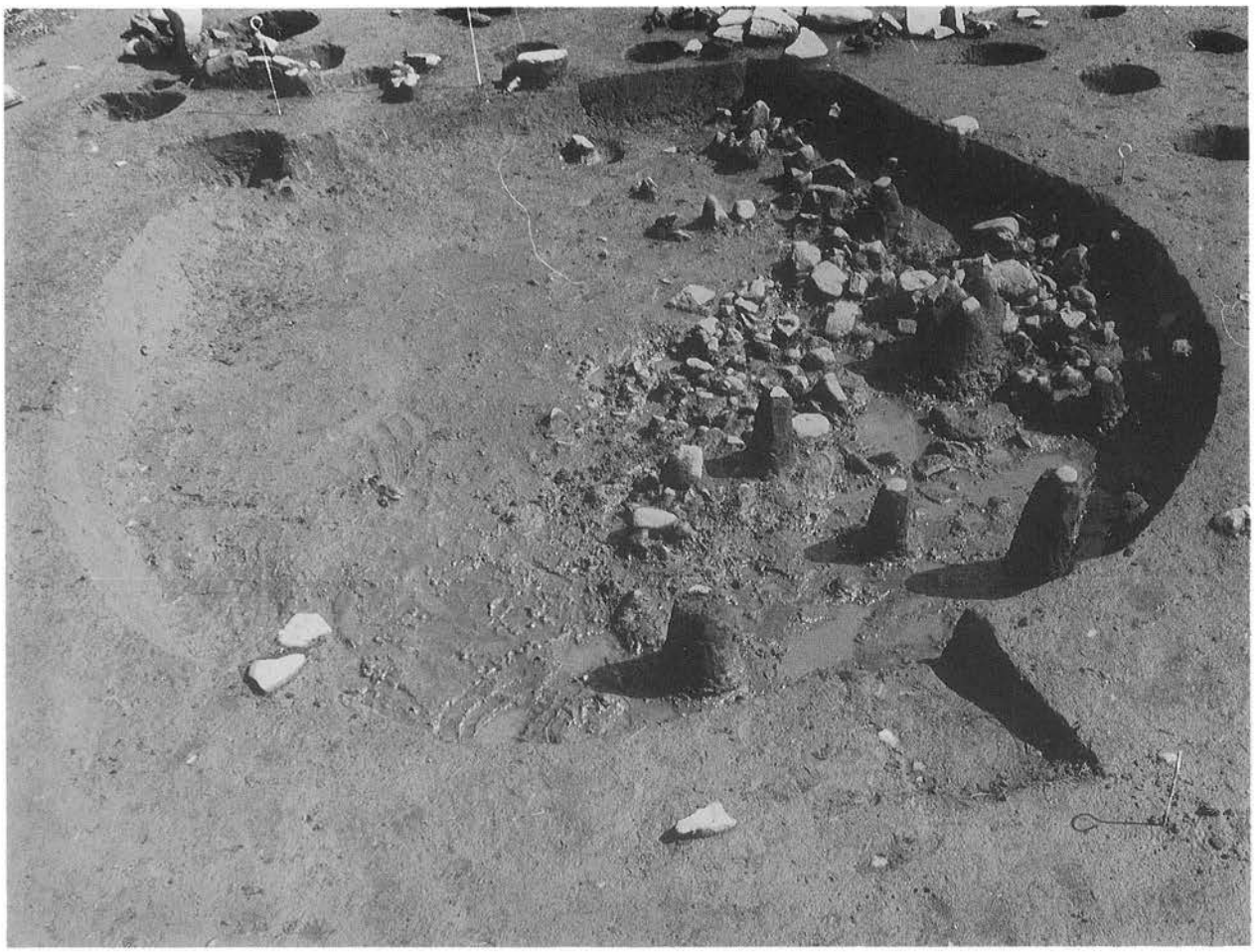
図版15　7号住居址(1)



図版16　7号住居址(2)



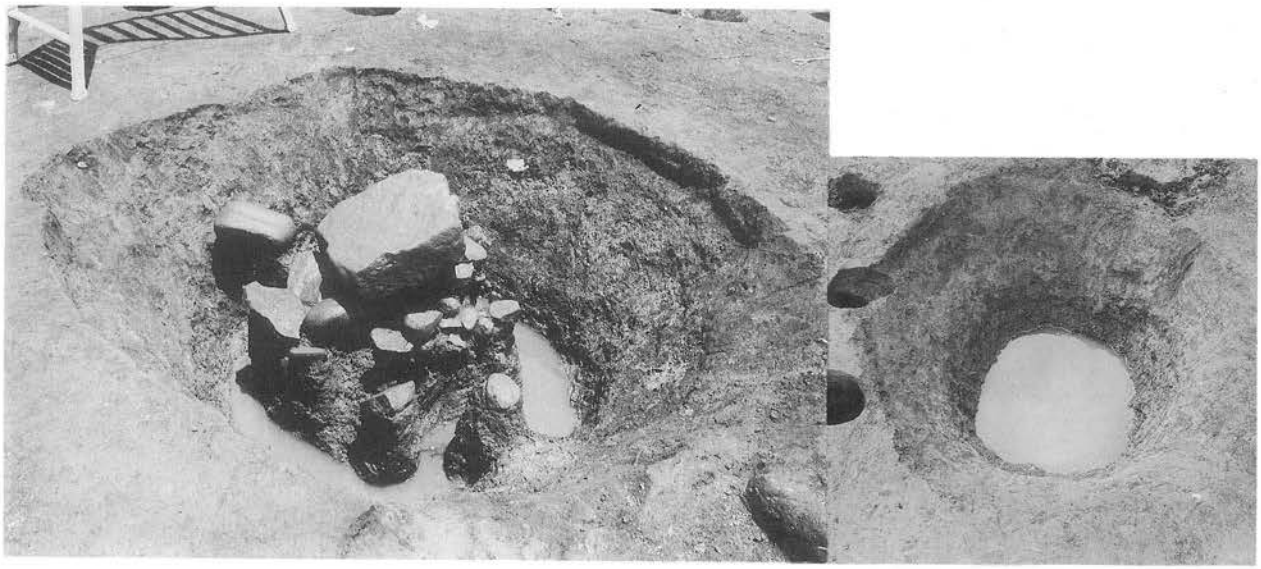
図版17　7号住居址　埋設土器



図版18　8号住居址

図版19　1号掘立柱建物跡

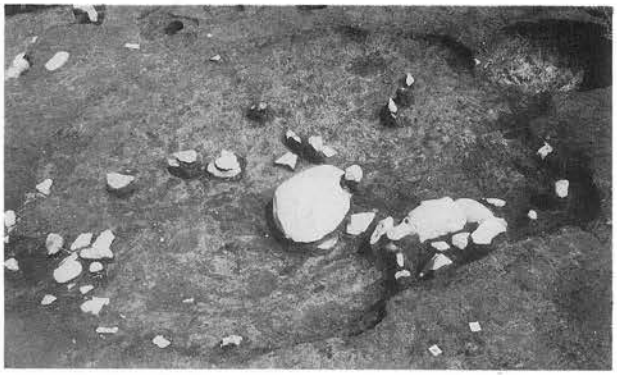
図版20　1号列石



図版21　1号竪穴遺構

図版22　1号溝

図版23　2号溝



図版24　2号竪穴遺構

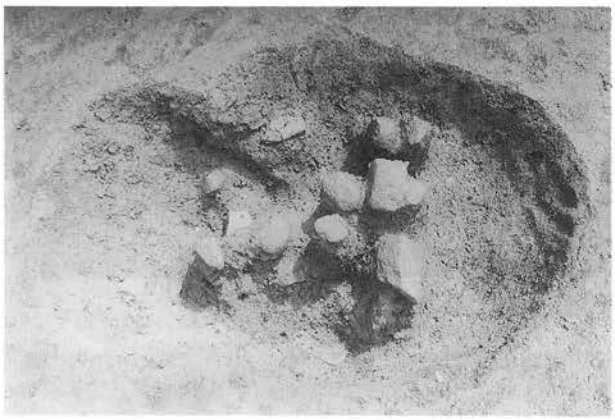
図版25　1号集石

図版26　2号集石

図版27　1号土坑

図版28　9号土坑

図版29　19号土坑



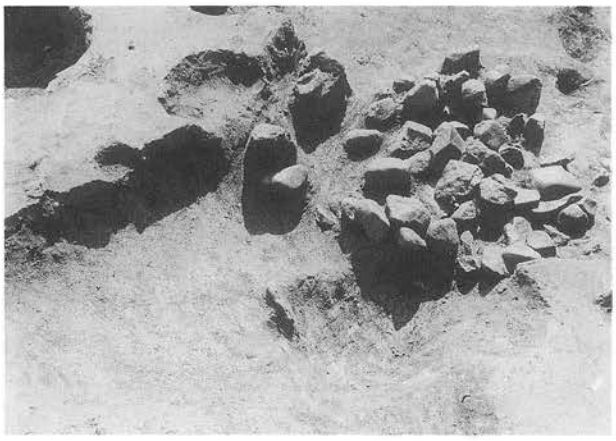
図版30　20号土坑

図版31　21号土坑

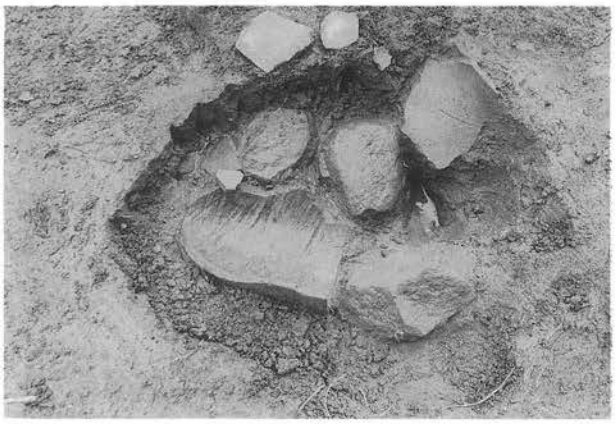
図版32　27号土坑・ピット14

図版33　61・62・63・64号土坑

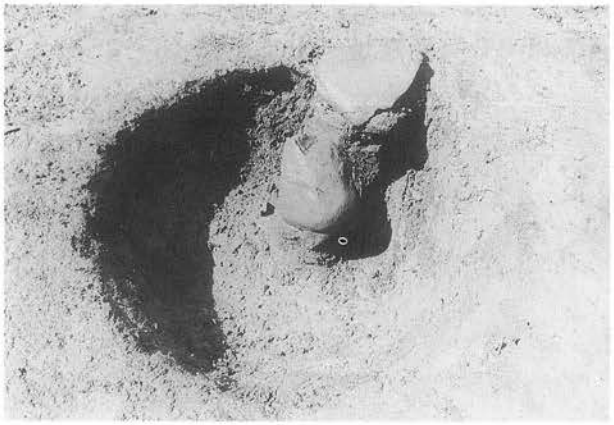
図版34　68号土坑



図版35　95号土坑（集石土坑）



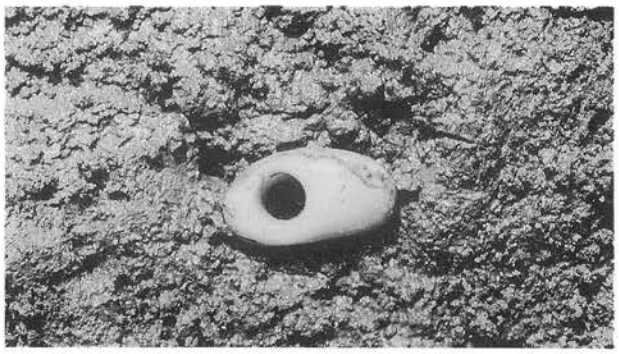
図版36　100号土坑



図版37　ピット１

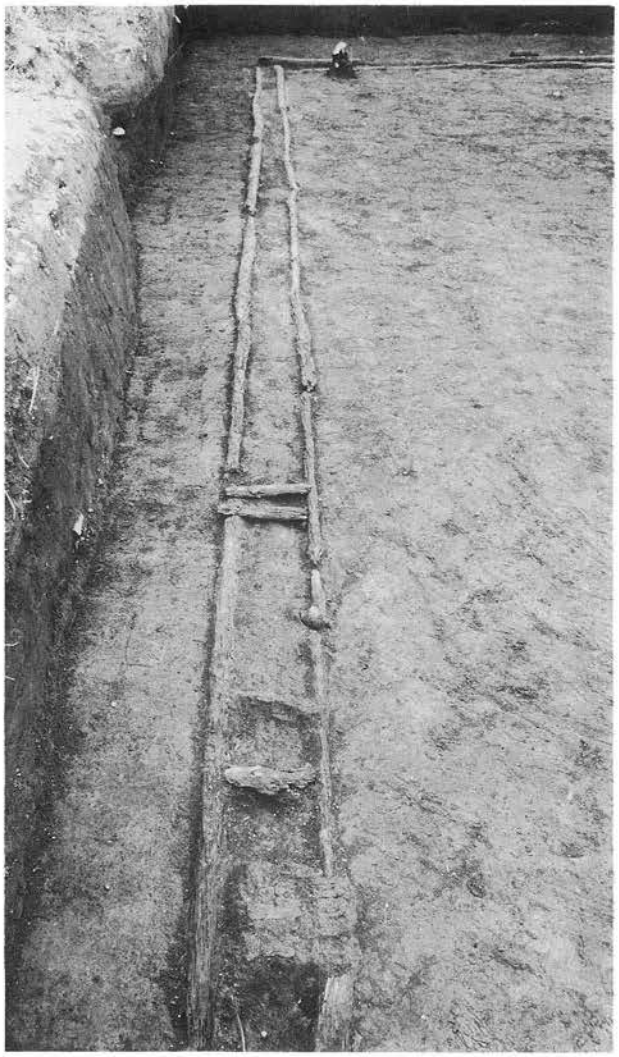
図版38　ピット４

図版39　Ｆ－５Ｇａ遺物出土状況



図版40　垂飾(玉)出土状況（７号住居址）

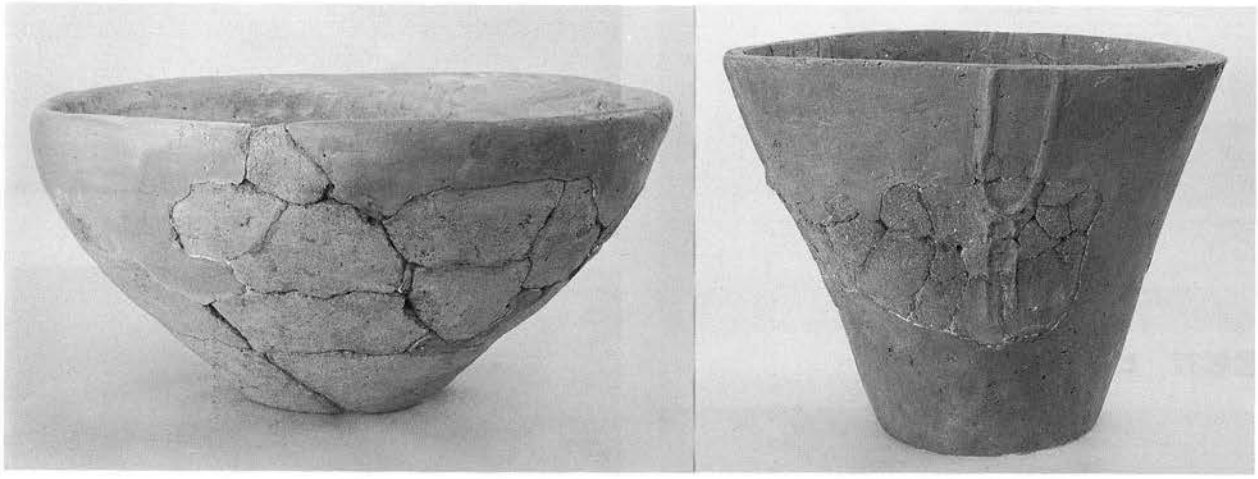
図版41　水晶出土状況（３号住居址）



図版42　１号暗渠

図版43　3号住居址　出土土器

図版44　6号住居址　出土土器



図版45　6号住居址　炉体土器

図版46　6号住居址
出土土器

図版47　7号住居址　埋設土器

図版48　7号住居址　出土土器

図版49　8号住居址　出土土器

図版50　100号土坑　出土土器

図版51　B－2出土土器

図版52　B－2出土土器

図版53　B－2出土土器

図版54　B－2出土土器

図版55　B－2出土土器

図版56
B-2出土土器

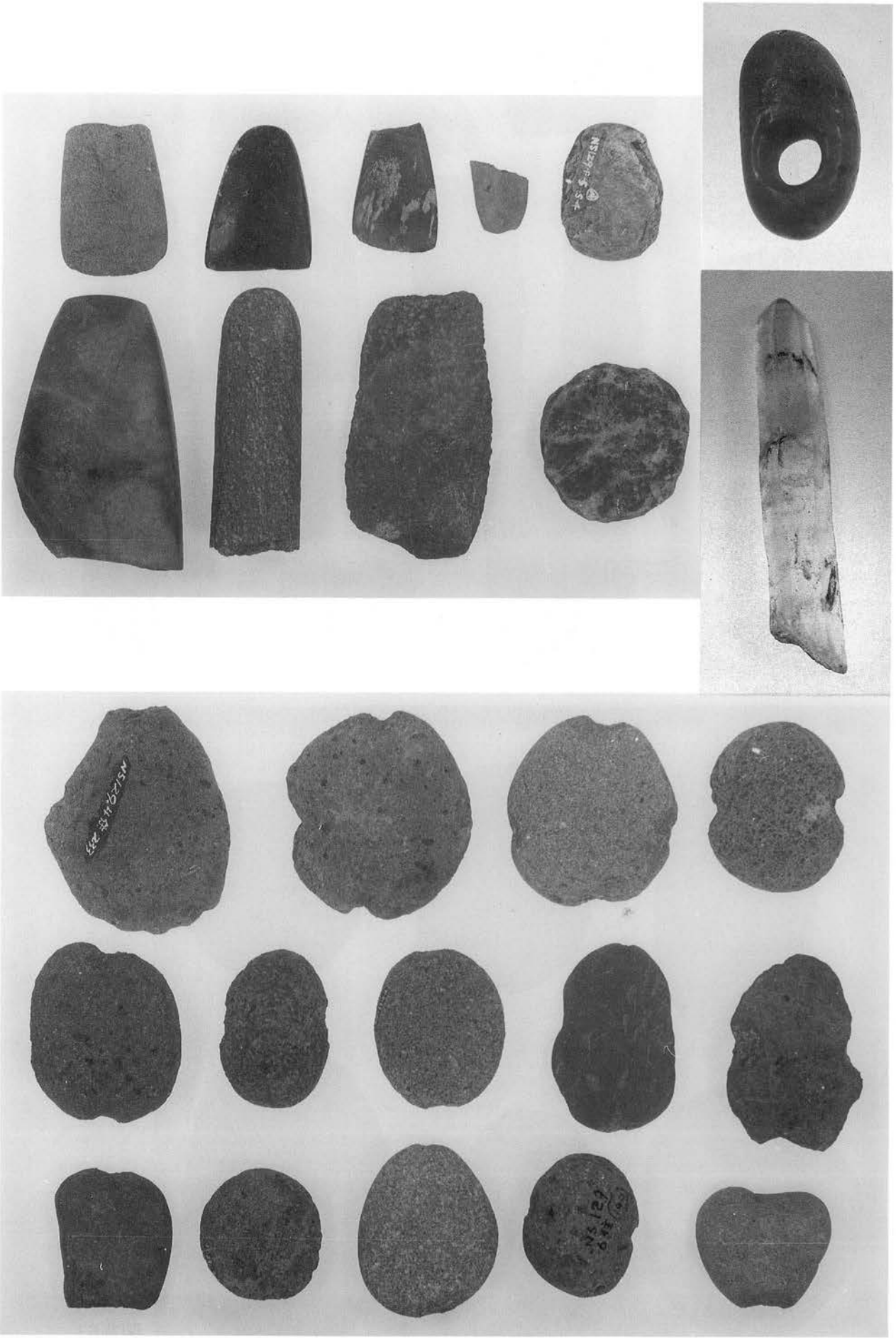
図版57　2号住居址　出土土器

図版58　5号住居址　出土土器

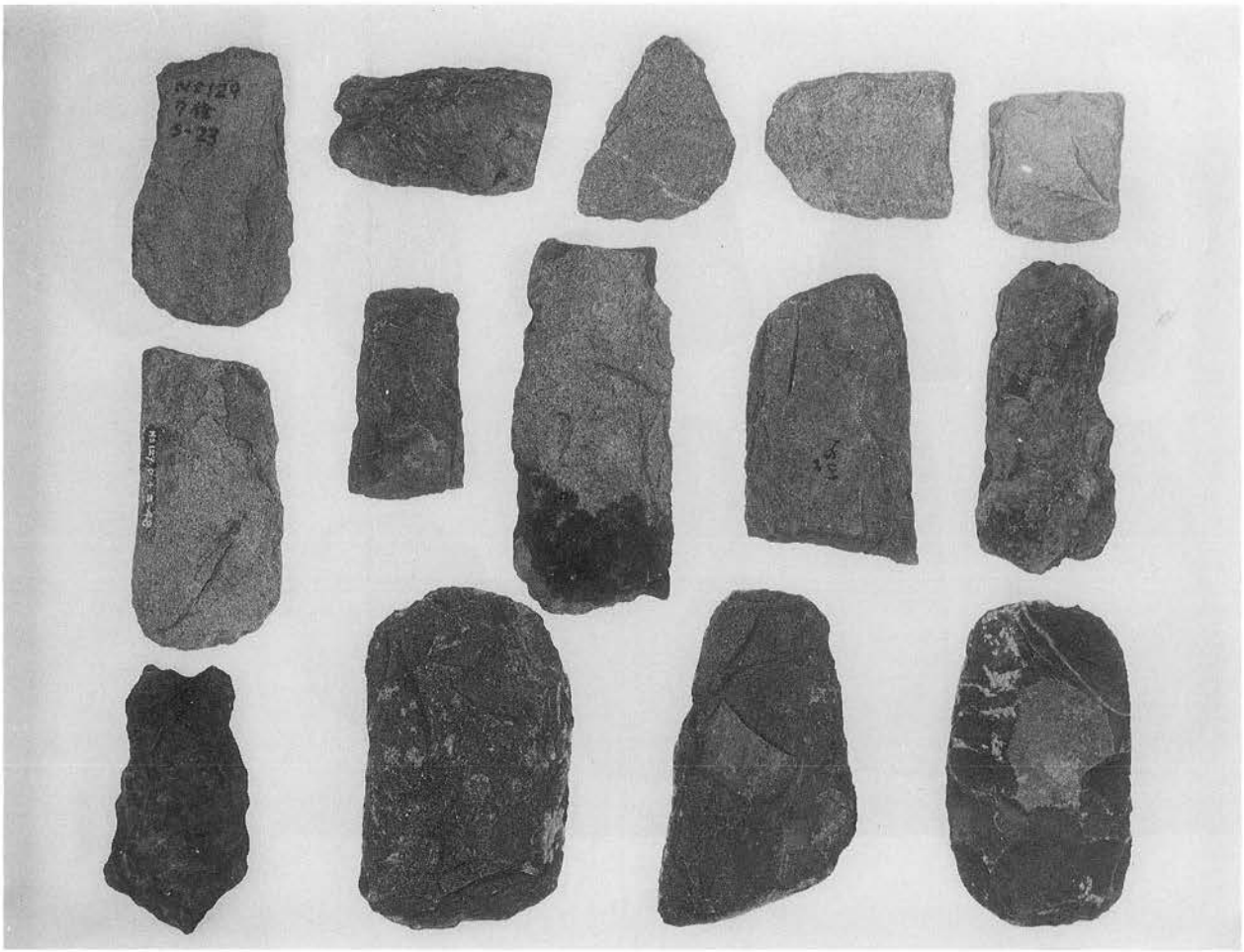
図版59　4号住居址　出土土器

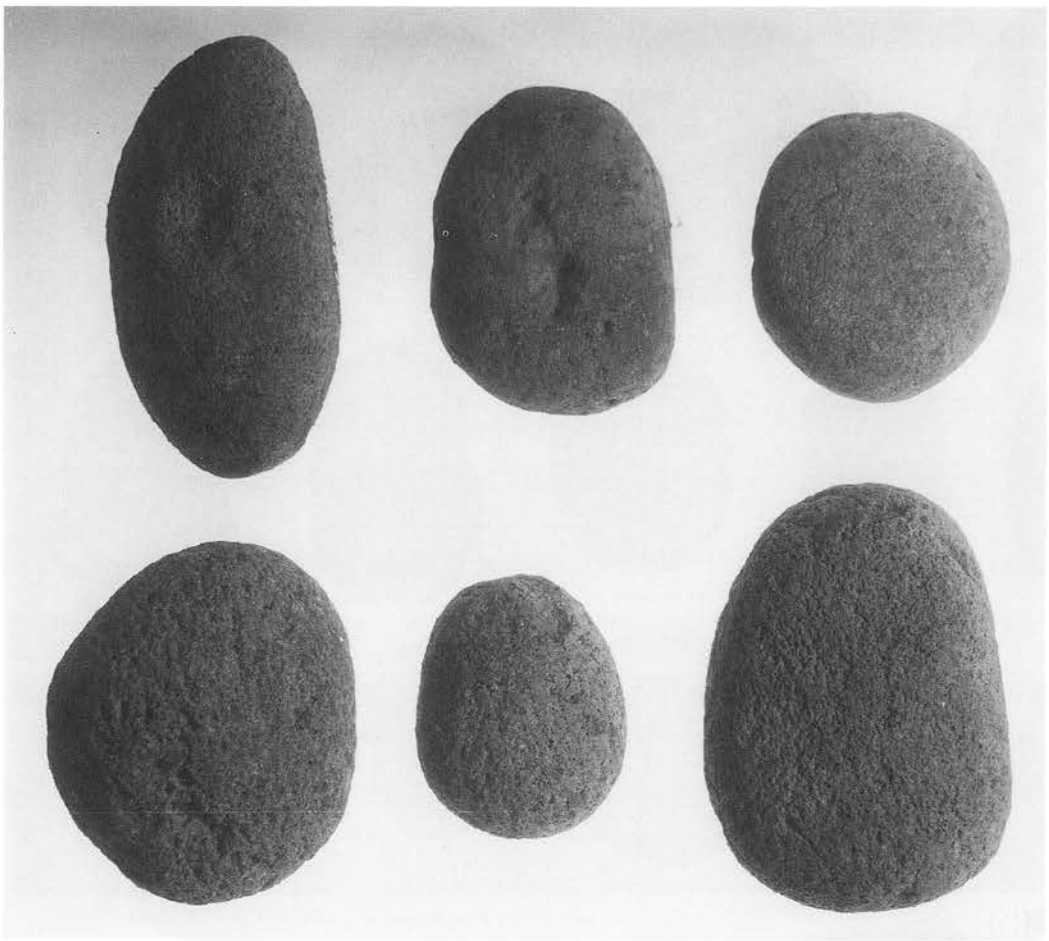
図版60　5号住居址　出土土器

図版61　4号住居址　出土土器

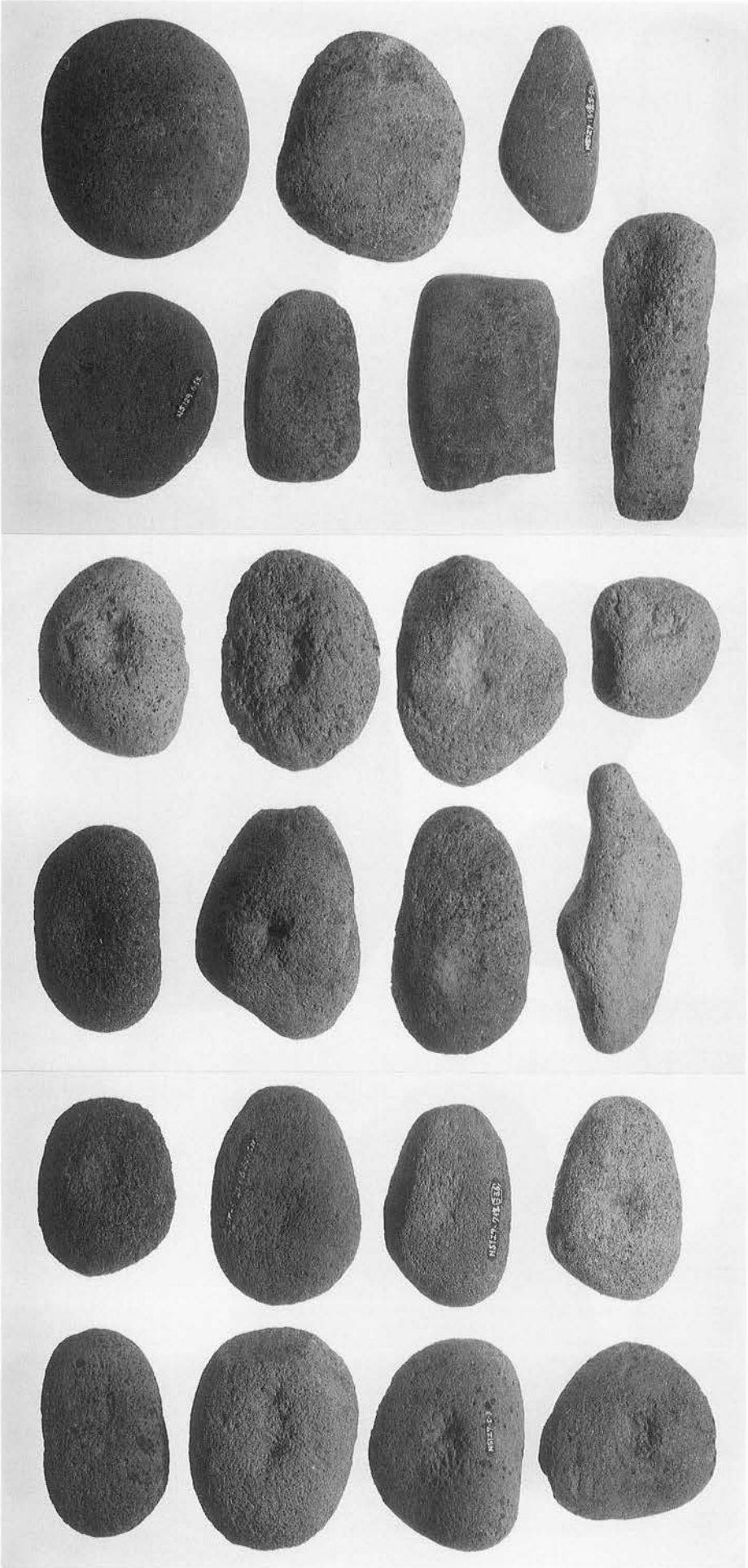


図版62　出土石器(1)

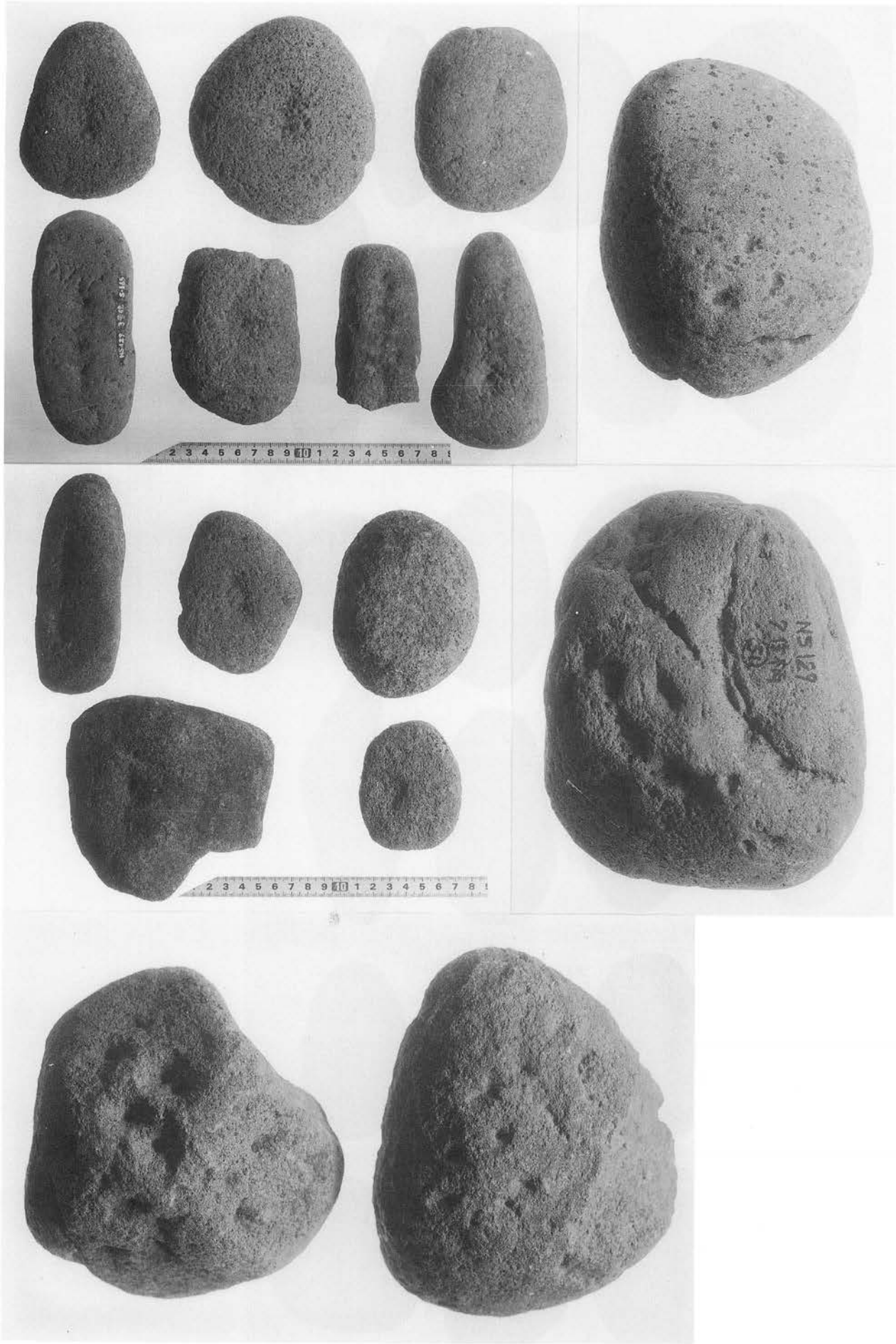




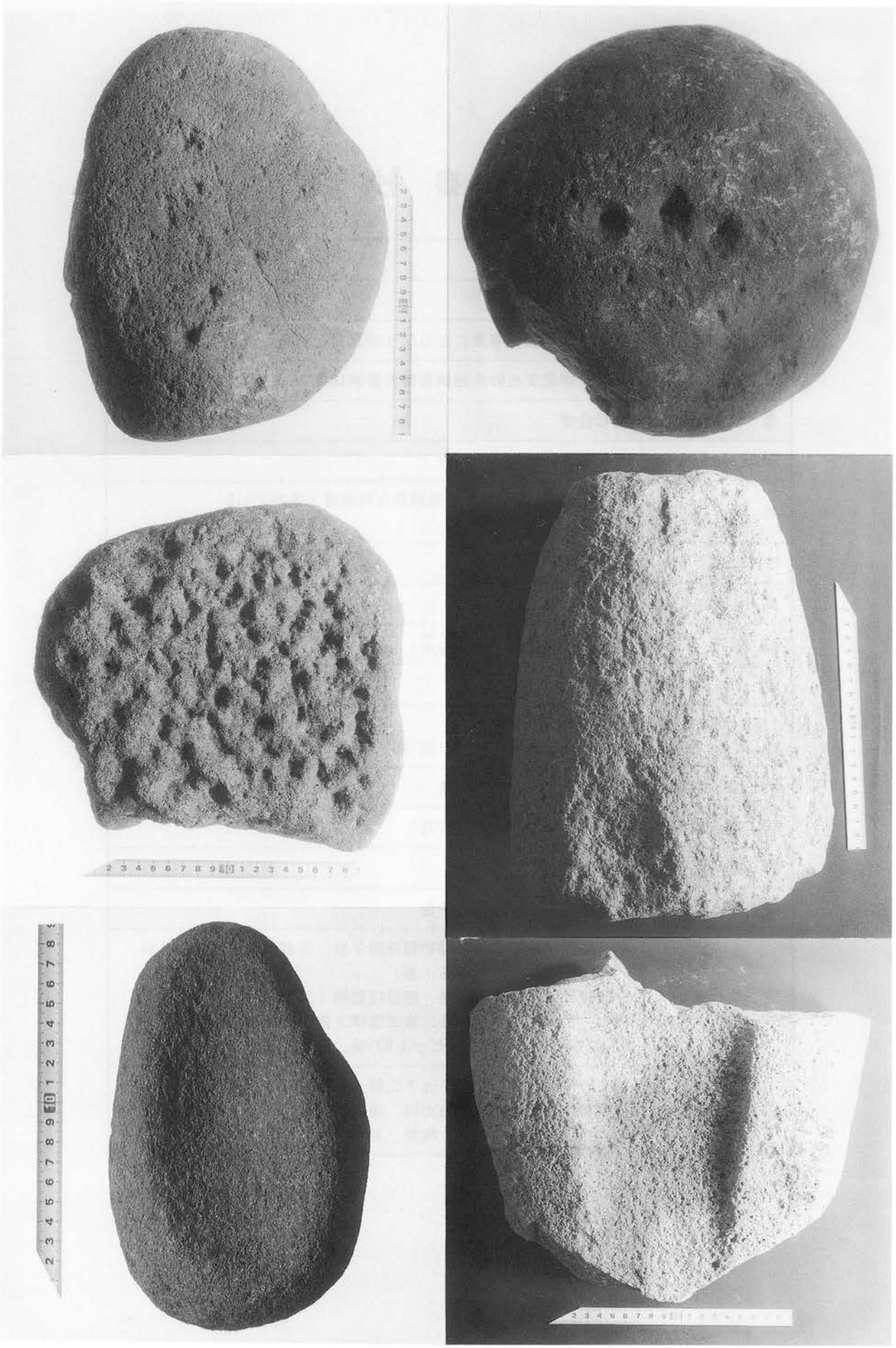
図版63
出土石器(2)



図版64　出土石器(3)



図版65　出土石器(4)



図版66　出土石器(5)

報　告　書　抄　録

フリガナ	ミヤクボイセキ
書名	宮久保遺跡
副題	団体営圃場整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
著者名	村松佳幸
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111
印刷所	峡北印刷株式会社
発行日	1999年３月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町塚川2,161外
遺跡番号	長坂町 No.129
1/25,000地図名 位置・標高	若神子 北緯35°48′00″　東経138°23′45″　標高620m
調査原因	塚川団体営圃場整備事業
調査期間	1997年５月13日～９月27日
調査面積	1,403㎡
主な時代	縄文時代・平安時代・中世
主な遺構	縄文時代（中期末～後期初頭住居２軒、後期前半敷石住居２軒、後期前半列石１基） 平安時代（竪穴住居４軒・掘立柱建物１棟） 中　世（竪穴遺構２基、集石遺構２基、溝状遺構２条） その他（土坑101基、ピット921基、暗渠１条）
主な遺物	縄文時代（土器、ミニチュア土器、土製円盤、石器） 平安時代（土師器、黒色土器、須恵器、陶器） 中　世（土師質土器、陶器、石製品）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集

宮久保遺跡

1999年３月25日　印刷
1999年３月31日　発行

編集・発行　長坂町教育委員会
山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19
TEL 0551-32-2111

印　　刷　峡北印刷株式会社
山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313
TEL 0551-32-3245

宮久保遺跡全体図

1号土坑
1号住
57号土坑
38号土坑
Pit11
Pit198
Pit9
Pit13
Pit10
3号住
1号竪穴
2号竪穴
2号住
6号土坑
61号土坑
62号土坑
63号土坑
64号土坑
67号土坑
27号土坑
1号列石
2号列石
86号土坑
12号土坑
16号土坑
17号土坑
25号土坑
9号土坑
15号土坑
10号土坑
23号土坑
7号土坑
24号土坑
2号溝
4号住
5号住
88号土坑
87号土坑
19号土坑
20号土坑
22号土坑
21号土坑
3号竪穴
1号掘立
1号集石
6号住
7号住
100号土坑
8号住
101号土坑
0
2
4
8m